

豊田市の教育に関するアンケート調査 報告書（案）

目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査目的	1
2 調査対象	1
3 調査方法及び調査期間	1
4 回収結果	2
5 報告書の見方	2
6 調査項目	3
7 結果概要	5
第2章 回答者の属性	13
1 市民	13
2 小学生・中学生	16
3 保護者	19
4 教員、校長・教頭	22
第3章 学校教育について	25
1 学校全般	25
2 授業	35
3 小中一貫教育・小中連携	38
4 教育環境（学校の規模）	41
5 特色ある教育	48
6 教師	54
7 給食	59
第4章 家庭や地域と連携した教育について	63
1 地域ぐるみの教育	63
2 こどもの生活	68
3 家庭の状況	72
4 地域の教育力	76
第5章 生涯学習について	85
1 学習や活動	85
2 交流館	87
3 中央図書館	91
4 読書	95
第6章 文化・芸術について	97
1 文化・芸術への関心や活動状況	97
2 文化・芸術推進、文化財保護	108
3 こどもと文化・芸術	111
第7章 スポーツについて	119
1 するスポーツ	119
2 みるスポーツ	128
3 支えるスポーツ	132
4 スポーツ振興に向けて	136

第8章 教育行政について	139
1 教育委員会による学校支援	139
2 教育情報や計画の推進	146

第1章 調査の概要

1 調査目的

新たな教育行政計画を策定するにあたり、本市の教育行政を取り巻く現状を把握するとともに、今後の重点施策として検討が必要な事柄について、アンケート調査を行います。また、現在の計画において設定されている数値目標について、達成状況を把握し、計画の進捗状況の評価に利用します。

2 調査対象

調査	対象者	配布数	備考
(1) 市民	16歳以上の市民	3,688人	うち約140人は外国人
(2) 小学生	市内の小学校5年生	1,700人	
(3) 中学生	市内の中学校2年生	1,450人	
(4) 保護者	(2)(3)の対象者の保護者	3,150人	
(5) 教員	市内の公立小中学校の教員	2,287人	
(6) 校長・教頭	市内の公立小中学校の校長・教頭	206人	
合 計		12,481人	

3 調査方法及び調査期間

○配布・回収方法

調査	配布・回収方法
(1) 市民	<pre> graph LR A[豊田市] -- "①調査票配布 (郵送)" --> B[市民] B -- "②回収 (郵送、Web)" --> A </pre>
(2) 小学生	<pre> graph LR A[豊田市] -- "①送付" --> B[学校] B -- "②依頼状配布" --> C[生徒] C -- "③依頼状配布" --> D[保護者] D -- "④回答依頼 (メール)" --> B B -- "⑤回収 (Web)" --> A </pre>
(3) 中学生	
(4) 保護者	
(5) 教員	<pre> graph LR A[豊田市] -- "①送付" --> B[学校] B -- "②依頼状配布" --> C[回答者] C -- "③回収 (Web)" --> A </pre>
(6) 校長・教頭	

○調査期間

調査	配布数
(1)～(6) 共通	2024年8月～9月

4 回収結果

調査	配布数	有効回収数	回収率
(1) 市民	3,688 人	1,775 人	48.1%
(2) 小学生	1,700 人	1,624 人	95.5%
(3) 中学生	1,450 人	1,323 人	91.2%
(4) 保護者	3,150 人	1,882 人	59.7%
(5) 教員	2,287 人	1,998 人	87.4%
(6) 校長・教頭	206 人	201 人	97.6%

5 報告書の見方

- 基数となるべき実数(N)は、設問に対する回答者数を表す。
- 集計は、小数点第2位を四捨五入している。そのため、数値の合計が100%にならない場合がある。
- 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出している。そのため、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- 同じ項目の設問であるが、対象によって設問文が異なるものについて、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合がある。
- 前回調査との比較を掲載している表については、今回調査の結果に薄い網掛けをしている。
- クロス集計結果の表を掲載している設問がある。表については、項目ごとに上位1位に濃い網掛け、上位2位に薄い網掛けをしている。ただし、Nが10未満の場合は網掛けをせず、コメントの記載もしていない。また、表側部分における無回答については記載していないため、クロス集計の回答者数の合計と全体の回答者数の合計が一致しないことがある。

6 調査項目

			市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
学校教育	1 学校全般	① 学校生活の満足度		問 1	問 1	問 1		
		② 学校生活に満足している理由		問 2	問 2			
		③ 学校生活に満足していない理由		問 3	問 3			
		④ 児童生徒の状況				問3～6	問2～5	問2～5
		⑤ 学校が一層力を入れるべきこと	問 1	問 6	問 6	問 2	問 1	問 1
		⑥ 現在の学校教育の問題点	問 2					
		⑦ 学校運営での課題						問17
	2 授業	① 授業の満足度		問 4	問 4	問7		
		② 好きな授業・学習内容		問 5	問 5			
		③ 授業に対する子どもの理解度					問6	
	3 小中一貫教育 小中連携	① 中学に進学する（した）ときの不安		問 8～10	問9～11			
		② 中 1 ギャップの状況					問11	問10
		③ 小中一貫教育や小中連携の手法					問12	問11
	4 教育環境	① （小学校）学年あたり最低でも必要なクラス数	問 7			問11	問13	問12
		② （中学校）学年あたり最低でも必要なクラス数	問 8			問11	問14	問13
		③ 小規模校の対策の方法				問12	問15	問14
		④ 大規模校の対策の方法				問13	問16	問15
		⑤ 通学時間				問14		
		⑥ 通学時間の妥当性				問15		
	5 特色ある教育	① 特色のある教育として重要なこと	問 3	問 7	問 7	問 9	問8	問 7
		② インクルーシブ教育システムの推進に必要なこと	問 4			問10	問9	問 8
		③ 将来の職業を考えるために必要なこと			問 8			
		④ 外国人児童生徒への支援					問10	問 9
	6 教師	① 教師に期待すること				問 8		
		② 教師の教育活動の状況					問 7	問6
		③ 今後充実を希望する研修内容					問17	問16
	7 給食	① 給食の満足度		問11	問12	問16		
		② 給食に満足している理由		問12	問13	問17		
		③ 給食に満足していない理由		問13	問14	問18		
家庭や地域と連携した教育	1 地域ぐるみの教育	① 家庭、学校、地域それぞれの役割	問10			問24	問18	問18
		② 住んでいる地域への愛着		問31	問32			
	2 子どもの生活	① 自分のよいところ		問14	問15			
		② 学習塾・習い事の状況		問16・17	問17・18			
		③ 電子メディアの閲覧頻度		問18	問19			
	3 家庭の状況	① 学校や勉強についての会話		問15	問16	問19		
		② 現在の暮らしむき				問20		
		③ 家庭の教育力が低下している原因				問21	問19	問19
		④ 家庭教育への評価	問 9			問23	問21	問21
	4 地域の教育力	① 近所の子どもの会話	問 8					
		② 地域の大人との関わり		問21	問22			
		③ 地域の行事や活動への参加状況		問19	問20			
		④ 参加している地域活動の内容		問20	問21			
		⑤ 学校と地域の連携で重要なこと	問 5					
		⑥ 保護者・住民の学校への協力・参加	問 6			問25	問22	問22
		⑦ 地域の教育力の課題				問22	問20	問20

			市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
生涯学習	1 学習や活動	① 自主的な学習や活動の状況	問11					
	2 交流館	① 交流館の利用状況	問12					
		② 交流館を利用したことがない理由	問13					
	3 中央図書館	① 中央図書館の利用状況	問14					
		② 中央図書館を利用したことがない理由	問15					
		③ 図書館に求めるもの・学校との連携					問23	問23
文化・芸術	1 文化・芸術への関心や活動状況	① 文化・芸術等に関する興味	問16	問24	問25			
		② 市内の文化施設の利用状況	問17					
		③ 鑑賞・見学した分野	問18					
		④ 鑑賞・見学する上で困ること	問19					
		⑤ 日頃行っている文化・芸術活動の分野	問20					
		⑥ 文化・芸術活動をする上で困ること	問21					
		⑦ 文化・芸術活動への支援状況	問22					
	2 文化・芸術推進、文化財保護	① 地域の文化的環境の充実に向けて	問23					
		② 市の歴史・文化財の継承、魅力発信	問24					
		③ 地域の文化的環境が充実する効果	問25					
	3 子どもと文化・芸術	① 子どもと利用したい文化・スポーツ施設				問26	問24	問24
		② 博物館と学校の連携					問25	問25
		③ 鑑賞・見学した回数		問25	問26			
		④ 文化鑑賞・活動の意向と内容		問26	問27			
		⑤ 子どもの文化鑑賞・活動で困ること				問27		
		⑥ 充実していくとよい催しものや取組				問28		
スポーツ	1 するスポーツ	① 運動・スポーツの実施状況と内容	問26					
		② 運動・スポーツの実施頻度	問27					
		③ 運動・スポーツをする理由	問28					
		④ 運動・スポーツをしなかった理由	問29					
		⑤ 子どもの学校以外での運動・スポーツの実施頻度		問27	問28			
		⑥ 子どもの軽い運動を加えたスポーツの実施頻度		問28	問29			
		⑦ 子どもの学校以外での運動・スポーツの実施状況				問29		
	2 みるスポーツ	① スポーツ観戦の状況	問31	問29	問30			
		② スポーツ観戦した種目	問31	問30	問31			
	3 支えるスポーツ	① スポーツに関する取組や人材の認知度	問30					
		② スポーツチームの認知度	問33					
		③ スポーツ支援への参加状況	問34					
		④ 学校以外でのスポーツ指導の状況					問26	
	4 スポーツ振興に向けて	① スポーツ情報で不足している内容	問35					
		② 豊田スタジアム等の利活用	問32					
		③ 市が力を入れるべきこと	問36					
教育行政	1 教育委員会による学校支援	① 職務上の多忙感					問27	
		② 自分の裁量で使える時間					問28	
		③ 学校の職場環境					問29	問26
		④ 教育委員会の専門的な支援					問30	問27
		⑤ 学校の組織的な対応					問31	問28
	2 教育情報や計画の推進	① 市内の教育行政情報の入手方法	問37					
		② 今後提供すべき教育行政の情報	問38					
		③ 学校からの情報提供の状況				問30		
		④ 学校評価の課題				問31		

7 結果概要

■ 学校教育について

【学校全般】

- 学校生活について「満足」「ほぼ満足」と回答した小学生は80.6%、中学生は76.8%。保護者は71.5%である。前回と比べると、小中学生・保護者ともに「満足」「やや不満」の割合が減少し、「ほぼ満足」の割合がやや増加している。
- 学校生活に満足している理由としては、小・中学生ともに「友達といっしょに遊んだりするのが楽しいから」が最も多くなっている。次いで、小学生では「学校の行事が楽しいから」「勉強がおもしろいから」、中学生では「部活動が楽しいから」「学校の行事が楽しいから」が多くなっている。
- 学校生活に満足していない理由としては、小・中学生ともに「勉強がよくわからないから」が最も多く、次いで「楽しいと思うことがない」となっている。
- 学校が一層力を入れる必要があることとしては、「基礎的な知識や技能」「自分で考え、判断する力」「思いやりや優しさなどの心」「様々な考えを持つ人と協力して行動する力」が多くなっている。小・中学生では「生きる指針や夢」も多い。
- 現在の学校教育の問題点について、市民は「教師が多忙すぎる」「教師の立場が弱すぎる」「いじめ、学級崩壊などの問題行動や不登校の子どもが多い」「子どもの創造性や個性を伸ばすことが難しい」が比較的多い。

【授業】

- 授業について「満足」「ほぼ満足」と回答した小学生は73.7%、中学生は62.0%である。前回と比べて「満足」「ほぼ満足」の割合が若干減少している。
- 授業に対する子どもの理解度について、教員は「8割程度、理解していると思う」の割合が減少し、「半分程度、理解していると思う」の割合が高くなっている。
- 好きな授業や学習内容について、小・中学生ともに「学校の外で見たり体験したりする学習」「グループで考えたり協力したりする学習」が多い。

【小中一貫教育・小中連携】

- 中学に進学したときの不安について「そう思う」の割合をみると、中学生は「授業が急に難しくなって大変だと思った」が32.3%、「他の学校出身の子と仲良くなることに苦労した」が11.0%、「先生に気軽に相談しづらくなった」が7.9%となっている。
- 小中一貫教育や小中連携として取り組んでいることについて、教員、校長・教頭ともに

「教科担任制の導入（専科指導、学級担任間の授業交換、チームティーチング等）」が最も多くなっている。

【教育環境】

- 1 学年あたり最低でも必要なクラス数について、小学校は「2 クラス以上」が市民で 67.5%、保護者で 73.4%、中学校は市民で 74.9%、保護者で 80.6%となっている。
- 小規模校の対策の方法として、保護者、教員では「他校との行事等の合同実施」が最も多くなっている。次いで、保護者では「小中連携や小中一貫教育を推進する」、教員では「ICTを活用した遠隔授業の実施」が多くなっている。校長・教頭では「学校の統合を検討する」が最も多く、次いで「ICTを活用した遠隔授業の実施」が多くなっている。
- 大規模校の対策の方法として、教員、校長・教頭では「教員を増員し、連携強化や学校運営を充実させる」が最も多く、次いで「補助員やスタッフを増員し、連携強化や学校運営を充実させる」が多くなっている。保護者では「地域事情等を考慮しながら学区を見直して児童生徒数を適正化する」も多い。

【特色のある教育】

- 特色のある教育（小・中学生は学校で学びたいこととして質問）について、市民、保護者、教員、校長・教頭では「体験を重視した教育」、小学生は「運動・スポーツ」、中学生は「キャリア教育（人生設計・職業体験）」が最も多くなっている。
- インクルーシブ教育システムの推進に必要なこととして、市民、保護者では「支援人材の確保・増員」、教員、校長・教頭では「教員数の確保・増員」が最も多くなっている。この他、「学校の施設整備の拡充・充実」「教職員をはじめとする人材の専門性の確立」「少人数学級の拡充」など多様な項目で必要との回答が多い。
- 将来の職業を考えるために必要なこととして、中学生では「仕事をするためにどんなことが大切で、どんな勉強をする必要があるのかを学ぶ」が最も多く。次いで「自分にどんな仕事に向いているのかをじっくり考える機会をつくる」が多くなっている。
- 外国人児童生徒への支援について、教員、校長・教頭ともに「外国人児童生徒の日本語学習支援」が最も多く、次いで「保護者への支援（日本語の学習機会、通訳・翻訳支援、外国語表記など）」が多くなっている。

【教師】

- 教師に期待することについて、「子どもの気持ちを理解しようとする」と最も多く、次いで「専門的知識が豊富であったり、教え方がうまいこと」「子どもを信頼し、子どもの自主性を尊重すること」が多くなっている。

- 教師の教育活動の状況について「できていない」「どちらかといえばできていない」の合計をみると、教員では「十分な授業の準備をする」が34.3%と他の項目と比べて多く、年齢の若い教員で「学級を円滑に運営する」「特別な配慮が必要な子への支援」など総じて割合が他の年代と比べて高い傾向がみられる。
- 今後充実を希望する研修内容として、教員では「教科（道徳含む）の指導」が最も多く、次いで「学級経営」「生徒指導・生徒理解」が多くなっている。校長・教頭では「特別支援教育」「カウンセリング・コーチングの技術」も多い。

【給食】

- 給食について、「満足」「ほぼ満足」と回答した小学生は85.5%、中学生は78.7%である。前回と比べて小学生で「満足」の割合が増加している。
- 満足の理由として、小・中学生ともに「おいしいから」が最も多くなっている。不満の理由として、小・中学生は「食べられなかったり、きれいなものばかりになる日があるから」が最も多くなっている。

■家庭や地域と連携した教育について

【地域ぐるみの教育】

- 家庭に求める役割について、市民、保護者、教員、校長・教頭ともに、「基本的な生活習慣」が最も多く、次いで「感情のコントロール（心の強さ）」が多い。
- 学校に求める役割について、市民、保護者、教員、校長・教頭ともに、「学力」が最も多くなっている。次いで、市民、保護者では、「自分から進んで取り組む気持ちや新しいことにチャレンジする意欲」、教員、校長・教頭では、「いろいろな人と協力する力」が多くなっている。
- 地域に求める役割について、市民、保護者、教員、校長・教頭ともに、「郷土愛や地域の伝統文化を受け継ぐこと」が最も多く、次いで「いろいろな人と協力する力」が多くなっている。

【子どもの生活】

- 自分にはよいところがあると思うか質問したところ、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は、小学生が80.8%、中学生が80.7%となっている。
- 学習塾・習い事について「通っている」は、小学生が82.0%、中学生が75.5%となっている。
- 電子メディアの閲覧頻度として、小・中学生ともに、学校に行く日では「2時間ぐらい」が最も多くなっている。学校が休みの日については、「5時間以上」が小学生で31.8%、

中学生で51.8%となっている。前回と比べても、小・中学生ともに閲覧時間が増加傾向にある。

【家庭の状況】

- 家庭の教育力が低下している原因について、保護者、教員、校長・教頭では「親子のコミュニケーションが減っている」「子どもを甘やかしたり、干渉しすぎる」「しつけや教育の方法を親が十分にわかっていない」「子どもが、お手伝いやいろいろな遊びなど、様々な体験をする機会が不足している」「少子化、核家族化で、子どもがいろいろな人に接する機会が減っている」など多様な回答がみられる。

【地域の教育力】

- 地域の行事や活動への参加状況について、前回と比べて、小学生で「できる限り多く参加している」の割合が減少している。また、小・中学生ともに「参加していない」の割合が増加している。
- 学校と地域の連携について、市民は「児童生徒を地域活動や地域の行事に参加させる」が最も多く、次いで「地域の人を授業の講師や部活動の指導者として招く」「登下校の見守りについて学校と地域の連携を進める」が多くなっている。
- 保護者・住民の学校への協力・参加について、市民は「登下校など子どもの安全管理」「学校行事への参加」、保護者は「学校公開日や授業参観への参加」「学校行事への参加」が多くなっている。教員、校長・教頭は「登下校など子どもの安全管理」「学校外での地域活動体験の受け入れ・手伝い」をはじめ多様な行事・活動についての期待がみられる。
- 地域の教育力の課題について、保護者、教員、校長・教頭ともに、「他人の子どもを注意しづらい雰囲気がある」が最も多くなっている。次いで、「隣近所の人とのコミュニケーションが少ない」「地域の大人と子どもが会う機会が少ない」が多くなっている。

■生涯学習について

【学習や活動】

- 自主的に学んでいることがある市民は74.4%で、「健康・スポーツ・文化・料理・語学など趣味や教養に関すること」「現在の仕事上で必要な知識・技能や資格取得に関すること」が多い。

【交流館】

- 交流館を3年以内に利用したことがある市民は54.6%となっている。
- 利用目的について、「図書の利用」が最も多く、次いで「講座やイベントの参加」「コ

コミュニティ会議、自治区等の地域活動」が多い。

- 利用したことがない理由として、「特に理由はない」「家事や仕事等で行く時間がないから」「参加したい講座や事業がないから」の順に多い。

【中央図書館】

- ここ3年間で、中央図書館を利用したことがある市民は34.1%となっている。
- 利用目的として、「本や雑誌、CDを借りるため」「参考にできる情報がないか探すため」の順に多い。
- 利用したことがない理由として、「自宅から遠くて行くのに不便だから」「特に理由はない」「家事や仕事等で行く時間がないから」の順に多い。
- 図書館に求めるもの・学校との連携について、教員、校長・教頭ともに「調べ学習の出前授業の充実」が最も多く、「団体貸出資料の充実」「レファレンスサービスの充実」も多い。

【読書】

- 学校以外で週に1日以上読書をする割合は、小学生で48.2%、中学生で31.5%となっている。前回と比べると、小・中学生ともに「ほとんど読んでいない」の割合が高くなっている。
- 中央図書館や交流館・コミュニティセンターの図書コーナーの利用について、「月に1回以上」の割合は、小学生で37.2%、中学生で21.8%である。前回と比べて「月に1回以上」の割合も「ほとんど、または、まったく行かない」の割合ともに高くなっており、個人差が広がっている。

■文化・芸術について

【文化・芸術への関心や活動状況】

- この1年間に文化芸術の直接鑑賞や見学をした市民は70.3%となっている。鑑賞や見学をした分野として、「映画・メディア芸術」「文化財」「音楽」「美術」が多くなっている。鑑賞・見学する上で困ることとして、「特に問題はない」「催し物の情報が少ない」「鑑賞・見学したい催し物が少ない」の順に多い。
- この1年間に文化活動をしたことがある市民は41.3%となっている。活動分野については、「映画・メディア芸術」「音楽」「美術」が多くなっている。文化活動をする上で困ることとしては、「特に問題はない」「活動のきっかけがない」「自分にはできないと思う」の順に多い。

【文化・芸術推進、文化財保護】

- 地域の文化的環境の充実に必要なこととして、市民は「身近なところで気軽に文化芸術に触れられる機会の充実」「子どもが文化芸術に親しむ機会の充実」が多い。
- 市の歴史・文化財の継承、魅力発信に向けて必要なこととして、市民は「歴史・文化財を観光資源として活用し、多くの人に知ってもらえるようにする」「歴史・文化財を楽しく体感できる体験教室や講座を開催する」「文化財の公開などの活用や保存を積極的にすすめる」が多くなっている。

【こどもと文化・芸術】

- 子どもと一緒に利用したい文化・スポーツ施設について、保護者は「中央図書館・交流館図書室」「豊田スタジアム」が多くなっている。教員、校長・教頭が授業等で活用・連携したい施設については、「博物館」が最も多く、次いで「中央図書館・交流館図書室」「美術館」が多くなっている。
- 博物館と学校の連携については、教員、校長・教頭ともに「博物館の見学への対応の充実」「歴史・自然を体感するための体験学習の実施」「学芸員やボランティア等による学校での出前講座の開催」が多くなっている。
- この1年間で文化・芸術を直接鑑賞や見学した割合は、小学生で74.1%、中学生で61.2%となっている。文化鑑賞・活動でしたいことについて、小・中学生ともに「絵をかいたり、彫刻を作ったりする」「楽器を演奏したり、歌を歌ったりする」が多く、中学生では「歌手などの音楽ライブやクラシックのコンサートを見る」も多くなっている。
- 充実していくとよい催しものや取組について、「入門講座や体験講座（ワークショップ）」「音楽・演劇などの学校公演」「授業として文化施設での展示や公演の鑑賞」が多くなっている。

■スポーツについて

【するスポーツ】

- この1年間に運動やスポーツをした市民は74.5%となっている。その内容として「体操・ウォーキング・ランニング・陸上・ジム」が最も多く、次いで「日常生活における体力づくりや健康の保持増進を目的とした身体活動」が多くなっている。
- 運動・スポーツをする理由について、市民は「健康・体力づくりのため」が最も多く、次いで「運動不足を感じるため」「楽しみ・気晴らしのため」が多くなっている。しなかった理由として、「仕事・家事・育児が忙しくて時間がないため」が最も多く、次いで「年をとったため」「機会がなかったため」が多くなっている。

- 子どもの学校以外での運動・スポーツの実施頻度について、小学生では「週に1～2日」、中学生では「週に3日以上」が最も多くなっている。前回と比べると小・中学生ともに「ほぼ毎日」「週に3日以上」の割合がやや増加している。実施内容については、小学生は「学校以外のスポーツ活動（市内）」、中学生は「学校の部活動、クラブ活動」が最も多くなっている。

【みるスポーツ】

- この1年間に直接スポーツの試合・イベントなどを見たことがある小学生は46.1%、中学生は68.1%となっている。小学生では「プロや会社のスポーツチームの試合・イベント」中学生では「部活動の試合・イベント」が最も多い。
- この1年間に直接スポーツ観戦をした市民は38.3%で、種目については「野球」「サッカー」が多くなっている。

【支えるスポーツ】

- 市民の認知度について、「名古屋グランパス」など全国的に活躍をするスポーツチームは比較的高く、「あいち地域クラブ活動人材バンク」など地域の取組や人材は低い傾向がみられる。
- この1年間にスポーツを支える活動をしたことがある市民は6.8%である。また、学校以外でのスポーツ指導を行っている教員は9.2%である。

【スポーツ振興に向けて】

- スポーツ情報で不足している内容としては、「不便に思ったことはない」が最も多く、次いで「施設の場所」「施設の内容」が多くなっている。
- 豊田市が今後力を入れていくべきこととして、「年齢層にあったスポーツの普及」「市民が参加できるスポーツイベントの開催」が多くなっている。

■教育行政について

【教育委員会による学校支援】

- 職務上の多忙感について、教員では「ほとんど毎日忙しい」が43.9%で前回とほぼ同様である。自分の裁量で使える時間が1週間で「1～5時間」「ほとんどない」が多くなっている。
- 学校の職場環境における「自身の成長や挑戦の機会や場が提供できている」について、教員は「どちらかといえばあてはまる」が最も多く、次いで「どちらでもない」が多くなっている。
- 教育委員会による専門的な支援の充実については、教員、校長・教頭ともに「不登校・

ひきこもり」「発達障がい・特別支援教育」「保護者からの理不尽な要求」が多くなっている。

【教育情報や計画の推進】

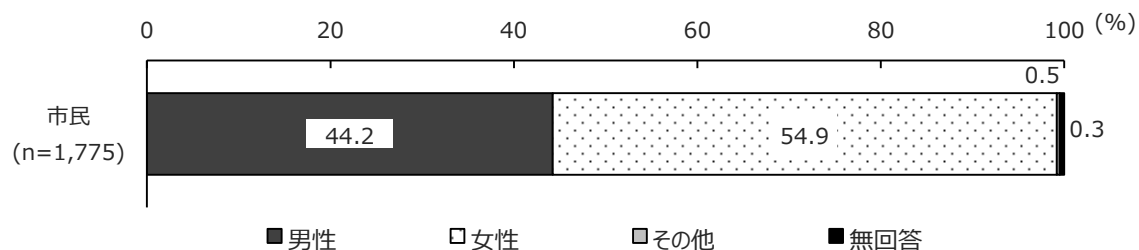
- 市内の教育行政情報の入手方法について、市民は「広報とよた」が最も多く、次いで「回覧板」となっている。より提供すべき教育行政の情報は、「地元の小中学校の状況」「市内での文化やスポーツのイベント」が多くなっている。
- 学校の教育方針や学校での子どもの様子などの情報について、保護者は「ある程度は得られている」が最も多く、次いで「あまり得られていない」が多くなっている。
- 学校評価の課題について、保護者は「調査結果がどのように活用されているかがわからない」が最も多く、次いで「この取組自体をよく知らない」「調査結果をもとに学校と保護者が一緒に考える機会がない」が多くなっている。

第2章 回答者の属性

1 市民

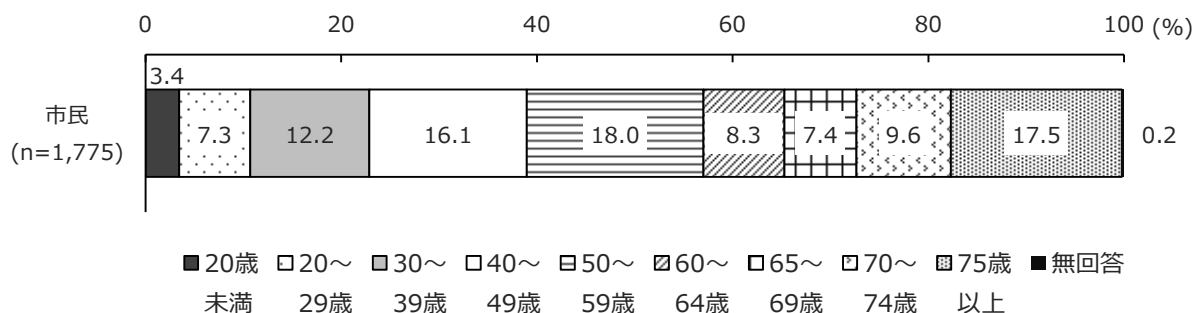
① 性別

「男性」が44.2%、「女性」が54.9%となっている。



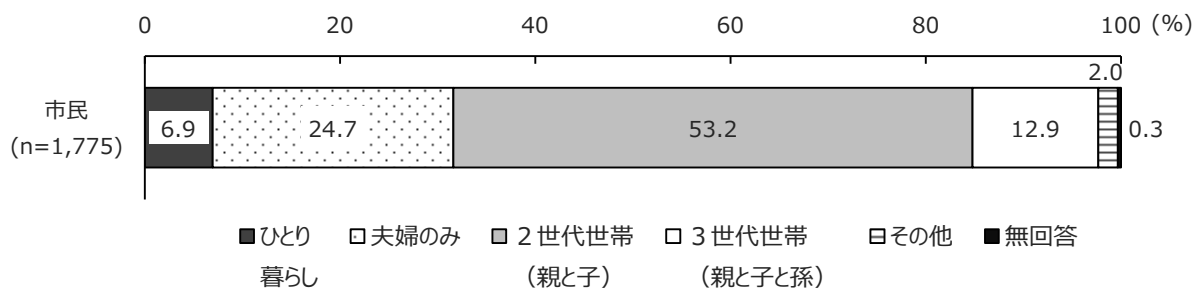
② 年齢

幅広い年代から回答が得られた。こうした中、「50～59 歳」(18.0%)、「75 歳以上」(17.5%)、「40～49 歳」(16.1%) が比較的多い。



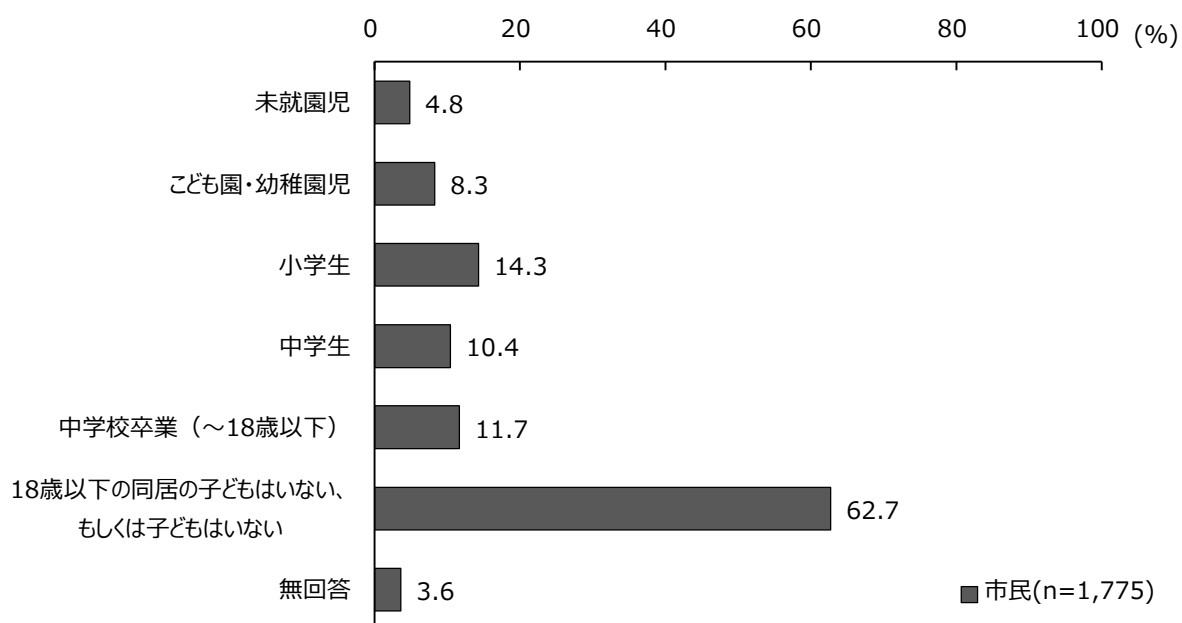
③ 世帯

「2世代世帯(親と子)」が最も多く53.2%となっている。次いで、「夫婦のみ」(24.7%)、「3世代世帯(親と子と孫)」(12.9%)が多くなっている。



④ 同居している子どもの年齢

「18 歳以下の同居の子どもはいない、もしくは子どもはいない」が最も多く 62.7%となっている。次いで、「小学生」(14.3%)、「中学校卒業（～18 歳以下）」(11.7%)が多くなっている。



⑤ 中学校区

「逢妻」(7.0%)、「豊南」(6.9%)、「末野原」(6.6%) の順に多い。

N=1,775

(%)

逢妻	旭	朝日丘	足助	井郷	石野	稲武	梅坪台
7.0	0.8	5.2	1.7	3.7	1.2	0.7	3.1

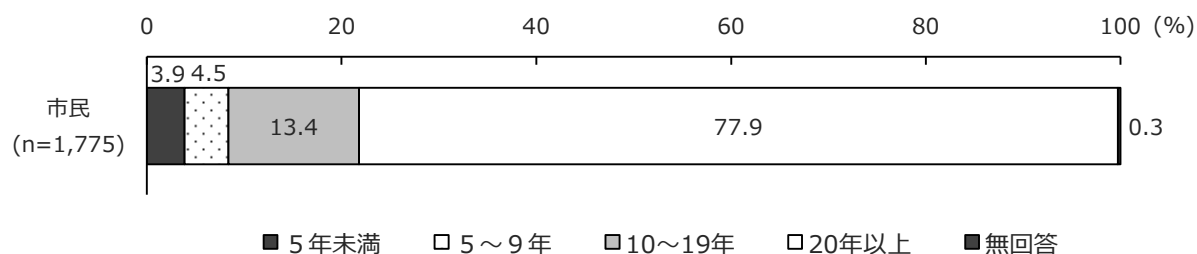
小原	上郷	猿投	猿投台	下山	浄水	末野原	崇化館
1.0	5.1	2.4	3.0	1.0	3.4	6.6	5.6

高岡	高橋	藤岡	藤岡南	豊南	保見	前林	益富
3.5	5.0	2.4	2.2	6.9	3.0	4.5	2.6

松平	美里	竜神	若園	わからない	無回答
2.9	5.0	5.7	3.5	0.3	0.9

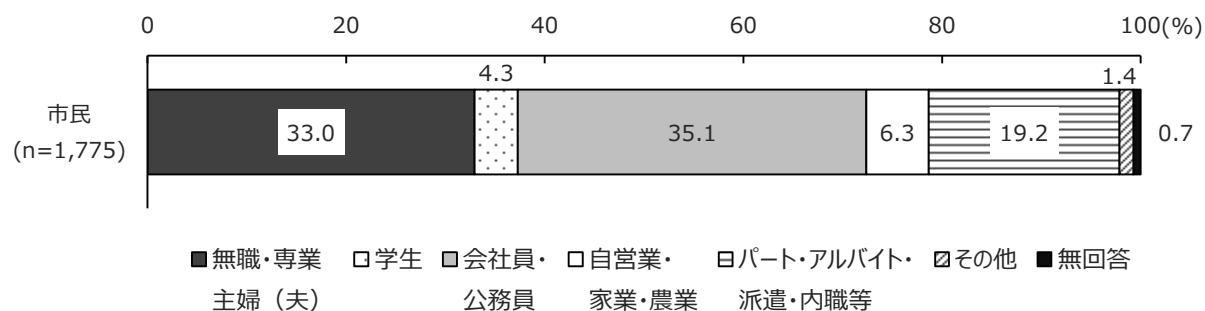
⑥ 豊田市の在住年数

「20 年以上」が最も多く 77.9%となっている。次いで、「10～19 年」(13.4%)が多くなっている。



⑦ 職業

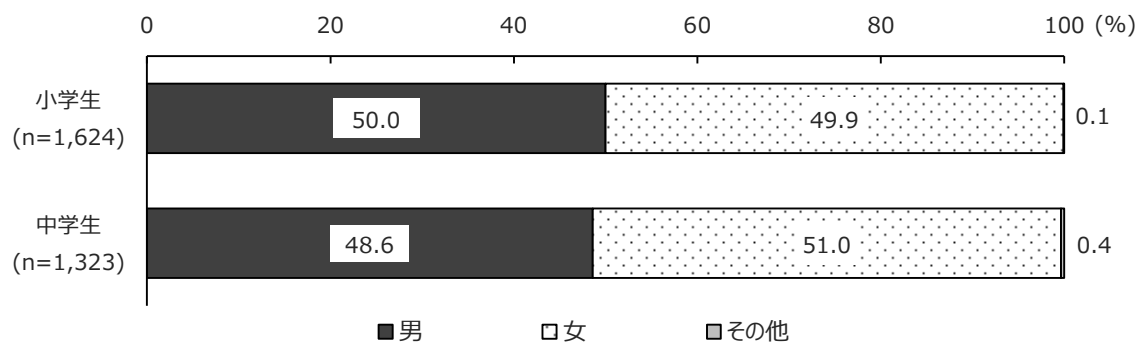
「会社員・公務員」が最も多く 35.1%となっている。次いで、「無職・専業主婦（夫）」(33.0%)、「パート・アルバイト・派遣・内職等」(19.2%)が多くなっている。



2 小学生・中学生

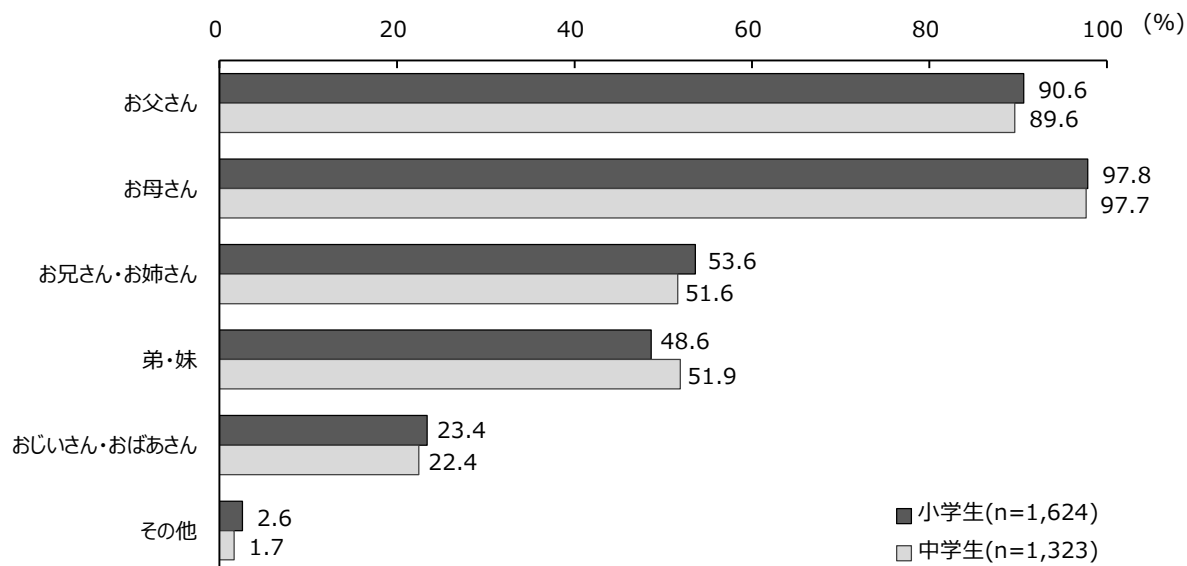
① 性別

小学生では「男」が 50.0%、「女」が 49.9%となっている。中学生では「男」が 48.6%、「女」が 51.0%となっている。



② 同居家族

「お父さん」は小学生で 90.6%、中学生で 89.6%、「お母さん」は小学生 97.8%、中学生 97.7%となっている。



③ 通っている小学校区・中学校区

小学生では、「小清水」（4.2%）、「美山」（3.7%）、「若園」（3.6%）の順に多い。

中学生では、「猿投台」（5.0%）、「浄水」（4.9%）、「梅坪台」（4.7%）、「前林」（4.7%）の順に多い。

小学生（n=1,624）

(%)

青木	朝日	足助	飯野	石畳	市木	五ヶ丘	五ヶ丘東
3.4	1.5	1.5	2.3	1.4	1.8	1.2	1.1

稲武	井上	伊保	岩倉	畝部	梅坪	追分	大蔵
0.4	1.7	1.5	1.4	1.8	1.8	0.3	0.2

大沼	大畑	大林	小渡	小原中部	加納	上鷹見	九久平
0.4	1.3	1.8	0.2	0.3	1.4	0.6	1.6

幸海	小清水	古瀬間	駒場	拳母	衣丘	佐切	敷島
0.0	4.2	1.6	1.5	1.7	1.7	0.1	0.8

四郷	浄水	浄水北	新盛	寿恵野	高嶺	滝脇	竹村
1.0	2.2	1.8	0.3	2.2	3.1	0.3	1.8

土橋	堤	寺部	道慈	童子山	巴ヶ丘	豊松	中金
1.8	3.3	1.8	0.7	3.1	0.6	0.3	0.4

中山	西広瀬	西保見	根川	野見	則定	萩野	花山
1.8	0.9	1.2	1.5	1.2	0.2	0.3	0.5

冷田	東広瀬	東保見	東山	平井	広川台	平和	本城
0.4	1.0	0.0	0.0	1.5	1.7	1.2	0.1

前山	御蔵	御作	美山	明和	元城	矢並	山之手
3.3	0.1	0.3	3.7	0.2	1.4	0.5	3.0

若園	若林西	若林東
3.6	1.6	1.8

中学生 (n=1,323)

(%)

逢妻	旭	朝日丘	足助	井郷	石野	稲武	梅坪台
4.6	1.1	4.5	3.6	4.2	2.2	0.5	4.7

小原	上郷	猿投	猿投台	下山	浄水	末野原	崇化館
1.4	4.2	0.1	5.0	2.0	4.9	4.2	4.1

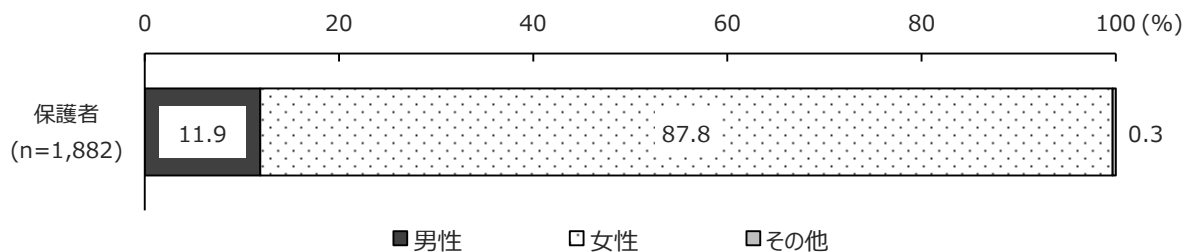
高岡	高橋	藤岡	藤岡南	豊南	保見	前林	益富
3.6	2.9	3.8	4.1	4.5	3.9	4.7	4.5

松平	美里	竜神	若園
4.1	4.3	4.5	4.2

3 保護者

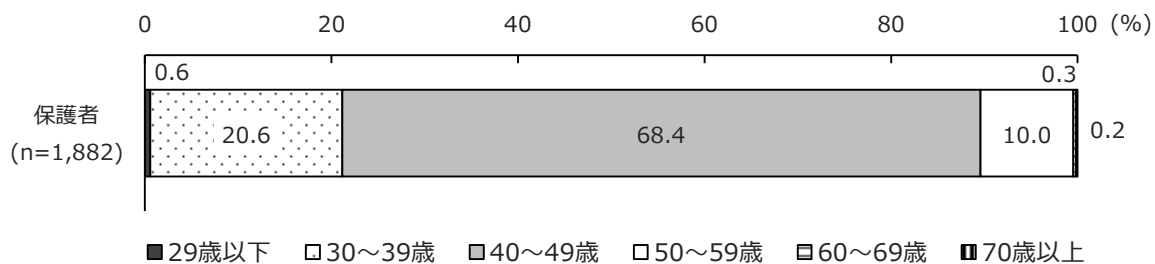
① 性別

「男性」が 11.9%、「女性」が 87.8%となっている。



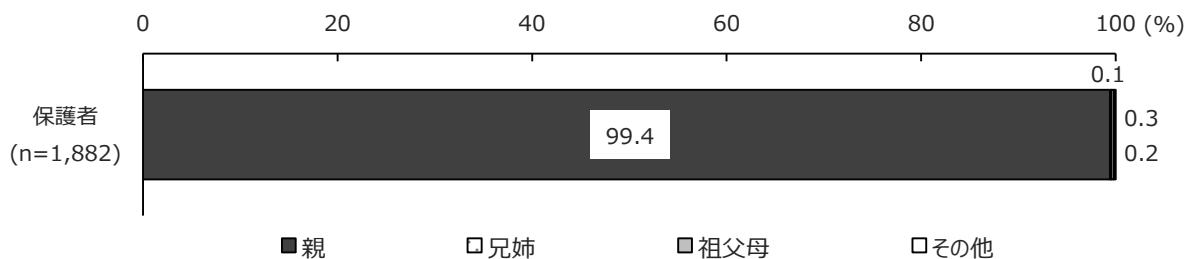
② 年齢

「40～49 歳」が最も多く 68.4%となっている。次いで、「30～39 歳」(20.6%)、「50～59 歳」(10.0%) が多くなっている。



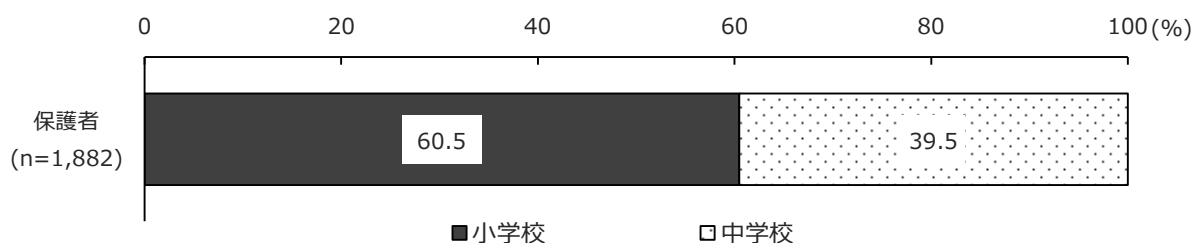
③ 子どもとの続柄

「親」が 99.4%となっている。



④ 子どもの通学先

「小学校」が60.5%、「中学校」が39.5%となっている。



⑤ 小学校区・中学校区

小学校区では、「若園」(3.9%)、「小清水」(3.6%)、「堤」(3.5%) の順に多い。

中学校区では、「井郷」(6.7%)、「保見」(5.9%)、「梅坪台」(5.8%) の順に多い。

小学校区 (n=1,138)

(%)

青木	朝日	足助	飯野	石畳	市木	五ヶ丘	五ヶ丘東
2.9	1.8	0.9	2.5	1.2	1.3	1.1	0.5
稲武	井上	伊保	岩倉	畝部	梅坪	追分	大蔵
0.4	1.1	1.6	1.5	1.8	1.7	0.4	0.2
大沼	大畑	大林	小渡	小原中部	加納	上鷹見	九久平
0.2	1.3	1.6	0.2	0.4	1.1	0.6	1.1
幸海	小清水	古瀬間	駒場	拳母	衣丘	佐切	敷島
0.8	3.6	1.2	1.6	0.8	2.9	0.0	0.5
四郷	浄水	浄水北	新盛	寿恵野	高嶺	滝脇	竹村
1.5	2.5	1.2	0.4	2.1	3.0	0.3	2.0
土橋	堤	寺部	道慈	童子山	巴ヶ丘	豊松	中金
1.8	3.5	1.2	0.8	3.4	0.7	0.2	0.4
中山	西広瀬	西保見	根川	野見	則定	萩野	花山
1.9	1.0	0.5	1.1	1.1	0.2	0.2	0.7

冷田	東広瀬	東保見	東山	平井	広川台	平和	本城
0.3	1.1	1.4	1.8	1.8	2.8	1.1	0.2

前山	御蔵	御作	美山	明和	元城	矢並	山之手
3.3	0.1	0.2	2.5	0.3	1.2	0.7	3.1

若園	若林西	若林東
3.9	1.8	1.8

中学校区 (n=744)

(%)

逢妻	旭	朝日丘	足助	井郷	石野	稲武	梅坪台
3.6	1.1	3.9	3.9	6.7	3.0	0.4	5.8

小原	上郷	猿投	猿投台	下山	浄水	末野原	崇化館
2.0	5.1	1.3	4.6	2.4	5.1	3.1	2.4

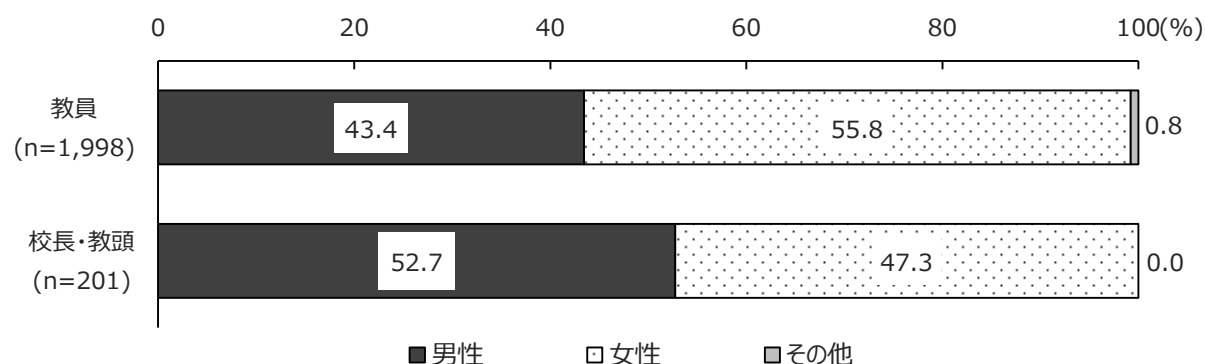
高岡	高橋	藤岡	藤岡南	豊南	保見	前林	益富
5.6	2.8	1.5	4.4	2.6	5.9	3.9	4.3

松平	美里	竜神	若園
3.6	2.8	3.9	4.2

4 教員、校長・教頭

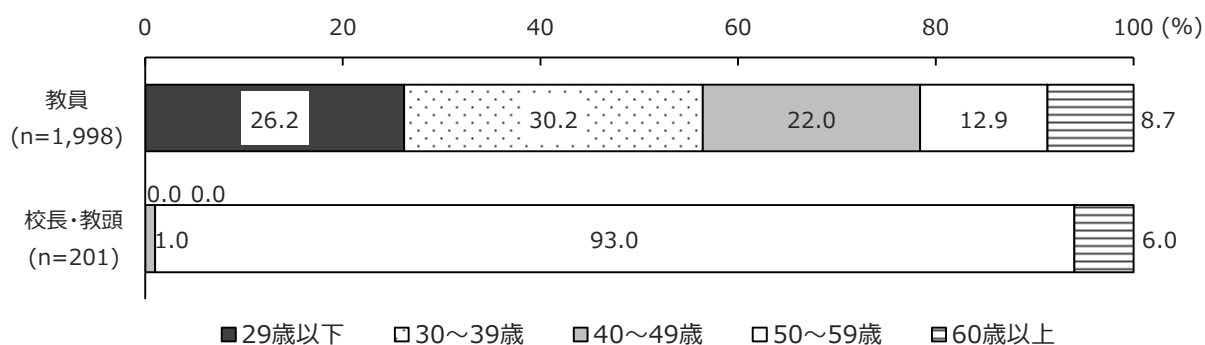
① 性別

教員では「男性」が43.4%、「女性」が55.8%となっている。校長・教頭では「男性」が52.7%、「女性」が47.3%となっている。



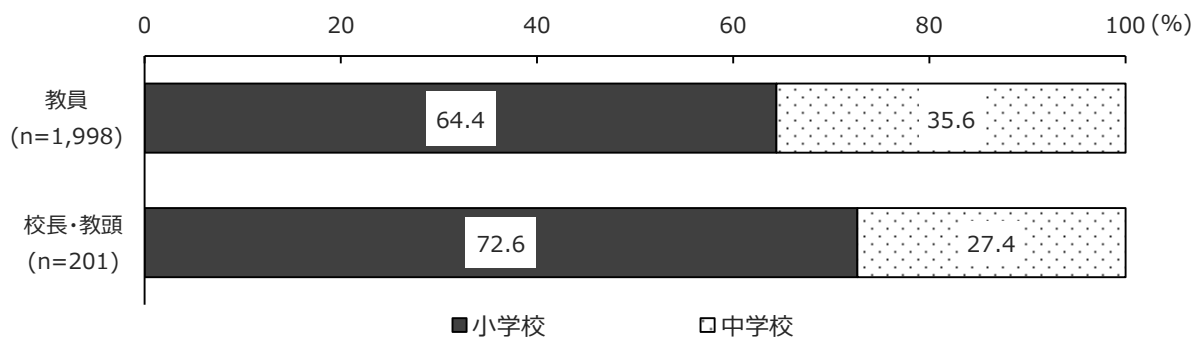
② 年齢

教員では幅広い年代から回答が得られた。校長・教頭では「50～59歳」が93.0%となっている。



③ 勤務先

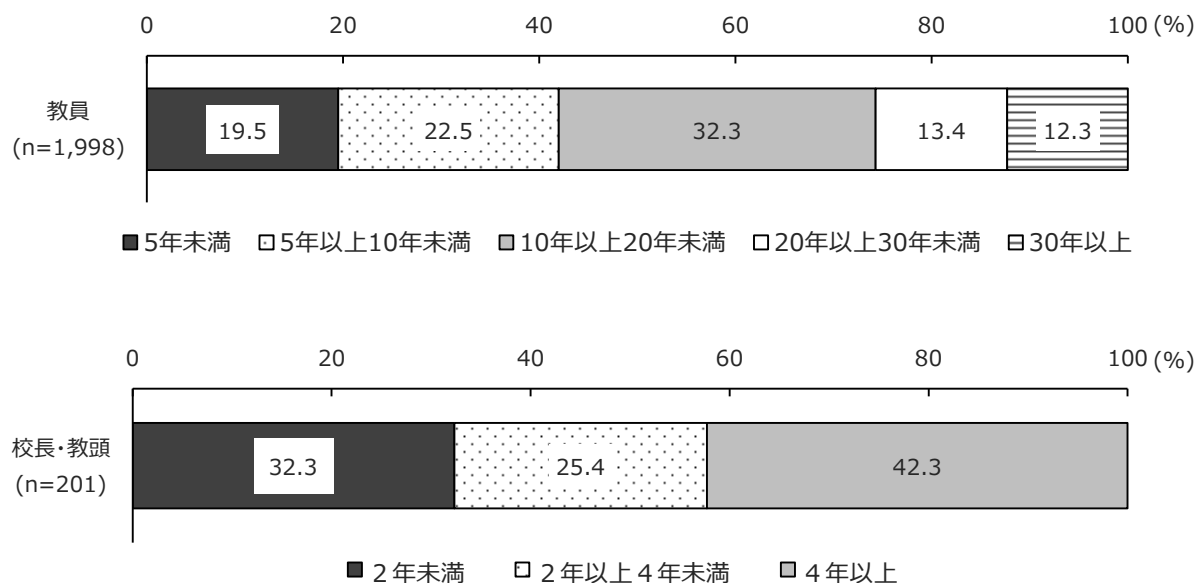
教員では「小学校」が64.4%、「中学校」が35.6%となっている。校長・教頭では「小学校」が72.6%、「中学校」が27.4%となっている。



④ 通算の教職・職位期間

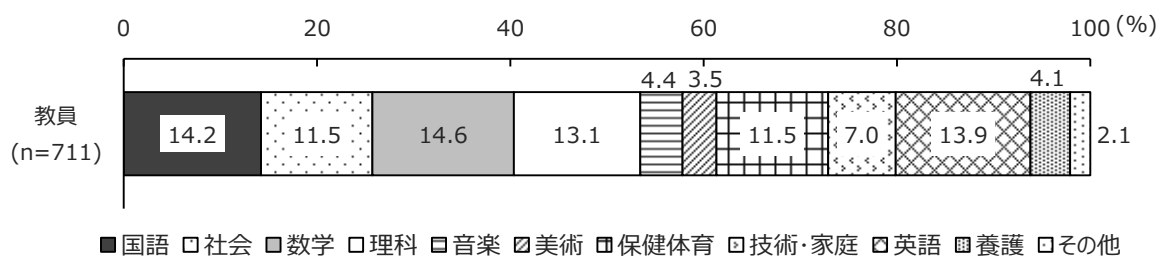
教員について、「10 年以上 20 年未満」が最も多く 32.3%となっている。次いで、「5 年以上 10 年未満」(22.5%)、「5 年未満」(19.5%) が多くなっている。

校長・教頭については、「4 年以上」が最も多く 42.3%となっている。次いで、「2 年未満」(32.3%)、「2 年以上 4 年未満」(25.4%) となっている。



⑤ 担当教科

中学校教員の担当教科について、「数学」が最も多く 14.6%となっている。次いで、「国語 (14.2%)」「英語 (13.9%)」が多くなっている。

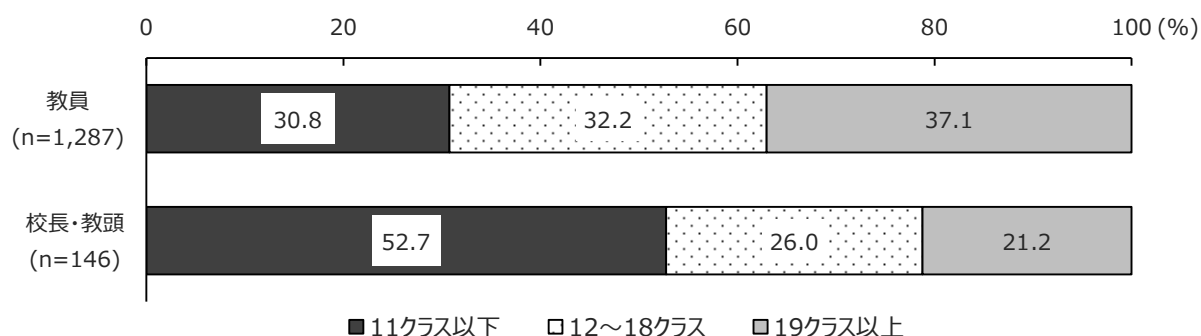


⑥ 勤務先の学校規模

【小学校】

教員では「11 クラス以下」が 30.8%、「12～18 クラス」が 32.2%、「19 クラス以上」が 37.1%となっている。

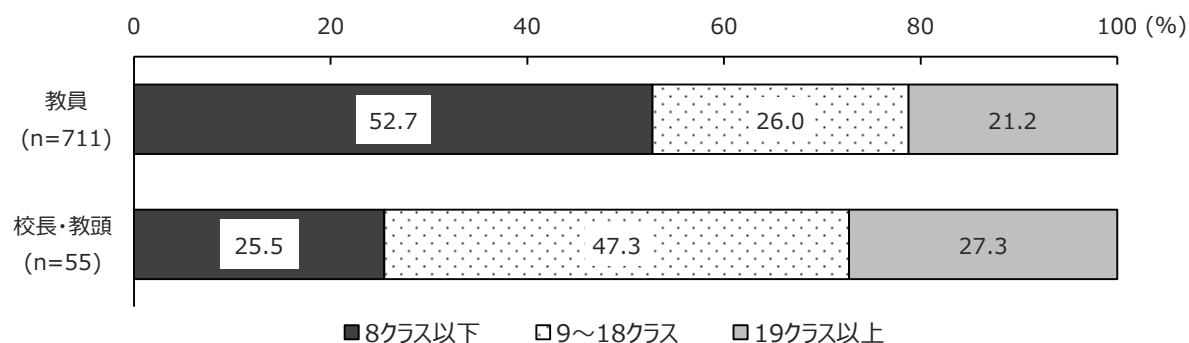
校長・教頭では「11 クラス以下」が 52.7%、「12～18 クラス」が 26.0%、「19 クラス以上」が 21.2%となっている。



【中学校】

教員では「8 クラス以下」が 52.7%、「9～18 クラス」が 26.0%、「19 クラス以上」が 21.2%となっている。

校長・教頭では「8 クラス以下」が 25.5%、「9～18 クラス」が 47.3%、「19 クラス以上」が 27.3%となっている。



第3章 学校教育について

1 学校全般

① 学校生活の満足度

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 1	問 1	問 1		

【小学生、中学生】

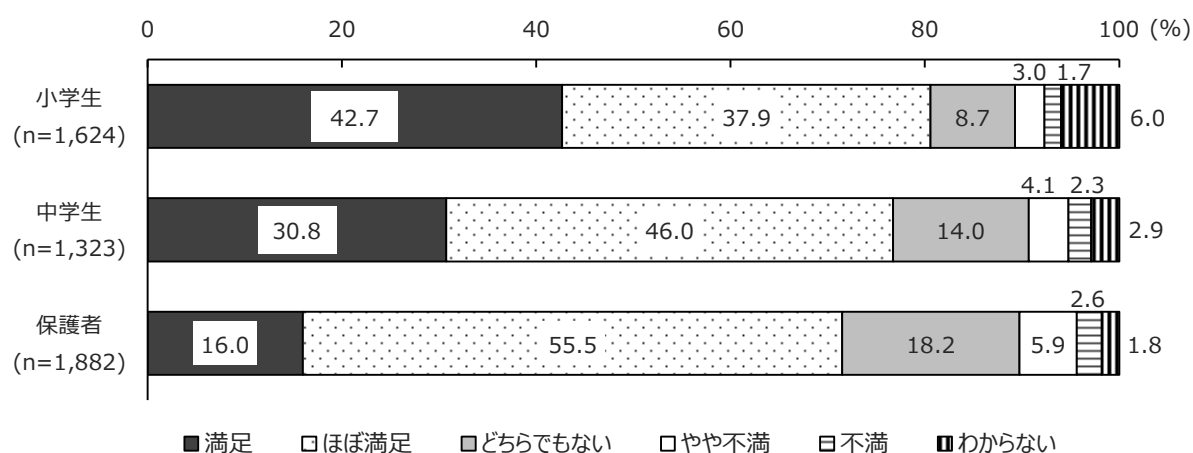
問. あなたは、今の学校生活に満足していますか。(1つ)

【保護者】

問. あなたのお子さん（この調査票を持ち帰ったお子さん）は、今の学校生活に満足していると思いますか。(1つ)

「満足」「ほぼ満足」の合計は、小学生が最も多く 80.6%となっている。次いで、中学生（76.8%）、保護者（71.5%）となっている。

前回と比べると、小中学生・保護者ともに「満足」「やや不満」の割合が減少し、「ほぼ満足」の割合がやや増加している。



	小学生		中学生		小学生保護者		中学生保護者	
	今回 (n=1,624)	前回 (n=1,638)	今回 (n=1,323)	前回 (n=1,424)	今回 (n=1,138)	前回 (n=1,570)	今回 (n=744)	前回 (n=1,358)
満足	42.7	42.0	30.8	33.3	18.7	22.0	11.8	13.5
ほぼ満足	37.9	41.7	46.0	42.3	57.1	53.3	53.1	47.9
どちらでもない	8.7	7.9	14.0	14.0	16.6	11.8	20.7	17.7
やや不満	3.0	4.2	4.1	5.7	5.1	8.3	7.1	11.3
不満	1.7	1.5	2.3	1.8	1.3	2.2	4.4	3.9
わからない	6.0	2.6	2.9	2.4	1.1	2.0	2.8	5.0
無回答	0.0	0.1	0.0	0.6	0.0	0.3	0.0	0.6

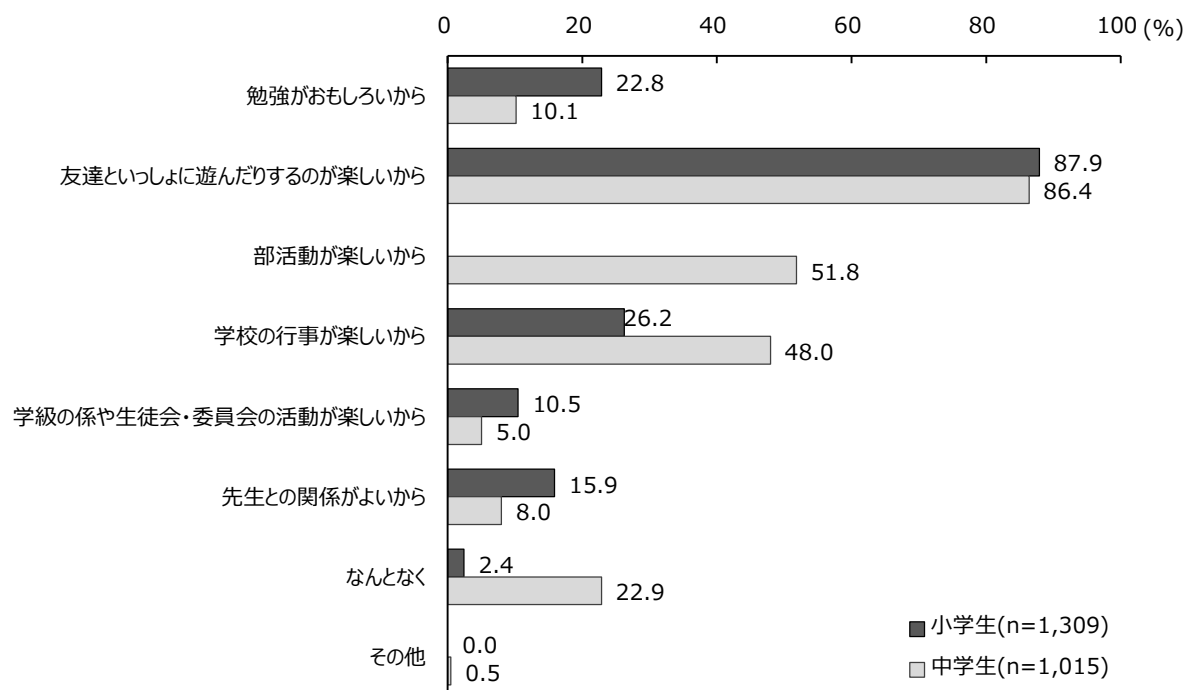
② 学校生活に満足している理由

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 2	問 2			

※学校生活の満足度で「満足」「やや満足」の回答者

問. 満足している理由は何ですか。(3つまで)

小・中学生ともに「友達といっしょに遊んだりするのが楽しいから」(小学生 87.9%、中学生 86.4%) が最も多くなっている。次いで、小学生では「学校の行事が楽しいから」(26.2%)、「勉強がおもしろいから」(22.8%) が多くなっている。中学生では「部活動が楽しいから」(51.8%)、「学校の行事が楽しいから」(48.0%) が多くなっている。



③ 学校生活に満足していない理由

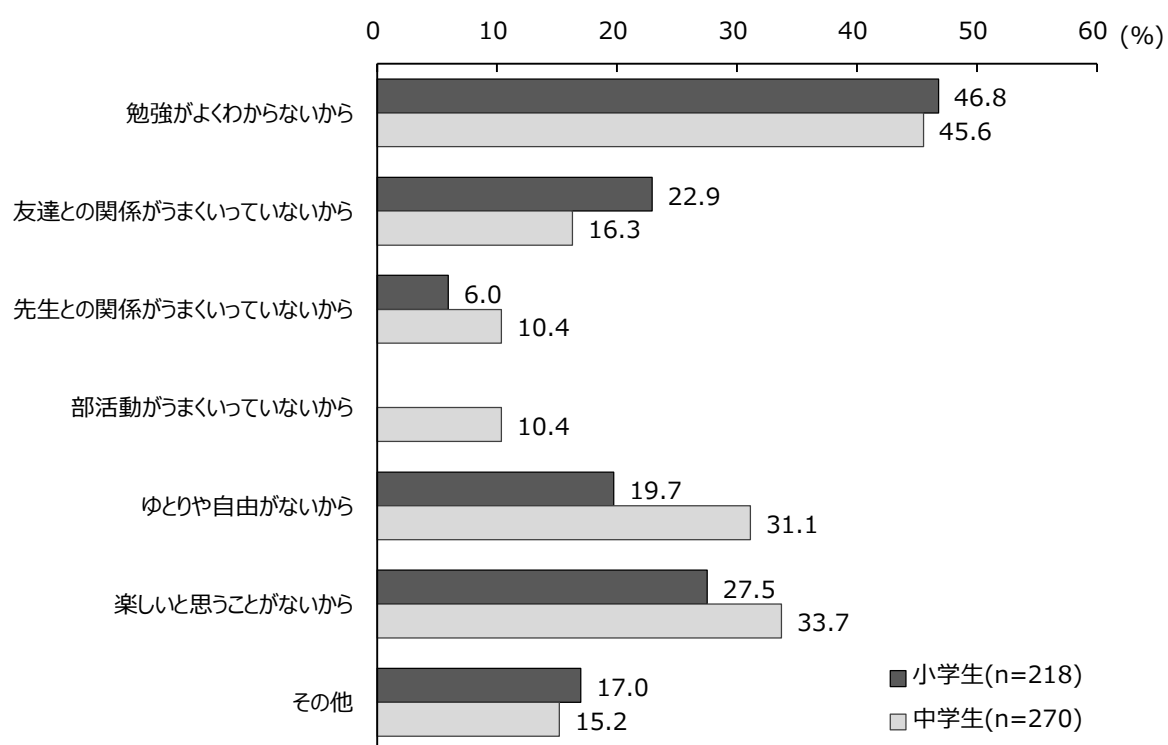
市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 3	問 3			

※学校生活の満足度で「どちらでもない」「やや不満」「不満」の回答者

問. 満足していない理由は何ですか。(3つまで)

小・中学生ともに「勉強がよくわからないから」(小学生 46.8%、中学生 45.6%) が最も多く、次いで「楽しいと思うことがないから」(小学生 27.5%、中学生 33.7%) が多くなっている。中学生では「ゆとりや自由がないから」(31.1%) も多くなっている。

その他の自由回答では、勉強、給食、行事が減ったこと、クラスメイト、周りがいろいろな、差別などに関する回答がみられる。



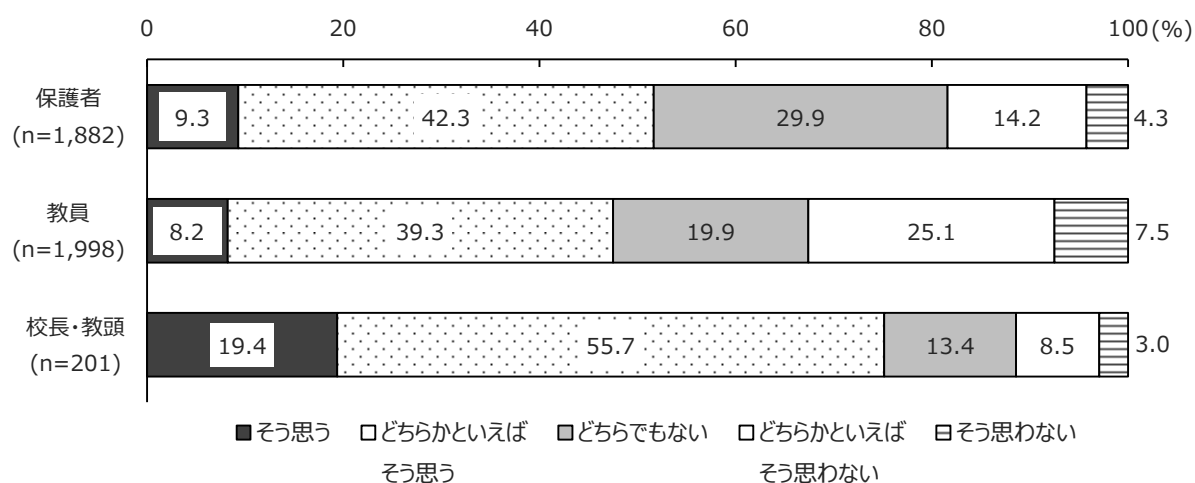
④ 児童生徒の状況

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
			問3～6	問2～5	問2～5

問. 学校生活において、児童生徒一人ひとりに目が行き届いていると思いますか。(1つ)

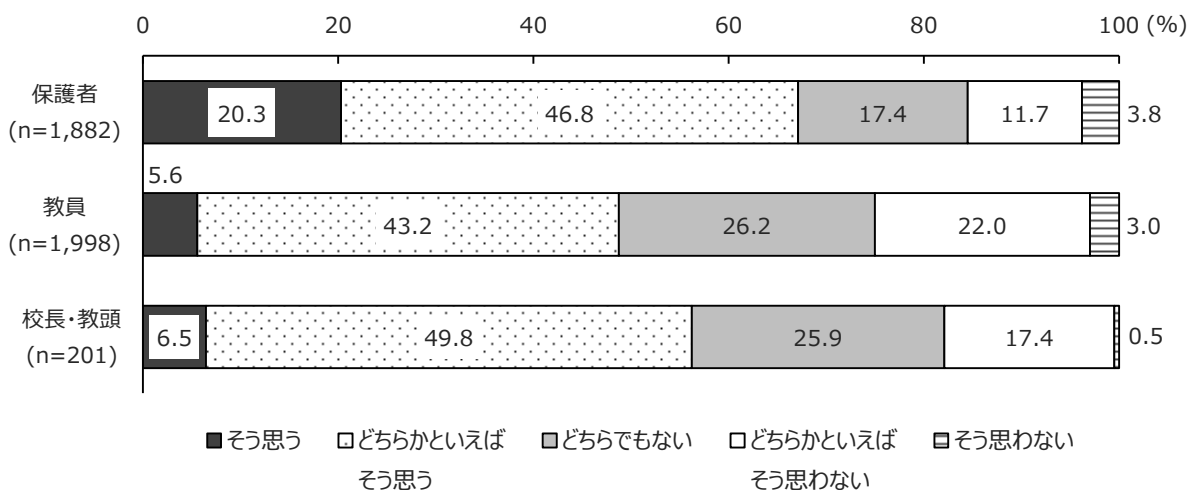
保護者、教員、校長・教頭ともに「どちらかといえばそう思う」(保護者 42.3%、教員 39.3%、校長・教頭 55.7%) が最も多い。

「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計は、教員(32.6%)が、保護者(18.5%)と校長・教頭(11.5%)と比べて多くなっている。



問. 学校生活において、児童生徒が多くの異なる友人と関係を築けていると思いますか。(1つ)

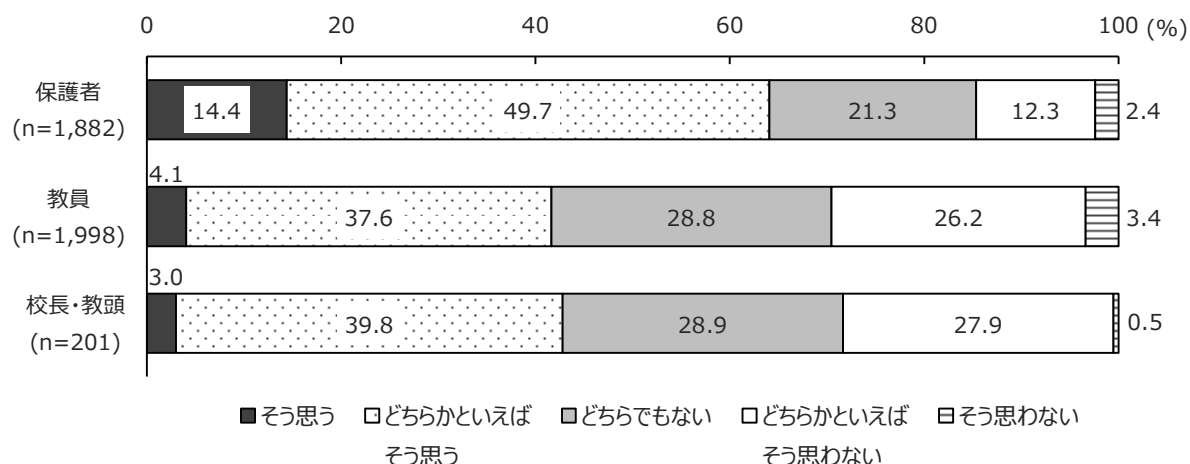
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は、保護者が最も多く 67.1%となっている。次いで、校長・教頭(56.3%)、教員(48.8%)となっている。



問. 学校生活において、児童生徒が相手との関係を考えて関わる力（コミュニケーション能力）を十分に養えていると思いますか。（1つ）

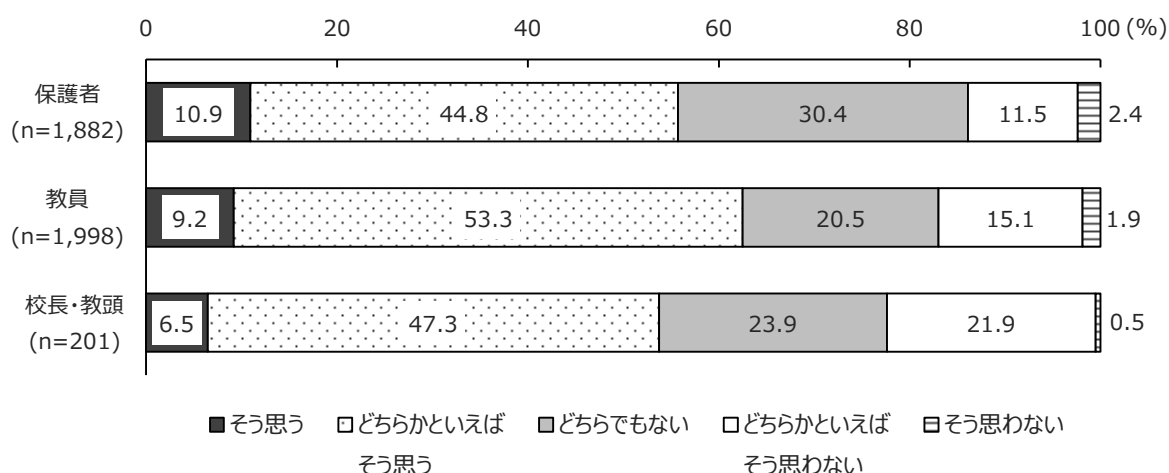
保護者、教員、校長・教頭ともに「どちらかといえばそう思う」（保護者 49.7%、教員 37.6%、校長・教頭 39.8%）が最も多い。

「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計は、教員（29.6%）と校長・教頭（28.4%）が、保護者（14.7%）と比べて多くなっている。



問. 学校生活の中において、児童生徒が多様な意見や考え方に触れる機会が十分にあると思いますか。（1つ）

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は、教員が最も多く 62.5%となっている。次いで、保護者（55.7%）、校長・教頭（53.8%）となっている。



⑤ 学校が一層力を入れるべきこと

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 1	問 6	問 6	問 2	問 1	問 1

【市民、保護者、教員、校長・教頭】

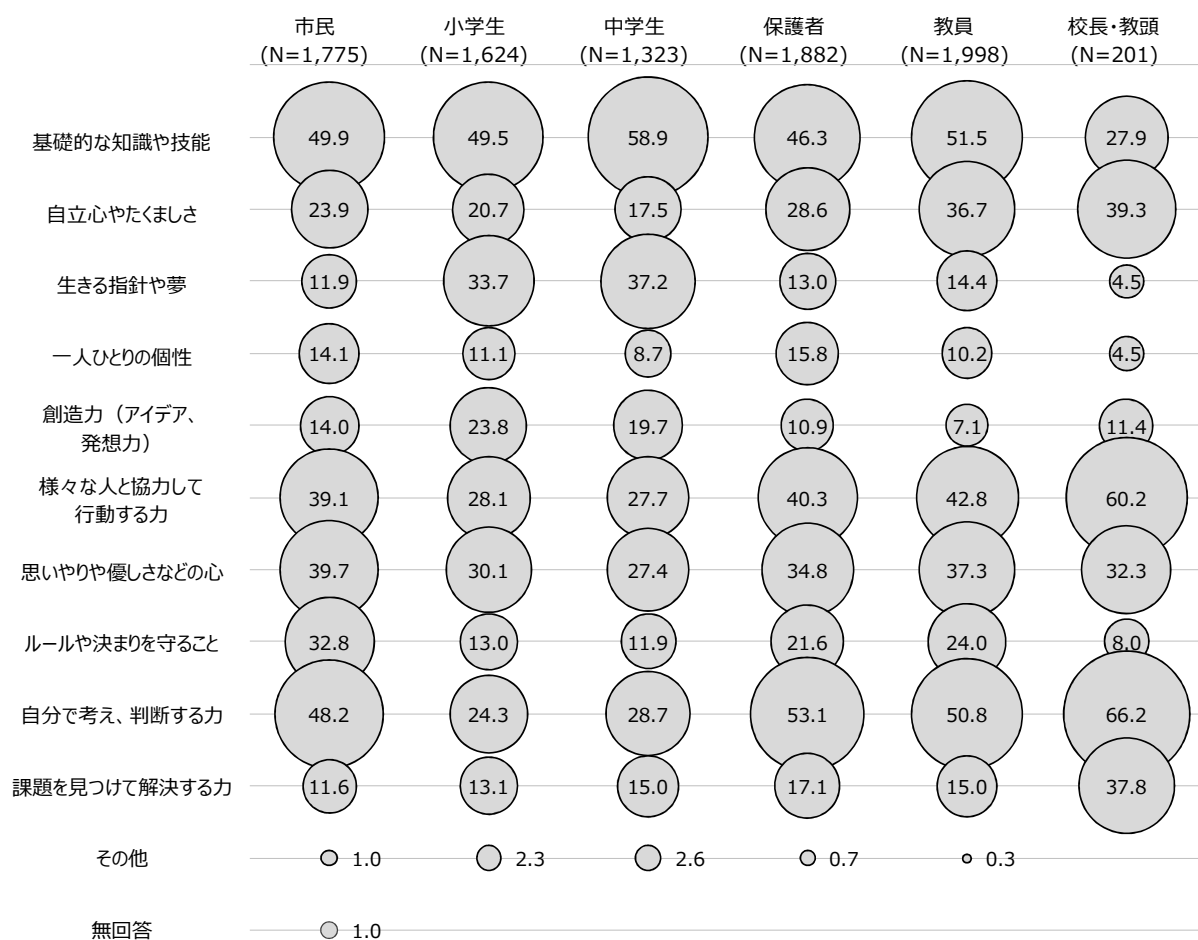
問. あなたは、学校が、児童生徒のどのような力を伸ばすことに一層力を入れる必要があると思いますか。(3つまで)

【小学生、中学生】

問. あなたは、学校でどのようなことを伸ばしていきたい、または身につけたいと思いますか。(3つまで)

市民、小学生、中学生、教員においては、「基礎的な知識や技能」(市民 49.9%、小学生 49.5%、中学生 58.9%、教員 51.5%) が最も多く、保護者、校長・教頭においては「自分で考え、判断する力」(保護者 53.1%、校長・教頭 66.2%) が最も多い。

この他は、小・中学生では「生きる指針や夢」(小学生 33.7%、中学生 37.2%)、校長・教頭では「様々な人と協力して行動する力」(60.2%) が多くなっている。



市民の年齢別などクロス集計にみても、「基礎的な知識や技能」「自分で考え、判断する力」の割合が総じて高い。

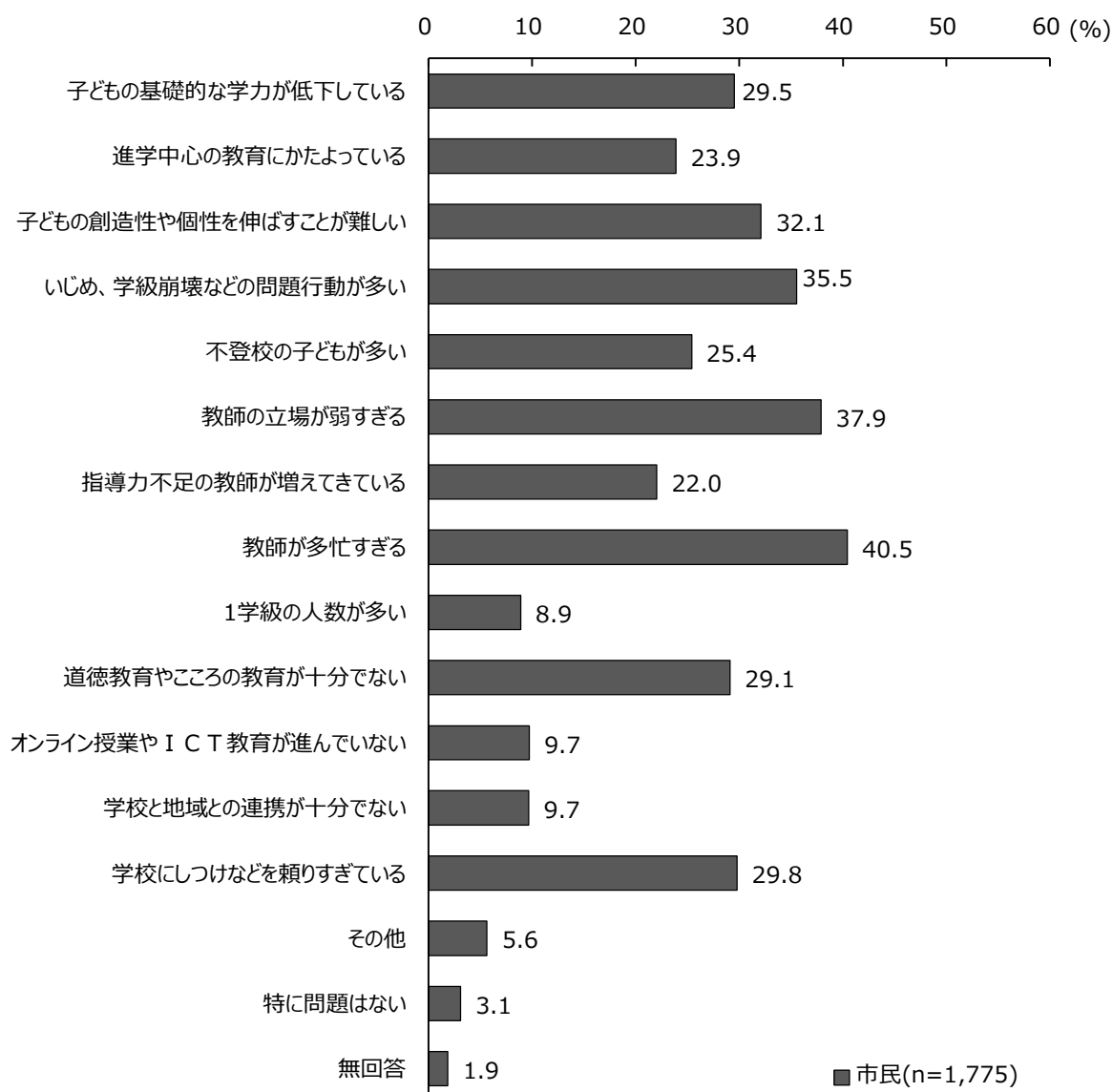
		技 基 能 礎 的 な 知 識 や	し 自 さ 立 心 や た く ま	生 き る 指 針 や 夢	性 一 人 ひ と り の 個	ア 創 造 、 発 力 想 (力 ア イ デ	し 様 て 々 行 な 動 人 す と 協 力 力	さ 思 な い ど や の り 心 や 優 し	を ル 守 ー る ル こ と 決 ま り	断 自 す 分 で 考 え、 判	解 課 決 題 す を 見 つ け て	そ の 他	無 回 答
	%												
市民	20歳未満	47.5	24.6	18.0	21.3	14.8	21.3	26.2	44.3	44.3	13.1	0.0	0.0
	20～29歳	50.4	18.6	10.1	17.1	17.8	29.5	48.1	36.4	41.9	12.4	1.6	0.0
	30～39歳	50.9	25.9	12.5	16.7	10.6	38.4	36.6	29.2	52.3	14.8	0.9	0.5
	40～49歳	46.9	26.6	17.1	14.0	15.7	37.4	40.2	26.9	50.0	13.6	0.0	0.7
	50～59歳	45.6	21.9	13.8	9.4	12.2	43.1	39.7	34.1	52.8	13.1	1.6	0.9
	60～64歳	53.7	22.4	8.8	17.0	16.3	38.1	36.7	33.3	44.2	12.2	2.0	0.0
	65～69歳	54.2	23.7	9.2	16.8	14.5	42.0	46.6	31.3	45.8	9.9	0.0	0.0
	70～74歳	56.1	20.5	9.9	15.2	11.7	42.1	38.6	39.2	48.0	7.6	0.6	1.2
	75歳以上	50.0	27.1	8.4	11.9	14.2	41.6	40.3	32.9	45.5	8.1	1.0	2.9
保護者	小学校	45.3	27.9	12.0	15.0	12.7	40.3	38.3	24.1	51.1	16.6	0.7	0.0
	中学校	47.8	29.8	14.5	17.1	8.3	40.2	29.3	17.9	56.0	17.9	0.8	0.0
教員	29歳以下	40.6	35.1	12.4	17.9	5.2	41.8	41.4	24.8	50.0	13.7	0.0	0.0
	30～39歳	50.7	37.7	18.4	9.6	7.5	40.2	38.7	22.5	49.5	14.9	0.0	0.0
	40～49歳	55.4	40.3	14.1	5.9	6.4	44.9	33.7	24.8	50.3	16.2	0.5	0.0
	50～59歳	58.8	31.5	9.3	5.1	9.3	47.5	35.0	25.3	56.4	16.3	1.2	0.0
	60歳以上	66.7	36.2	14.9	7.5	9.8	42.5	32.8	23.0	50.6	14.4	0.0	0.0
	小学校	53.8	32.9	12.4	11.1	6.8	43.6	38.8	24.4	50.3	16.0	0.4	0.0
	中学校	47.4	43.6	18.0	8.6	7.6	41.4	34.7	23.3	51.6	13.2	0.0	0.0

⑥ 現在の学校教育の問題点

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 2					

問. 現在の学校教育について、どのような問題があると思いますか。(5つまで)

「教師が多忙すぎる」(40.5%)、「教師の立場が弱すぎる」(37.9%)、「いじめ、学級崩壊などの問題行動が多い」(35.5%)、「子どもの創造性や個性を伸ばすことが難しい」(32.1%) が多くなっている。



年齢別にみると、59 歳以下では「教師が多忙すぎる」、60 歳代では「教師の立場が弱すぎる」(37.9%)、70 歳以上では「道徳教育やこころの教育が十分でない」の割合が最も高い。

		る学子か進が個性多不ぎ教が指教師い1いの道	%									
		力ども低の下の基礎的な										
市民	20歳未満	27.9	24.6	27.9	24.6	39.3	23.0	14.8	41.0	4.9	9.8	
	20～29歳	25.6	22.5	40.3	41.1	24.8	39.5	14.7	59.7	6.2	14.0	
	30～39歳	32.9	13.0	29.6	38.9	20.8	38.4	25.0	44.0	10.2	19.0	
	40～49歳	27.3	16.8	31.1	33.6	28.0	33.6	21.3	38.8	12.6	25.2	
	50～59歳	33.8	21.6	26.6	35.6	32.8	38.1	24.1	40.9	8.4	26.6	
	60～64歳	27.9	21.8	39.5	38.1	24.5	40.1	19.0	38.1	8.8	32.0	
	65～69歳	23.7	33.6	32.1	45.0	21.4	45.0	27.5	38.9	9.2	35.1	
	70～74歳	29.8	30.4	35.1	32.7	26.9	37.4	25.7	36.3	8.8	42.7	
	75歳以上	30.0	34.2	32.9	31.6	17.4	40.3	20.3	34.8	7.1	41.6	

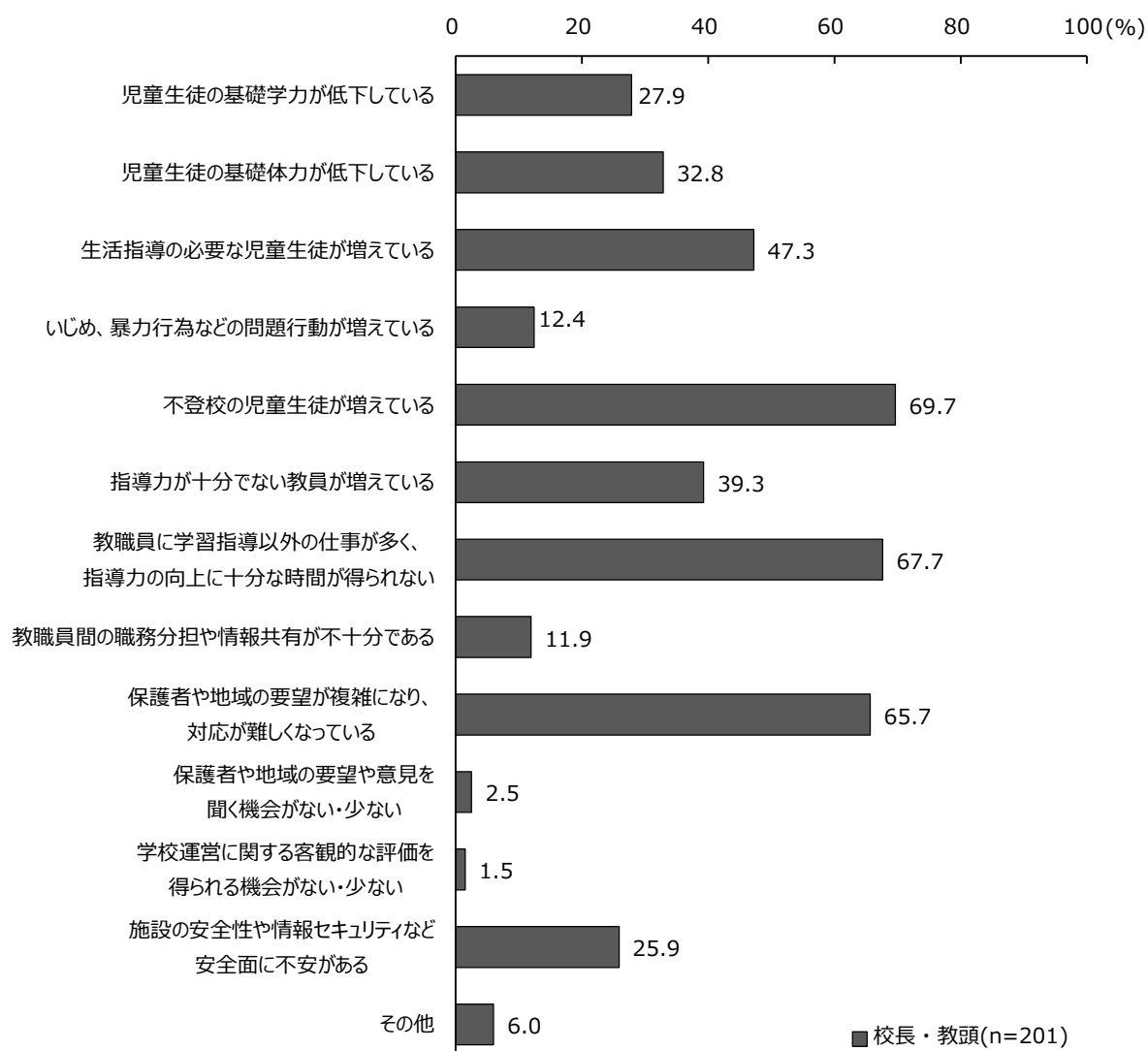
		で I オ携学を学そ特無	%						
		い C ナい教イ育ンが授進業んや							
市民	20歳未満	21.3	1.6	16.4	3.3	8.2	0.0		
	20～29歳	14.0	5.4	24.0	0.8	1.6	0.8		
	30～39歳	8.3	8.8	22.2	7.4	4.2	0.0		
	40～49歳	16.4	10.1	22.7	9.4	6.3	0.3		
	50～59歳	8.4	6.6	32.8	7.2	1.9	1.3		
	60～64歳	6.8	8.2	34.7	5.4	0.7	0.7		
	65～69歳	6.1	4.6	43.5	3.8	1.5	0.8		
	70～74歳	4.7	14.6	27.5	5.8	4.1	4.7		
	75歳以上	7.7	16.5	36.8	2.3	1.6	5.2		

⑦ 学校運営での課題

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
					問 17

問. 学校運営について、どのようなことに特に課題を感じていますか。(5つまで)

「不登校の児童生徒が増えている」(69.7%)、「教職員に学習指導以外の仕事が多く、指導力の向上に十分な時間が得られない」(67.7%)、「保護者や地域の要望が複雑になり、対応が難しくなっている」(65.7%)が多くなっている。



2 授業

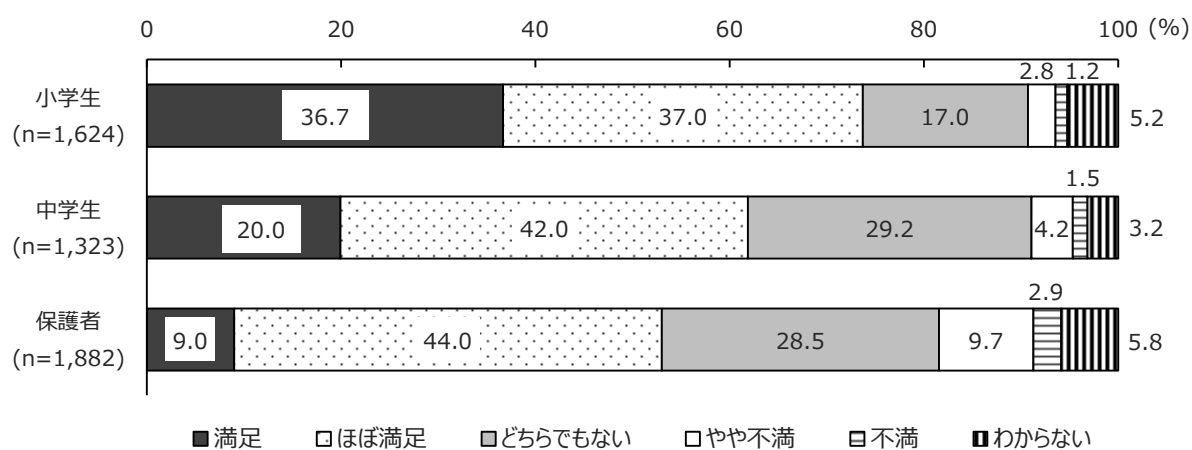
① 授業の満足度

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 4	問 4	問 7		

問. あなたは、学校の授業に満足していますか。(1つ)

「満足」「ほぼ満足」の合計は、小学生が最も多く 73.7%となっている。次いで、中学生(62.0%)、保護者(53.0%)となっている。

前回と比べると、小・中学生ともに「満足」「ほぼ満足」の割合が若干減少している。



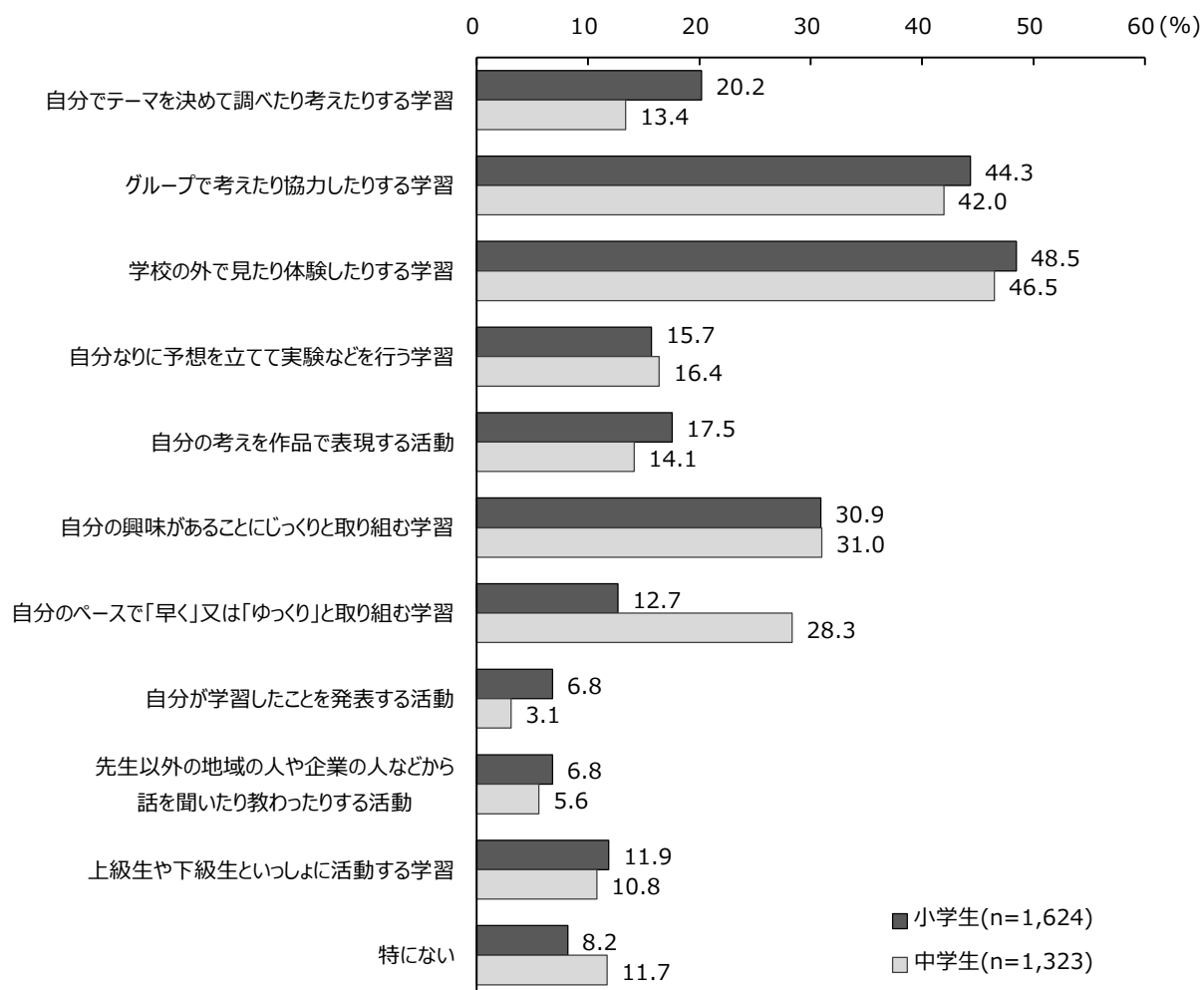
	小学生		中学生		小学生保護者		中学生保護者	
	今回 (n=1,624)	前回 (n=1,638)	今回 (n=1,323)	前回 (n=1,424)	今回 (n=1,138)	前回 (n=1,570)	今回 (n=744)	前回 (n=1,358)
満足	36.7	38.2	20.0	22.3	12.0	16.4	4.4	9.6
ほぼ満足	37.0	37.9	42.0	42.5	49.0	45.1	36.4	36.5
どちらでもない	17.0	13.0	29.2	22.7	25.5	20.5	33.2	26.0
やや不満	2.8	4.3	4.2	6.0	8.1	7.5	12.2	12.7
不満	1.2	1.5	1.5	1.6	1.7	2.6	4.7	3.5
わからない	5.2	3.8	3.2	4.1	3.8	6.9	9.0	11.4
無回答	0.0	1.2	0.0	0.8	0.0	0.9	0.0	0.4

② 好きな授業・学習内容

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 5	問 5			

問. 学校でどのような授業や学習が好きですか。(3つまで)

小・中学生ともに「学校の外で見たり体験したりする学習」(小学生 48.5%、中学生 46.5%)、「グループで考えたり協力したりする学習」(小学生 44.3%、中学生 42.0%)が多くなっている。



③ 授業に対する子どもの理解度

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
				問 6	

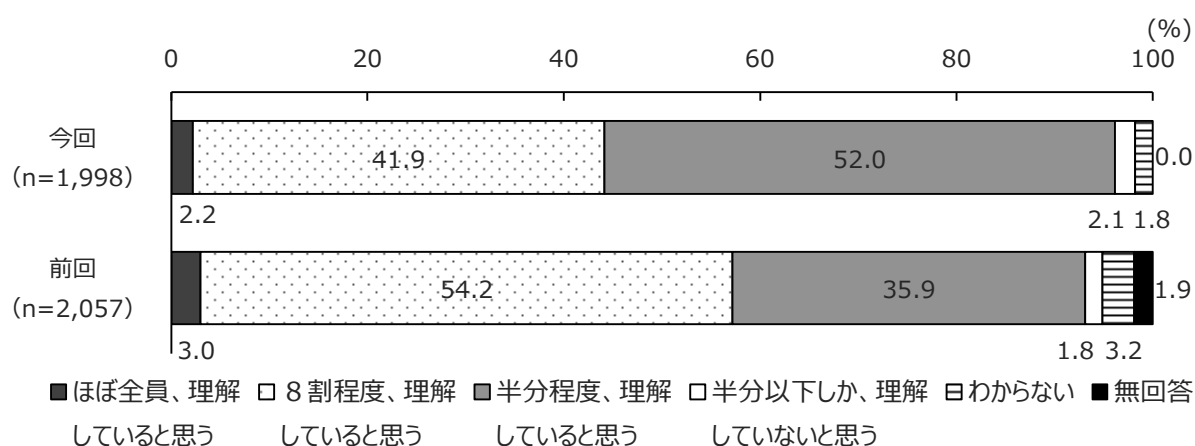
問. ご自身の授業に対して、児童生徒の理解度はどの程度だと思いますか。(1つ)

※小学校では担当教科を平均してください。

「半分程度、理解していると思う」が最も多く 52.0%となっている。次いで、「8割程度、理解していると思う」(41.9%)が多くなっている。

前回と比べると、「8割程度、理解していると思う」の割合が減少し、「半分程度、理解していると思う」の割合が高くなっている。

年齢別にみると、年齢の若い教員や中学校の教員で「半分程度、理解していると思う」の割合が高くなっている。



		い ぼ る ぼ と 全 思 員 う、 理 解 し て	い 8 る 割 と 程 思 度 う、 理 解 し て	い 半 る 分 と 程 思 度 う、 理 解 し て	し 半 て 分 い 以 な 下 い し と か 思、 う 理 解	わ か ら な い	無 回 答
	%						
教員	29歳以下	2.3	35.5	59.0	1.5	1.7	0.0
	30～39歳	2.0	39.4	53.5	2.8	2.3	0.0
	40～49歳	2.1	43.3	51.9	1.4	1.4	0.0
	50～59歳	2.3	52.9	40.5	2.3	1.9	0.0
	60歳以上	2.9	50.6	43.1	2.3	1.1	0.0
	小学校	2.3	46.4	47.9	1.9	1.6	0.0
	中学校	2.0	33.9	59.5	2.4	2.3	0.0

3 小中一貫教育・小中連携

① 中学に進学する（した）ときの不安

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 8～10	問 9～11			

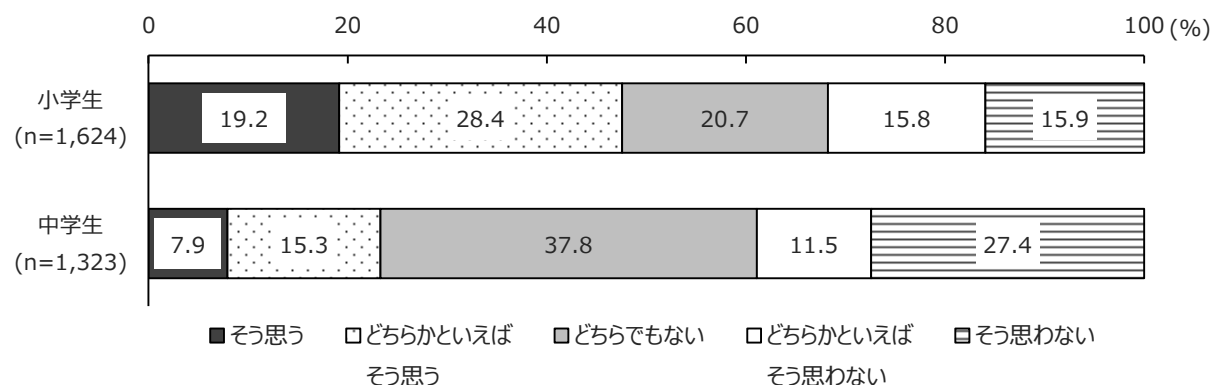
【小学生】

問. 中学校に進学するときに、先生に気軽に相談できるか不安に思いますか。（1つ）

【中学生】

問. 中学校に進学したときに、先生に気軽に相談しづらくなったと思いましたか（1つ）

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は、小学生が 47.6%、中学生が 23.2% となっている。



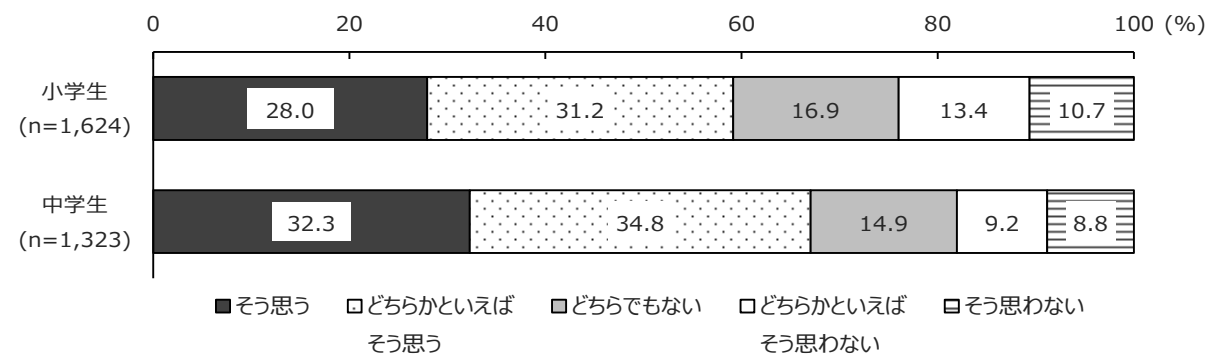
【小学生】

問. 中学校に進学するときに、授業についていけるか不安に思いますか。（1つ）

【中学生】

問. 中学校に進学したときに、授業が急に難しくなって大変だと思いましたか。（1つ）

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は、小学生が 59.2%、中学生が 67.1% となっている。



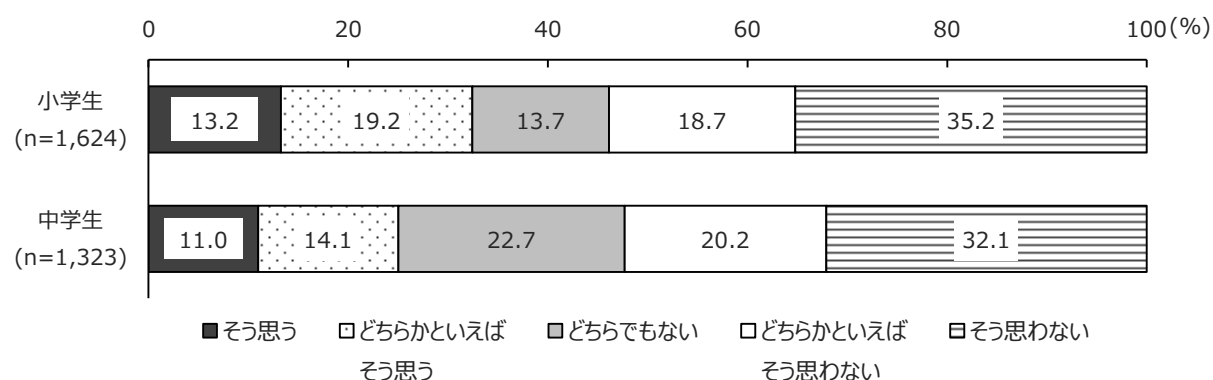
【小学生】

問. 中学校に進学するときに、他の学校出身の子と仲良くなれるか不安に思いますか。
(1つ)

【中学生】

問. 中学校に進学したときに、他の学校出身の子と仲良くなることに苦労しましたか。
(1つ)

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は、小学生が 32.4%、中学生が 25.1% となっている。

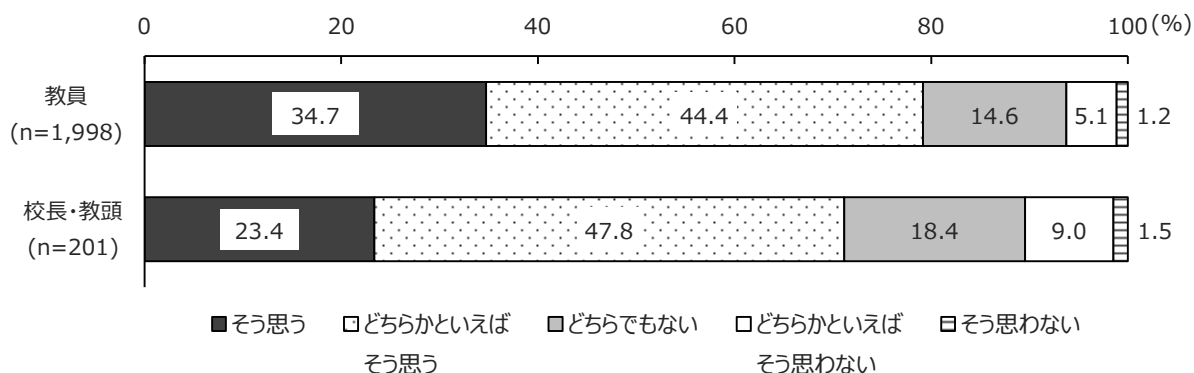


② 中1ギャップの状況

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
				問 11	問 10

問. 「中1ギャップ」を抱えている生徒がいると思いますか。(1つ)

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は、教員が 79.1%、校長・教頭が 71.2% と多くなっている。

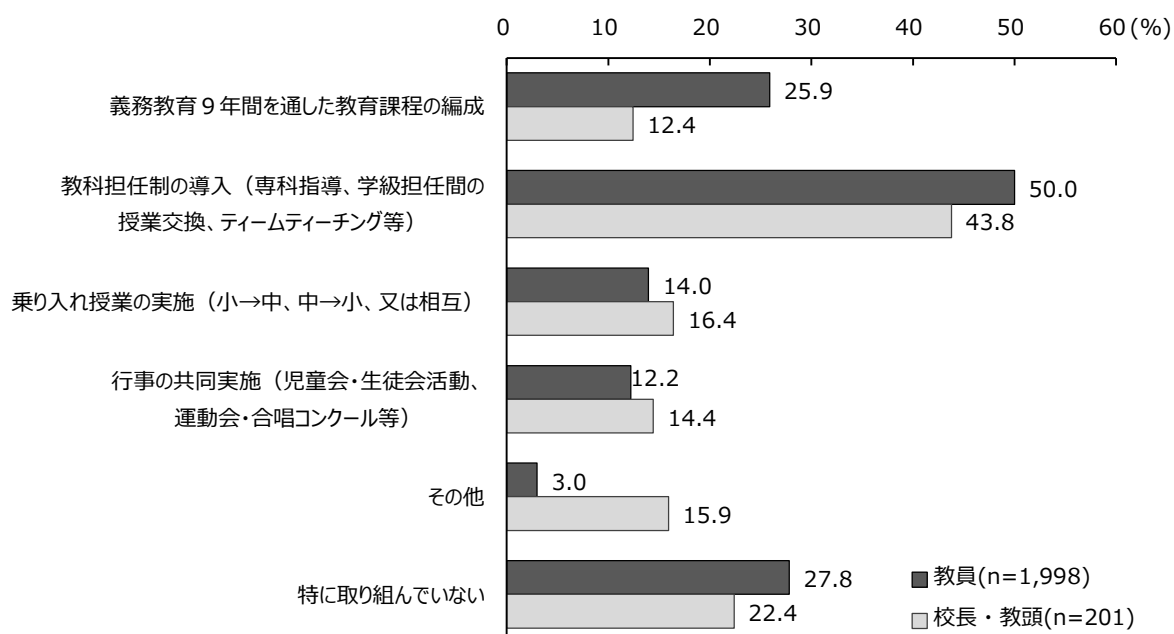


③ 小中一貫教育や小中連携の手法

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
				問 12	問 11

問. 小中連携や小中一貫教育として、どのようなことに取り組んでいますか。
(あてはまるものすべて)

教員、校長・教頭ともに「教科担任制の導入（専科指導、学級担任間の授業交換、チームティーチング等）」（教員 50.0%、校長・教頭 43.8%）が最も多くなっている。次いで、「特に取り組んでいない」（教員 27.8%、校長・教頭 22.4%）が多く、教員では「義務教育 9 年間を通した教育課程の編成」（25.9%）も多くなっている。



4 教育環境（学校の規模）

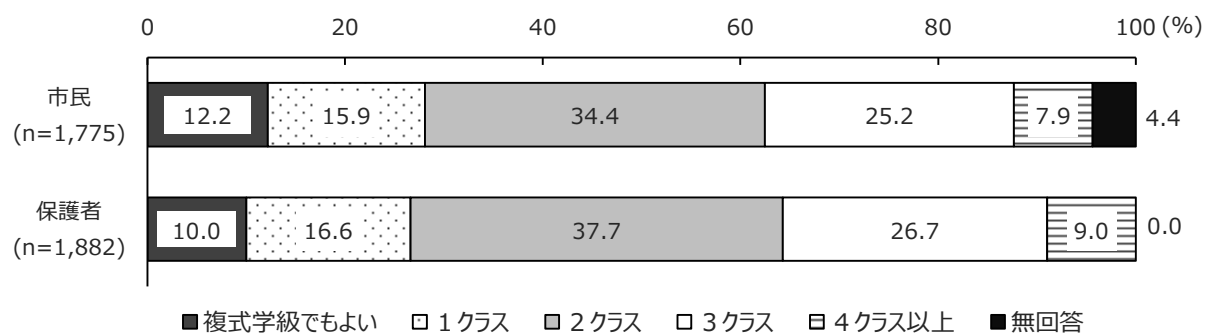
① （小学校）1 学年あたり最低でも必要なクラス数

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 7			問 11	問 13	問 12

問. 少子化で児童生徒数が減少しています。子どもたちにとって適切な教育環境を保つためには、1 学年あたり最低でも何クラス必要だと思いますか。（1 つ）

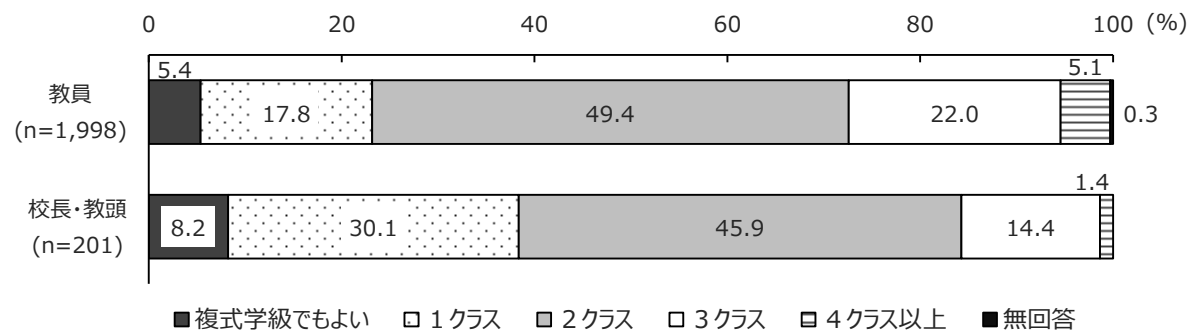
【適切な教育環境を保つため】

市民、保護者ともに「2 クラス」（市民 34.4%、保護者 37.7%）が最も多くなっている。次いで、「3 クラス」（市民 25.2%、保護者 26.7%）が多くなっている。



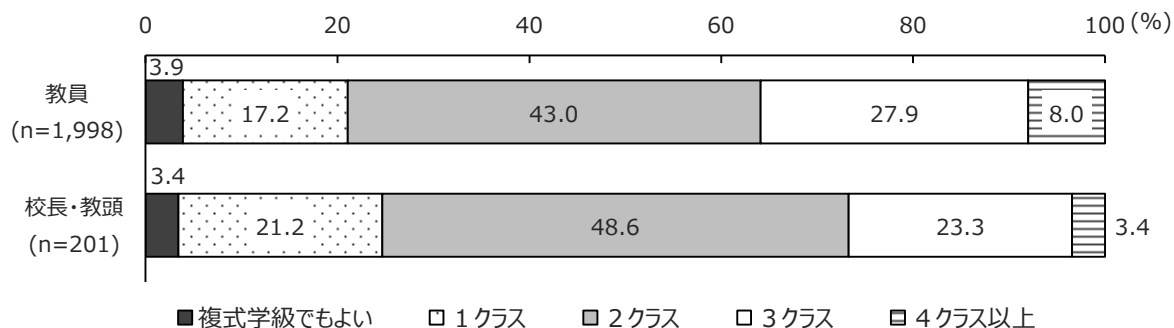
【児童生徒の学習環境や人間関係の構築の側面から】

教員、校長・教頭ともに「2クラス」(教員 49.4%、校長・教頭 45.9%) が最も多くなっている。次いで、教員では「3クラス」(22.0%) が、校長・教頭では「1クラス」(30.1%) が多くなっている。



【教員の学年運営の側面から】

教員、校長・教頭ともに「2クラス」(教員 43.0%、校長・教頭 48.6%) が最も多くなっている。次いで、「3クラス」(教員 27.9%、校長・教頭 23.3%)、が多くなっている。



② （中学校） 1 学年あたり最低でも必要なクラス数

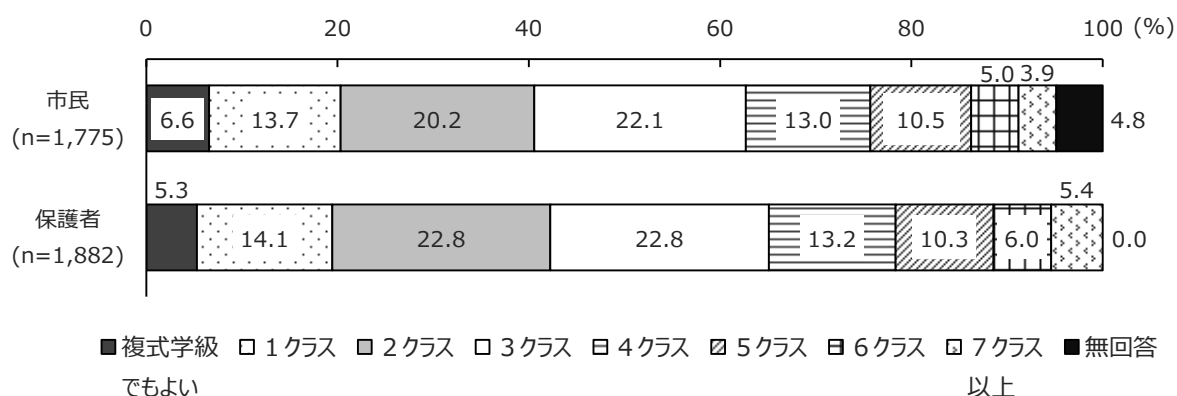
市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 7			問 11	問 14	問 13

問. 少子化で児童生徒数が減少しています。子どもたちにとって適切な教育環境を保つためには、1 学年あたり最低でも何クラス必要だと思いますか。（1 つ）

【適切な教育環境を保つため】

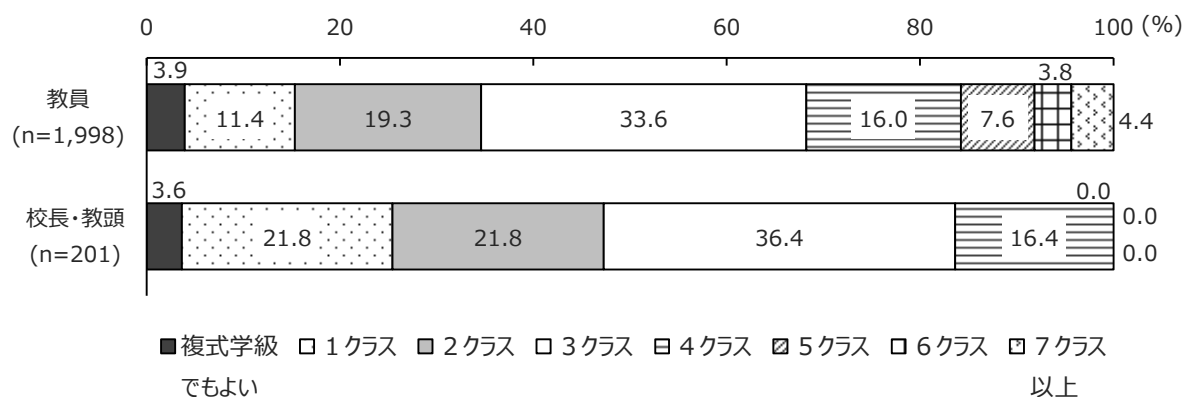
市民では「3 クラス」が最も多く 22.1%となっている。次いで「2 クラス」(20.2%)、「1 クラス」(13.7%) が多くなっている。

保護者では「2 クラス」「3 クラス」がともに 22.8%と最も多くなっている。次いで「1 クラス」(14.1%) が多くなっている。



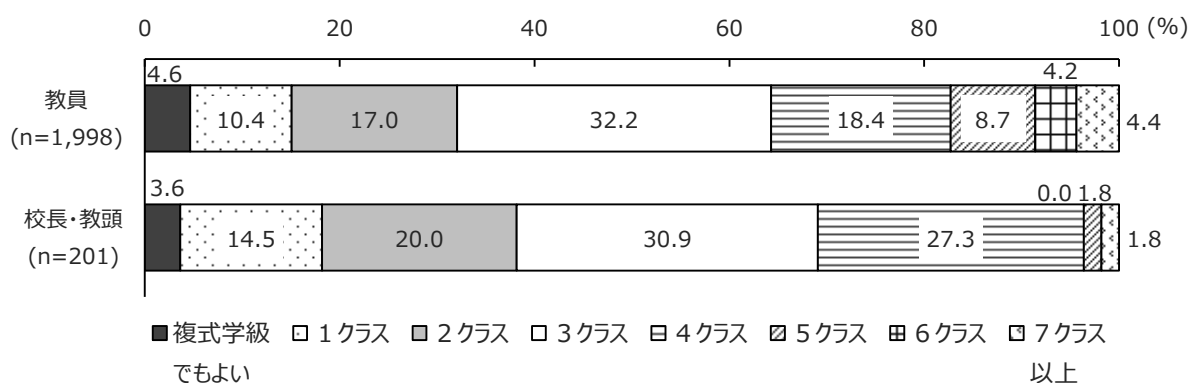
【児童生徒の学習環境や人間関係の構築の側面から】

教員、校長・教頭ともに「3クラス」（教員 33.6%、校長・教頭 36.4%）が最も多く、次いで「2クラス」（教員 19.3%、校長・教頭 21.8%）が多くなっている。



【教員の学年運営の側面から】

教員、校長・教頭ともに「3クラス」（教員 32.2%、校長・教頭 30.9%）が最も多くなっている。次いで「4クラス」（教員 18.4%、校長・教頭 27.3%）が多くなっている。



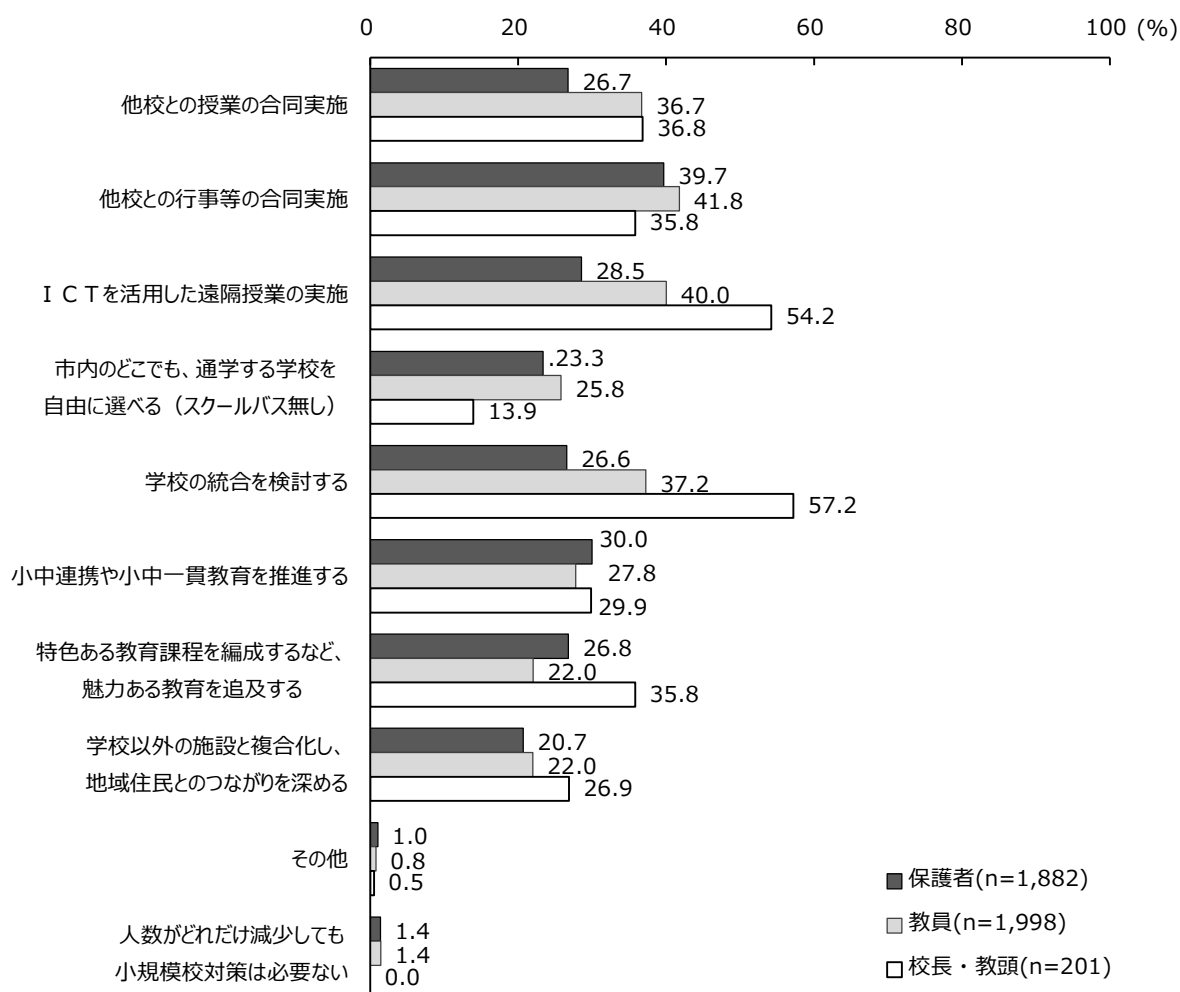
③ 小規模校の対策の方法

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
			問 12	問 15	問 14

問. 今後、少子化で児童生徒数がさらに減少していく場合、小規模校の対策の方法として、どのような取組を期待しますか。(あてはまるものすべて)

保護者、教員では「他校との行事等の合同実施」(保護者 39.7%、教員 41.8%) が最も多くなっている。保護者では、次いで「小中連携や小中一貫教育を推進する」(30.0%) が多く、教員では「I C Tを活用した遠隔授業の実施」(40.0%) が多くなっている。

校長・教頭では「学校の統合を検討する」が最も多く 57.2%となっている。次いで、「I C Tを活用した遠隔授業の実施」(54.2%) が多くなっている。



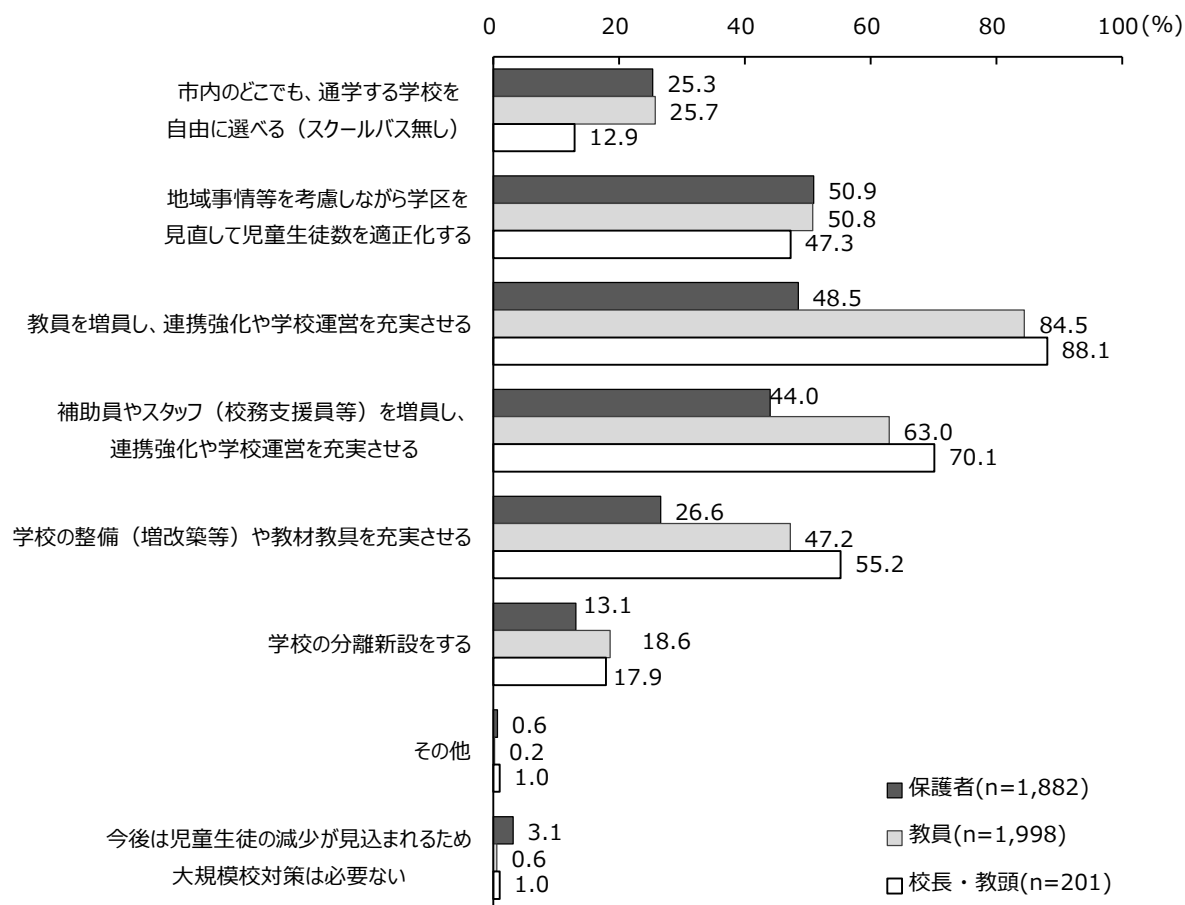
④ 大規模校の対策の方法

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
			問 13	問 16	問 15

問. 今後、児童生徒数が増加していく場合、大規模校の対策の方法として、どのような取組を期待しますか。(あてはまるものすべて)

教員、校長・教頭では「教員を増員し、連携強化や学校運営を充実させる」(教員 84.5%、校長・教頭 88.1%) が最も多く、次いで「補助員やスタッフ(校務支援員等)を増員し、連携強化や学校運営を充実させる」(教員 63.0%、校長・教頭 70.1%) が多くなっている。

保護者では「地域事情等を考慮しながら学区を見直して児童生徒数を適正化する」(50.9%)、「教員を増員し、連携強化や学校運営を充実させる」(48.5%)、「補助員やスタッフ(校務支援員等)を増員し、連携強化や学校運営を充実させる」(44.0%) が多くなっている。

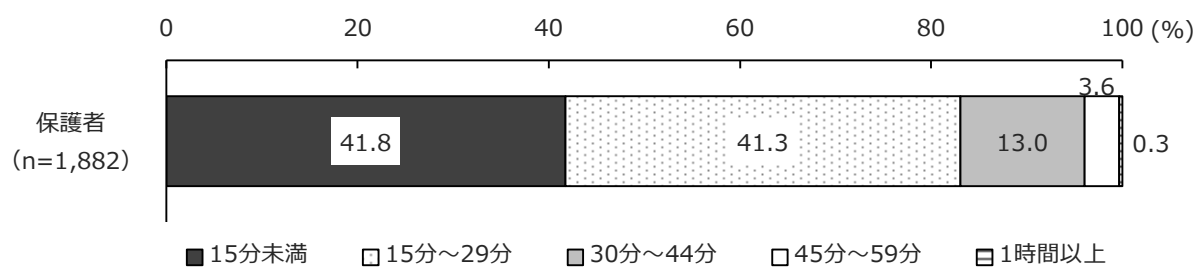


⑤ 通学時間

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
			問 14		

問. お子さんの片道の通学時間はどのくらいですか。(1つ)

「15分未満」が41.8%、「15分～29分」が41.3%が多い。なお、「1時間以上」が0.3%、「45分～59分」が3.6%となっている。



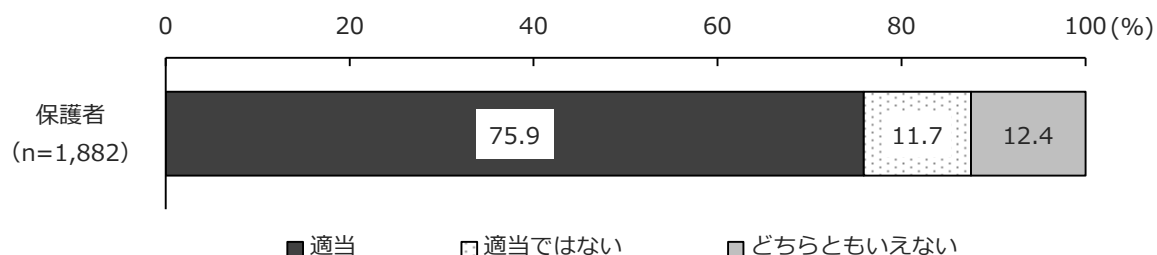
⑥ 通学時間の妥当性

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
			問 15		

問. お子さんの片道の通学時間についてどのように感じますか。(1つ)

「適当」が75.9%、「適当ではない」が11.7%、「どちらともいえない」が12.4%となっている。

通学時間別でみると、30分以上で「適当ではない」の割合が高くなっている。



		適当	適当ではない	どちらともいえない	無回答
%					
通学時間	15分未満	95.0	1.0	3.9	0.0
	15分～29分	78.6	7.7	13.6	0.0
	30分～44分	26.1	42.0	31.8	0.0
	45分～59分	7.4	66.2	26.5	0.0
	1時間以上	16.7	66.7	16.7	0.0

5 特色ある教育

① 特色のある教育として重要なこと・学びたいこと

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 3	問 7	問 7	問 9	問 8	問 7

【市民、保護者、教員、校長・教頭】

問. 豊田市の特色のある教育として、どのような分野を重点的に実施するとよいと思いますか。（2つまで）

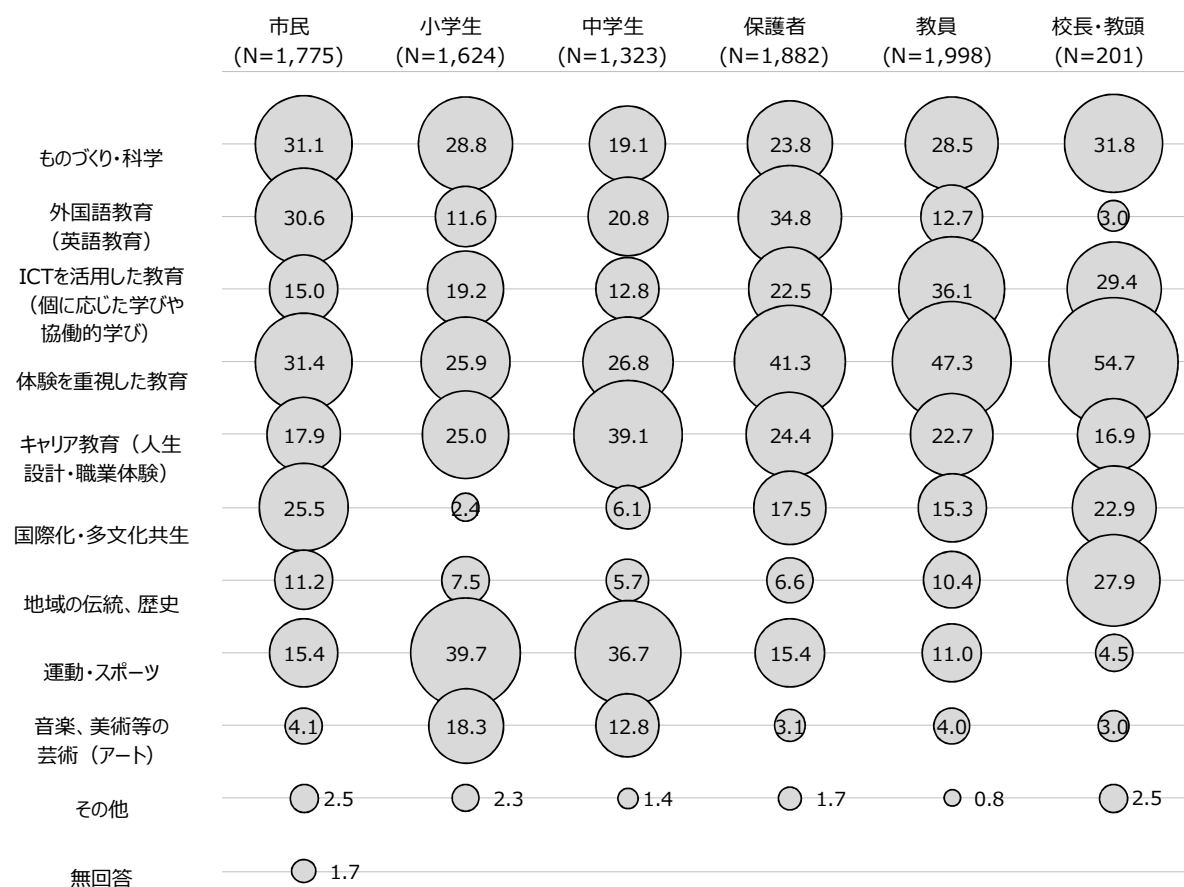
【小学生、中学生】

問. あなたは、学校でどのようなことを学びたいですか。（2つまで）

市民、保護者、教員、校長・教頭では、「体験を重視した教育」（市民 31.4%、保護者 41.3%、教員 47.3%、校長・教頭 54.7%）が最も多くなっている。

「運動・スポーツ」は小学生（39.7%）で最も多く、中学生（36.7%）で2番目に多い。

「キャリア教育（人生設計・職業体験）」は中学生（39.1%）が最も多くなっている。



市民の年齢別にみると、64 歳以下は「ものづくり・科学」「体験を重視した教育」、65 歳以上は「外国語教育」「国際化・多文化共生」の割合が高い。保護者・教員ともに、小学校で「体験を重視した教育」の割合が特に高い。

		もの づ く り ・ 科 学 %	育 外) 国 語 教 育 (英 語 教	や 育 I 協 (C 働 個 T 的 に を 学 応 活 び じ 用 た し 学 た び 教	体 験 を 重 視 し た 教 育	設 キ 計 ヤ ・ リ 職 ア 業 教 育 体 験 () 人 生	国 際 化 ・ 多 文 化 共 生	地 域 の 伝 統 、 歴 史	運 動 ・ ス ポ ー ツ	(音 ア 楽 ー、 ト 美 術 等 の 芸 術	そ の 他	無 回 答
市民	20歳未満	23.0	29.5	9.8	32.8	24.6	13.1	6.6	14.8	11.5	1.6	0.0
	20～29歳	34.9	24.8	17.1	31.0	25.6	17.1	5.4	17.1	6.2	0.8	0.0
	30～39歳	38.0	28.7	9.7	38.9	18.1	21.8	9.7	19.0	3.2	1.4	0.5
	40～49歳	30.8	30.8	12.6	36.7	28.3	22.4	8.4	12.2	3.8	3.1	1.0
	50～59歳	33.4	28.8	18.8	30.6	17.5	27.2	7.8	14.4	5.6	3.8	1.3
	60～64歳	34.7	25.9	17.0	37.4	12.2	23.1	10.9	13.6	2.7	2.0	1.4
	65～69歳	25.2	37.4	15.3	28.2	17.6	29.0	14.5	19.1	1.5	2.3	0.8
	70～74歳	29.2	32.2	16.4	22.2	13.5	32.7	17.0	14.0	3.5	2.9	2.9
	75歳以上	26.1	34.5	15.8	25.8	9.4	30.6	17.1	16.5	3.2	1.9	4.8
保護者	小学校	26.0	33.2	19.1	45.2	20.9	17.8	7.2	17.0	3.1	1.9	0.0
	中学校	20.3	37.1	27.8	35.3	29.7	17.1	5.8	12.9	3.1	1.3	0.0
教員	小学校	29.1	11.3	37.5	50.6	18.7	14.8	11.1	11.0	4.4	1.0	0.0
	中学校	27.4	15.0	33.6	41.4	29.8	16.0	9.1	11.0	3.4	0.4	0.0

② インクルーシブ教育システムの推進に必要なこと

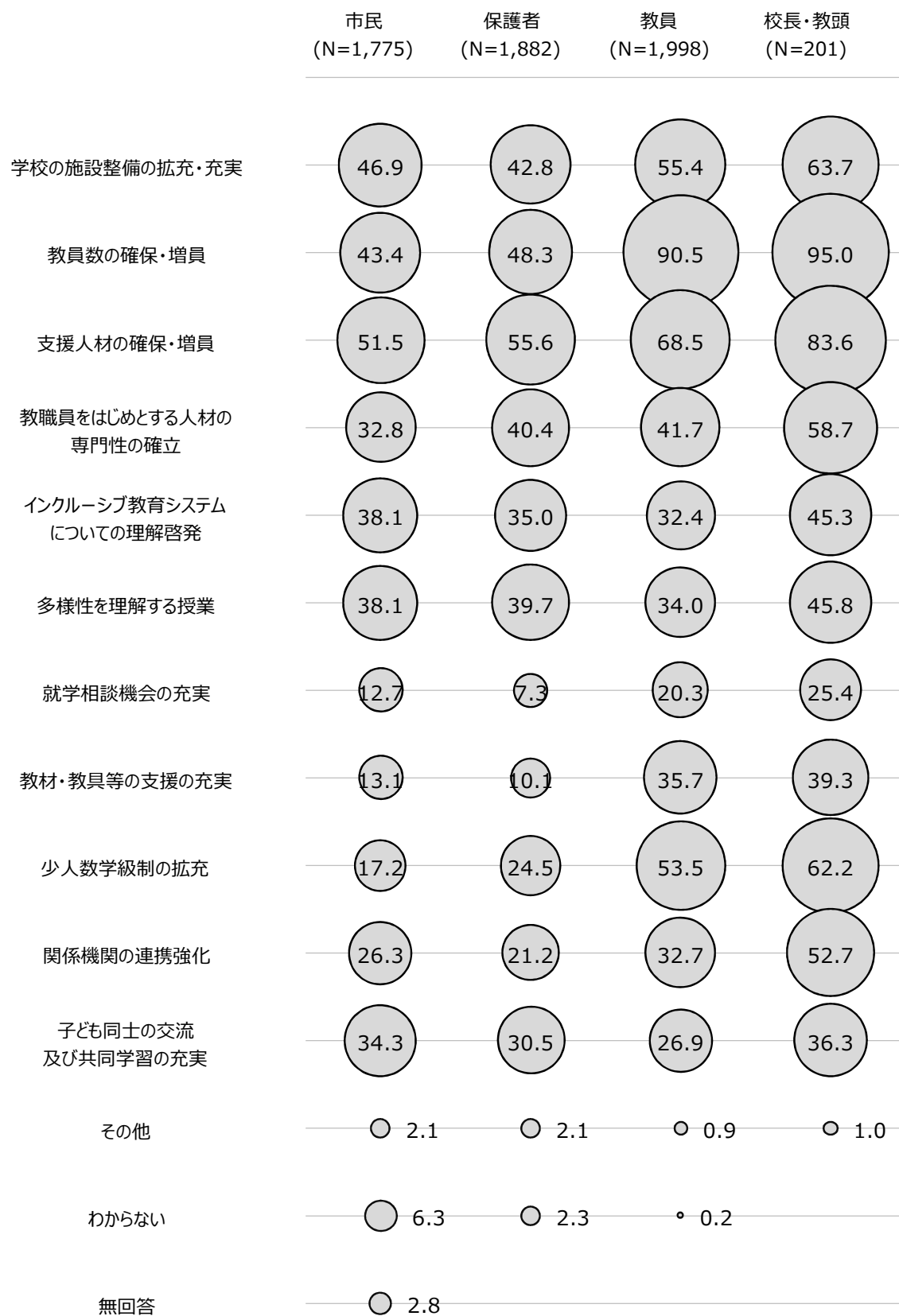
市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 4			問 10	問 9	問 8

問. 今後、共生社会の実現に向けてインクルーシブ教育システム※を推進するために、どういったことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべて)

※インクルーシブ教育システム: 障がいのある者と障がいのない者が共に学ぶことを追求するとともに、障がいのある子どもが望む教育を受けられるように、多様な学習の場所を提供できる仕組み。

市民、保護者では「支援人材の確保・増員」(市民 51.5%、保護者 55.6%)、教員、校長・教頭では「教員数の確保・増員」(教員 90.5%、校長・教頭 95.0%) が最も多くなっている。

この他、「学校の施設整備の拡充・充実」「教職員をはじめとする人材の専門性の確立」「少人数学級の拡充」など多様な項目で必要との回答がみられる。

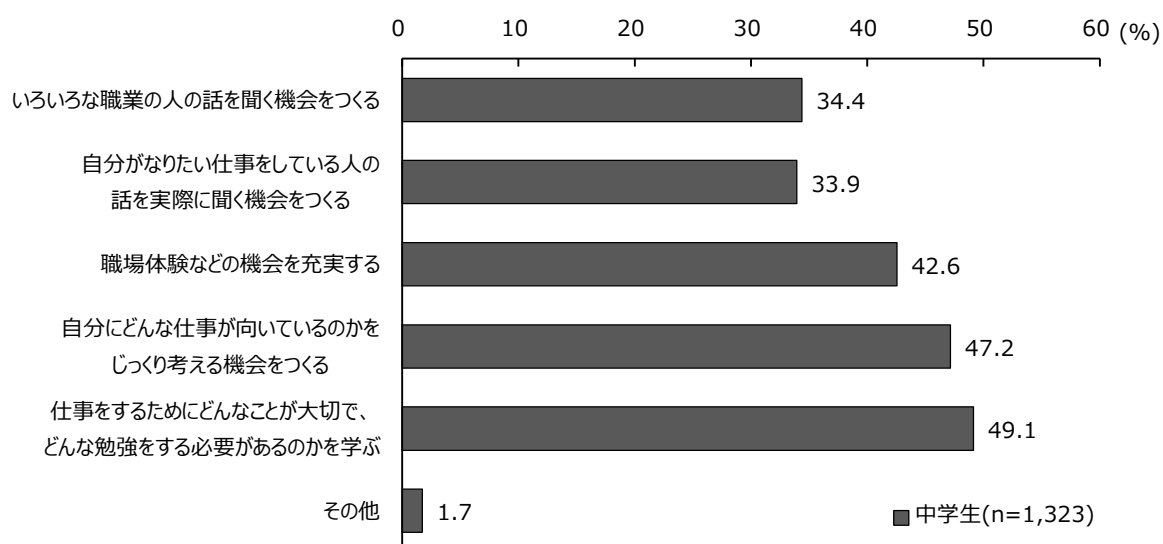


③ 将来の職業を考えるために必要なこと

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
		問 8			

問. 将来の職業を考えるために、学校でどのようなことがあればよいと思いますか。(3つまで)

「仕事をするためにどんなことが大切で、どんな勉強をする必要があるのかを学ぶ」が最も多く 49.1%となっている。次いで、「自分にどんな仕事に向いているのかをじっくり考える機会をつくる」(47.2%)、「職場体験などの機会を充実する」(42.6%) が多くなっている。



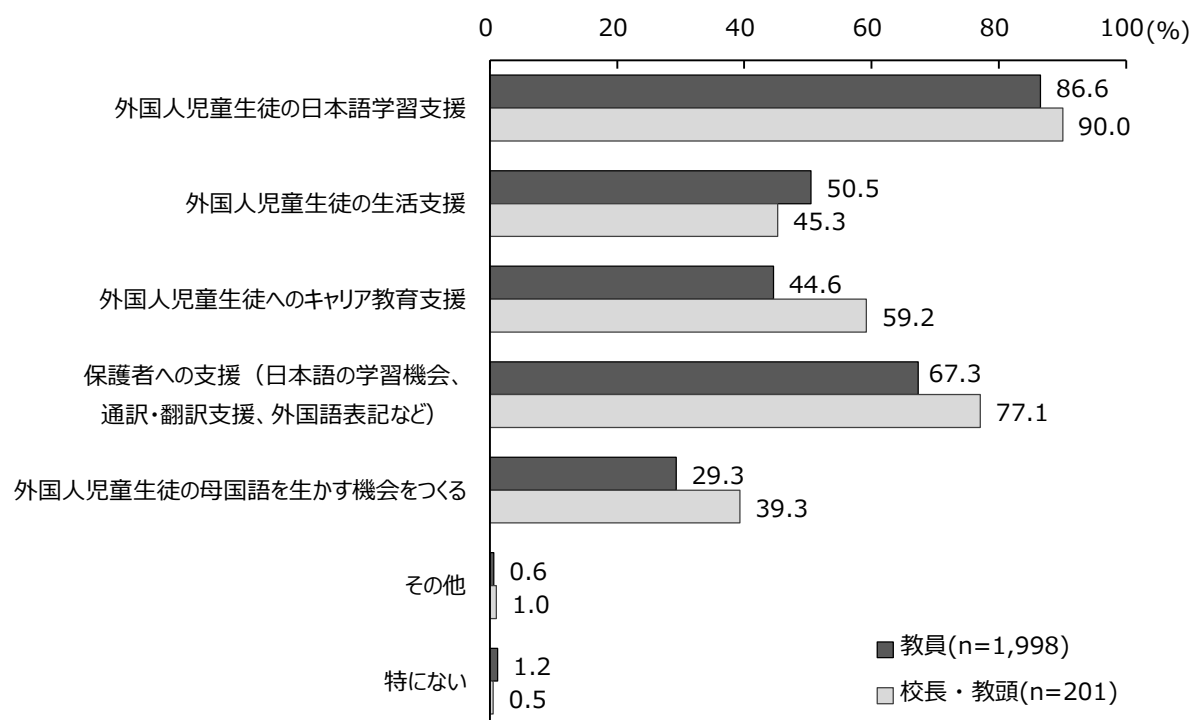
④ 外国人児童生徒への支援

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
				問 10	問 9

問. 市内の外国人児童生徒への支援について、学校はどのようなことに、力を入れたらよいと思いますか。(あてはまるものすべて)

教員、校長・教頭ともに「外国人児童生徒の日本語学習支援」(教員 86.6%、校長・教頭 90.0%) が最も多く、次いで「保護者への支援(日本語の学習機会、通訳・翻訳支援、外国語表記など)」(教員 67.3%、校長・教頭 77.1%) が多くなっている。

校長・教頭では「外国人児童生徒へのキャリア教育支援」(59.2%) も多くなっている。



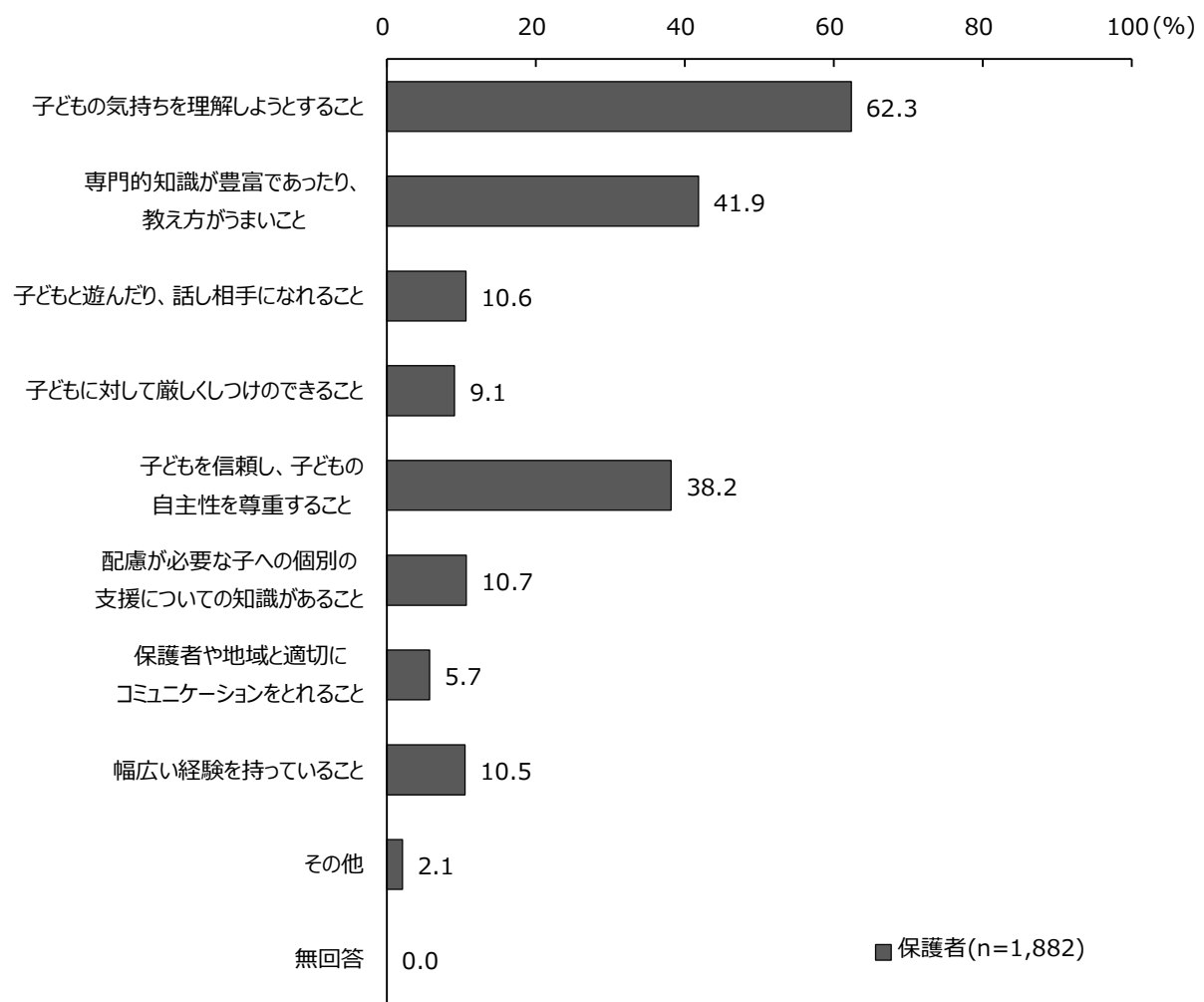
6 教師

① 教師に期待すること

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
			問 8		

問. 学校の教師にどのようなことを期待しますか。(2つまで)

「子どもの気持ちを理解しようとする事」が最も多く 62.3%となっている。次いで、「専門的知識が豊富であったり、教え方がうまいこと」(41.9%)、「子どもを信頼し、子どもの自主性を尊重すること」(38.2%)が多くなっている。



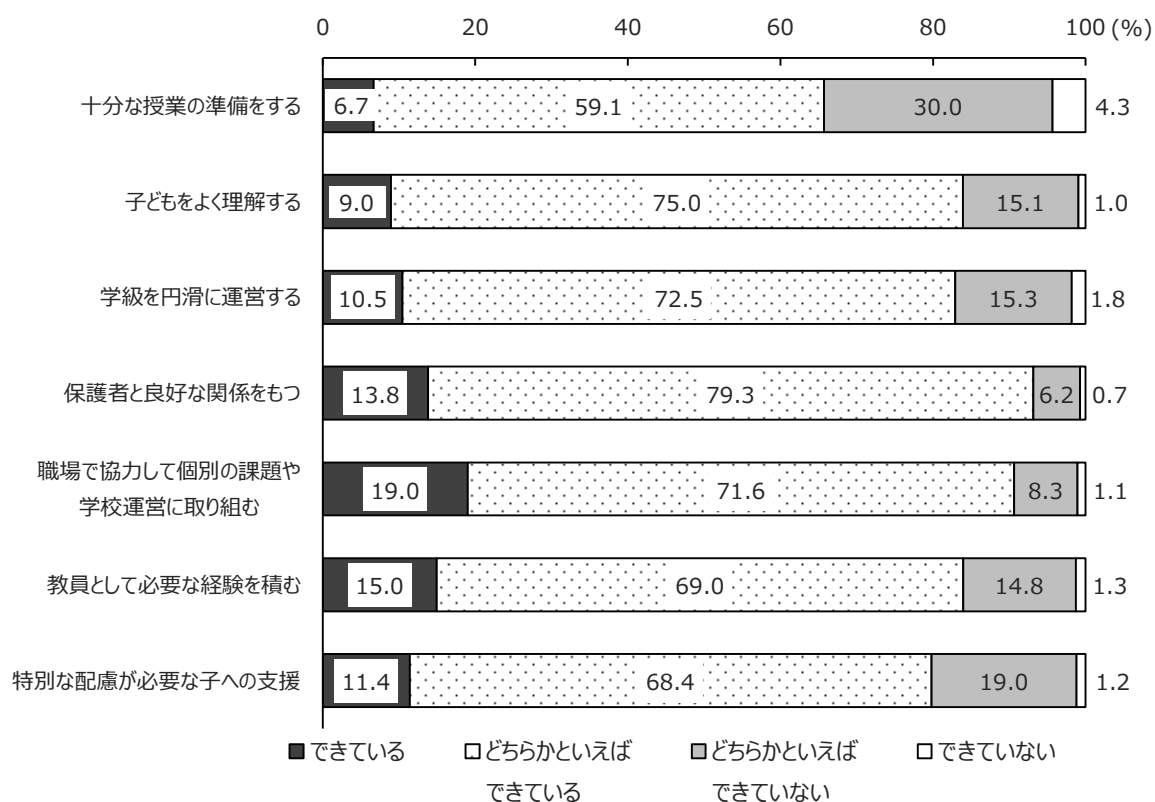
② 教師の教育活動の状況

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
				問 7	問 6

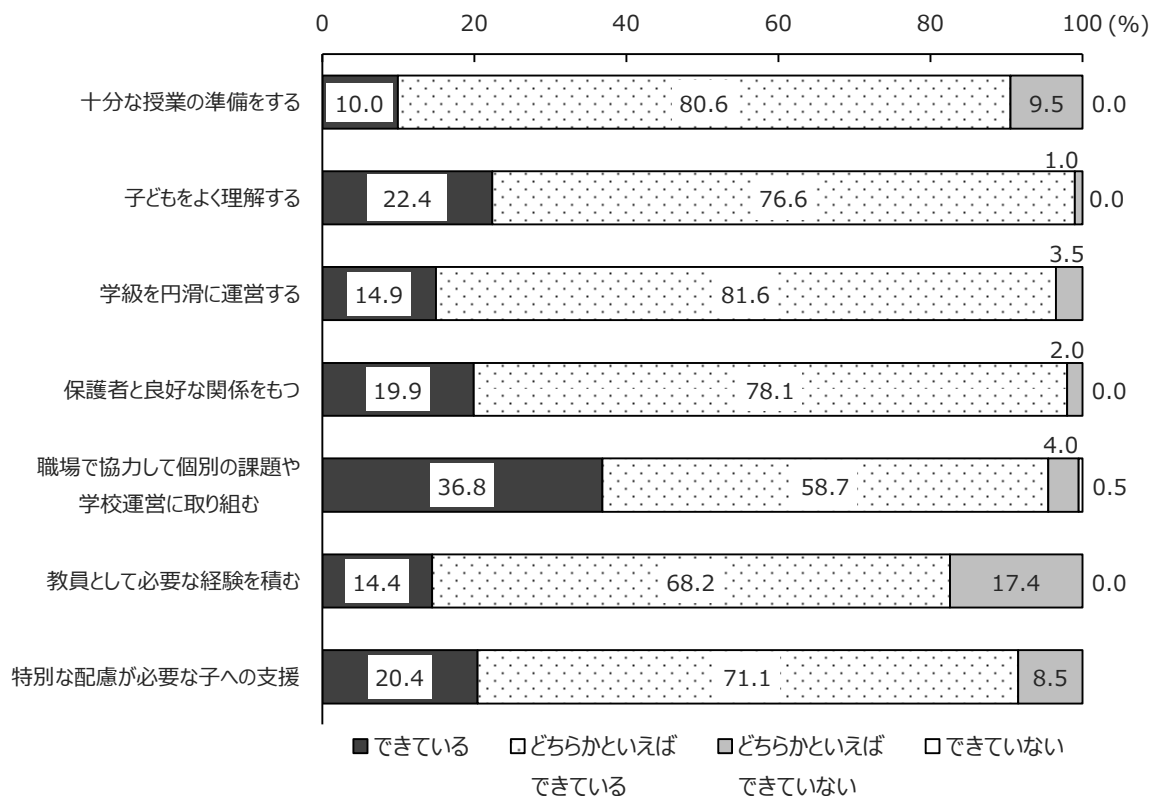
問. あなたは、次のことについて、どの程度できていると思いますか。(それぞれ1つ)

教員、校長・教頭ともに、「どちらかといえばできている」が、いずれの項目においても最も多くなっている。「できていない」「どちらかといえばできていない」の合計は、教員では「十分な授業の準備をする」(34.3%)、校長・教頭では「教員として必要な経験を積む」(17.4%)について、他の項目よりも多くなっている。

【教員】(n=1,998)



【校長・教頭】（n=201）



「どちらかといえばできていない」「できていない」の割合の合計をみると、49歳以下で「十分な授業の準備をする」で高くなっている。また、「学級を円滑に運営する」「特別な配慮が必要な子への支援」など総じて年齢が若い教員で割合が高い傾向がみられる。

・「どちらかといえばできていない」「できていない」の割合の合計

		十分な授業の準備をする	子どもをよく理解する	学級を円滑に運営する	保護者と良好な関係をもつ	職場で協力して個別の課題や学校運営に取り組む	教員として必要な経験を積む	特別な配慮が必要な子への支援
		%						
教員	29歳以下	34.2	16.8	25.6	8.0	9.5	17.4	25.4
	30～39歳	43.5	21.2	17.2	8.4	11.3	20.9	26.2
	40～49歳	36.2	13.4	13.2	5.2	8.4	14.6	15.3
	50～59歳	20.6	9.3	10.5	4.3	5.4	8.2	10.1
	60歳以上	17.8	12.6	10.3	5.7	10.3	10.3	10.9
	小学校	36.6	13.7	14.5	6.2	8.5	16.1	20.1
	中学校	30.1	20.4	21.7	8.0	10.8	15.9	20.3

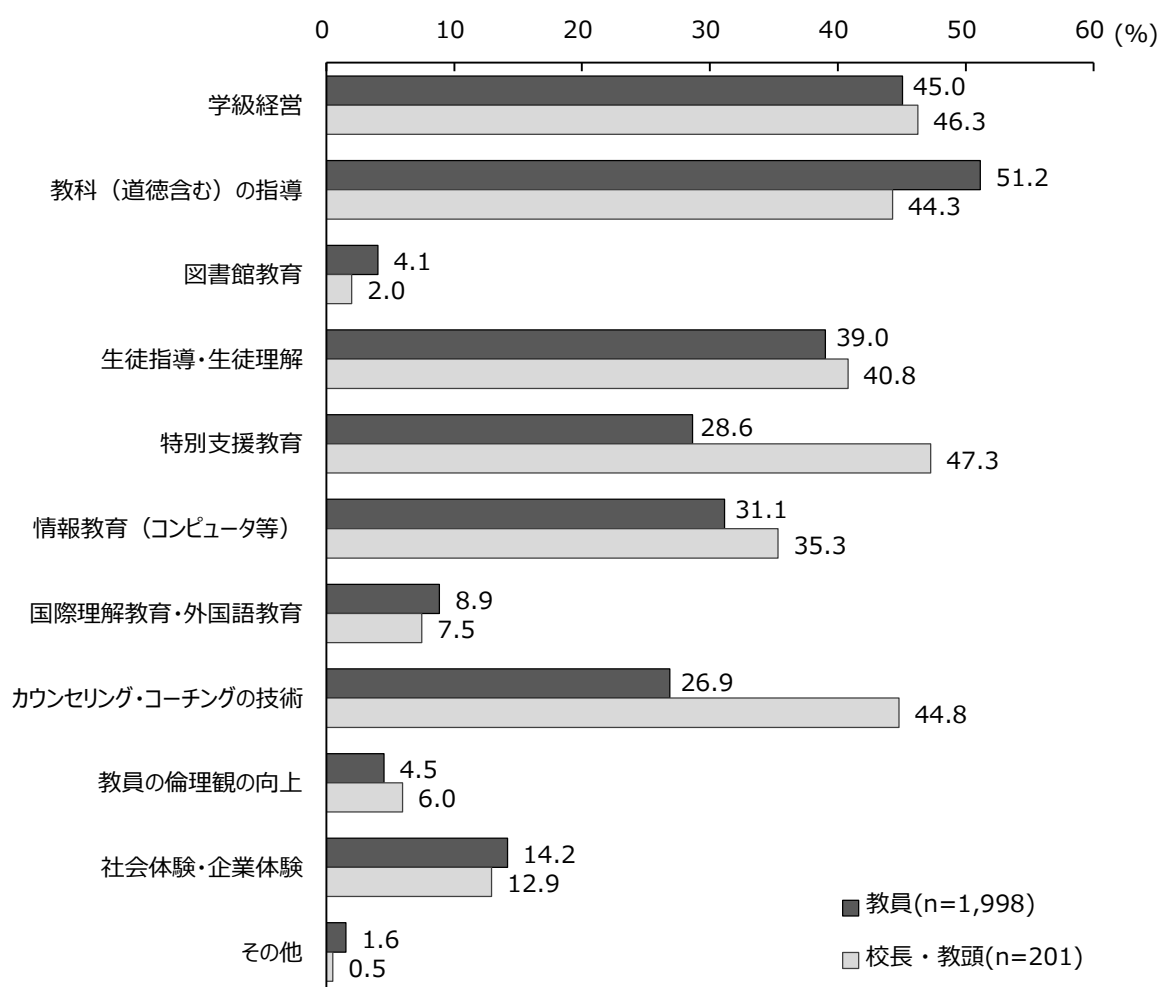
③ 今後充実を希望する研修内容

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
				問 17	問 16

問. 今後、どのような研修の充実を希望しますか。(3つまで)

教員では「教科（道徳含む）の指導」が最も多く 51.2%となっている。次いで、「学級経営」（45.0%）、「生徒指導・生徒理解」（39.0%）が多くなっている。

校長・教頭では「特別支援教育」（47.3%）、「学級経営」（46.3%）、「カウンセリング・コーチングの技術」（44.8%）、「教科（道徳含む）の指導」（44.3%）が多くなっている。



教員の年齢別にみると、総じて「教科（道徳含む）の指導」の割合が高くなっている。また、39歳以下で「学級経営」「生徒指導・生徒理解」、40歳以上で「情報教育（コンピュータ等）」の割合が他の年代と比べて高くなっている。

校長・教頭は、小学校で「特別支援教育」、中学校で「カウンセリング・コーチングの技術」の割合が最も高くなっている。

		学級経営	教科（道徳含む）の指導	図書館教育	生徒指導・生徒理解	特別支援教育	情報教育等（コンピュータ等）	外国語理解教育・国際教育	技術・芸術・デザイン	教員の倫理観の向上	社会体験・企業	その他	無回答
		%											
教員	29歳以下	66.2	56.7	3.6	51.1	22.9	16.8	6.9	15.5	2.7	8.4	1.5	0.0
	30～39歳	45.0	50.0	5.1	42.4	21.5	28.6	7.3	24.7	5.6	17.7	1.5	0.0
	40～49歳	35.3	49.7	1.6	32.3	35.5	38.0	9.6	31.0	5.9	16.9	2.1	0.0
	50～59歳	26.5	46.3	6.2	26.1	40.9	43.6	13.6	38.5	3.1	14.4	1.2	0.0
	60歳以上	33.3	49.4	4.6	27.0	35.1	47.1	11.5	41.4	4.6	12.1	1.1	0.0
	小学校	45.3	51.0	4.7	36.3	33.9	33.5	9.0	28.1	3.7	12.7	1.4	0.0
校長・教頭	中学校	44.6	51.3	3.0	44.0	19.1	26.9	8.6	24.6	6.0	16.7	1.8	0.0
	小学校	46.6	45.2	2.7	37.0	53.4	39.0	7.5	41.8	6.8	11.0	0.7	0.0
校長・教頭	中学校	45.5	41.8	0.0	50.9	30.9	25.5	7.3	52.7	3.6	18.2	0.0	0.0

7 給食

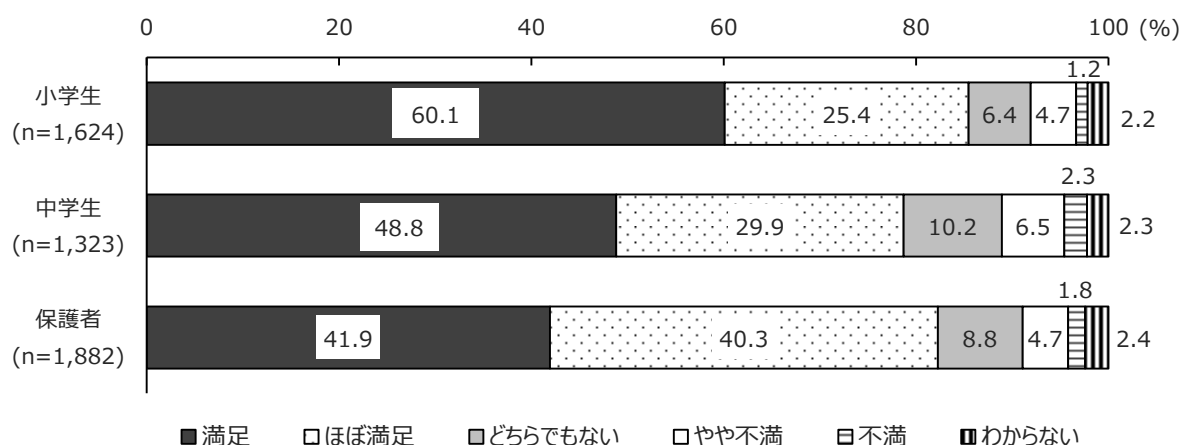
① 給食の満足度

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 11	問 12	問 16		

問. 学校の給食に満足していますか。(1つ)

「満足」「ほぼ満足」の合計は、小学生が最も多く 85.5%となっている。次いで、保護者(82.2%)、中学生(78.7%)となっている。

前回と比べて、小学生で「満足」の割合が増加している。



	小学生		中学生		小学生保護者		中学生保護者	
	今回 (n=1,624)	前回 (n=1,638)	今回 (n=1,323)	前回 (n=1,424)	今回 (n=1,138)	前回 (n=1,570)	今回 (n=744)	前回 (n=1,358)
満足	60.1	55.4	48.8	47.1	44.1	45.9	38.6	37.0
ほぼ満足	25.4	25.4	29.9	27.0	39.6	38.9	41.4	41.2
どちらでもない	6.4	8.1	10.2	14.2	7.6	5.4	10.6	8.5
やや不満	4.7	5.6	6.5	5.8	4.0	4.3	5.8	5.6
不満	1.2	3.1	2.3	2.9	2.2	1.5	1.1	2.3
わからない	2.2	1.8	2.3	2.2	2.4	1.8	2.6	3.5
無回答	0.0	0.6	0.0	0.8	0.0	2.2	0.0	1.9

② 給食に満足している理由

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 12	問 13	問 17		

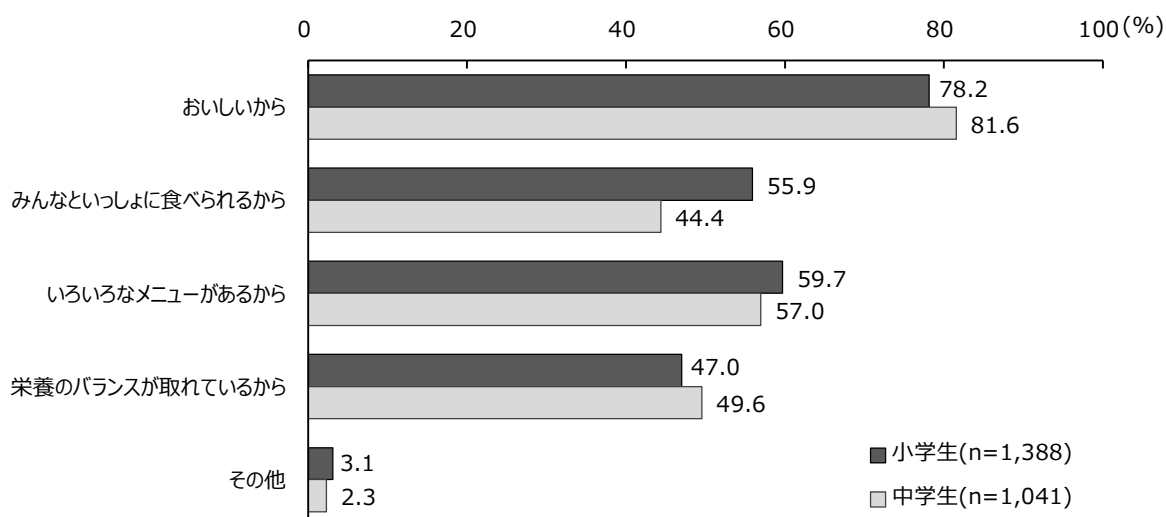
※給食の満足度で「満足」「やや満足」の回答者

問. 学校の給食のどのようなことに満足していますか。(あてはまるものすべて)

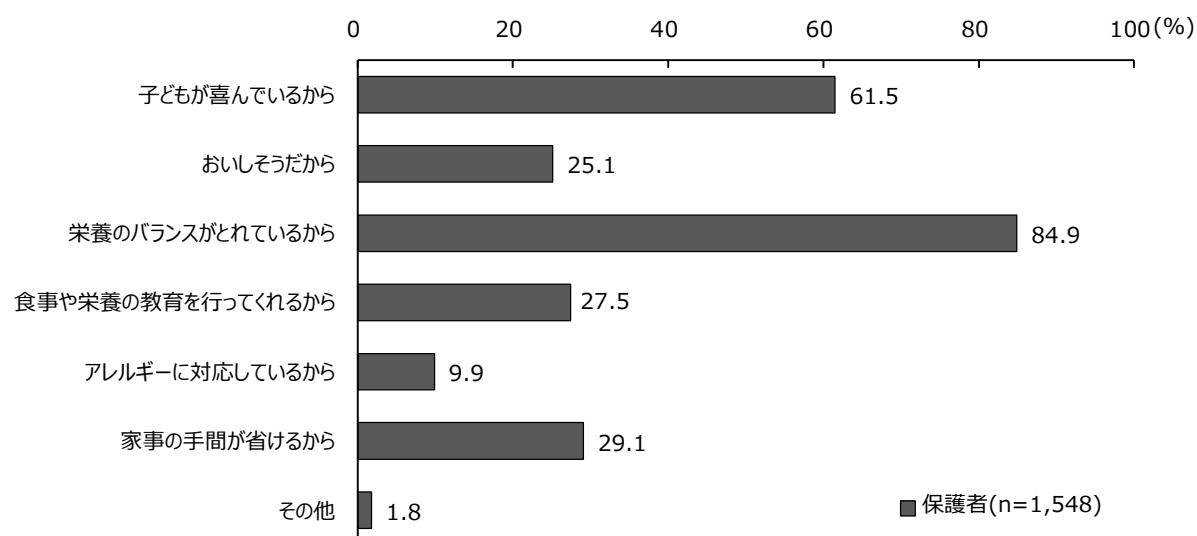
小・中学生ともに「おいしいから」(小学生 78.2%、中学生 81.6%) が最も多く、次いで「いろいろなメニューがあるから」(小学生 59.7%、中学生 57.0%) が多くなっている。小学生では「みんなといっしょに食べられるから」(55.9%) も多くなっている。

保護者では「栄養のバランスがとれているから」が最も多く 84.9%となっている。次いで、「子どもが喜んでいるから」(61.5%) が多くなっている。

【小学生、中学生】



【保護者】



③ 給食に満足していない理由

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 13	問 14	問 18		

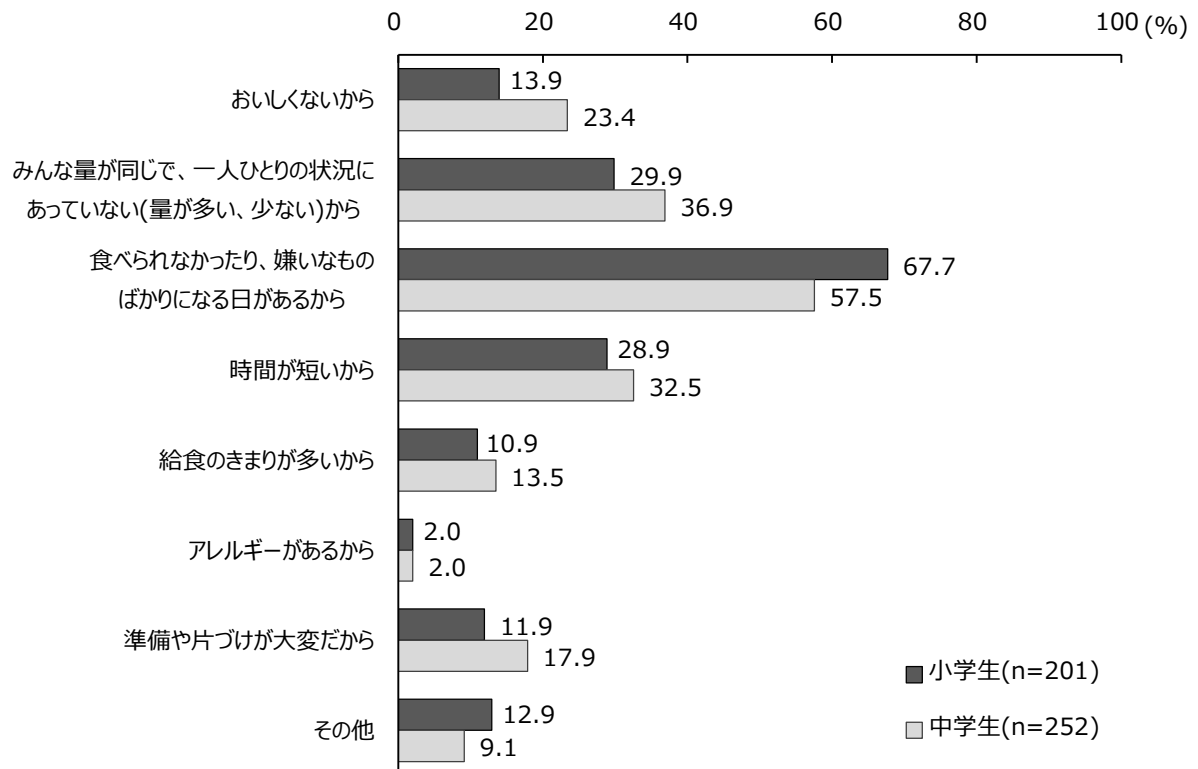
※給食の満足度で「どちらでもない」「やや不満」「不満」の回答者

問. 学校の給食のどのようなことが不満ですか。(あてはまるものすべて)

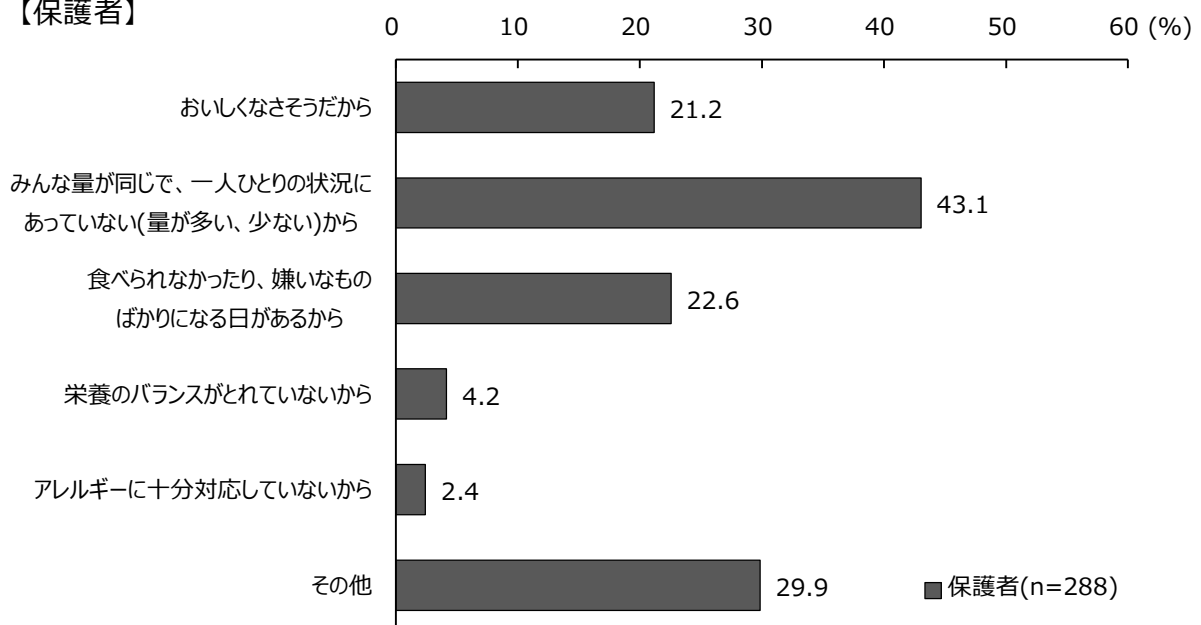
小・中学生ともに「食べられなかったり、嫌いなものばかりになる日があるから」(小学生 67.7%、中学生 57.5%) が最も多くなっている。次いで、「みんな量が同じで、一人ひとりの状況にあっていない(量が多い、少ない)から」(小学生 29.9%、中学生 36.9%)、「時間が短いから」(小学生 28.9%、中学生 32.5%) が多くなっている。

保護者では「みんな量が同じで、一人ひとりの状況にあっていない(量が多い、少ない)から」が最も多く 43.1%となっている。「その他」(29.9%) の回答では、「全体的に量が少ない」「時間が短い」「添加物や農薬など食品の安全性」などの記述がみられる。

【小学生、中学生】



【保護者】



第4章 家庭や地域と連携した教育について

1 地域ぐるみの教育

① 家庭、学校、地域それぞれの役割

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 10			問 24	問 18	問 18

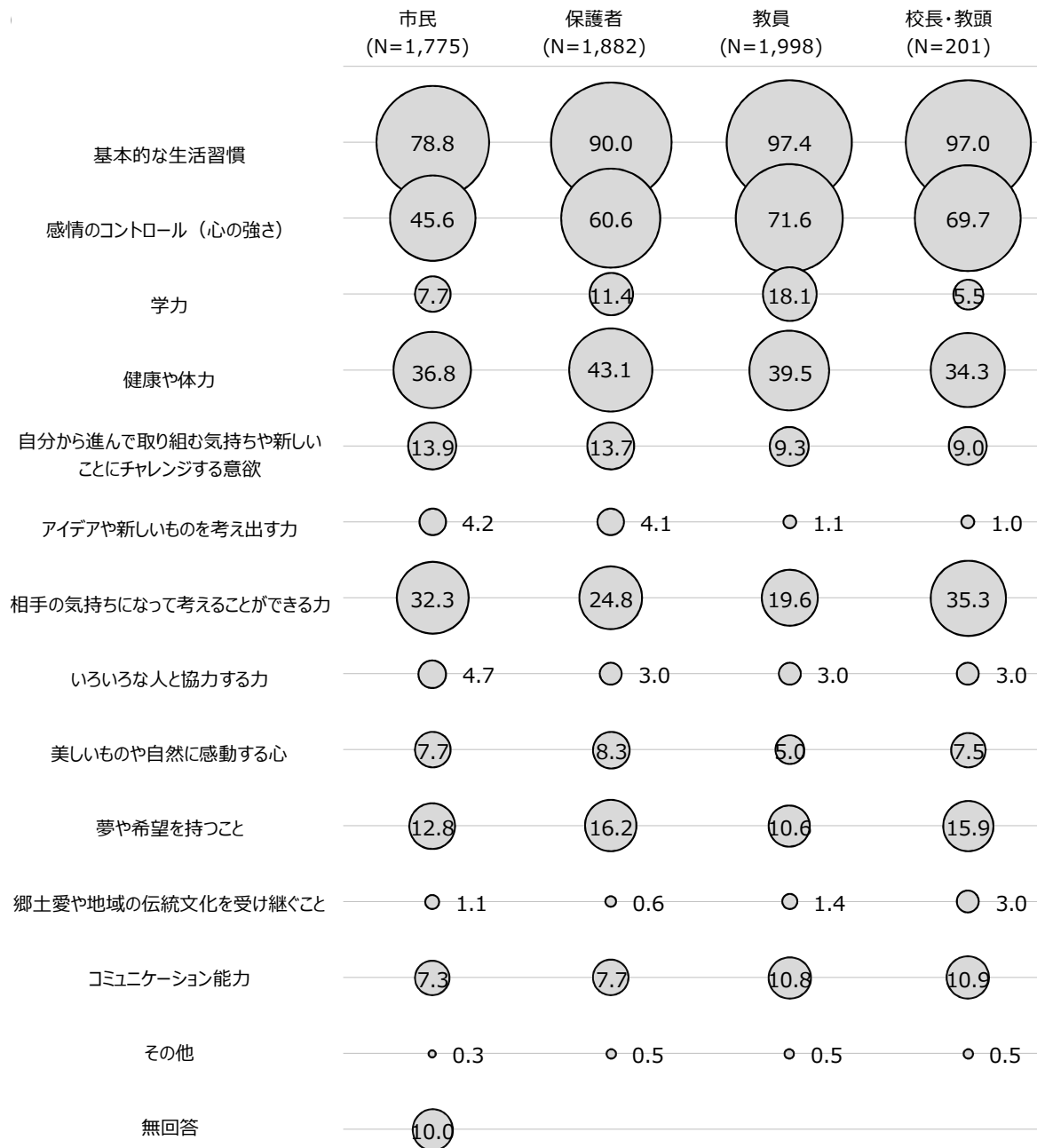
問. 家庭、学校、地域は、それぞれ、子どものどのようなところを育てていくべきだと思いますか。(特に重要なことをそれぞれ3つまで)

家庭に求める役割について、市民、保護者、教員、校長・教頭ともに、「基本的な生活習慣」(市民 78.8%、保護者 90.0%、教員 97.4%、校長・教頭 97.0%) が最も多くなっている。次いで、「感情のコントロール(心の強さ)」(市民 45.6%、保護者 60.6%、教員 71.6%、校長・教頭 69.7%) が多く、「健康や体力」(市民 36.8%、保護者 43.1%、教員 39.5%、校長・教頭 34.3%) と「相手の気持ちになって考えることができる力」(市民 32.3%、保護者 24.8%、教員 19.6%、校長・教頭 35.3%) も比較的多い。

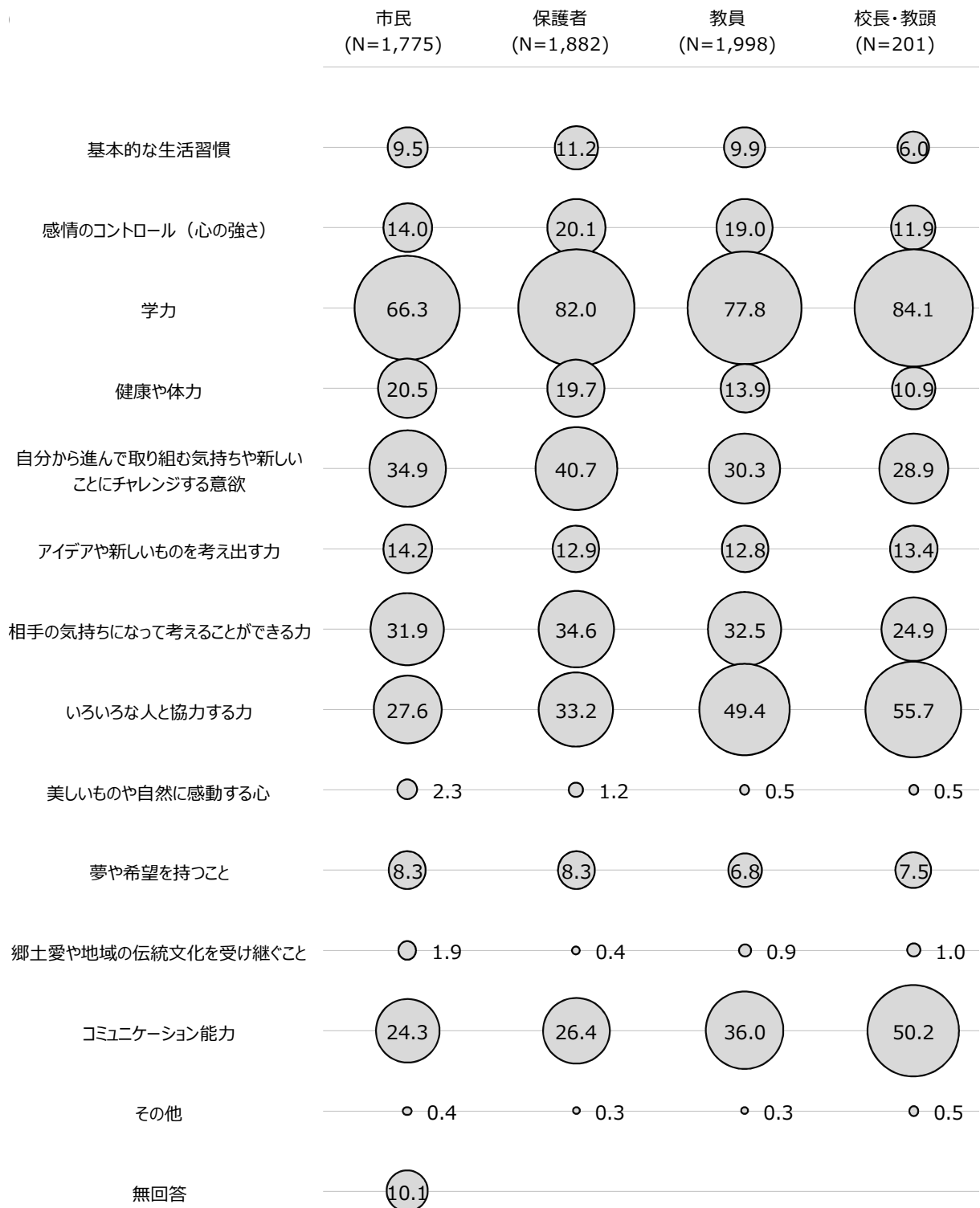
学校に求める役割について、市民、保護者、教員、校長・教頭ともに、「学力」(市民 66.3%、保護者 82.0%、教員 77.8%、校長・教頭 84.1%) が最も多くなっている。次いで、市民、保護者では、「自分から進んで取り組む気持ちや新しいことにチャレンジする意欲」(市民 34.9%、保護者 40.7%)、教員、校長・教頭では、「いろいろな人と協力する力」(教員 49.4%、校長・教頭 55.7%) が多くなっている。この他、校長・教頭では、「コミュニケーション能力」(50.2%) も多くなっている。

地域に求める役割について、市民、保護者、教員、校長・教頭ともに、「郷土愛や地域の伝統文化を受け継ぐこと」(市民 54.5%、保護者 59.8%、教員 77.4%、校長・教頭 90.0%) が最も多くなっている。次いで「いろいろな人と協力する力」(市民 51.9%、保護者 56.2%、教員 42.9%、校長・教頭 57.7%) が多く、「美しいものや自然に感動する心」(市民 30.1%、保護者 33.4%、教員 37.8%、校長・教頭 23.4%) と「コミュニケーション能力」(市民 29.6%、保護者 28.5%、教員 25.5%、校長・教頭 32.3%) も比較的多い。

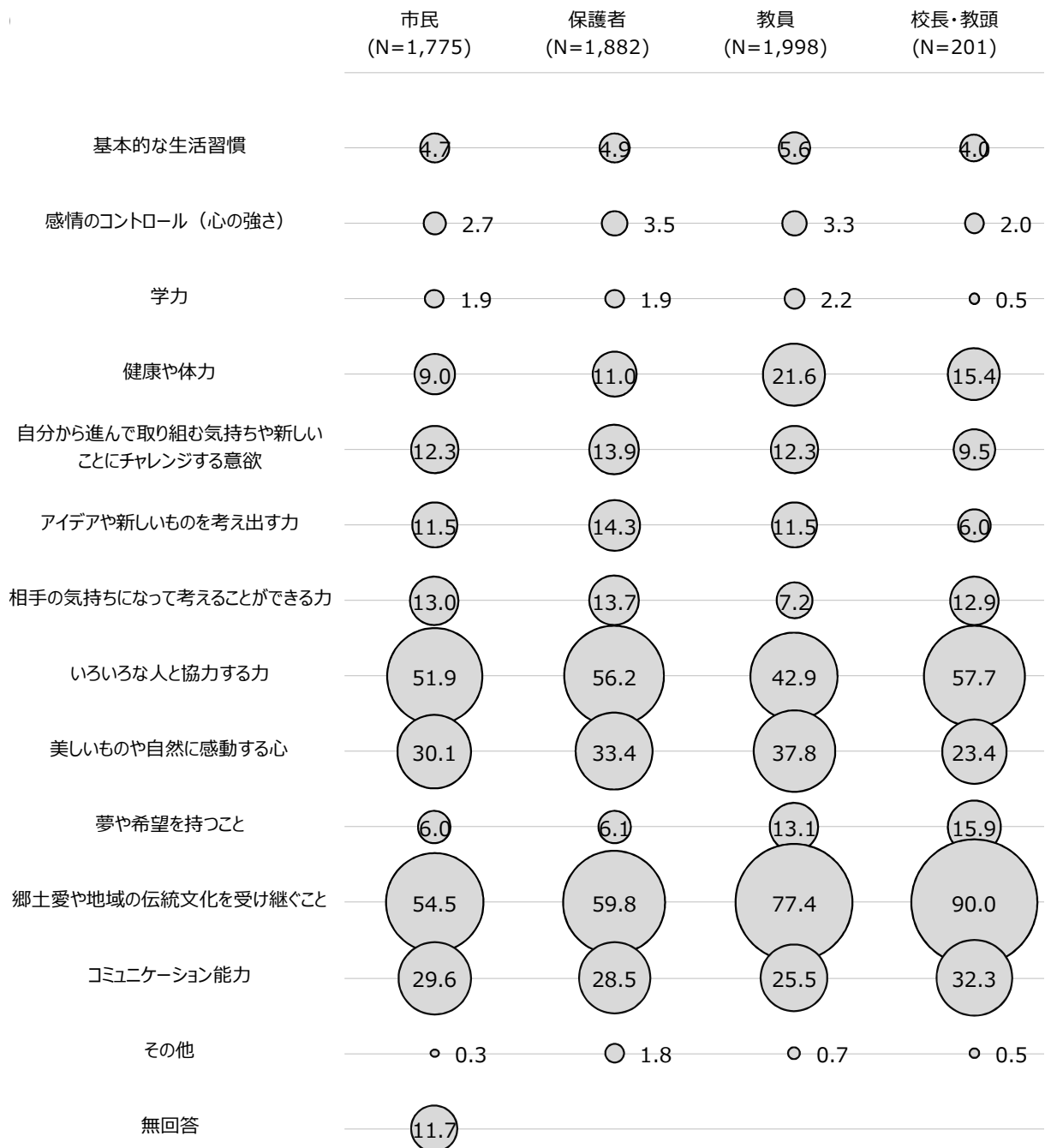
【家庭の役割】



【学校の役割】



【地域の役割】



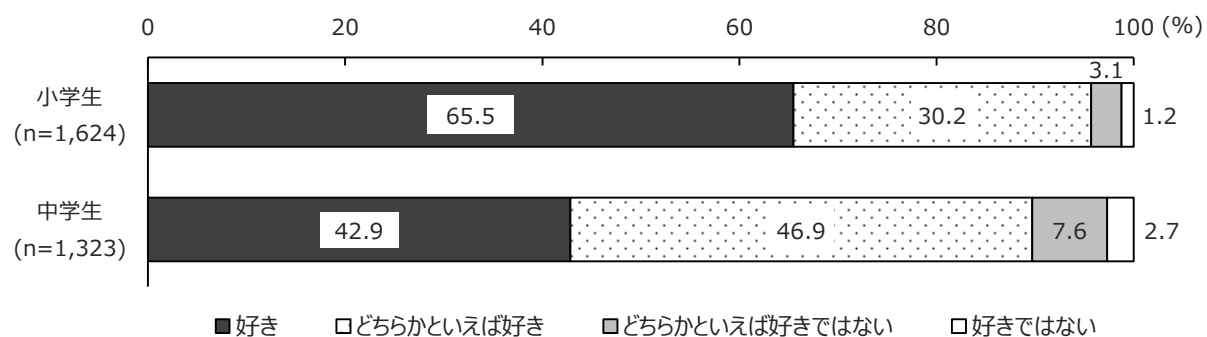
② 住んでいる地域への愛着

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 31	問 32			

問. あなたは、自分の住んでいる地域が好きですか。(1つ)

「好き」は、小学生が 65.5%、中学生が 42.9%となっている。

一方、「好きではない」「どちらかといえば好きではない」の合計は、小学生で 4.3%、中学生で 10.3%となっている。



2 こどもの生活

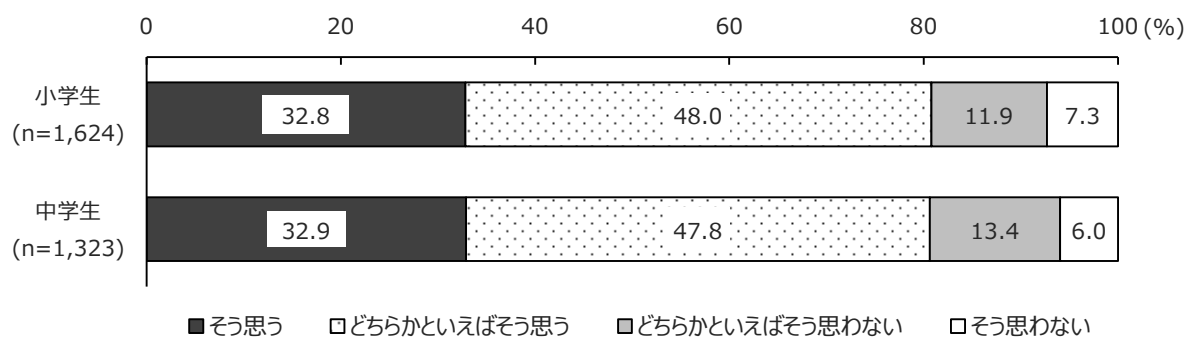
① 自分のよいところ

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 14	問 15			

問. 自分には良いところがあると思いますか。(1つ)

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は、小学生が 80.8%、中学生が 80.7% となっている。

一方、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計は、小学生で 19.2%、中学生で 19.4%となっている。



② 学習塾・習い事の状況

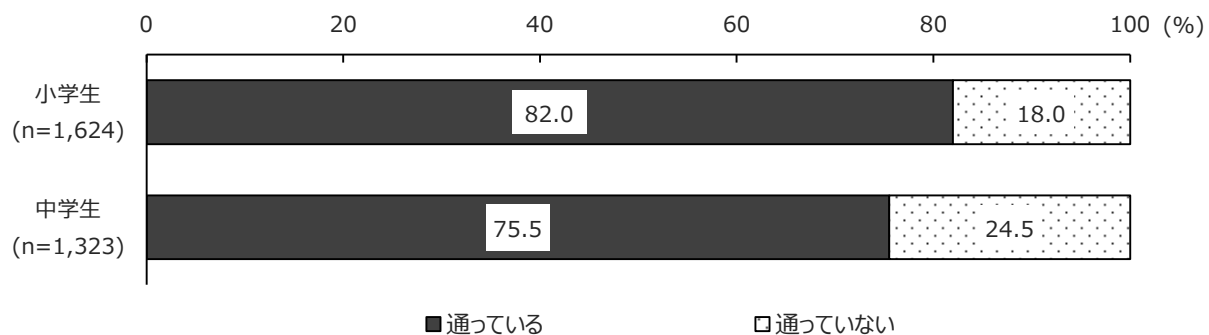
市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 16・17	問 17・18			

問. 学習塾や習い事（ピアノ、英会話、書道、サッカー、水泳など）に通っていますか。
（1つ）

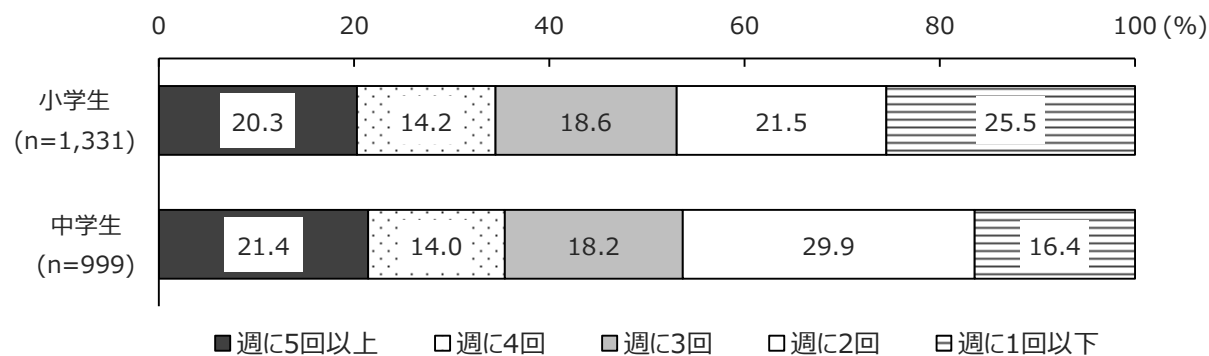
問. 週に何回通っていますか。（1つ）

「通っている」は、小学生が 82.0%、中学生が 75.5%となっている。

「通っている」と回答した人のうち学習塾や習い事の日数は、「週に 5 回以上」（小学生 20.3%、中学生 21.4%）から「週に 1 回以下」（小学生 25.5%、中学生 16.4%）まで分散している。



【「通っている」と回答した人のうち学習塾や習い事の日数】



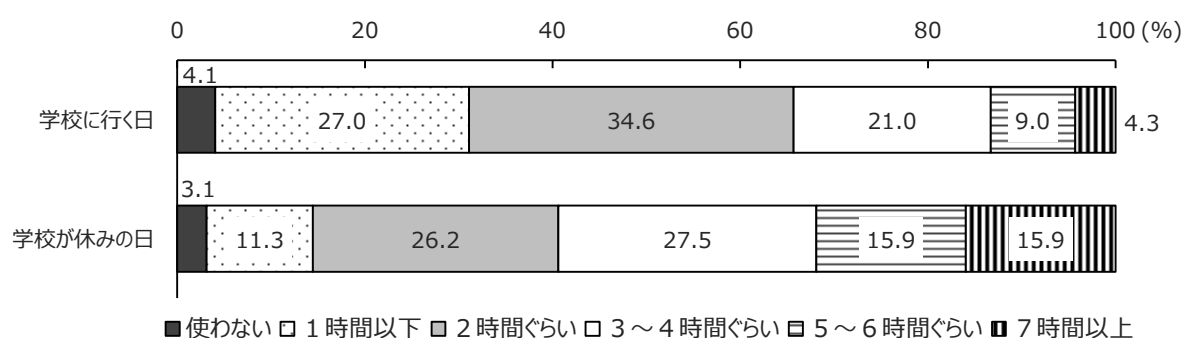
③ 電子メディアの閲覧頻度

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 18	問 19			

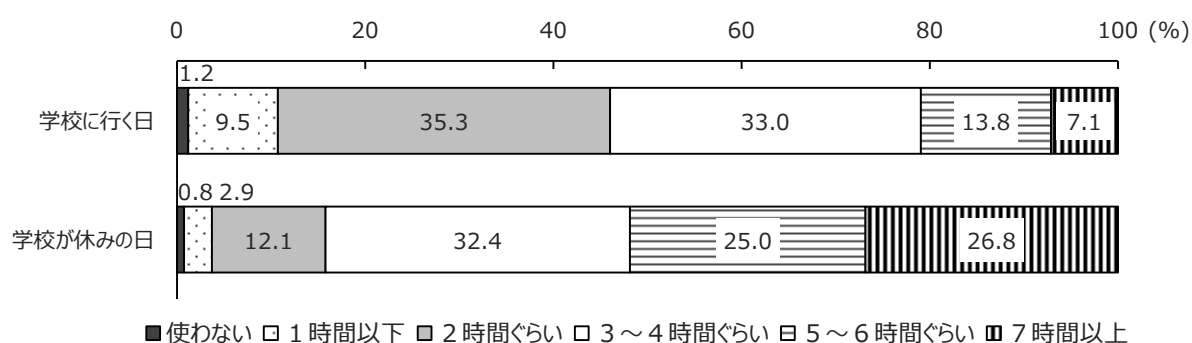
問. あなたは、学校以外で、1日にどのくらいスマートフォンやタブレット、パソコンを見ていますか。(1つ)

小・中学生ともに、学校に行く日では「2時間ぐらい」(小学生 34.6%、中学生 35.3%)、学校が休みの日では「3～4時間ぐらい」(小学生 27.5%、中学生 32.4%) が最も多くなっている。中学生では、学校が休みの日に「5～6時間ぐらい」「7時間以上」の合計が 51.8%となっている。

【小学生】(n=1,624)



【中学生】(n=1,323)



前回と比べると、小・中学生ともに「3時間ぐらい・3時間以上」が増加している。

	小学生				中学生			
	学校に行く日		学校が休みの日		学校に行く日		学校が休みの日	
	今回 (n=1,624)	前回 (n=1,638)	今回 (n=1,624)	前回 (n=1,638)	今回 (n=1,323)	前回 (n=1,424)	今回 (n=1,323)	前回 (n=1,424)
%								
使わない	4.1	15.6	3.1	6.9	1.2	5.1	0.8	2.7
1時間以下	27.0	34.3	11.3	20.3	9.5	17.1	2.9	4.9
2時間ぐらい	34.6	25.4	26.2	23.0	35.3	30.8	12.1	12.6
3時間ぐらい ・3時間以上	34.3	20.0	59.4	45.1	54.0	42.2	84.2	74.5
無回答	0.0	4.8	0.0	4.7	0.0	4.9	0.0	5.3

3 家庭の状況

① 学校や勉強についての会話

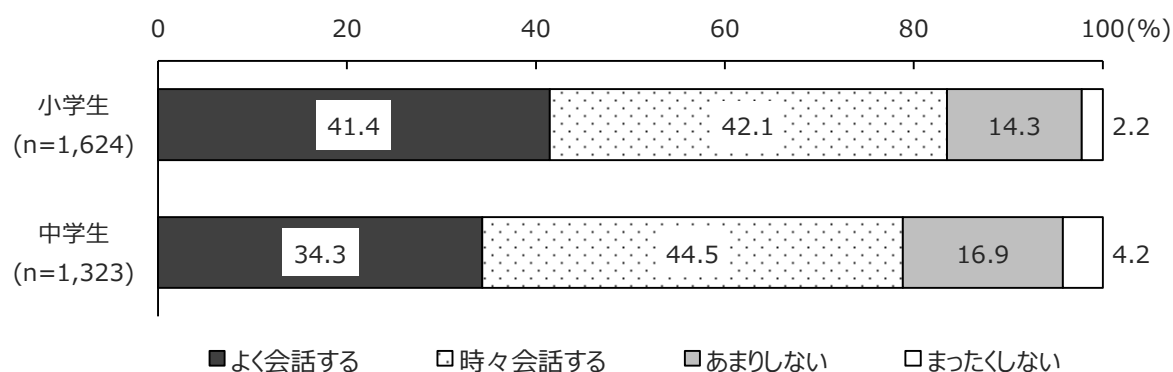
市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 15	問 16	問 19		

【小学生、中学生】

問. あなたは家族と、学校のことや勉強のことについて、どのくらい会話をしますか。(1つ)

小・中学生ともに「よく会話する」(小学生 41.4%、中学生 34.3%)、「時々会話する」(小学生 42.1%、中学生 44.5%)が多くなっている。

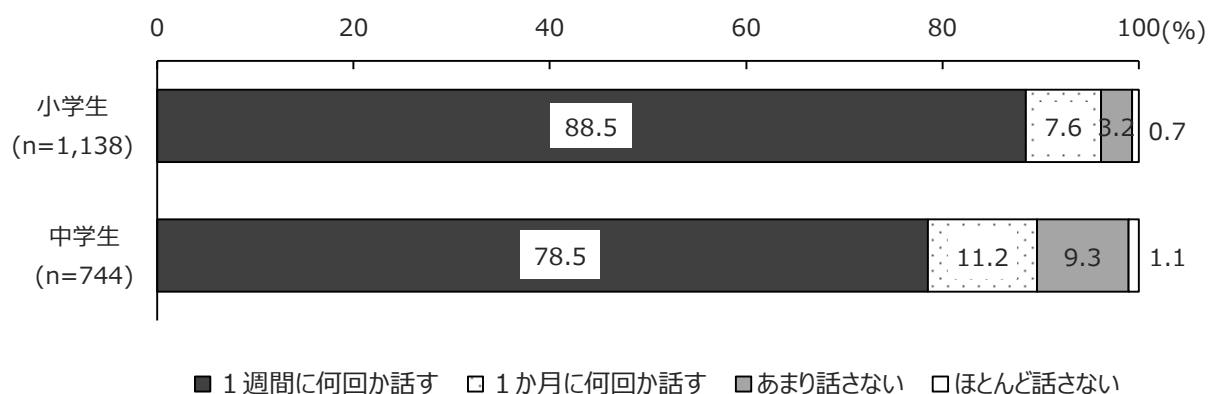
一方、「あまりしない」「まったくしない」の合計は、小学生で 16.5%、中学生で 21.1%となっている。



【保護者】

問. あなたは、お子さんと、学校での生活や学習の状況について話しますか。(1つ)

保護者では「1週間に何回か話す」が最も多く、小学生で 88.5%、中学生で 78.5%となっている。一方、「あまり話さない」は、小学生で 3.2%、中学生で 9.3%となっている。

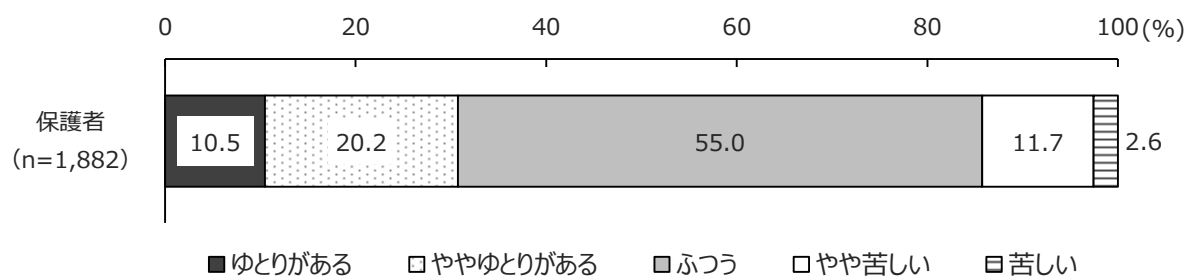


② 現在の暮らしむき

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
			問 20		

問. 現在の暮らしむきについて、どのように感じていますか。(1つ)

「ゆとりがある」「ややゆとりがある」の合計は 30.7%、「ふつう」は 55.0%、「苦しい」「やや苦しい」の合計は 14.3%となっている。



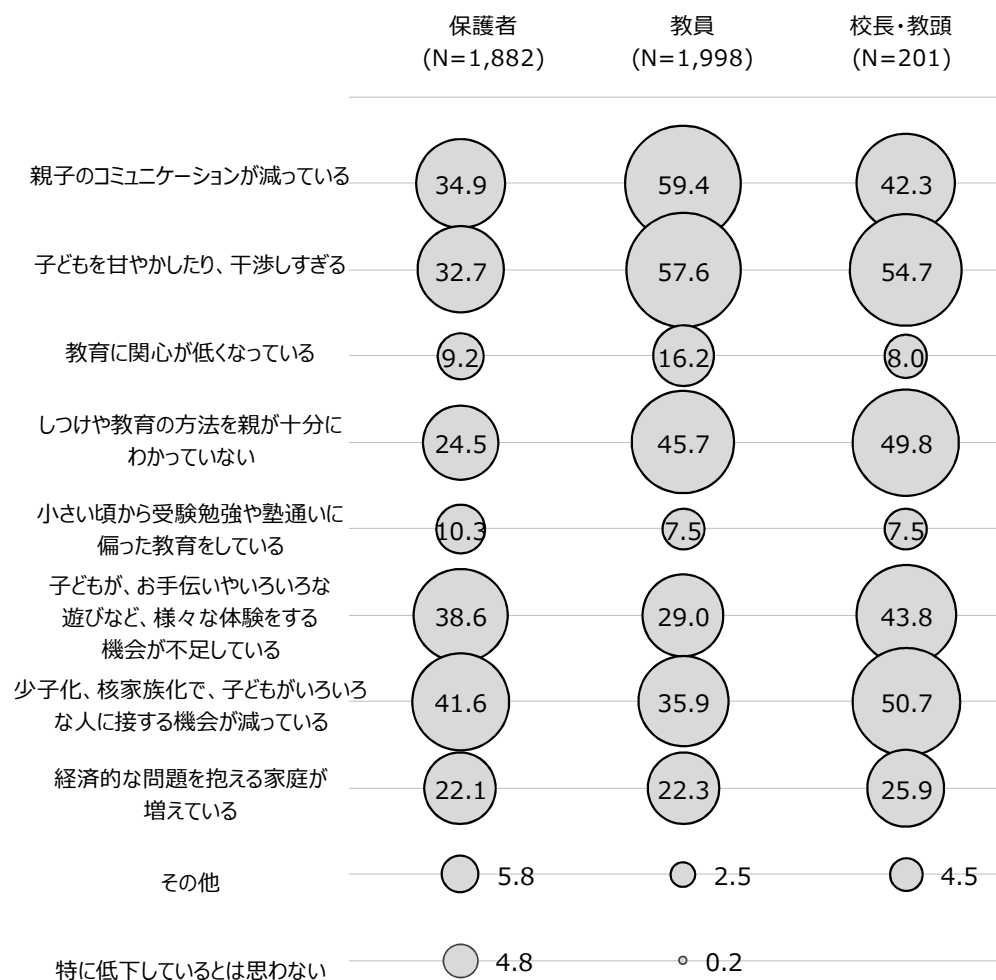
③ 家庭の教育力が低下している原因

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
			問 21	問 19	問 19

問. 家庭の教育力が一般的に低下していると言われていますが、何が原因だと思いますか。
(3つまで)

「親子のコミュニケーションが減っている」「子どもを甘やかしたり、干渉しすぎる」「しつけや教育の方法を親が十分にわかっていない」「子どもが、お手伝いやいろいろな遊びなど、様々な体験をする機会が不足している」「少子化、核家族化で、子どもがいろいろな人に接する機会が減っている」など多様な回答がみられる。

特に、教員で「親子のコミュニケーションが減っている」(59.4%)、「子どもを甘やかしたり、干渉しすぎる」(57.6%)が多くなっている。



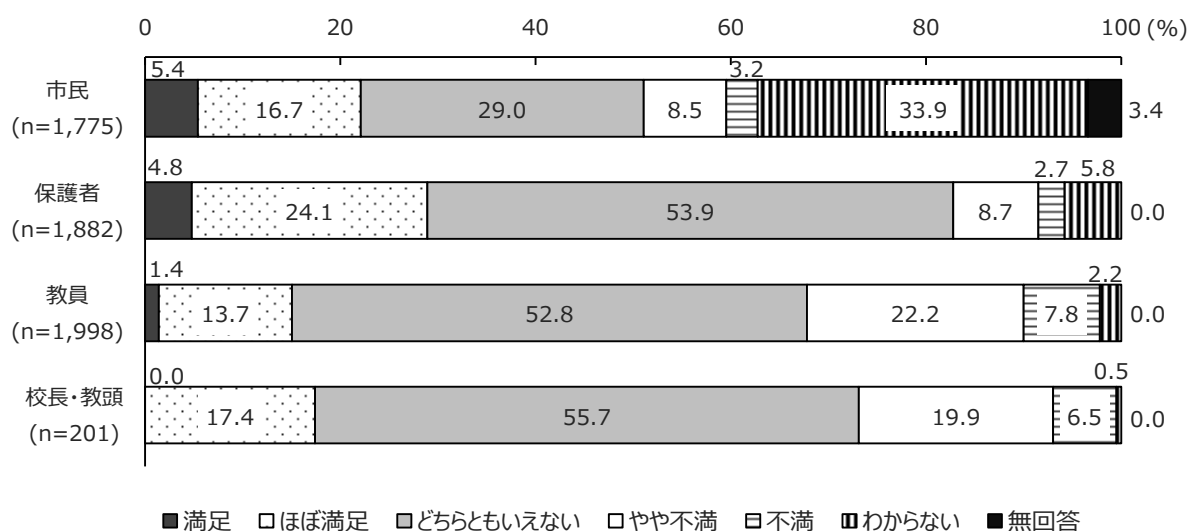
④ 家庭教育への評価

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 9			問 23	問 21	問 21

問. 家庭の教育について、どのように評価しますか。(1つ)

「どちらともいえない」が保護者（53.9%）、教員（52.8%）、校長・教頭（55.7%）で最も多い。市民は「わからない」が最も多く 33.9%となっている。

「やや不満」「不満」の合計は、教員（30.0%）と校長・教頭（26.4%）が、市民（11.7%）と保護者（11.4%）と比べて多くなっている。



4 地域の教育力

① 近所の子どもとの会話

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 8					

問. あなたは、どのくらい近所の子どもと会話をしますか。(1つ)

「ほとんど話さない」が最も多く 61.0%となっている。「ほぼ毎日話す」は 3.3%、「1週間に数回程度、話す」は 9.9%、「1か月に数回程度、話す」は 12.6%となっている。

年齢別にみると、20～29歳、50歳代で「ほとんど話さない」の割合が特に高くなっている。

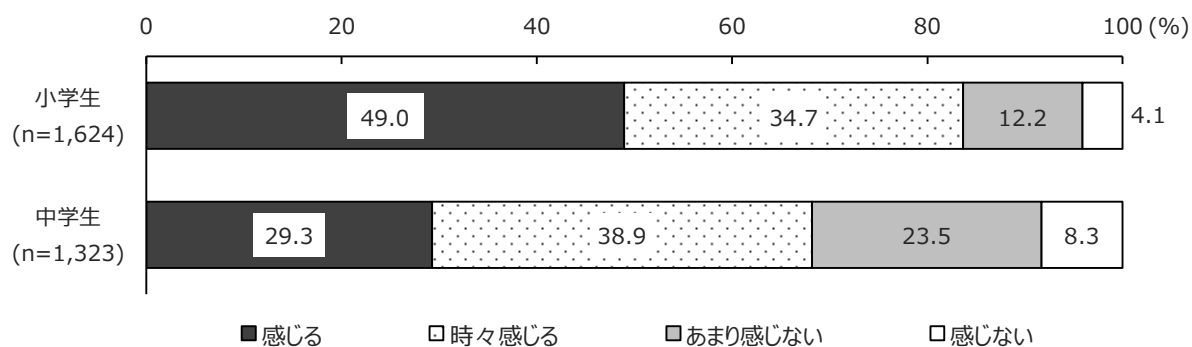
		ほぼ毎日話す	1週間に数回程度、話す	1か月に数回程度、話す	1年に数回程度、話す	ほとんど話さない	無回答
%							
市民	20歳未満	1.6	6.6	13.1	3.3	75.4	0.0
	20～29歳	1.6	2.3	4.7	3.1	87.6	0.8
	30～39歳	8.3	17.1	15.3	8.3	50.9	0.0
	40～49歳	3.8	16.1	17.1	10.1	51.0	1.7
	50～59歳	1.9	5.9	10.3	10.3	70.9	0.6
	60～64歳	1.4	6.1	6.1	16.3	68.7	1.4
	65～69歳	3.1	8.4	11.5	11.5	63.4	2.3
	70～74歳	2.9	11.7	15.8	17.0	50.9	1.8
	75歳以上	3.2	8.1	13.5	13.5	54.5	7.1

② 地域の大人との関わり

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 21	問 22			

問. あなたの住んでいる地域では、地域の大人が勉強やスポーツを教えてくれたり、自分たちを見守ってくれたりしていると感じますか。(1つ)

「感じる」「時々感じる」の合計は、小学生が 83.7%、中学生が 68.2%となっている。



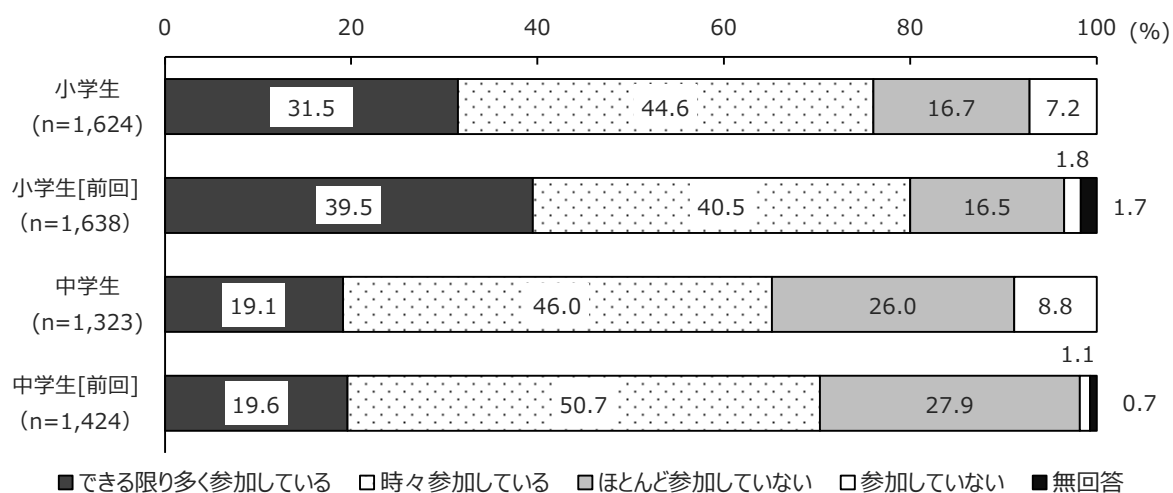
③ 地域の行事や活動への参加状況

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 19	問 20			

問. 地域の行事や活動にどの程度参加していますか。(1つ)

「できる限り多く参加している」「時々参加している」の合計は、小学生が 76.1%、中学生が 65.1%となっている。

前回と比べて、小学生で「できる限り多く参加している」の割合が減少している。また、小・中学生ともに「参加していない」の割合が増加している。



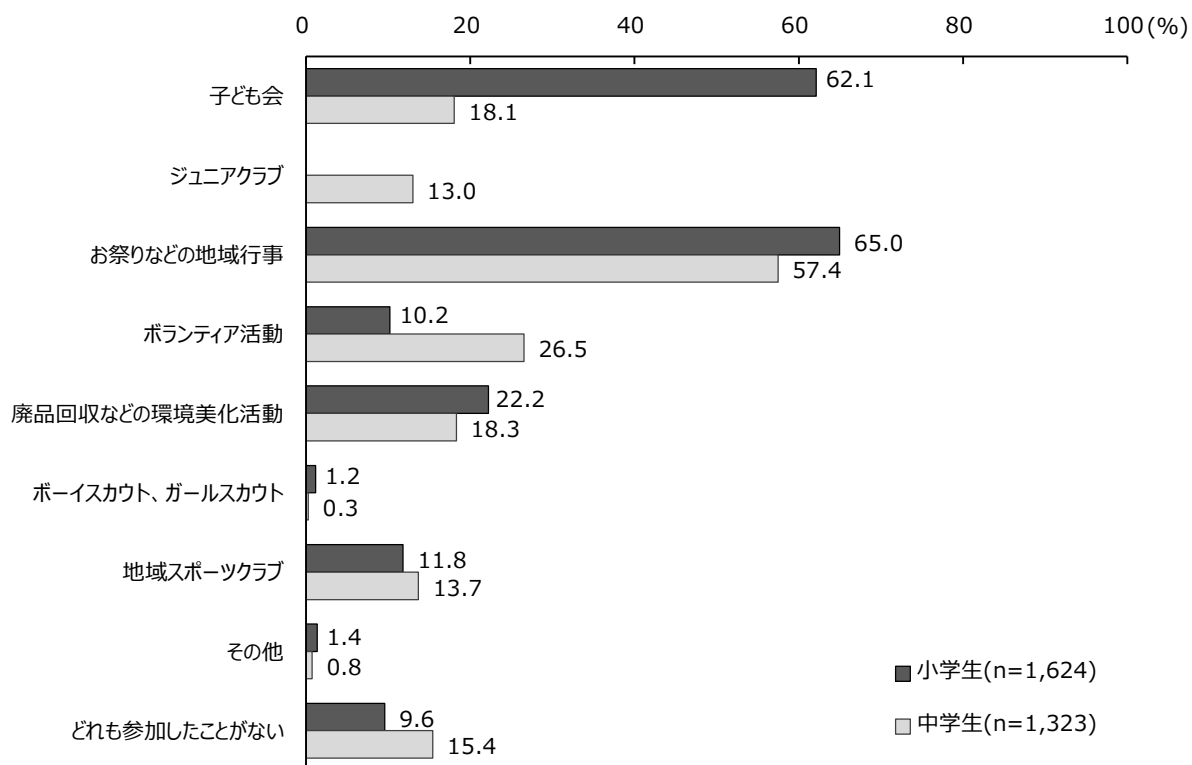
④ 参加している地域活動の内容

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 20	問 21			

問. 次のような地域の行事や活動などに参加していますか。(あてはまるものすべて)

小・中学生ともに「お祭りなどの地域行事」(小学生 65.0%、中学生 57.4%) が最も多くなっている。小学生では、「子ども会」も 62.1% と多い。

「どれも参加したことがない」が小学生で 9.6%、中学生で 15.4% となっている。

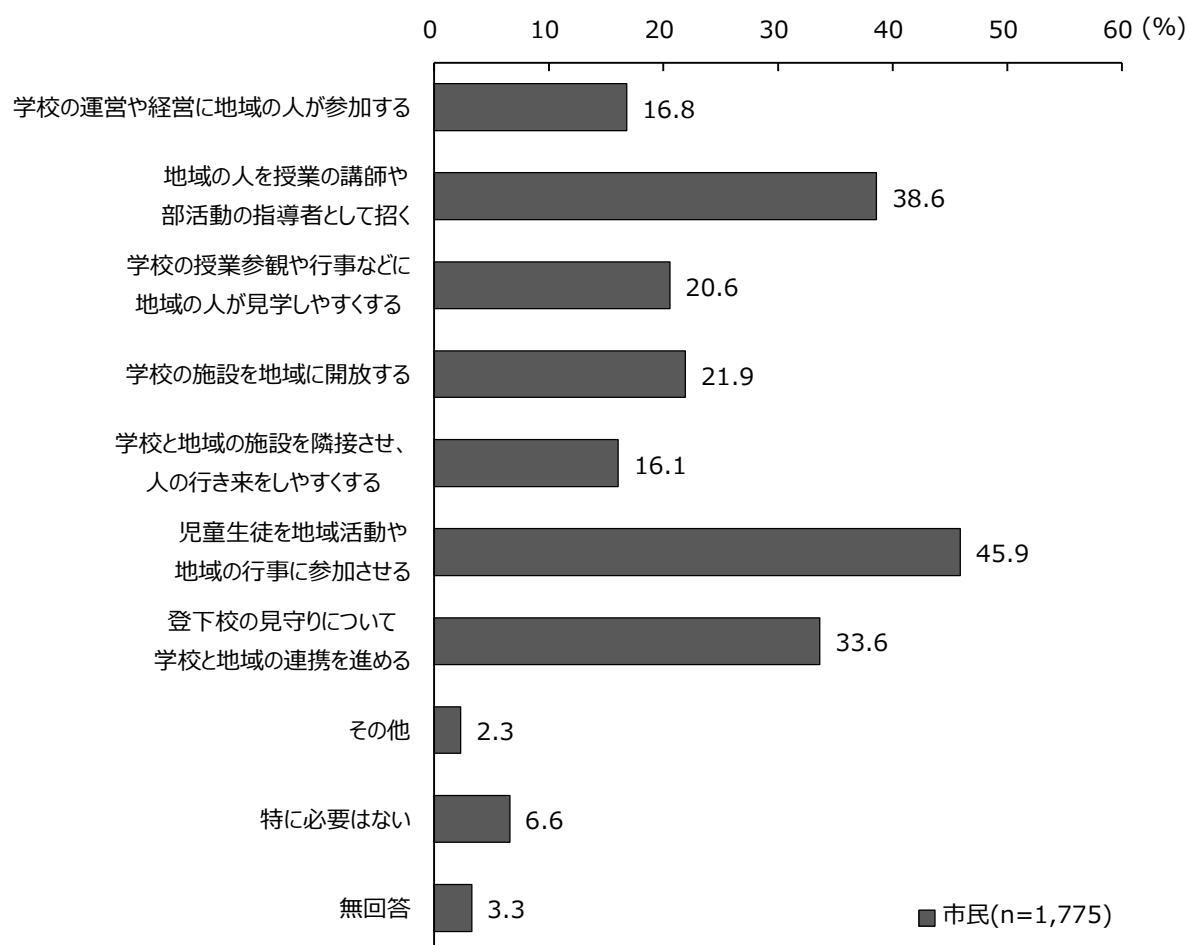


⑤ 学校と地域の連携で重要なこと

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 5					

問. 学校と地域の連携について、どのような考え方が重要だと思いますか。（3つまで）

「児童生徒を地域活動や地域の行事に参加させる」が最も多く 45.9%となっている。次いで、「地域の人を授業の講師や部活動の指導者として招く」（38.6%）、「登下校の見守りについて学校と地域の連携を進める」（33.6%）が多くなっている。



⑥ 保護者・住民の学校への協力・参加

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 6			問 25	問 22	問 22

【市民、保護者】

問. 次の行事・活動の中で、今後、あなたが学校等と協力したり、参加したりしてもよいと思われるものはありますか。(あてはまるものすべて)

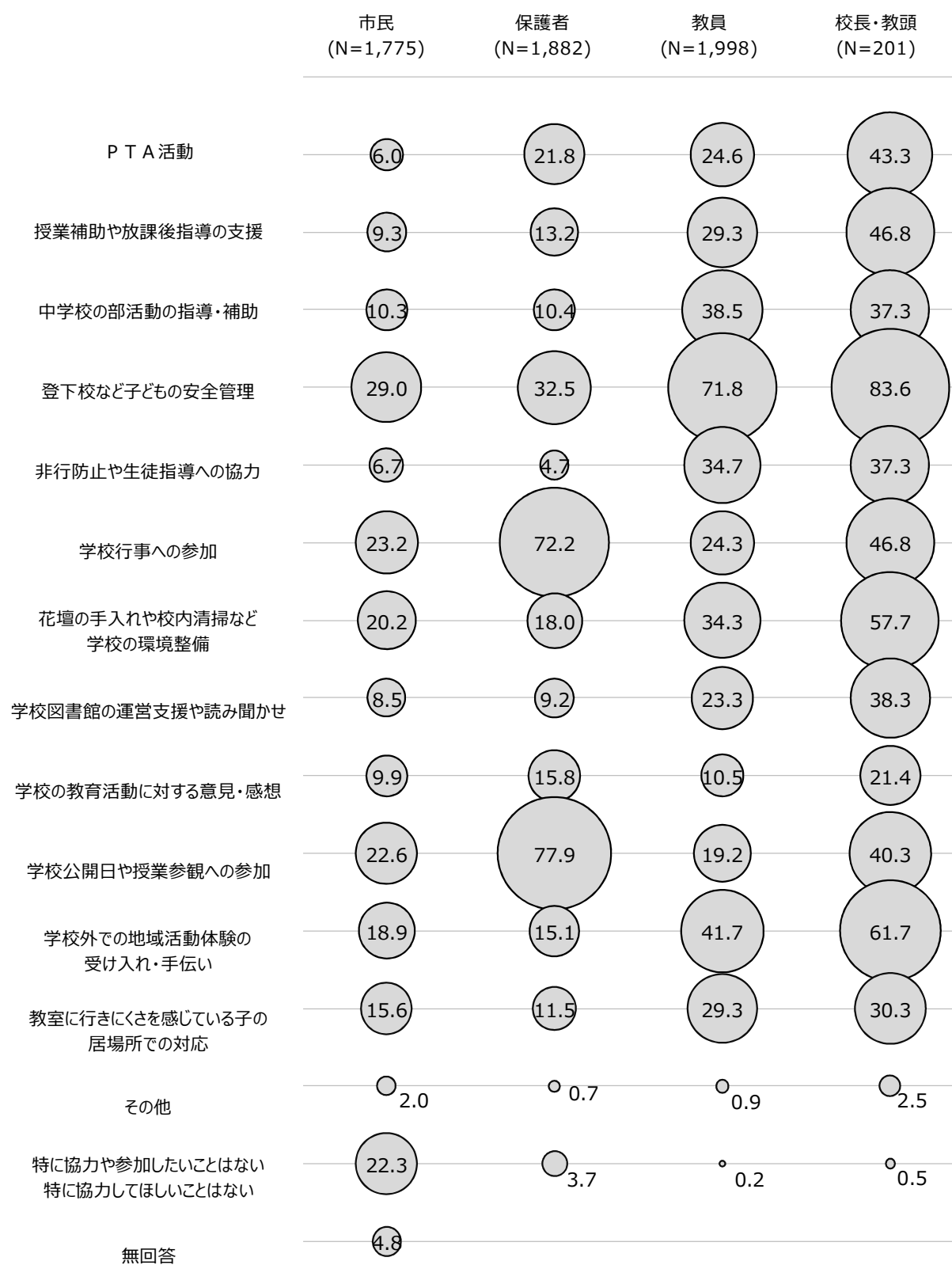
【教員、校長・教頭】

問. 学校の教育について、保護者・地域住民にどのようなことを協力してほしいですか。(あてはまるものすべて)

市民は「登下校など子どもの安全管理」(29.0%)、「学校行事への参加」(23.2%) など回答が分散する傾向がみられる。

保護者では、「学校公開日や授業参観への参加」(77.9%)、「学校行事への参加」(72.2%) が特に多くなっている。

教員、校長・教頭は、「登下校など子どもの安全管理」(教員 71.8%、校長・教頭 83.6%)、「学校外での地域活動体験の受け入れ・手伝い」(教員 41.7%、校長・教頭 61.7%)をはじめ多様な行事・活動についての回答割合が高くなっている。



市民の年齢別にみると、60 歳以上は「登下校など子どもの安全管理」の割合が最も高い。
教員は、中学校で「部活動の指導・補助」の割合が高い。

		P T A 活 動	指 導 業 の 補 助 や 放 課 後	助 部 活 動 の 指 導 ・ 補	の 登 安 下 全 校 管 理 な ど 子 ど も	導 非 へ 行 の 防 止 力 や 生 徒 指	学 校 行 事 へ の 参 加	環 境 清 掃 の 手 入 れ や 校 の 校	支 援 校 や 図 書 館 の 運 せ 営	対 学 校 の 意 見 ・ 活 動 に	参 観 校 へ の 開 加 や 授 業
		%									
市民	20歳未満	4.9	11.5	24.6	13.1	4.9	41.0	21.3	13.1	3.3	13.1
	20～29歳	7.0	10.9	19.4	20.9	6.2	17.1	10.9	7.8	6.2	18.6
	30～39歳	9.3	11.6	13.0	28.2	6.9	42.6	13.0	10.6	18.1	44.0
	40～49歳	9.1	9.1	8.7	24.8	4.2	43.0	19.2	6.6	16.1	45.8
	50～59歳	6.6	14.4	10.3	21.9	7.2	18.4	20.6	11.9	11.6	21.3
	60～64歳	2.0	4.8	6.8	35.4	4.1	8.2	21.8	8.2	6.1	5.4
	65～69歳	2.3	9.2	9.2	36.6	3.1	12.2	23.7	9.2	4.6	12.2
	70～74歳	2.3	6.4	6.4	41.5	9.4	15.8	25.1	7.6	6.4	11.7
	75歳以上	5.8	5.5	7.7	33.9	10.0	11.3	24.2	5.2	5.5	10.0
保護者	小学校	20.7	14.9	9.9	38.0	5.0	72.8	18.4	10.2	15.9	79.7
	中学校	23.4	10.8	11.2	23.9	4.3	71.2	17.3	7.8	15.6	75.3
教員	小学校	26.5	32.7	25.3	80.1	34.0	26.8	39.6	28.2	11.1	22.1
	中学校	21.1	23.1	62.4	56.7	36.0	19.7	24.8	14.3	9.4	13.9

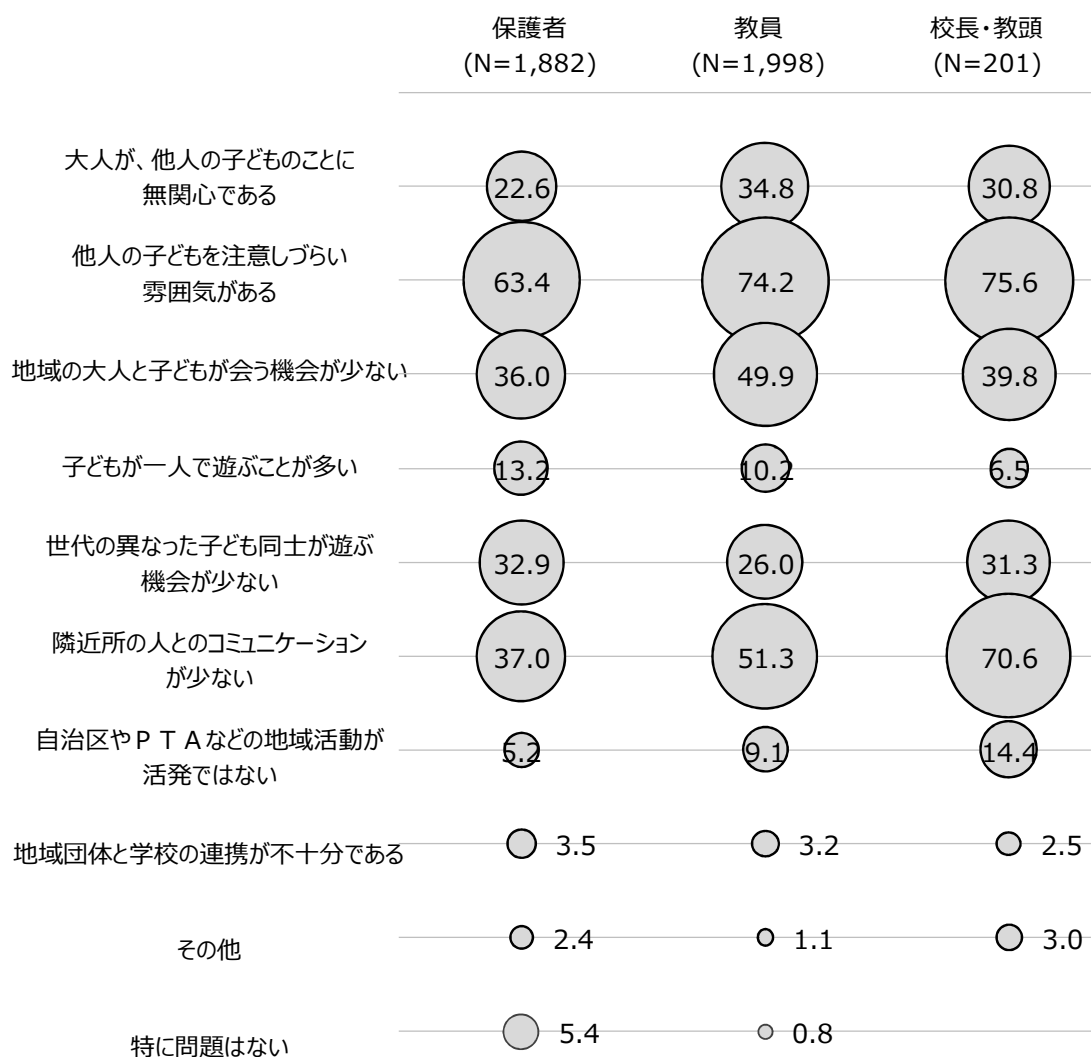
		れ 動 学 ・ 体 校 手 験 外 伝 の 受 け 地 入 域 活	居 を 教 場 感 室 所 じ に で て 行 の い き 対 子 く の さ	そ の 他	た 特 い に こ 協 と 力 は や な 参 い 加 し	無 回 答
		%				
市民	20歳未満	6.6	19.7	0.0	16.4	0.0
	20～29歳	20.2	19.4	0.0	30.2	1.6
	30～39歳	14.4	14.8	0.5	13.9	1.4
	40～49歳	15.0	16.4	2.1	14.0	2.1
	50～59歳	17.2	18.8	2.5	26.9	1.6
	60～64歳	25.2	14.3	2.7	27.9	4.8
	65～69歳	22.1	12.2	0.8	31.3	4.6
	70～74歳	22.8	10.5	2.3	21.1	11.1
	75歳以上	22.9	14.8	3.2	23.5	12.3
保護者	小学校	16.2	11.7	1.1	2.6	0.0
	中学校	13.4	11.3	0.3	5.4	0.0
教員	小学校	41.7	29.9	0.7	0.1	0.0
	中学校	41.6	28.1	1.3	0.3	0.0

⑦ 地域の教育力の課題

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
			問 22	問 20	問 20

問. 地域の教育力について、どのような課題があると思いますか。(3つまで)

保護者、教員、校長・教頭ともに、「他人の子どもを注意しづらい雰囲気がある」(保護者 63.4%、教員 74.2%、校長・教頭 75.6%) が最も多くなっている。次いで、「隣近所の人とのコミュニケーションが少ない」(保護者 37.0%、教員 51.3%、校長・教頭 70.6%)、「地域の大人と子どもが会う機会が少ない」(保護者 36.0%、教員 49.9%、校長・教頭 39.8%) が多くなっている。



第5章 生涯学習について

1 学習や活動

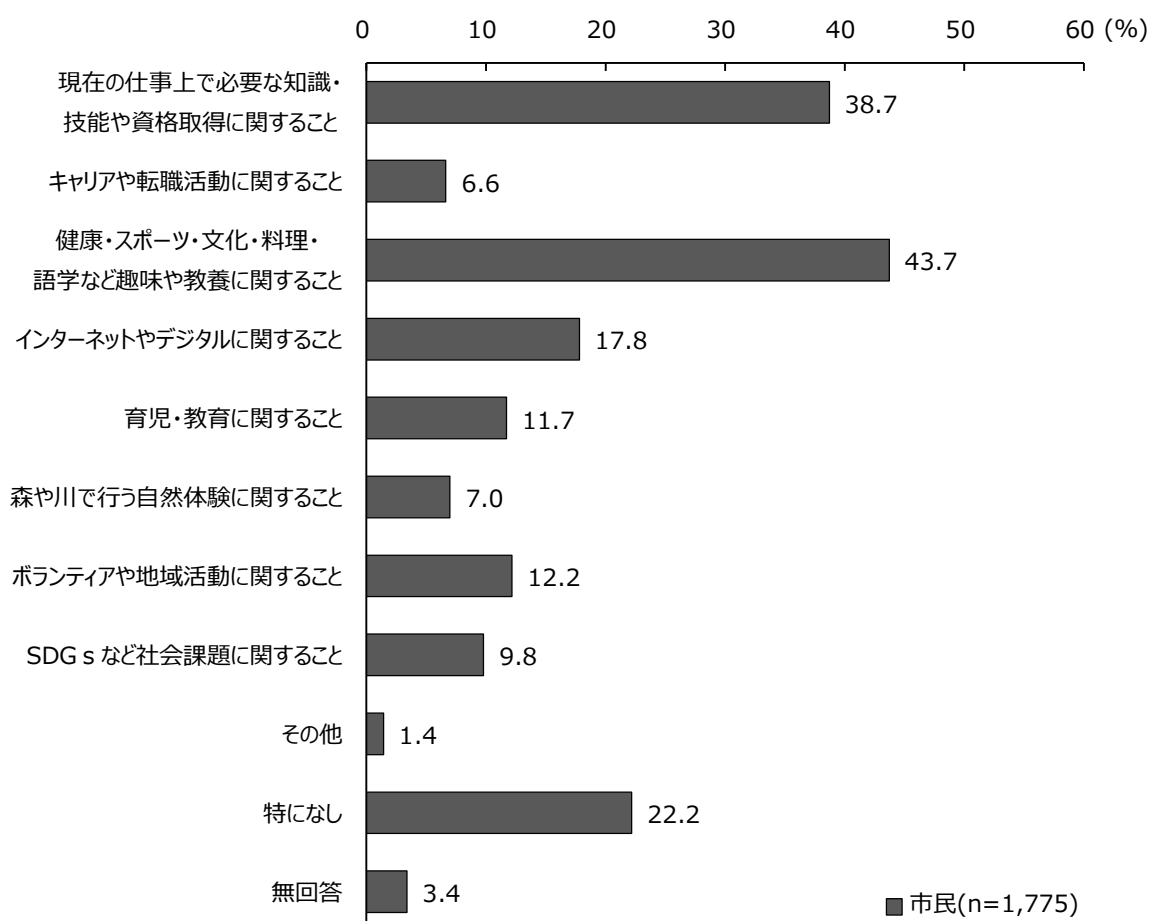
① 自主的な学習や活動の状況

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 11					

問. あなたが自主的に学んでいることは何ですか。(あてはまるものすべて)

「健康・スポーツ・文化・料理・語学など趣味や教養に関すること」(43.7%)、「現在の仕事上で必要な知識・技能や資格取得に関すること」(38.7%)が多い。

自主的に学んでいることがある(全体から「特になし」と「無回答」を除いた割合)市民は、74.4%となっている。



年齢別にみると、「現在の仕事上で必要な知識・技能や資格取得に関すること」は20～59歳、「健康・スポーツ・文化・料理・語学など趣味や教養に関すること」は20歳未満で特に高くなっている。

		に知現 関識在 す・の る技仕 こ能事 とや上 資で 格必 取要 得な	関キ すヤ るリ こア とや 転 職 活 動 に	味化健 や・康 教料・ス 養理・ポ に・ボ 関語ー す学ツ るな・文 こと趣	タイ ルン にタ 関ー すネ るッ こと や デ ジ	と育 児・ 教 育 に 関 する こ	に森 関や す川 るで こ行 とう 自 然 体 験	動ポ にラ 関ン すテ るイ こア とや 地 域 活	にS 関D すG るs こと など 社会 課題	その他	特 にな し	無 回 答
市民	20歳未満	32.8	6.6	55.7	11.5	4.9	1.6	6.6	4.9	1.6	21.3	0.0
	20～29歳	64.3	16.3	38.8	23.3	16.3	6.2	5.4	7.0	0.0	12.4	0.8
	30～39歳	63.9	14.4	40.7	23.1	29.6	10.2	6.5	9.7	0.9	8.3	0.5
	40～49歳	58.4	10.5	48.3	22.0	21.0	9.1	7.3	10.8	0.3	13.3	1.4
	50～59歳	52.5	7.5	45.6	19.1	11.9	5.6	10.6	11.2	1.6	20.0	0.9
	60～64歳	34.7	2.7	44.2	10.9	5.4	4.8	12.9	6.8	2.7	31.3	0.7
	65～69歳	19.8	1.5	43.5	16.8	3.1	4.6	16.8	11.5	0.8	29.8	2.3
	70～74歳	9.4	0.6	43.3	18.1	3.5	5.8	20.5	15.2	1.8	33.3	4.1
	75歳以上	5.8	0.3	39.4	11.6	1.3	8.4	19.0	7.4	2.3	32.9	12.9

2 交流館

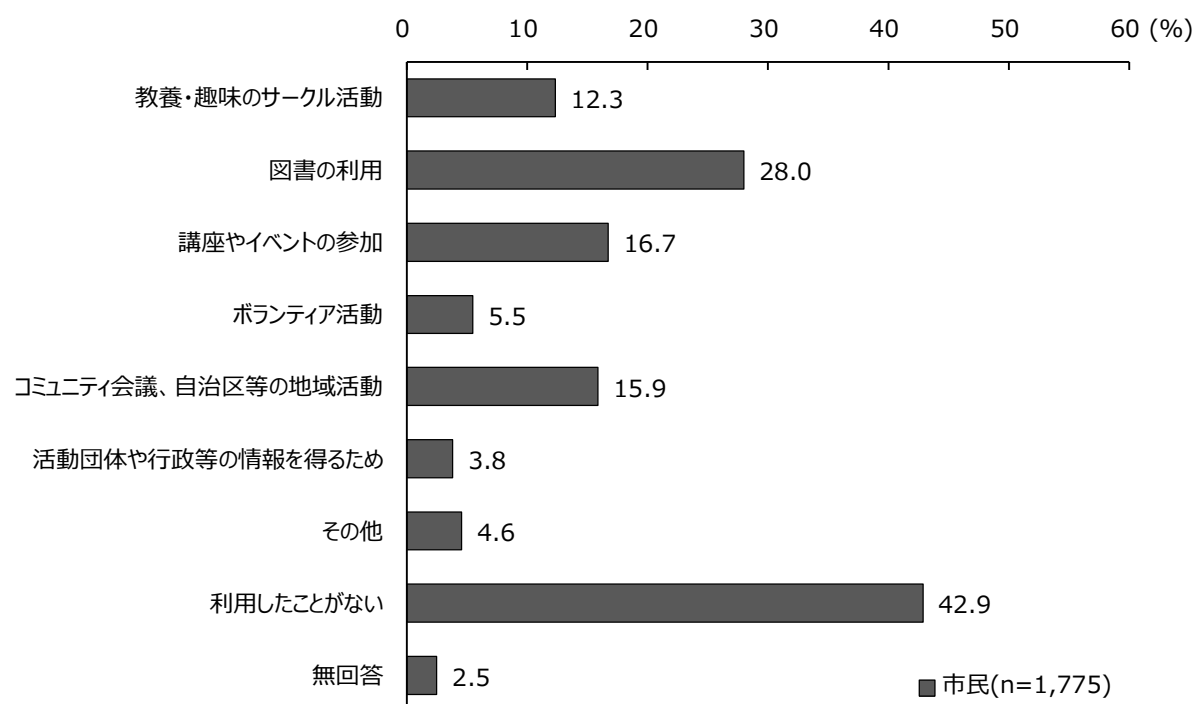
① 交流館の利用状況

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 12					

問. ここ3年間で、交流館をどのような目的で利用しましたか。(3つまで)

利用目的について、「図書の利用」(28.0%)が最も多く、次いで「講座やイベントの参加」(16.7%)、「コミュニティ会議、自治区等の地域活動」(15.9%)が多くなっている。

交流館を3年以内に利用したことがある市民(全体から「利用したことがない」と「無回答」を除いた割合)は、54.6%となっている。



年齢別にみると、「図書の利用」は20歳未満と30～49歳、70歳以上は「教養・趣味のサークル活動」「講座やイベントの参加」の割合が他の年代と比べて高くなっている。

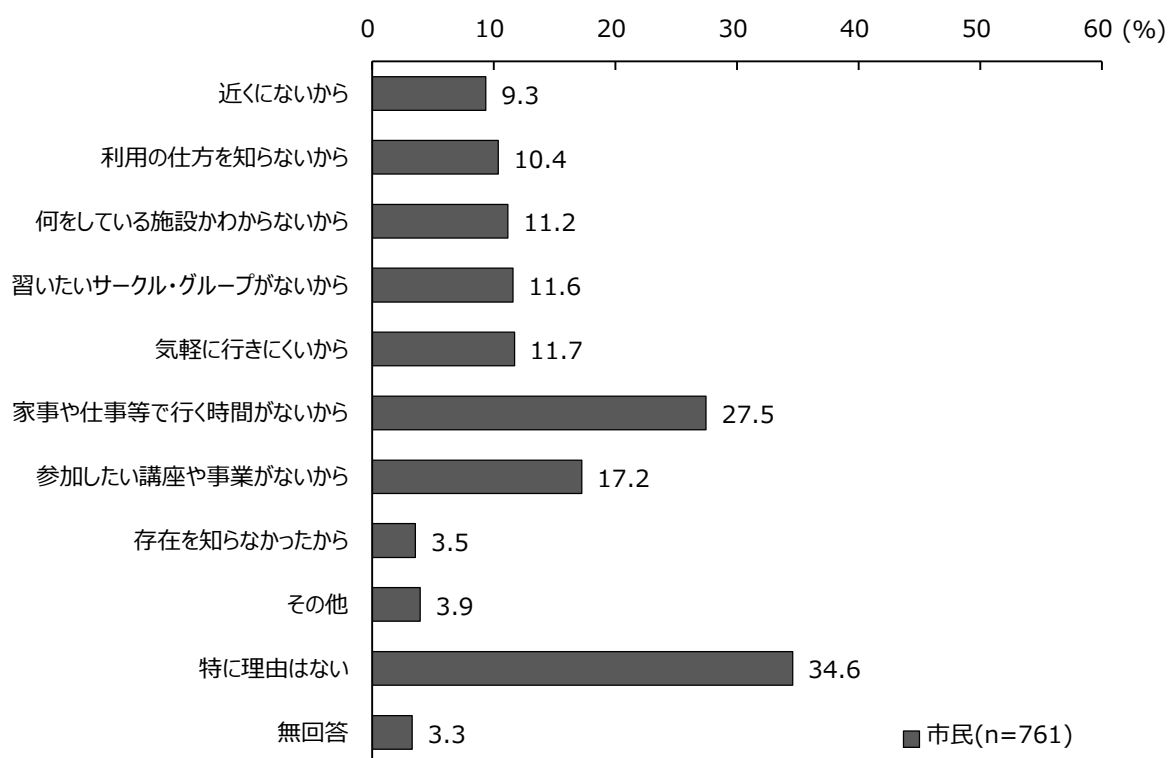
		サ ー 養 ク ・ ル 趣 活 味 動 の	図 書 の 利 用	の 講 座 参 加 や イ ベ ン ト	動 ボ ラ ン テ ィ ア 活	地 議 コ 域 、 ミ 活 自 治 区 テ 等 の 会	た 等 活 め の 動 情 団 報 体 を や 得 行 る 政	そ の 他	な 利 用 し た こ と が	無 回 答
%										
市民	20歳未満	9.8	36.1	8.2	3.3	4.9	3.3	19.7	31.1	1.6
	20～29歳	7.0	24.8	7.0	4.7	3.9	3.9	9.3	53.5	0.8
	30～39歳	11.6	39.4	19.4	2.3	8.8	2.8	6.0	39.4	0.5
	40～49歳	12.2	40.9	18.2	4.2	21.7	2.8	4.5	35.0	1.4
	50～59歳	9.1	24.4	12.8	5.6	18.8	2.5	4.1	48.4	0.3
	60～64歳	8.8	27.2	13.6	4.1	19.7	4.1	0.7	44.9	1.4
	65～69歳	9.2	20.6	12.2	5.3	17.6	4.6	6.1	50.4	0.8
	70～74歳	17.5	22.2	23.4	8.8	18.1	7.6	0.6	45.6	2.3
	75歳以上	18.4	18.7	22.9	8.4	16.1	4.5	2.6	39.7	9.0

② 交流館を利用したことがない理由

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 13					

問. 交流館を利用したことがない理由を教えてください。(3つまで)

「特に理由はない」が最も多く 34.6%となっている。次いで、「家事や仕事等で行く時間がないから」(27.5%)、「参加したい講座や事業がないから」(17.2%)が多くなっている。



年齢別にみると、20～59 歳は「家事や仕事等で行く時間がないから」、20 歳未満と 60 歳以上で「特に理由はない」の割合が最も高い。

		近 く に な い か ら	利 用 の 仕 方 を 知 ら な	何 か し て い い か る 施 設 か	グ ル ー プ い が サ ー ク ル ・	ら 気 軽 に 行 き に く い か	時 間 事 が や な い 事 か 等 で 行 く	業 参 加 が な し た い か ら 講 座 や 事	か 存 在 を 知 ら な か っ た	そ の 他	特 に 理 由 は な い	無 回 答
		%										
市民	20歳未満	21.1	10.5	21.1	5.3	10.5	10.5	10.5	0.0	10.5	36.8	0.0
	20～29歳	5.8	14.5	15.9	14.5	8.7	34.8	17.4	11.6	0.0	30.4	1.4
	30～39歳	7.1	15.3	17.6	3.5	10.6	35.3	14.1	8.2	0.0	27.1	3.5
	40～49歳	8.0	20.0	14.0	8.0	14.0	35.0	17.0	3.0	5.0	26.0	1.0
	50～59歳	8.4	9.7	7.7	14.8	9.7	36.1	20.6	3.9	3.2	29.7	2.6
	60～64歳	6.1	1.5	4.5	22.7	13.6	28.8	24.2	1.5	4.5	37.9	7.6
	65～69歳	7.6	10.6	12.1	12.1	22.7	24.2	16.7	1.5	0.0	39.4	0.0
	70～74歳	9.0	3.8	9.0	12.8	11.5	21.8	19.2	0.0	6.4	42.3	5.1
	75歳以上	16.3	6.5	8.9	8.1	8.1	8.1	11.4	0.8	8.1	45.5	5.7

3 中央図書館

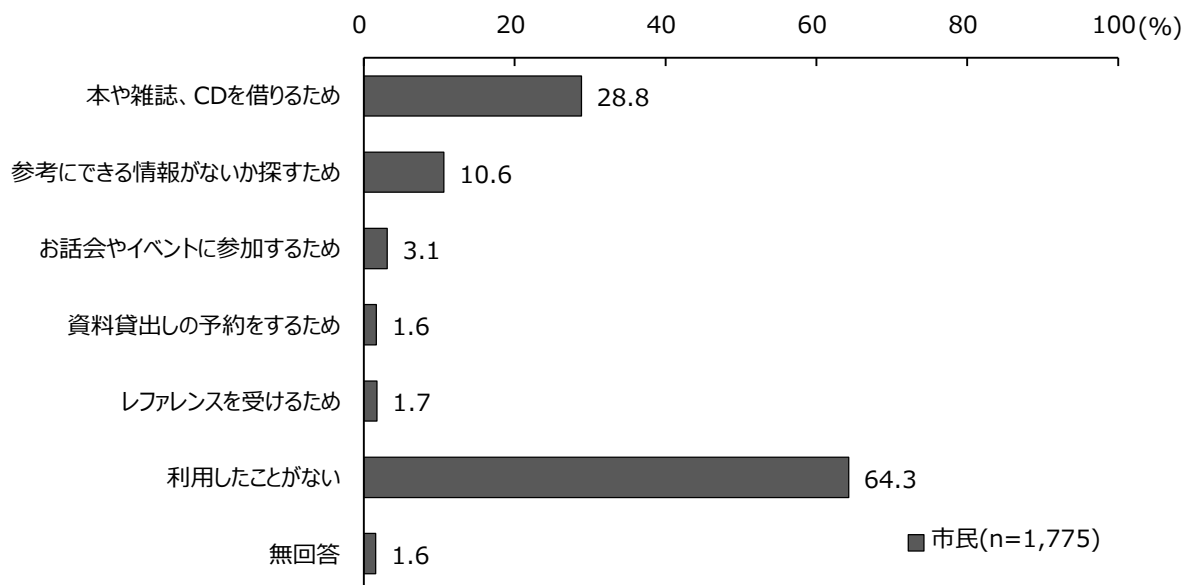
① 中央図書館の利用状況

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 14					

問. ここ3年間で、中央図書館をどのような目的で利用しましたか。(3つまで)

利用目的として、「本や雑誌、CDを借りるため」が最も多く28.8%となっている。次いで、「参考にできる情報がないか探すため」(10.6%)が多くなっている。

中央図書館を3年以内に利用したことがある市民(全体から「利用したことがない」と「無回答」を除いた割合)は、34.1%となっている



年齢別にみると、「本や雑誌、CD を借りるため」で 49 歳以下の割合が他の年代と比べて高い。

		り本 るや た雑 め誌 、 C D を 借	な参 い考 かに 探で すき たる め情 報 が	参お 加話 す会 るや たイ めベ ント に	す資 る料 た貸 め出 しの 予約 を	内りレ) たフ を いア 受 情レ け 報ン る ヘス た の※ め 案 (知	利 用 し た こ と が な い	無 回 答
%								
市民	20歳未満	37.7	19.7	3.3	1.6	1.6	42.6	4.9
	20～29歳	34.1	11.6	4.7	5.4	0.8	60.5	0.0
	30～39歳	44.0	11.6	5.6	0.9	1.4	51.4	0.5
	40～49歳	40.2	13.6	3.8	1.7	1.4	53.5	0.7
	50～59歳	25.9	10.0	1.6	2.2	1.3	69.1	0.3
	60～64歳	23.8	9.5	3.4	0.7	0.7	70.1	0.0
	65～69歳	20.6	8.4	1.5	1.5	1.5	75.6	0.8
	70～74歳	20.5	11.1	4.7	1.2	1.8	70.8	1.8
	75歳以上	17.7	6.8	1.3	0.6	3.9	72.9	5.5

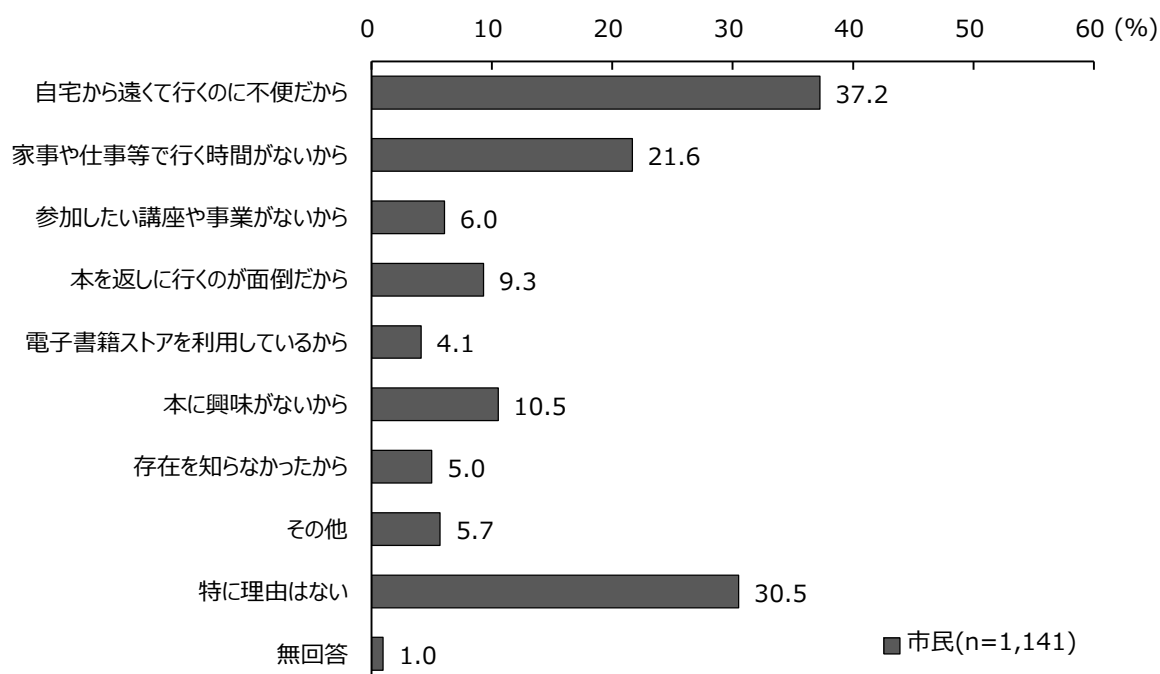
② 中央図書館を利用したことがない理由

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 15					

問. 中央図書館を利用したことがない理由を教えてください。(3つまで)

「自宅から遠くて行くのに不便だから」が最も多く 37.2%となっている。次いで、「特に理由はない」(30.5%)、「家事や仕事等で行く時間がないから」(21.6%)が多い。

年齢別にみると、30～59歳で「家事や仕事等で行く時間がないから」、20歳未満と60歳以上で「特に理由はない」の割合が他の年代と比べて高い。



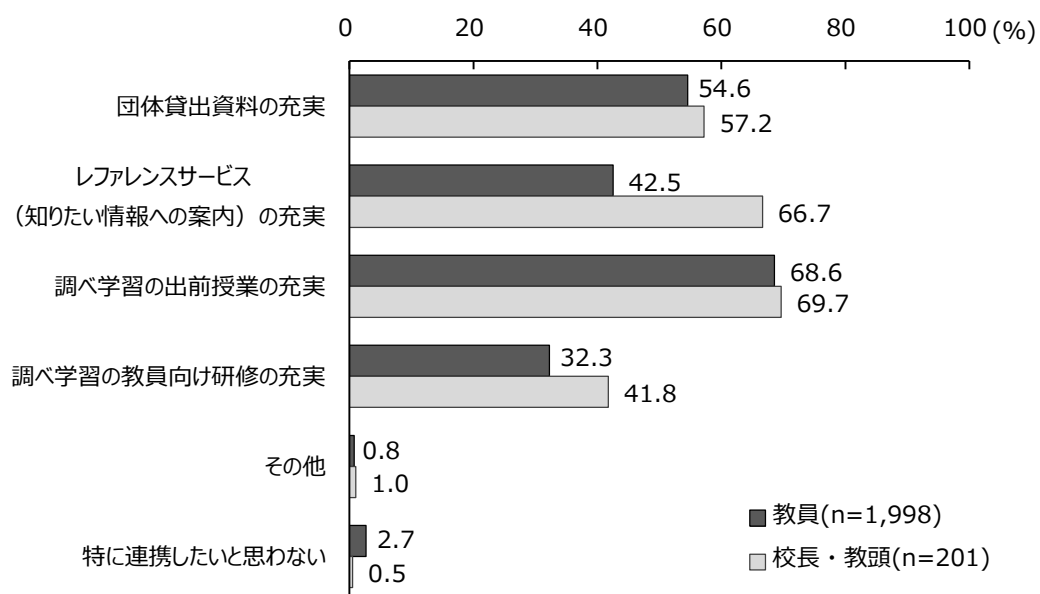
		く自 の宅 にか ら不 便遠 だか て行 く	く家 時事 間や が仕 な事 い等 かで ら行	事参 業加 がし ない い講 ら座 や	が本 面を 倒返 だし から 行く の	利電 用子 し書 いて 籍ス トラ を	ら本 に興 味が ない か	た存 在を 知ら なかつ	そ 他	特 に理 由は ない	無 回 答
	%										
市民	20歳未満	34.6	11.5	3.8	3.8	0.0	7.7	11.5	0.0	42.3	3.8
	20～29歳	23.1	24.4	7.7	10.3	12.8	16.7	9.0	3.8	24.4	0.0
	30～39歳	43.2	36.0	3.6	14.4	6.3	5.4	8.1	2.7	21.6	0.0
	40～49歳	35.9	28.1	5.9	11.1	7.2	6.5	4.6	7.2	26.1	0.7
	50～59歳	37.6	30.3	5.9	10.9	4.1	6.8	4.5	5.9	25.8	0.0
	60～64歳	30.1	26.2	5.8	7.8	3.9	16.5	3.9	9.7	34.0	0.0
	65～69歳	38.4	14.1	8.1	11.1	2.0	13.1	6.1	5.1	34.3	1.0
	70～74歳	36.4	16.5	6.6	9.1	1.7	14.9	1.7	4.1	39.7	1.7
	75歳以上	43.4	6.2	6.2	4.4	0.9	11.5	4.0	6.2	35.0	2.7

③ 図書館に求めるもの・学校との連携

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
				問 23	問 23

問. 学校との連携に向けて、中央図書館がどのようなことに一層力を入れて取り組むべきだと思いますか。(あてはまるものすべて)

教員、校長・教頭ともに、「調べ学習の出前授業の充実」(教員 68.6%、校長・教頭 69.7%)が最も多く、「団体貸出資料の充実」(教員 54.6%、校長・教頭 57.2%) も多くなっている。校長・教頭では「レファレンスサービス(知りたい情報への案内)の充実」(66.7%) も多くなっている。



4 読書

① 学校以外での読書頻度

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 22	問 23			

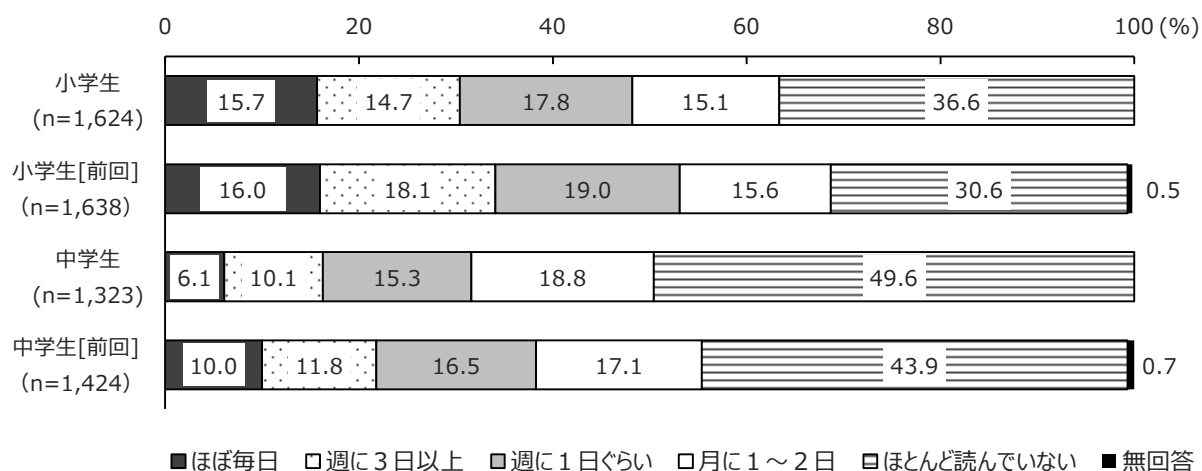
問. 学校以外で、どのくらい読書をしていますか。(1つ)

※教科書や参考書、まんがや雑誌は除きます。

小・中学生ともに、「ほとんど読んでいない」(小学生 36.6%、中学生 49.6%)が最も多くなっている。

読書頻度が週に1日以上(「ほぼ毎日」「週に3日以上」「週に1日ぐらい」の合計)である割合は、小学生で48.2%、中学生で31.5%となっている。

前回と比べると、小・中学生ともに「ほとんど読んでいない」の割合が高くなっている。



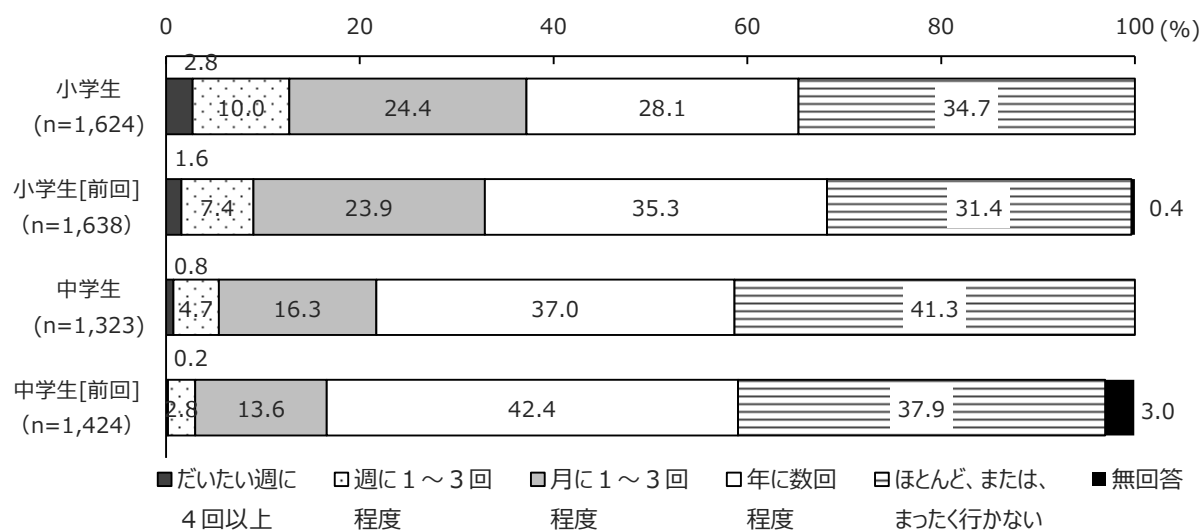
② 図書コーナーの利用頻度

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 23	問 24			

問. 中央図書館や交流館・コミュニティセンターの図書コーナーを1年間にどのくらい利用しますか。(1つ)

小・中学生ともに「ほとんど、または、まったく行かない」(小学生 34.7%、中学生 41.3%)が最も多くなっている。図書コーナーの利用が、月に1回以上(「だいたい週に4回以上」「週に1～3回程度」「月に1～3回程度」の合計)と回答した人の割合は、小学生で 37.2%、中学生で 21.8%となっている。

前回と比べて、小・中学生ともに、「月に1回以上」の割合も「ほとんど、または、まったく行かない」の割合も高くなっており、個人差が広がっている。



第6章 文化・芸術について

1 文化・芸術への関心や活動状況

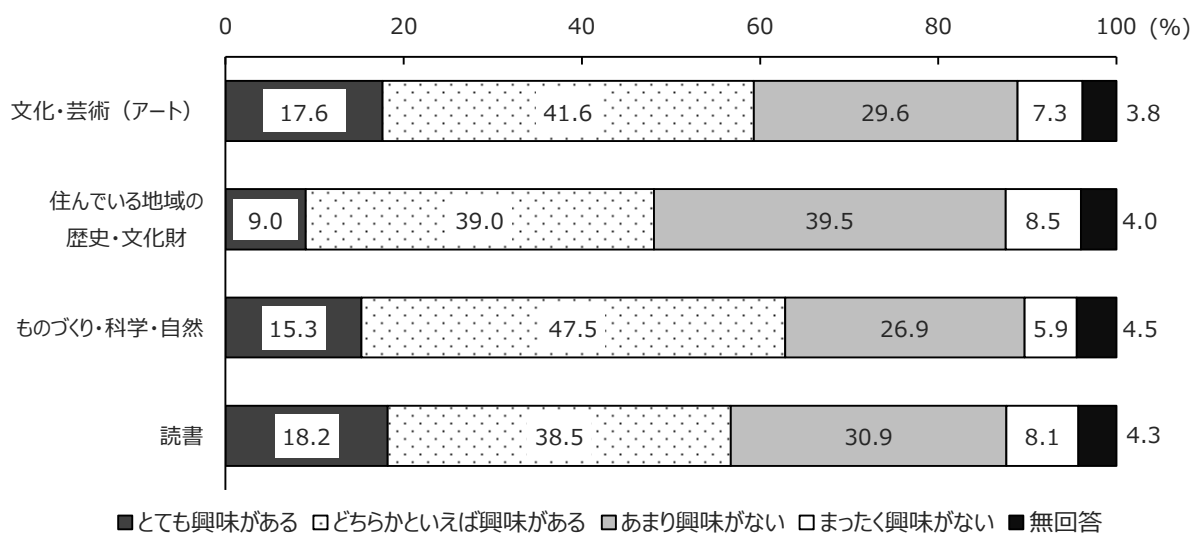
① 文化・芸術等に関する興味

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 16	問 24	問 25			

問. あなたは、次のことについて、興味がありますか。(それぞれ1つ)

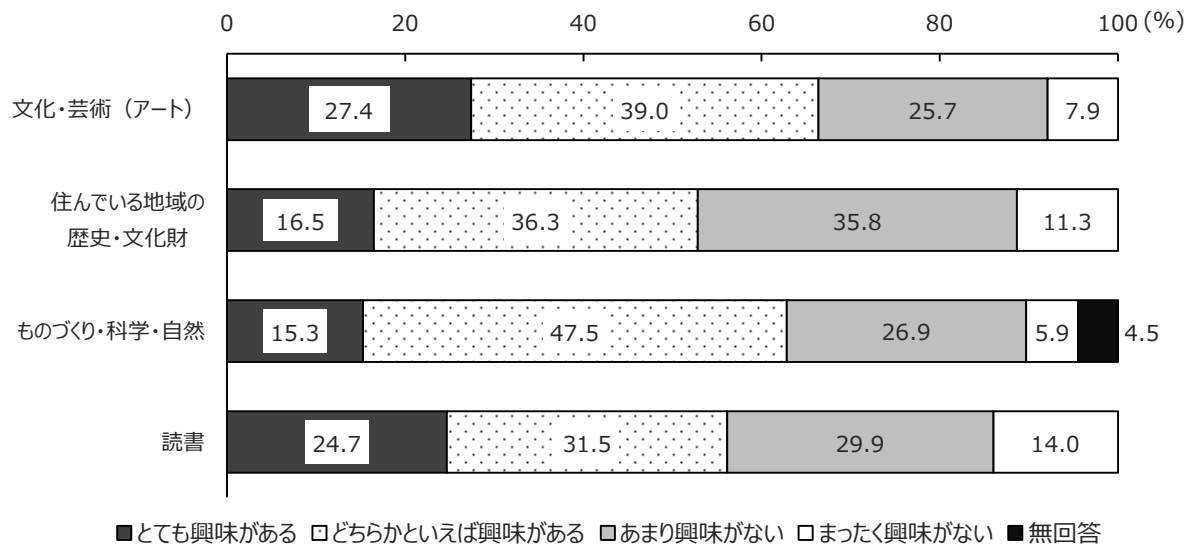
「とても興味がある」「どちらかといえば興味がある」の合計について、市民では、「ものづくり・科学・自然」が最も多く 62.8%となっている。次いで、「文化・芸術（アート）」（59.2%）、「読書」（56.7%）、「住んでいる地域の歴史・文化財」（48.0%）となっている。

【市民】（n=1,775）



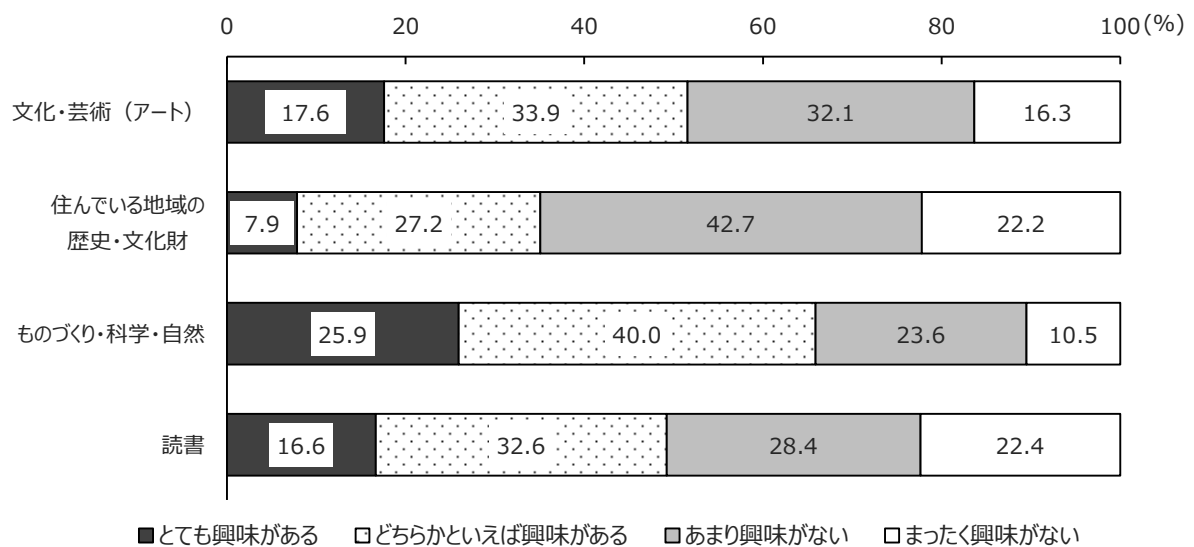
「とても興味がある」「どちらかといえば興味がある」の合計について、小学生では、「文化・芸術（アート）」が最も多く 66.4%となっている。次いで、「ものづくり・科学・自然」（62.8%）、「読書」（56.2%）、「住んでいる地域の歴史・文化財」（52.8%）となっている。

【小学生】（n=1,624）



「とても興味がある」「どちらかといえば興味がある」の合計について、中学生では、「ものづくり・科学・自然」が最も多く 65.9%となっている。次いで、「文化・芸術（アート）」（51.5%）、「読書」（49.2%）、「住んでいる地域の歴史・文化財」（35.1%）となっている。

【中学生】（n=1,323）



「とても興味がある」の割合を年齢別にみると、20歳未満は「文化・芸術（アート）」、20～39歳は「ものづくり・科学・自然」の割合が他の年代と比べてやや高い。

・「とても興味がある」の割合

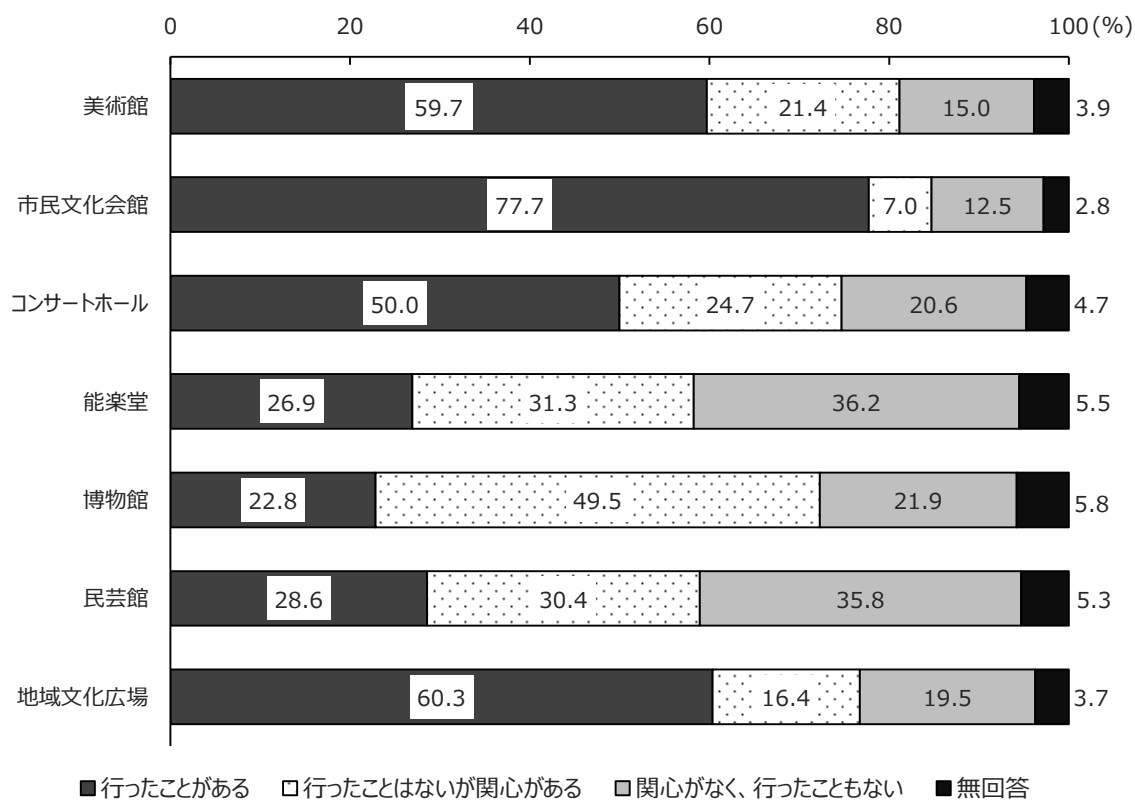
		（文化・芸術） %	の住歴 ・歴史 ・文化 ・地域	学・もの ・自然 ・科学	読書
市民	20歳未満	24.6	6.6	16.4	21.3
	20～29歳	20.9	8.5	19.4	17.1
	30～39歳	19.4	6.9	23.1	20.8
	40～49歳	19.9	8.0	20.6	20.3
	50～59歳	19.7	8.4	15.9	19.1
	60～64歳	17.7	9.5	12.9	17.0
	65～69歳	11.5	4.6	10.7	17.6
	70～74歳	14.6	12.3	12.3	15.2
	75歳以上	13.9	12.3	7.1	16.1

② 市内の文化施設の利用状況

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 17					

問. あなたは、豊田市の次の文化施設に、これまで行ったことがありますか。
(それぞれ1つ)

「行ったことがある」は市民文化会館(77.7%)、地域文化広場(60.3%)、美術館(59.7%)、
「コンサートホール」(50.0%)が多くなっている。一方で、「行ったことはないが関心がある」は博物館(49.5%)、「関心がなく、行ったこともない」は能楽堂(36.2%)、民芸館(35.8%)が多くなっている。



市民 (n=1,775)

「行ったことがある」の割合をみると、「コンサートホール」は 29 歳未満、「能楽堂」は 20～29 歳、「民芸館」は 70 歳以上で他の年代と比べて高くなっている。

・「行ったことがある」の割合

		美術館	市民文化 会館	コンサート ホール	能楽堂	博物館	民芸館	地域文化 広場
%								
市民	20歳未満	49.2	75.4	62.3	23.0	18.0	19.7	52.5
	20～29歳	62.0	72.1	62.0	56.6	29.5	25.6	41.9
	30～39歳	58.8	63.0	40.7	32.4	29.2	17.1	59.7
	40～49歳	60.8	80.8	43.0	14.7	24.8	23.4	68.9
	50～59歳	63.4	81.3	54.4	23.7	25.0	28.7	65.9
	60～64歳	64.6	87.8	51.7	25.9	19.7	29.3	72.8
	65～69歳	59.5	85.5	49.6	21.4	19.1	32.1	64.9
	70～74歳	58.5	82.5	50.9	24.6	18.7	40.4	57.9
	75歳以上	55.8	73.9	50.0	30.3	17.7	35.8	50.3

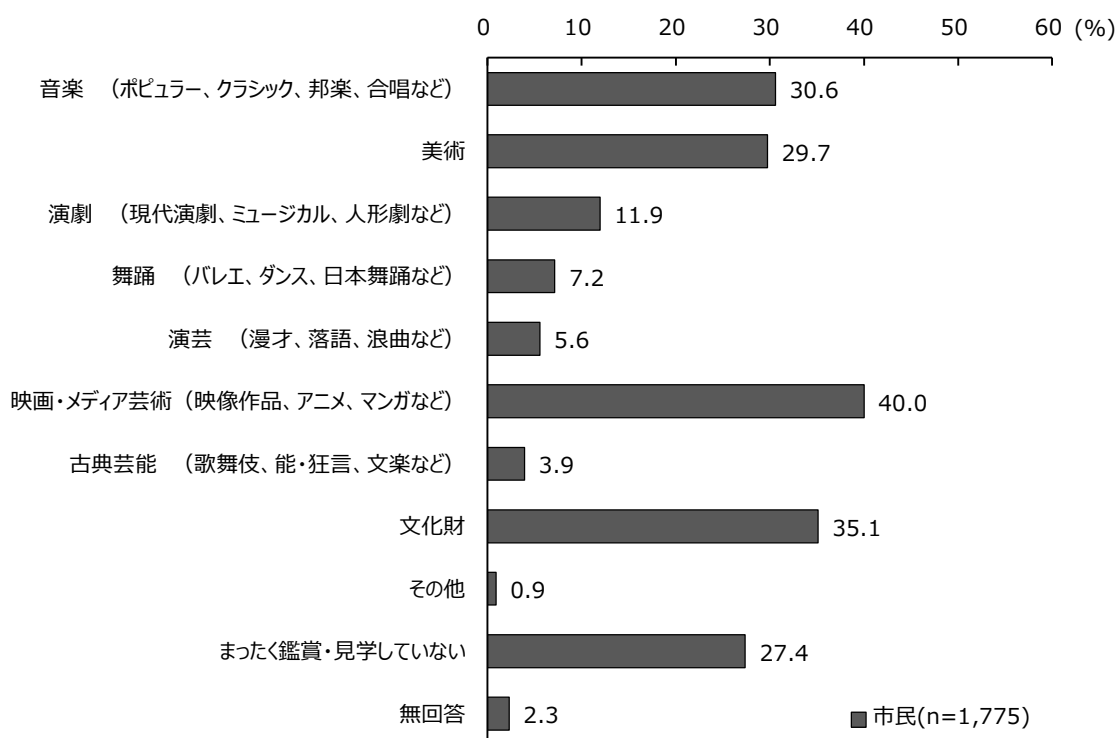
③ 鑑賞・見学した分野

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 18					

問. あなたは、この1年間に次のような催し物や場所に出かけて行って、「鑑賞・見学」(豊田市外も含む)をしたことがありますか。(あてはまるものすべて)
※ホール・劇場・美術館・博物館・映画館・祭り・旅行等で直接鑑賞すること

「映画・メディア芸術(映像作品、アニメ、マンガなど)」が最も多く40.0%となっている。次いで、「文化財」(35.1%)、「音楽(ポピュラー、クラシック、邦楽、合唱など)」(30.6%)、「美術」(29.7%)が多くなっている。

この1年間に直接鑑賞や見学をした(全体から「まったく鑑賞・見学していない」と「無回答」を除いた割合)市民は、70.3%となっている。



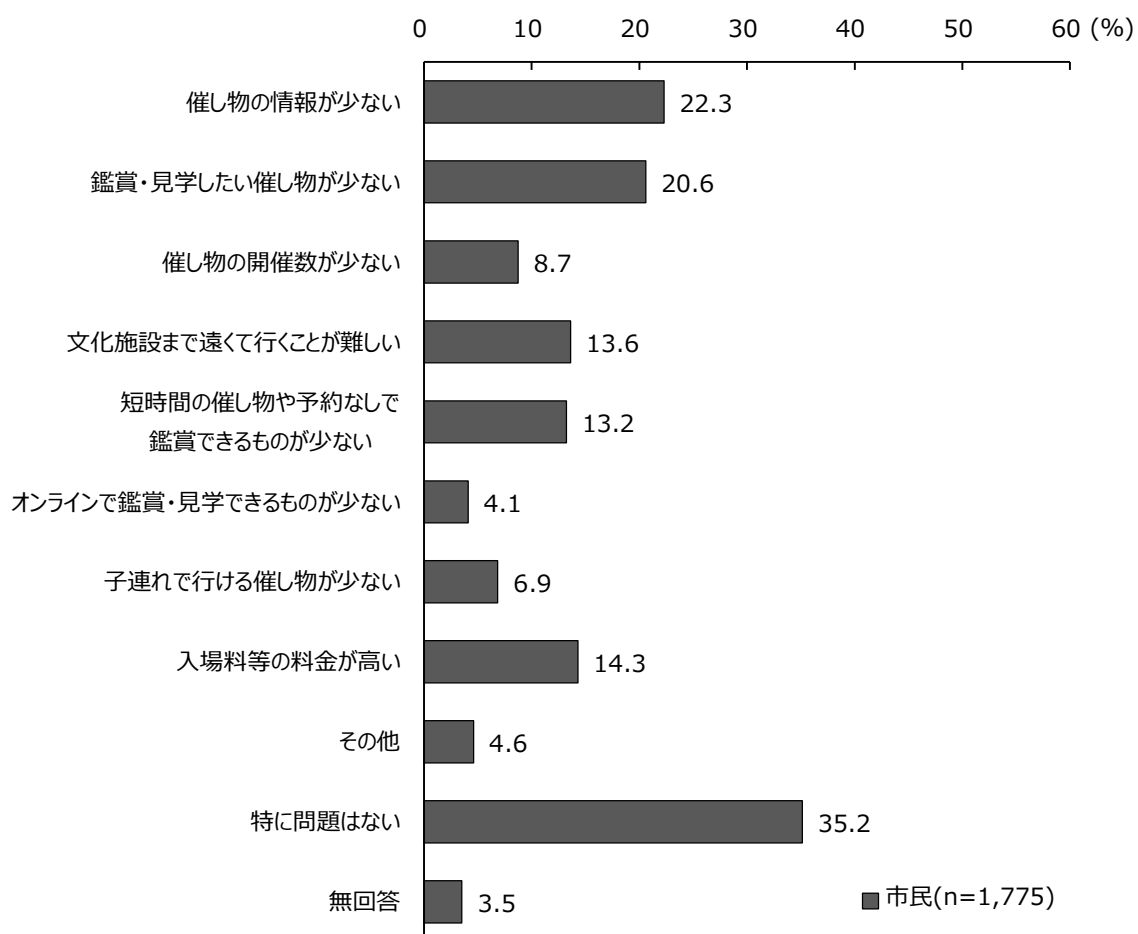
- ・美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸、書道、写真、デザイン、現代アート、民芸など)
- ・文化財(古い寺社、まちなみ、棒の手、山車祭、農村歌舞伎、遺跡、天然記念物、近代産業遺産、仏像、出土品など)

④ 鑑賞・見学する上で困ること

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 19					

問. あなたが「鑑賞・見学」する上で、お困りのことはありますか。(3つまで)

「特に問題はない」が最も多く 35.2%となっている。次いで、「催し物の情報が少ない」(22.3%)、「鑑賞・見学したい催し物が少ない」(20.6%)が多くなっている。



年齢別にみると、20 歳未満と 75 歳以上で「文化施設まで遠くに行くことが難しい」、30～39 歳で「子連れで行ける催し物が少ない」の割合が他の年代と比べて高くなっている。

		い 催 し 物 の 情 報 が 少 な	し 鑑 物 が ・ 見 少 な い 学 し た い 催	な 催 い し 物 の 開 催 数 が 少	行 文 く 化 こ 施 と が ま 難 で 遠 い く て	も 約 の な が し 少 で な 鑑 い 賞 で 物 き や る 予	短 時 間 の 催 し 物 賞 少 ・	見 学 で ラ イン も の 鑑 が 賞 少 ・	オ ン で イ ン も の 鑑 が 賞 少 ・	物 子 が 連 れ な い 行 け る 催 し	い 入 場 料 等 の 料 金 が 高	そ の 他	特 に 問 題 は な い	無 回 答
%														
市民	20歳未満	14.8	19.7	6.6	24.6	4.9	8.2	1.6	13.1	1.6	39.3	0.0		
	20～29歳	23.3	27.1	10.9	16.3	9.3	7.0	7.0	16.3	2.3	31.8	0.0		
	30～39歳	19.0	24.5	10.6	8.3	10.6	3.7	29.6	16.7	1.9	30.6	0.9		
	40～49歳	24.1	23.4	10.8	9.8	15.0	4.2	13.6	18.2	4.5	30.8	1.7		
	50～59歳	24.7	23.4	8.7	9.1	12.5	3.1	1.3	17.5	5.9	38.4	0.3		
	60～64歳	23.8	26.5	10.2	6.8	14.3	6.1	0.7	14.3	6.8	37.4	1.4		
	65～69歳	23.7	21.4	6.9	16.0	19.1	4.6	0.0	10.7	2.3	41.2	1.5		
	70～74歳	25.1	15.2	8.8	11.7	15.8	3.5	1.8	8.2	7.0	38.0	7.0		
	75歳以上	19.0	10.0	4.8	25.8	13.2	2.6	0.3	10.0	5.2	34.2	12.6		

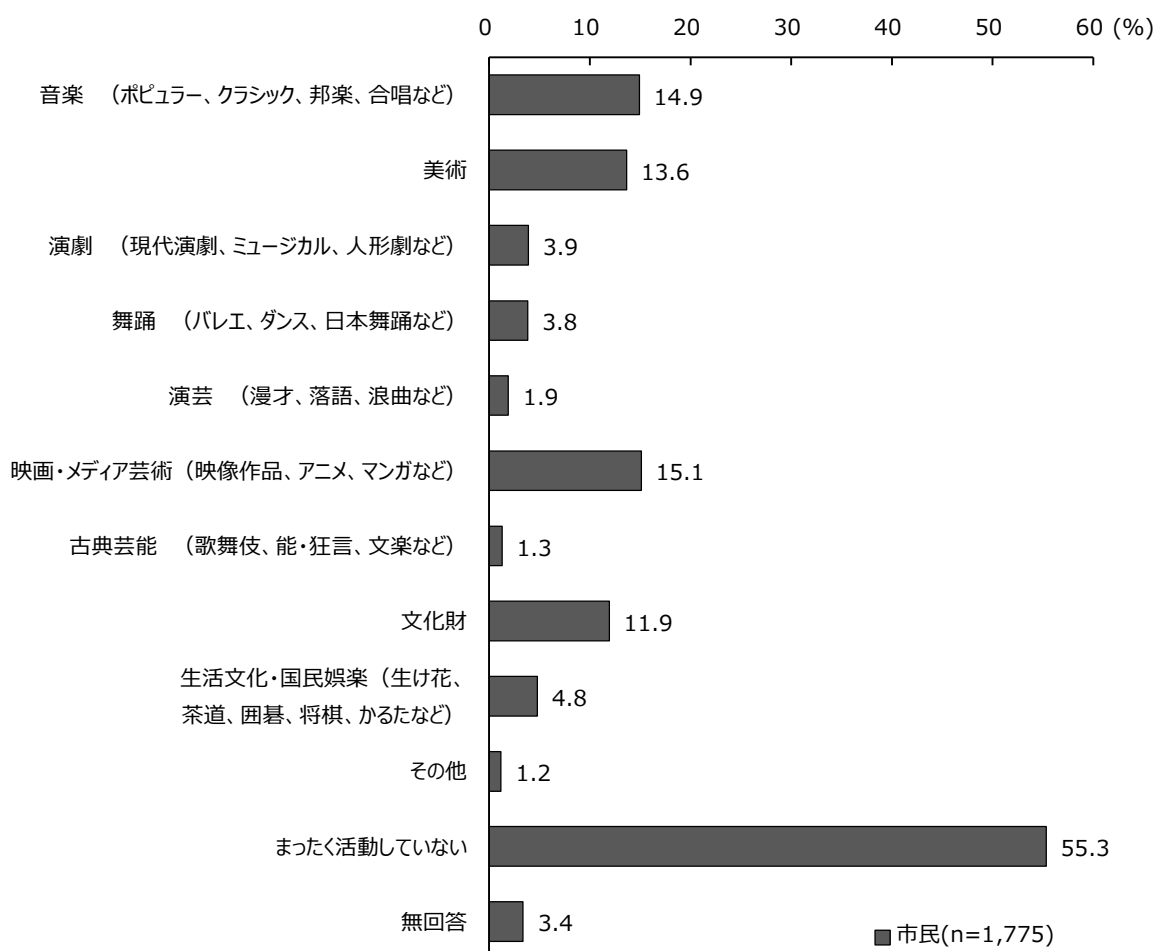
⑤ 日頃行っている文化・芸術活動の分野

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 20					

問. あなたは、この1年間に次のような「文化・芸術活動」(鑑賞・見学を除く)を行ったことがありますか。(あてはまるものすべて)
※作品の制作・練習・習い事など

「まったく活動していない」が最も多く 55.3%となっている。次いで、「映画・メディア芸術(映像作品、アニメ、マンガなど)」(15.1%)、「音楽(ポピュラー、クラシック、邦楽、合唱など)」(14.9%)、「美術」(13.6%)が多くなっている。

この1年間に文化活動をしたことがある(全体から「まったく活動していない」と「無回答」を除いた割合)市民は、41.3%となっている。



- ・美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸、書道、写真、デザイン、現代アート、民芸など)
- ・文化財(古い寺社、まちなみ、棒の手、山車祭、農村歌舞伎、遺跡、天然記念物、近代産業遺産、仏像、出土品など)

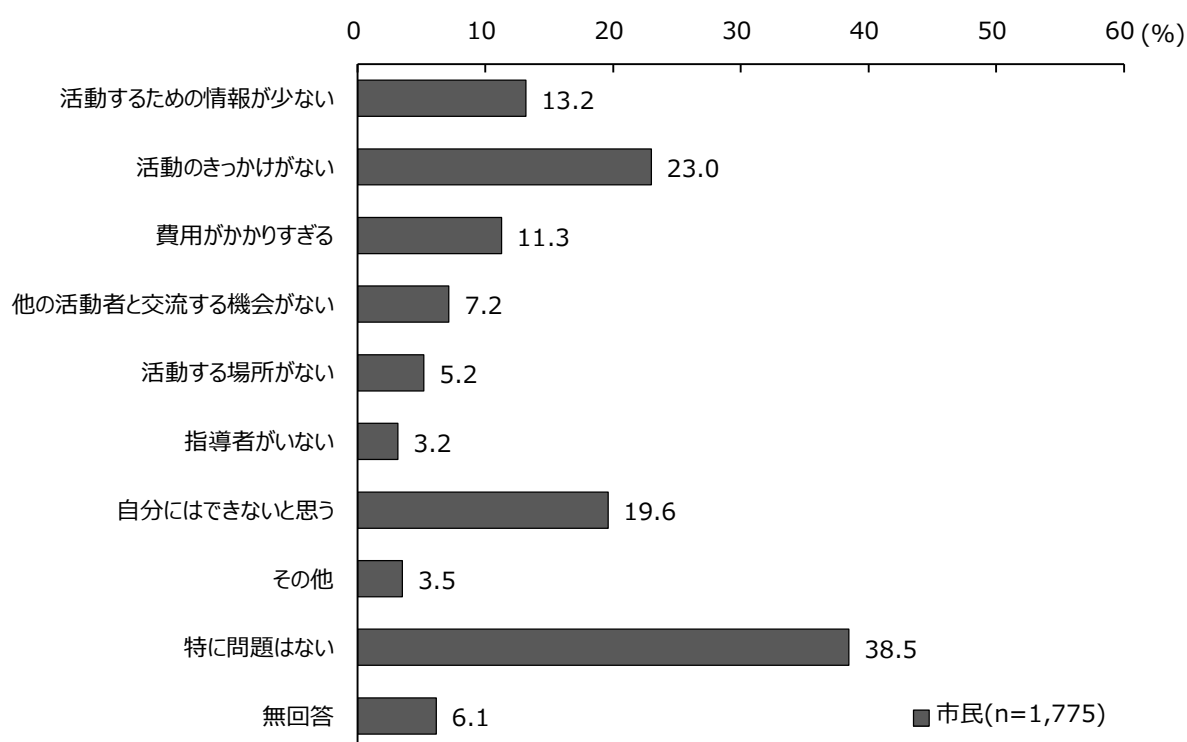
⑥ 文化・芸術活動をする上で困ること

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 21					

問. あなたが「文化・芸術活動」をする上で、お困りのことはありますか。(3つまで)

「特に問題はない」が最も多く 38.5%となっている。次いで、「活動のきっかけがない」(23.0%)、「自分にはできないと思う」(19.6%) が多くなっている。

年齢別にみると、すべての年代で「特に問題はない」の割合が最も高くなっている。



		%	情 活 報 動 が す 少 る な い の	が 活 な 動 い の き っ か け	ぎ 費 る 用 が か か り す	い 流 他 す の 活 機 動 者 が と 交	な 活 い 動 す る 場 所 が	指 導 者 が い ない	い 自 と 分 思 に う は で き な	そ の 他	特 に 問 題 は ない	無 回 答
市民	20歳未満	9.8	21.3	9.8	3.3	9.8	4.9	18.0	0.0	45.9	1.6	
	20～29歳	14.7	31.0	16.3	7.0	10.1	7.0	20.2	0.8	37.2	0.8	
	30～39歳	13.0	25.0	12.5	10.2	6.5	2.3	16.2	3.2	42.1	1.4	
	40～49歳	14.7	25.5	16.8	5.9	4.2	3.8	19.9	2.4	38.1	3.1	
	50～59歳	15.9	25.0	14.7	5.0	6.6	2.2	20.6	4.4	37.2	1.3	
	60～64歳	15.0	24.5	8.2	7.5	4.1	1.4	16.3	2.7	40.1	6.1	
	65～69歳	11.5	27.5	8.4	8.4	3.1	1.5	19.1	1.5	42.0	3.8	
	70～74歳	11.1	19.3	8.2	8.8	2.3	4.7	21.6	4.1	37.4	9.9	
	75歳以上	10.3	13.9	4.5	7.7	3.5	2.9	21.6	5.8	35.2	19.0	

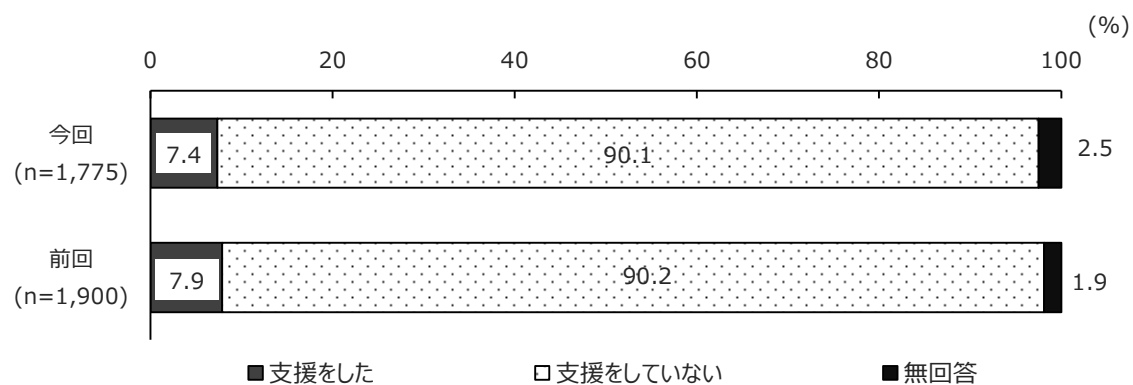
⑦ 文化・芸術活動への支援状況

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 22					

問. あなたは、この1年間に、文化・芸術活動の支援等をしたことがありますか。(1つ)
 ※芸術祭や文化施設等でのボランティア活動、子どもの文化体験講座等の手伝い、文化イベントの運営費を寄附など

「支援をした」が7.4%、「支援をしていない」が90.1%となっている。

前回と比べて、大きな変化はみられない。



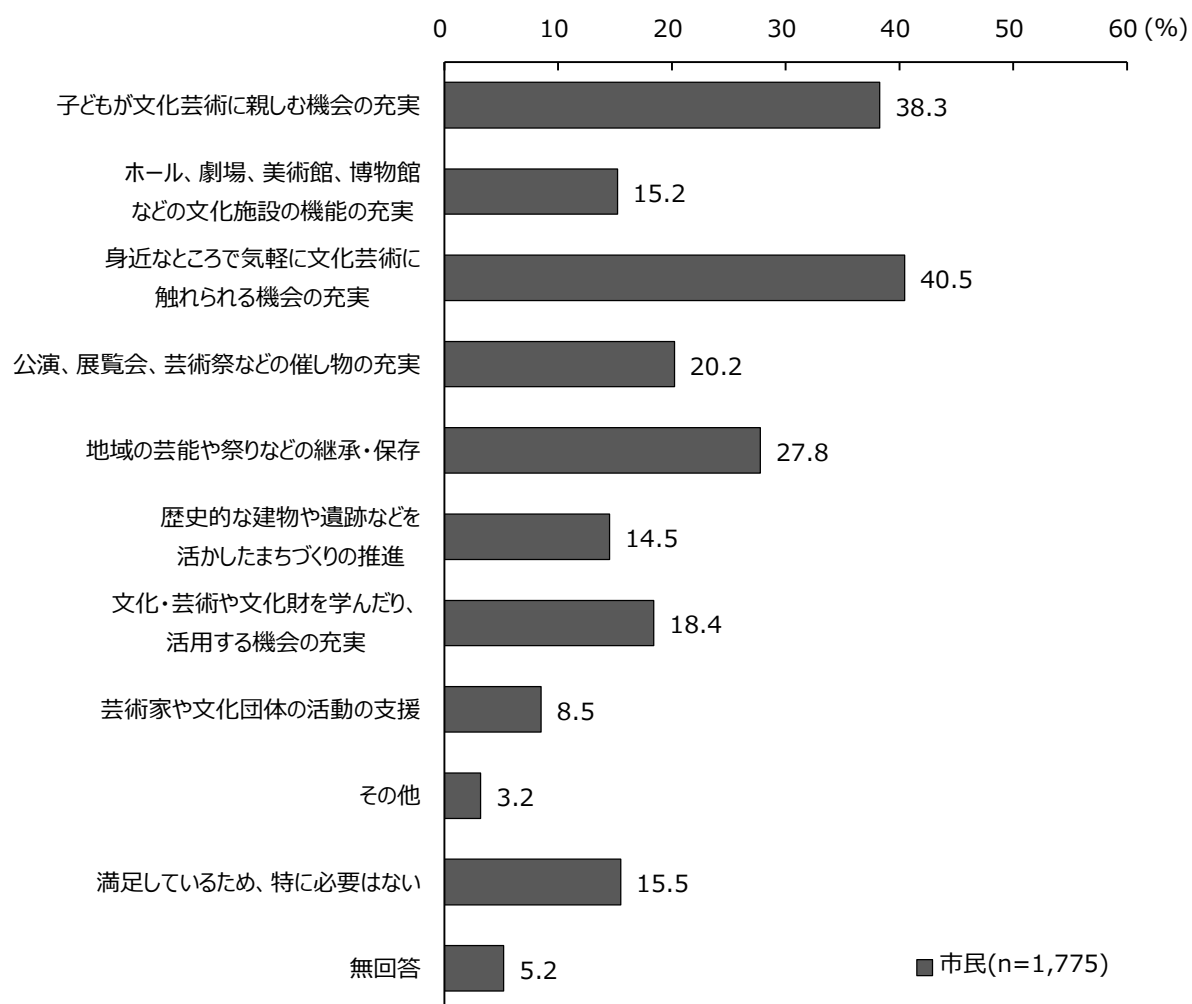
2 文化・芸術推進、文化財保護

① 地域の文化的環境の充実に向けて

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 23					

問. あなたは、あなたが住んでいる地域の文化的環境を満足できるものとするため、何が必要だと思いますか。(あてはまるものすべて)

「身近なところで気軽に文化芸術に触れられる機会の充実」(40.5%)、「子どもが文化芸術に親しむ機会の充実」(38.3%)が多くなっている。

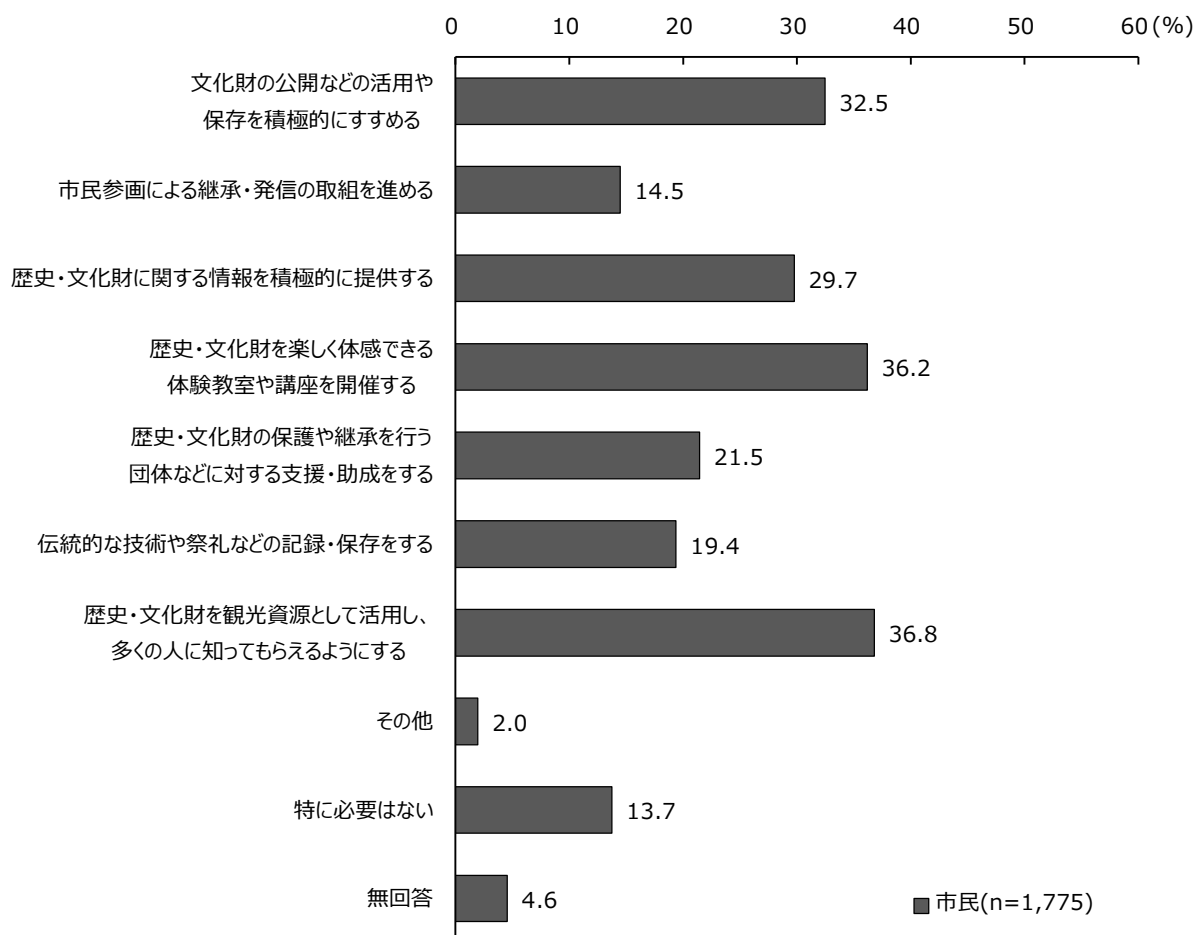


② 市の歴史・文化財の継承、魅力発信

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 24					

問. 豊田市の歴史や文化財を継承し、その魅力を発信していくためには、何が必要だと思いますか。(あてはまるものすべて)

「歴史・文化財を観光資源として活用し、多くの人に知ってもらえるようにする」が最も多く 36.8%となっている。次いで、「歴史・文化財を楽しく体感できる体験教室や講座を開催する」(36.2%)、「文化財の公開などの活用や保存を積極的にすすめる」(32.5%)が多くなっている。

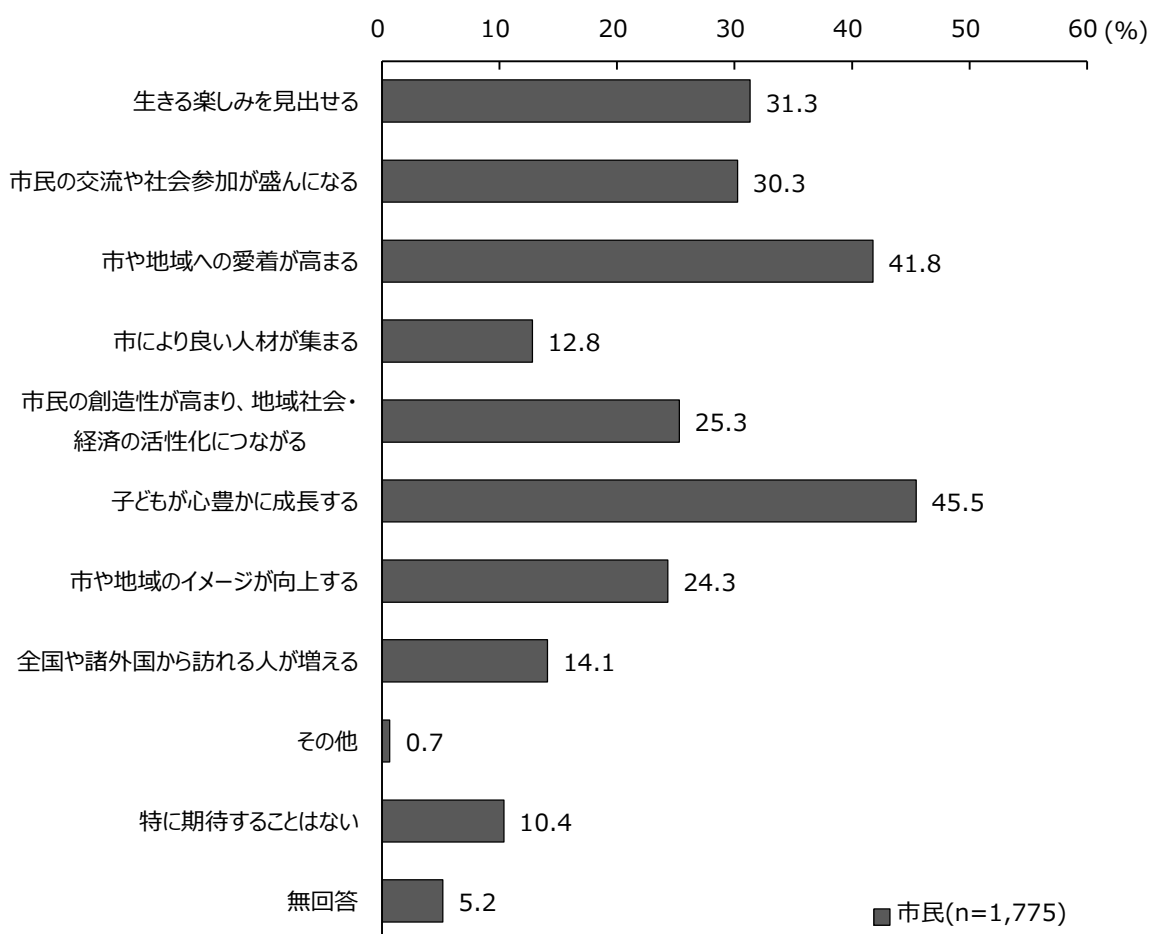


③ 地域の文化的環境が充実する効果

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 25					

問. 地域の文化的環境が充実することにより、あなたが期待する効果は何ですか。
(あてはまるものすべて)

「子どもが心豊かに成長する」(45.5%)、「市や地域への愛着が高まる」(41.8%)が多くなっている。



3 こどもと文化・芸術

① 子どもと利用したい文化・スポーツ施設

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
			問 26	問 24	問 24

【保護者】

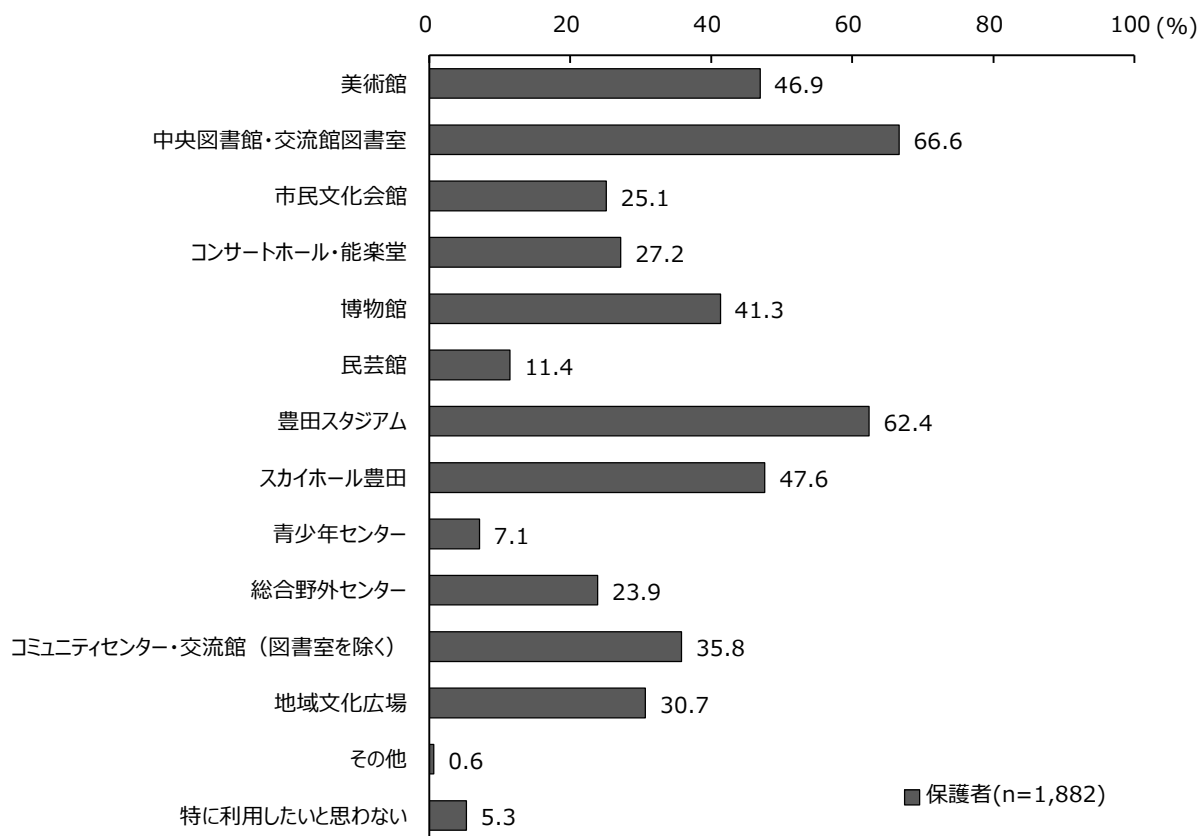
問. あなたは、次の市内の文化・スポーツ等の施設について、お子さんと一緒に利用したいと思いますか。(あてはまるものすべて)

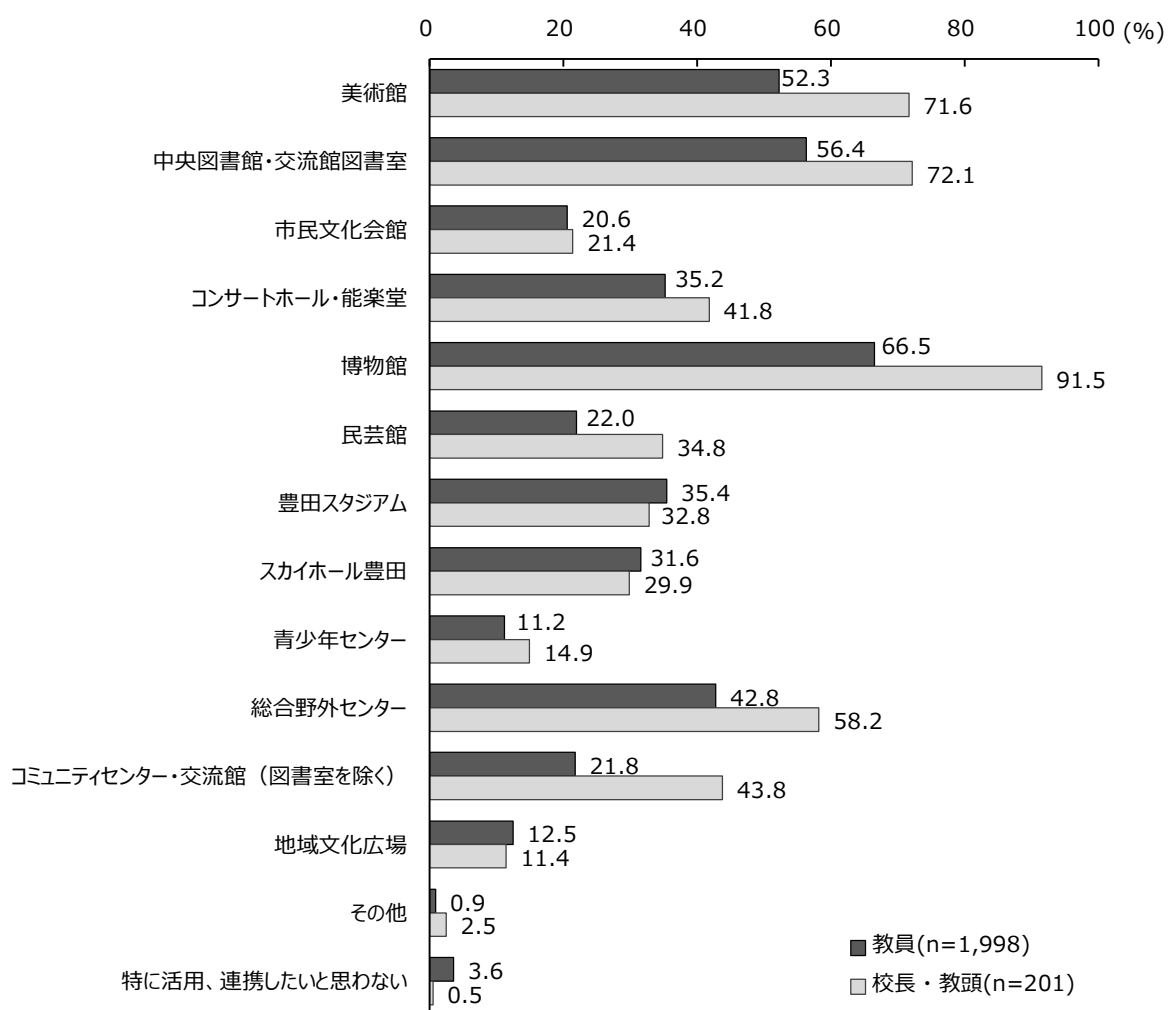
【教員、校長・教頭】

問. あなたは、次の市内の文化・スポーツ等の施設について授業等で活用したい、連携したいと思いますか。(あてはまるものすべて)

保護者が子どもと一緒に利用したい施設では「中央図書館・交流館図書室」(66.6%)、「豊田スタジアム」(62.4%)が多くなっている。

教員、校長・教頭が授業等で活用したい、連携したい施設では「博物館」(教員 66.5%、校長・教頭 91.5%)が最も多くなっている。次いで、「中央図書館・交流館図書室」(教員 56.4%、校長・教頭 72.1%)、「美術館」(教員 52.3%、校長・教頭 71.6%)が多くなっている。





学校別にみると、教員の小学校で「美術館」「中央図書館・交流館図書室」「博物館」「総合野外センター」の割合が特に高い。

		美術館	中央図書館・交流館図書室	市民文化会館	コンサートホール・能楽堂	博物館	民芸館	豊田スタジアム	スカイホール豊田	青少年センター	総合野外センター
%											
保護者	小学校	46.9	68.9	26.0	25.5	43.1	11.2	64.0	46.7	6.7	27.2
	中学校	46.9	63.2	23.7	29.7	38.4	11.8	59.9	49.1	7.8	18.7
教員	小学校	59.4	65.7	20.2	38.5	75.3	26.1	35.4	30.5	11.9	51.2
	中学校	39.2	39.5	21.2	29.3	50.6	14.5	35.4	33.6	10.0	27.6

		コミュニティセンター・交流館（図書室を除く）	地域文化広場	その他	特に利用したいと思わない	無回答
%						
保護者	小学校	36.9	35.5	0.4	4.1	0.0
	中学校	34.0	23.3	0.9	7.0	0.0
教員	小学校	24.7	14.4	0.8	1.8	0.0
	中学校	16.5	9.0	1.1	6.9	0.0

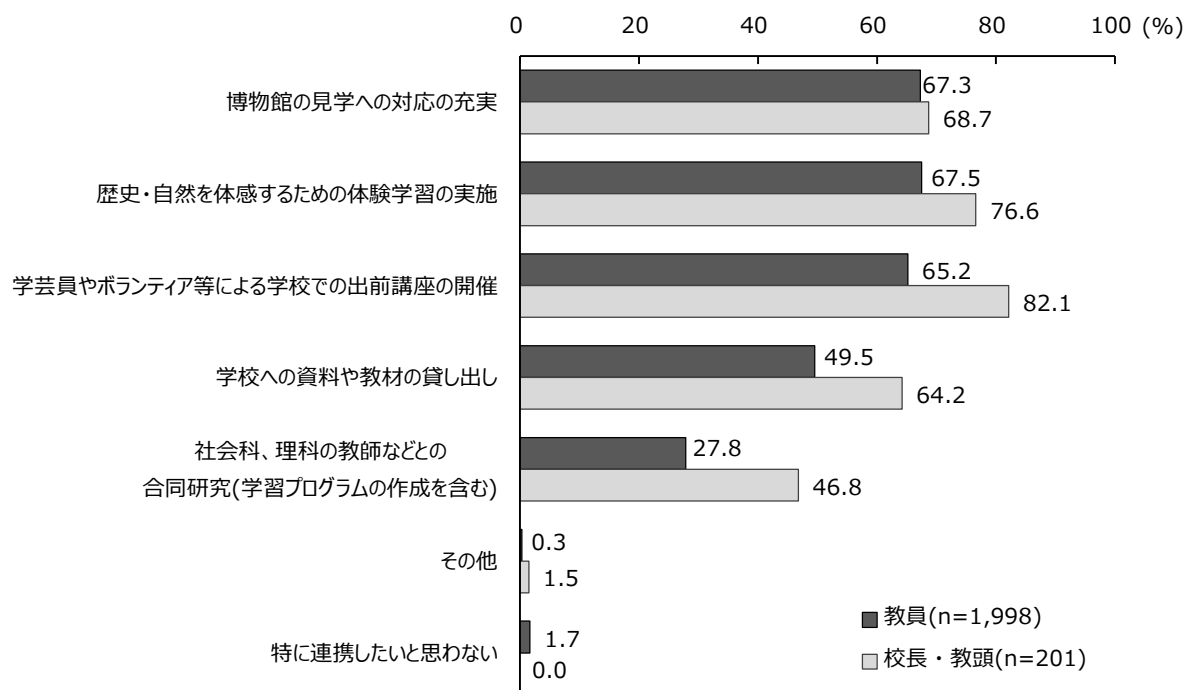
② 博物館と学校の連携

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
				問 25	問 25

問. 博物館が学校と連携して、どのようなことに一層力をいれて取り組むべきだと思いますか。(あてはまるものすべて)

教員、校長・教頭ともに「博物館の見学への対応の充実」(教員 67.3%、校長・教頭 68.7%)、「歴史・自然を体感するための体験学習の実施」(教員 67.5%、校長・教頭 76.6%)、「学芸員やボランティア等による学校での出前講座の開催」(教員 65.2%、校長・教頭 82.1%)が多くなっている。

校長・教頭では「学校への資料や教材の貸し出し」(64.2%)も多い。



③ 鑑賞・見学した回数

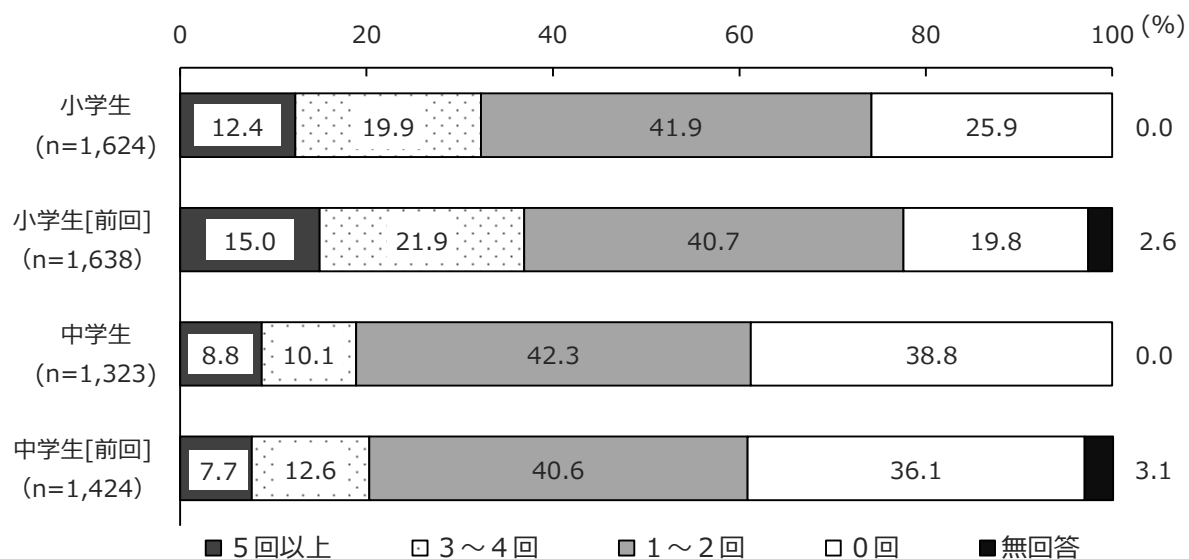
市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 25	問 26			

問. コンサートや文化財など、出かけて行って文化・芸術（アート）の「鑑賞・見学」（豊田市外も含む）を、1年間に何回ぐらいしますか。（1つ）
 ※文化財とは、歴史的な建物、芸術品、天然記念物、祭りなどをさします。
 ホール・劇場・美術館・博物館・映画館・旅行などで直接鑑賞することが対象です。
 学校の授業や遠足などは含みません。

小・中学生ともに「1～2回」（小学生 41.9%、中学生 42.3%）が最も多くなっている。
 次いで、「0回」（小学生 25.9%、中学生 38.8%）、「3～4回」（小学生 19.9%、中学生 10.1%）となっている。

この1年間で鑑賞・見学した（全体から「0回」を除いた）割合は、小学生で 74.1%、中学生で 61.2%となっている。

前回と比べると、小学生で「5回以上」「3～4回」の割合がやや減少している。



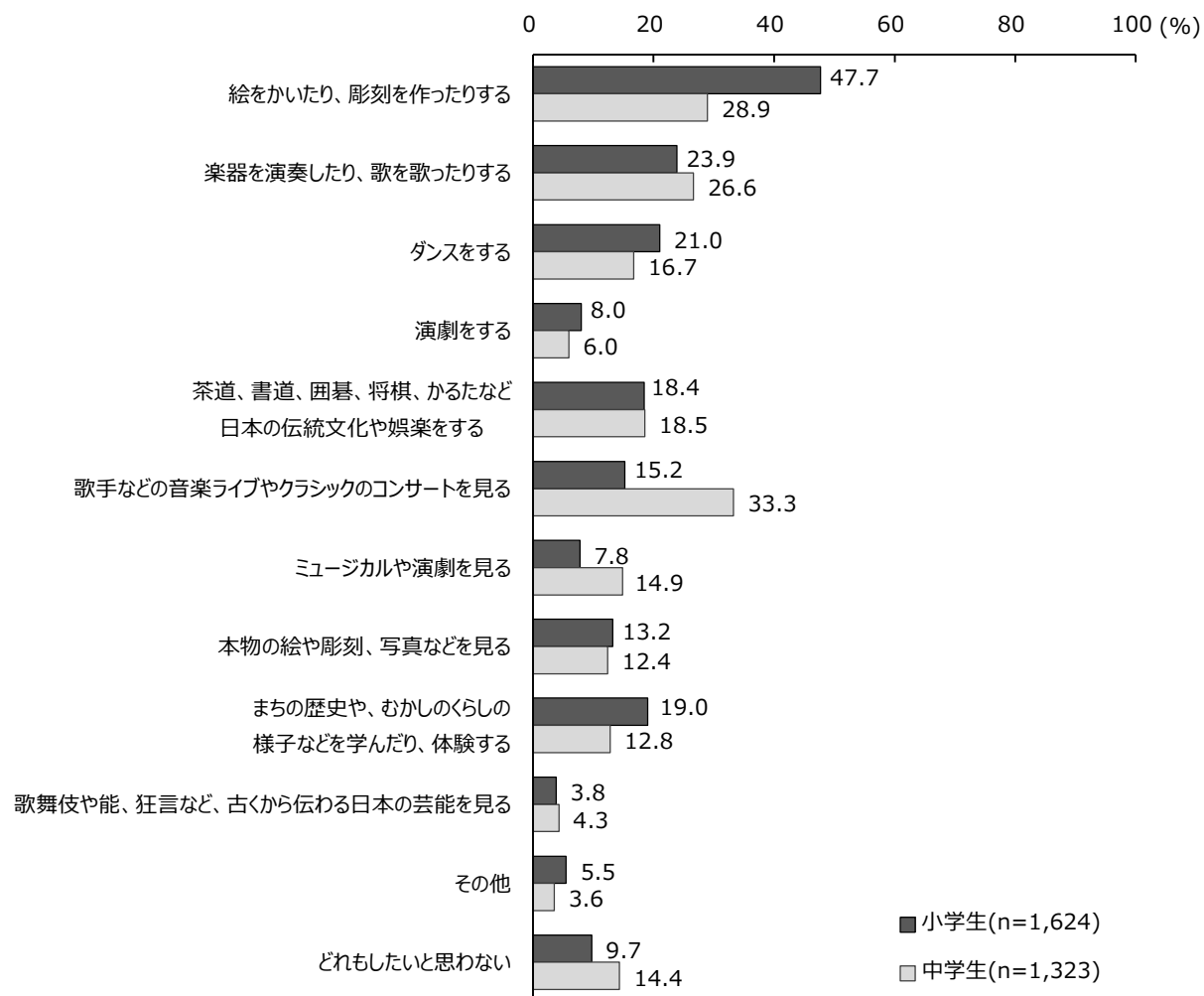
④ 文化鑑賞や文化活動の意向と内容

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 26	問 27			

問. あなたは、次のどのようなことをしたいと思いますか。（3つまで）

小学生では「絵をかいたり、彫刻を作ったりする」が最も多く 47.7%となっている。次いで、「楽器を演奏したり、歌を歌ったりする」（23.9%）、「ダンスをする」（21.0%）が多くなっている。

中学生では「歌手などの音楽ライブやクラシックのコンサートを見る」が最も多く 33.3%となっている。次いで、「絵をかいたり、彫刻を作ったりする」（28.9%）、「楽器を演奏したり、歌を歌ったりする」（26.6%）が多くなっている。

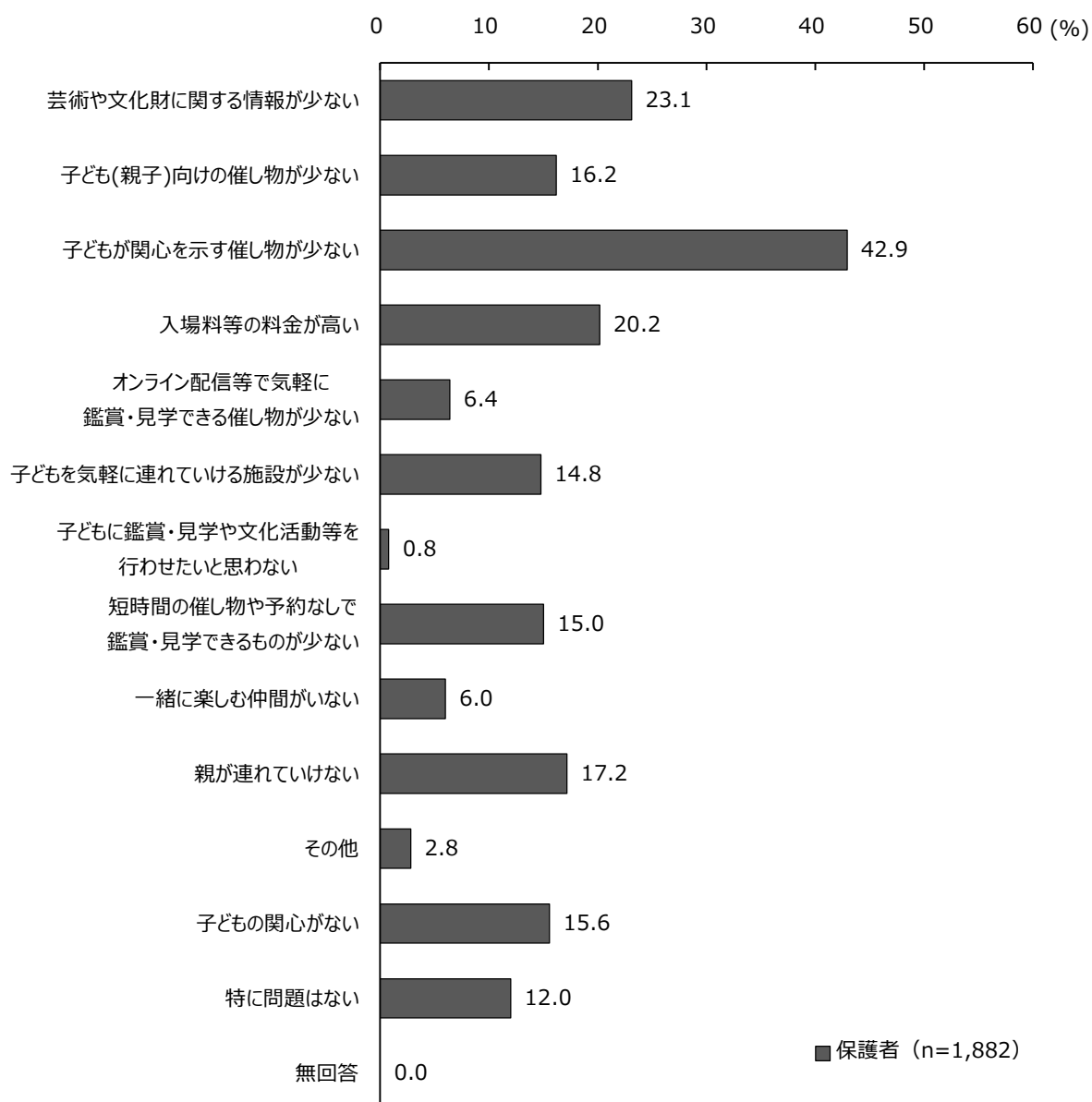


⑤ 子どもの文化鑑賞・活動などで困ること

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
			問 27		

問. お子さんに、芸術や文化財の鑑賞や見学をさせたり、文化活動（習い事やお稽古事を含む）を行わせたいと思ったときに、お困りのことはありますか。（3つまで）

「子どもが関心を示す催し物が少ない」が最も多く 42.9%となっている。次いで、「芸術や文化財に関する情報が少ない」（23.1%）、「入場料等の料金が多い」（20.2%）が多くなっている。

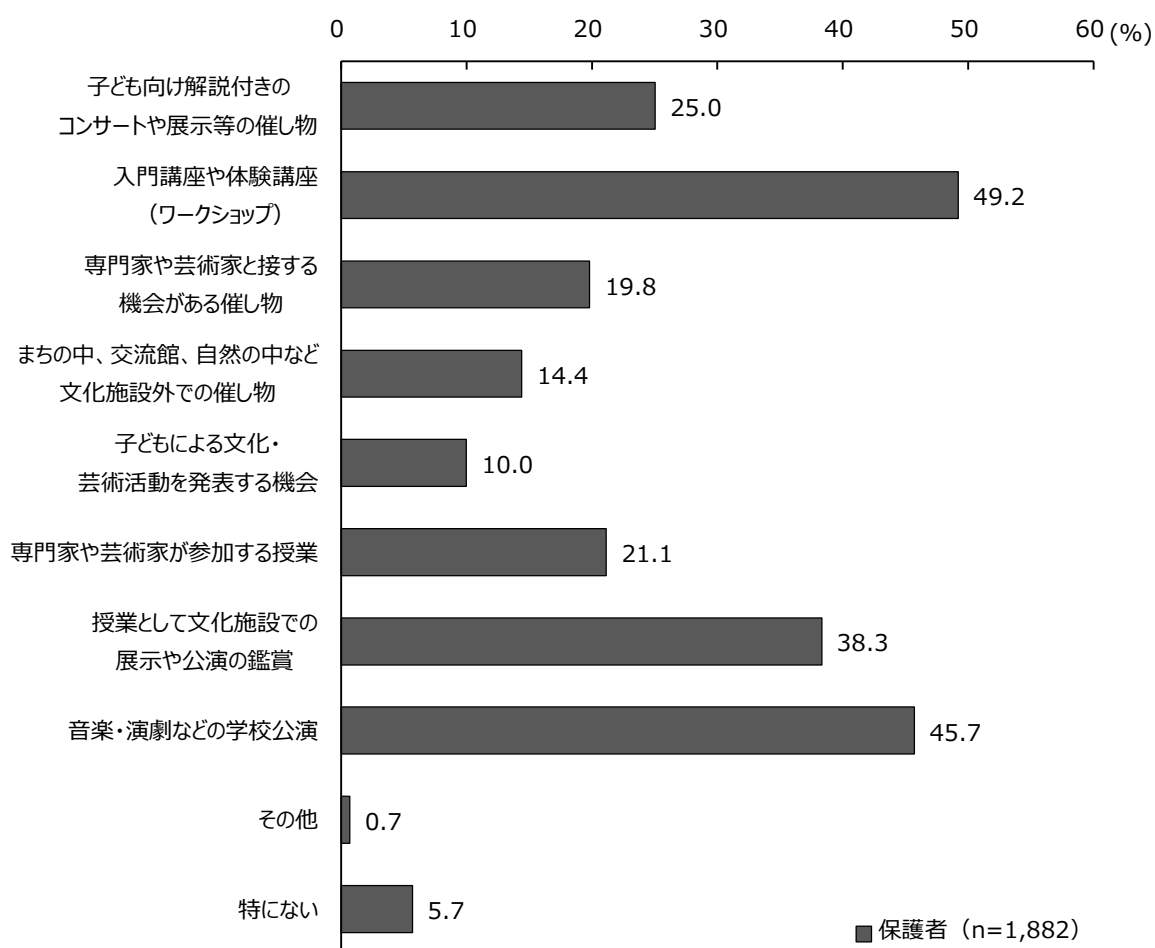


⑥ 充実していくとよい催しものや取組

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
			問 28		

問. お子さんが参加しやすい芸術や文化財の催し物や取組として、今後、充実していくとよいと思うものは何ですか。(3つまで)

「入門講座や体験講座（ワークショップ）」が最も多く 49.2%となっている。次いで、「音楽・演劇などの学校公演」（45.7%）、「授業として文化施設での展示や公演の鑑賞」（38.3%）が多くなっている。



第7章 スポーツについて

1 するスポーツ

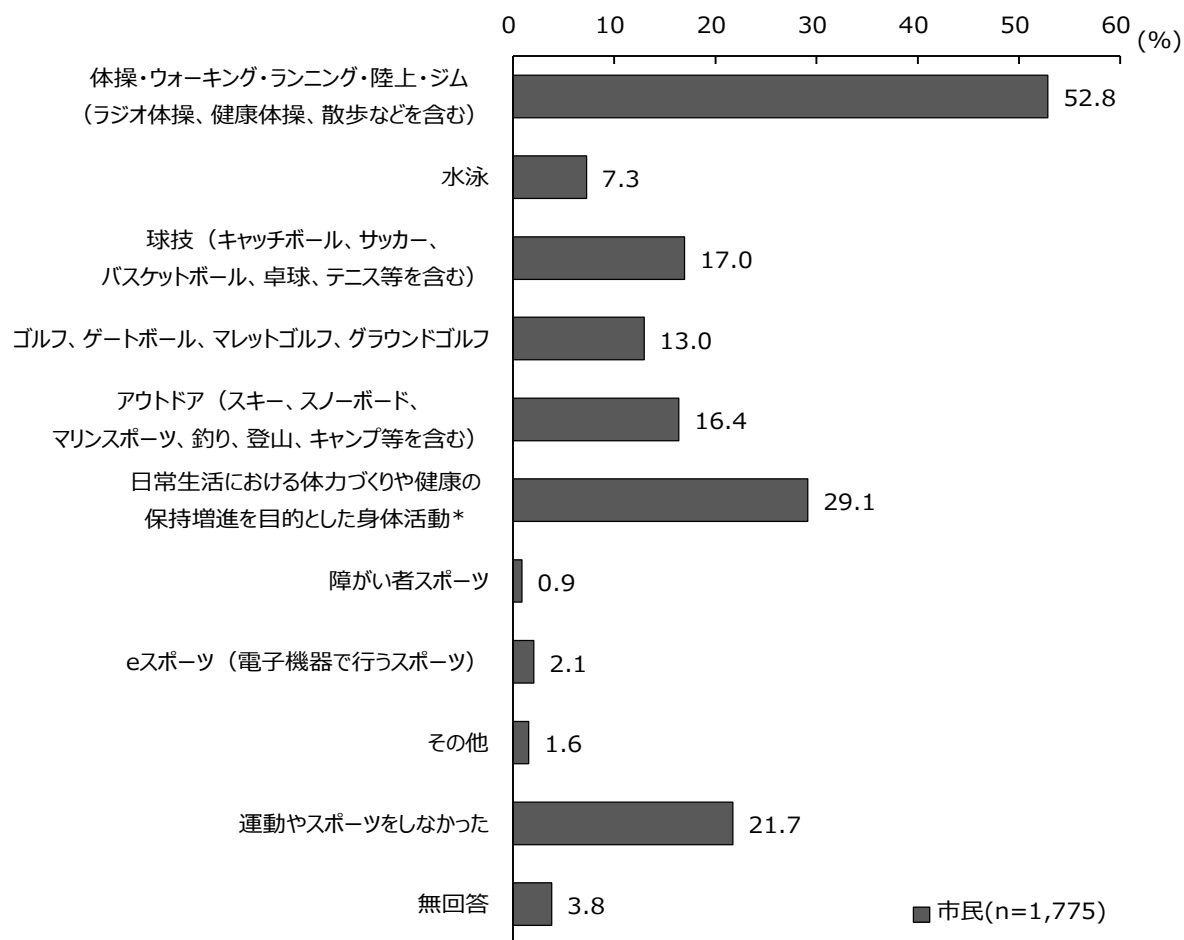
① 運動・スポーツの実施状況と内容

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 26					

問. あなたは、この1年間にどのような運動やスポーツをしましたか。
(あてはまるものすべて)

「体操・ウォーキング・ランニング・陸上・ジム（ラジオ体操、健康体操、散歩などを
含む）」が最も多く 52.8%となっている。次いで、「日常生活における体力づくりや健康の
保持増進を目的とした身体活動（徒歩や自転車による買い物・通勤通学など）」(29.1%)、
「運動やスポーツをしなかった」(21.7%) が多くなっている。

この1年間に運動やスポーツをした市民(全体から「運動やスポーツをしなかった」と
「無回答」を除いた割合)は 74.5%となっている。



*徒歩や自転車による買い物・通勤通学など

年齢別にみると、20歳未満で「球技」「日常生活における体力づくりや健康の保持増進を目的とした身体活動」、40～49歳で「水泳」、20～49歳で「アウトドア」、70歳以上で「ゴルフ、ゲートボール、マレットゴルフ、グラウンドゴルフ」の割合が他の年代と比べて高くなっている。

		体 操 ・ ウ ・ オ ・ 陸 上 ・ ジ ム ・ ラ	水 泳	球 技	マ ゴ ド レ ル ゴ ッ フ ゴ ル フ ト 、 ゲ ル フ ト 、 ボ ー ラ ウ、	ア ウ ト ド ア	目 的 と し た 身 体 活 動	日 常 生 活 に お け る 体 力 の 保 持 増 進 を づ	障 が い 者 ス ポ ー ツ	e ス ポ ー ツ	そ の 他	運 動 や ス ポ ー ツ を し な か っ た	無 回 答
%													
市民	20歳未満	57.4	6.6	65.6	4.9	16.4	45.9	1.6	3.3	3.3	9.8	0.0	
	20～29歳	53.5	6.2	29.5	8.5	24.8	36.4	0.8	12.4	2.3	16.3	0.0	
	30～39歳	55.1	11.6	21.3	4.6	22.7	30.1	0.5	4.2	2.8	21.3	1.4	
	40～49歳	54.9	17.1	21.3	10.5	26.2	30.1	1.4	1.0	1.7	19.6	1.0	
	50～59歳	51.6	5.6	15.9	11.9	18.8	29.1	0.9	1.3	1.3	23.7	2.8	
	60～64歳	52.4	4.1	11.6	15.0	16.3	28.6	0.7	0.7	0.7	23.1	2.0	
	65～69歳	58.0	3.8	8.4	16.8	10.7	28.2	0.0	0.8	0.8	21.4	4.6	
	70～74歳	56.7	2.9	11.1	19.9	7.0	28.1	1.8	0.0	1.2	19.9	5.3	
	75歳以上	45.8	2.9	5.5	19.4	4.8	22.3	0.3	0.3	1.3	27.4	11.0	

② 運動・スポーツの実施頻度

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 27					

※運動・スポーツ実施状況と内容で、運動やスポーツをしたと回答した方

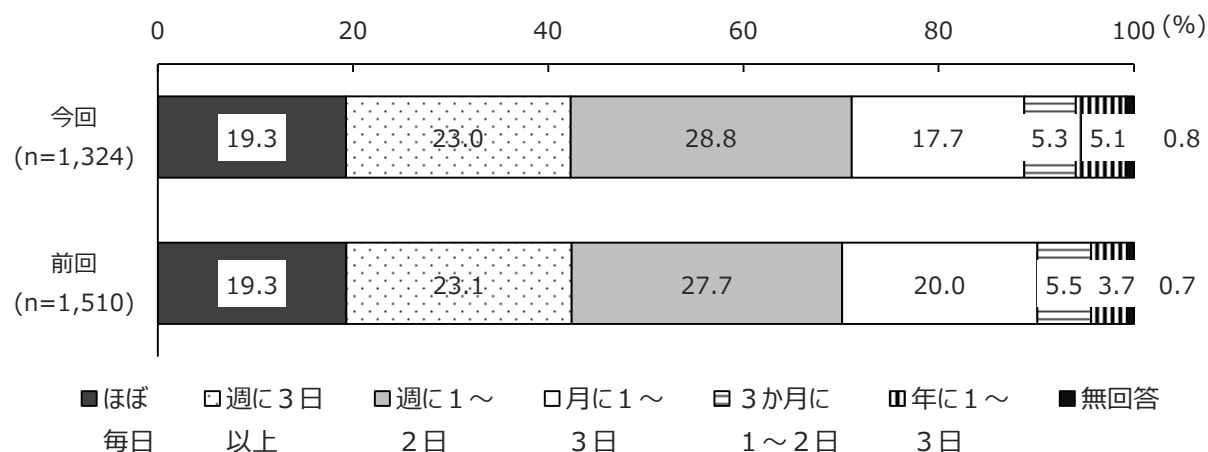
問. 運動やスポーツをした日数を全部合わせると、どのくらいの頻度になりますか。(1つ)

「週に1～2日」が最も多く28.8%となっている。次いで、「週に3日以上」(23.0%)、「ほぼ毎日」(19.3%)が多くなっている。

週に1日以上運動・スポーツをしている市民の割合は、「ほぼ毎日」「週に3日以上」「週に1～2日」の合計71.1%に、この1年間に運動やスポーツをした市民の割合74.5%を乗じた53.0%となっている。

前回と比べても、大きな変化はみられない。

年齢別にみると、29歳以下と70歳以上で「ほぼ毎日」の割合が他の年代と比べて高い。



	%	ほぼ毎日	週に3日以上	週に1～2日	月に1～3日	3か月に1～2日	年に1～3日	無回答
市民	20歳未満	29.1	20.0	30.9	7.3	5.5	5.5	1.8
	20～29歳	23.1	19.4	23.1	16.7	8.3	7.4	1.9
	30～39歳	17.4	24.0	27.5	17.4	6.6	7.2	0.0
	40～49歳	13.7	13.2	32.6	23.3	8.4	7.9	0.9
	50～59歳	13.6	24.6	34.7	17.8	2.5	6.8	0.0
	60～64歳	14.5	30.0	20.9	21.8	10.0	1.8	0.9
	65～69歳	19.6	30.9	29.9	13.4	4.1	2.1	0.0
	70～74歳	26.2	30.8	26.9	12.3	2.3	0.8	0.8
	75歳以上	27.7	22.0	25.1	17.8	2.1	3.1	2.1

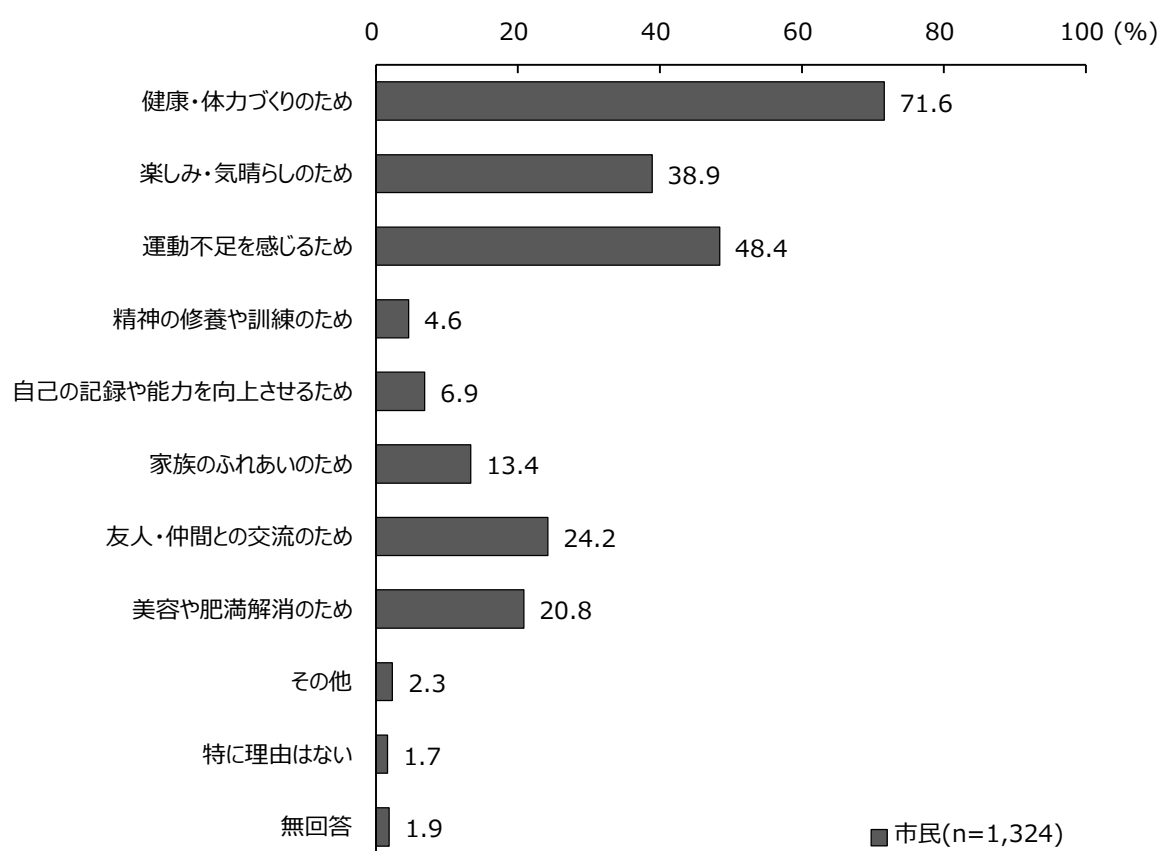
③ 運動・スポーツをする理由

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 28					

※運動・スポーツ実施状況と内容で、運動やスポーツをしたと回答した方

問. 運動やスポーツをしたのはどのような理由からですか。(あてはまるものすべて)

「健康・体力づくりのため」が最も多く 71.6%となっている。次いで、「運動不足を感じるため」(48.4%)、「楽しみ・気晴らしのため」(38.9%)が多くなっている。



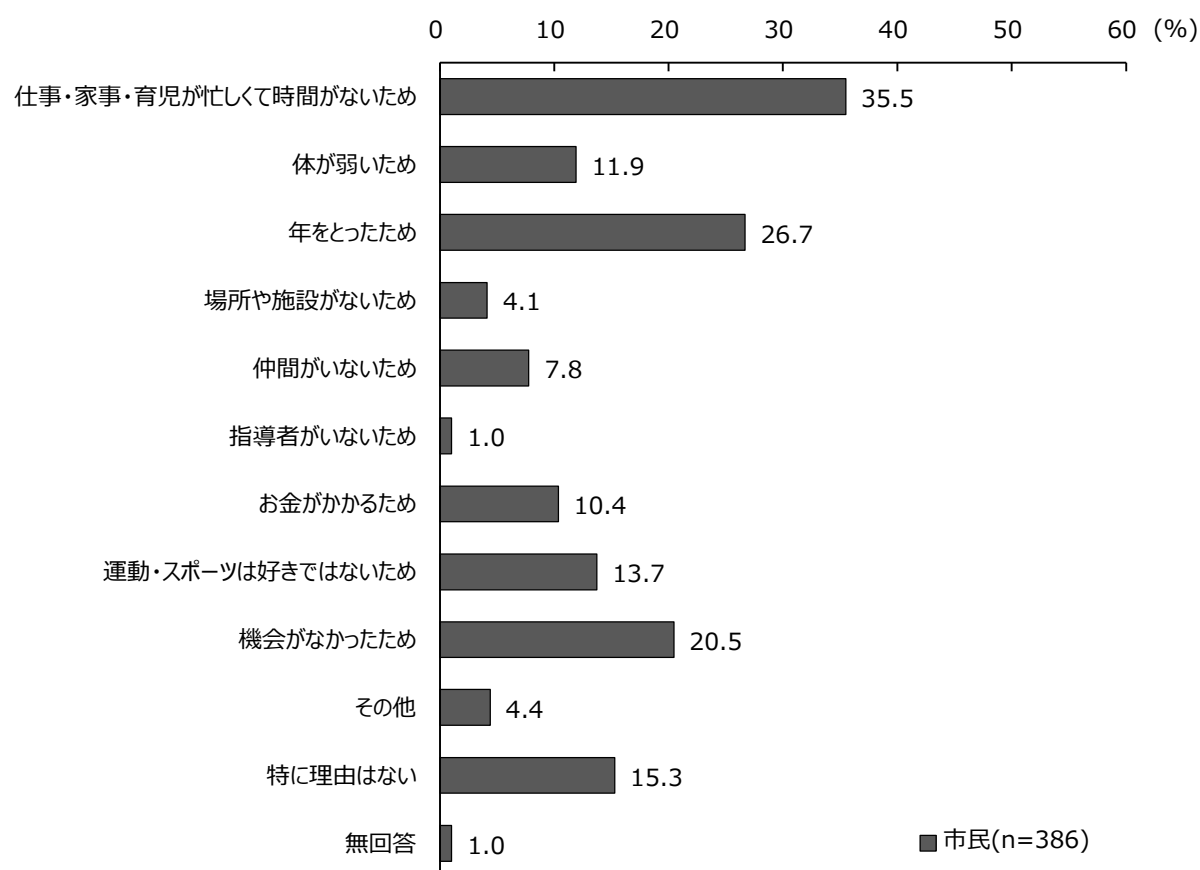
④ 運動・スポーツをしなかった理由

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 29					

※運動・スポーツ実施状況と内容で、運動やスポーツをしていないと回答した方

問. 運動やスポーツをしなかったのはどのような理由からですか。
(あてはまるものすべて)

「仕事・家事・育児が忙しくて時間がないため」が最も多く 35.5%となっている。次いで、「年をとったため」(26.7%)、「機会がなかったため」(20.5%)が多くなっている。



年齢別にみると、20 歳未満は「特に理由はない」、30～64 歳は「仕事・家事・育児が忙しくて時間がないため」、65 歳は「年をとったため」の割合が最も高い。

		仕事・家事・育児が忙 し く て 時 間 が な い た め 忙 め	体 が 弱 い た め	年 を と っ た た め	場 所 や 施 設 が な い た め	仲 間 が い な い た め	指 導 者 が い な い た め	お 金 が か か る た め	運 動 ・ ス ポ ー ツ は 好 き で は な い た め	機 会 が な か っ た た め	そ の 他	特 に 理 由 は な い	無 回 答
	%												
市民	20歳未満	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7	33.3	0.0
	20～29歳	52.4	4.8	4.8	4.8	9.5	0.0	4.8	19.0	19.0	4.8	19.0	0.0
	30～39歳	65.2	0.0	0.0	4.3	2.2	0.0	2.2	15.2	21.7	4.3	15.2	2.2
	40～49歳	60.7	7.1	8.9	5.4	10.7	1.8	25.0	19.6	25.0	1.8	10.7	0.0
	50～59歳	46.1	2.6	10.5	5.3	11.8	2.6	17.1	17.1	32.9	3.9	10.5	0.0
	60～64歳	38.2	17.6	20.6	0.0	2.9	0.0	11.8	11.8	11.8	2.9	29.4	0.0
	65～69歳	17.9	10.7	35.7	10.7	7.1	0.0	10.7	21.4	21.4	0.0	21.4	0.0
	70～74歳	14.7	35.3	55.9	2.9	8.8	2.9	2.9	5.9	17.6	2.9	14.7	0.0
	75歳以上	4.7	20.0	62.4	2.4	7.1	0.0	2.4	5.9	11.8	8.2	12.9	3.5

⑤ 子どもの学校以外での運動・スポーツの実施頻度

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 27	問 28			

問. あなたは、この1年間にどのくらい運動やスポーツをしましたか。(1つ)

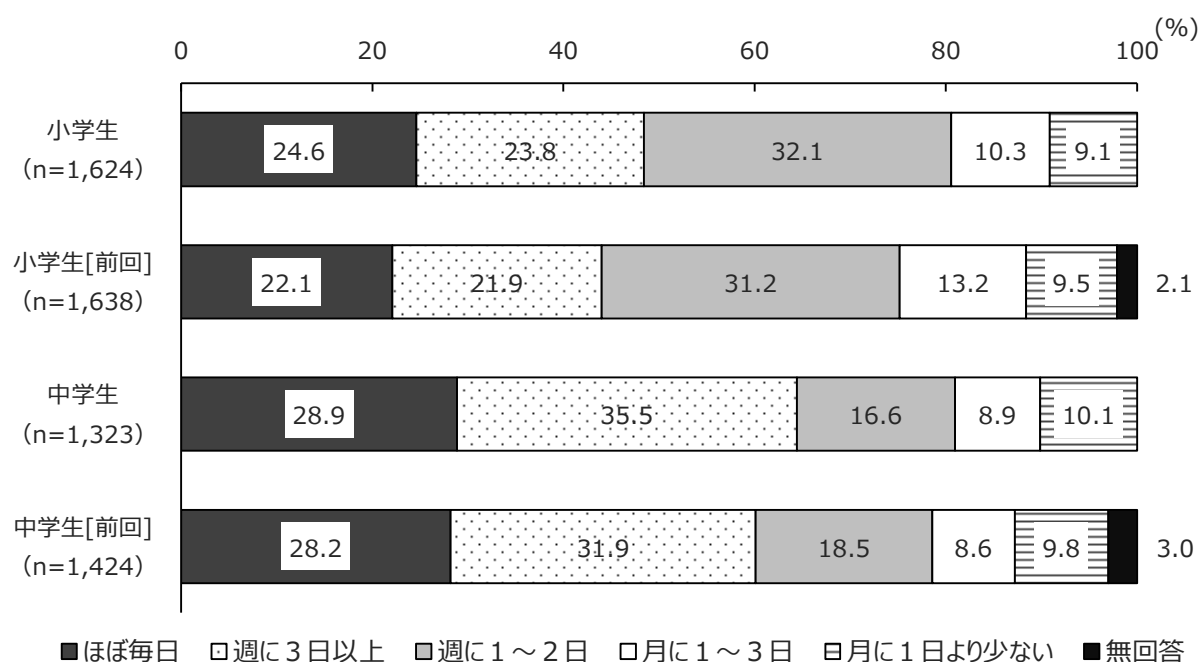
※学校の体育の授業や行事は除きますが、地域でのクラブ活動は含みます。

※体操、ランニング、陸上、水泳、球技、武道、スキー、キャンプ、ダンスなどを含みます。

小学生では「週に1～2日」が最も多く 32.1%、中学生では「週に3日以上」が最も多く 35.5%となっている。

週に1日以上運動・スポーツをしている(「ほぼ毎日」「週に3日以上」「週に1～2日」の合計)小学生は 80.5%、中学生は 81.0%となっている。

前回と比べると、小・中学生ともに「ほぼ毎日」「週に3日以上」の割合がやや増加している。



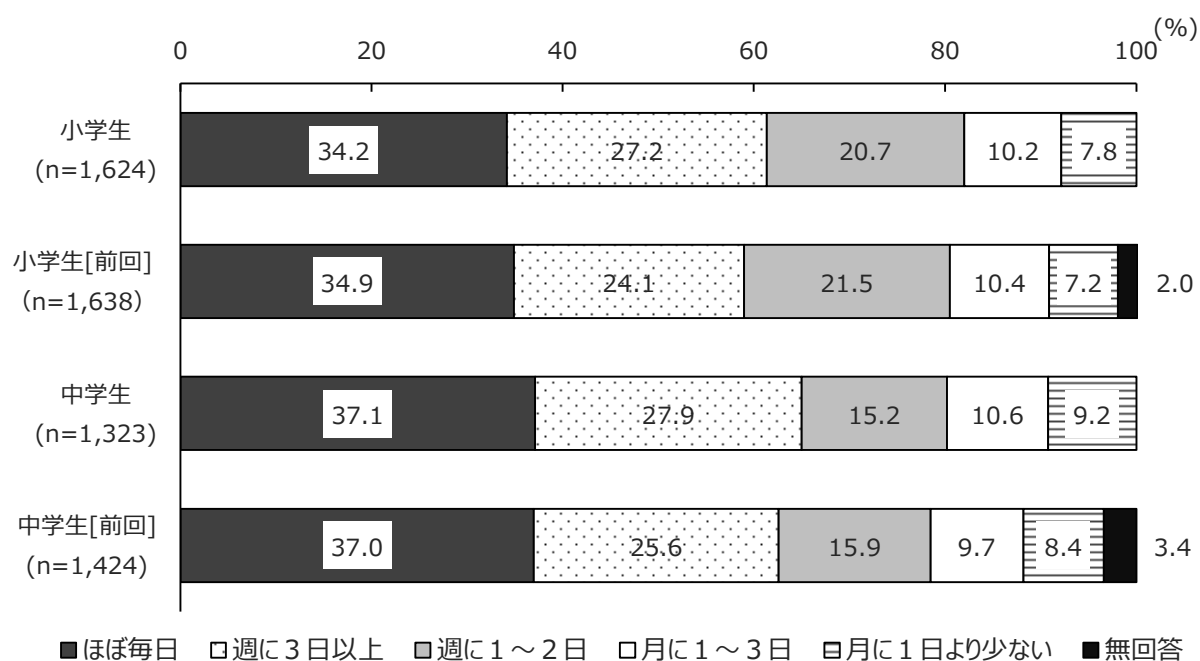
⑥ 子どもの軽い運動を加えたスポーツの実施頻度

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 28	問 29			

問. 前問の運動やスポーツに公園での遊びなど軽い運動を加えると、どのくらいになりますか。(1つ)

小・中学生ともに「ほぼ毎日」(小学生 34.2%、中学生 37.1%) が最も多くなっている。次いで、「週に3日以上」(小学生 27.2%、中学生 27.9%)、「週に1～2日」(小学生 20.7%、中学生 15.2%) が多くなっている。

前回と比べると、小・中学生ともに、「週に3日以上」の割合がやや高くなっている。



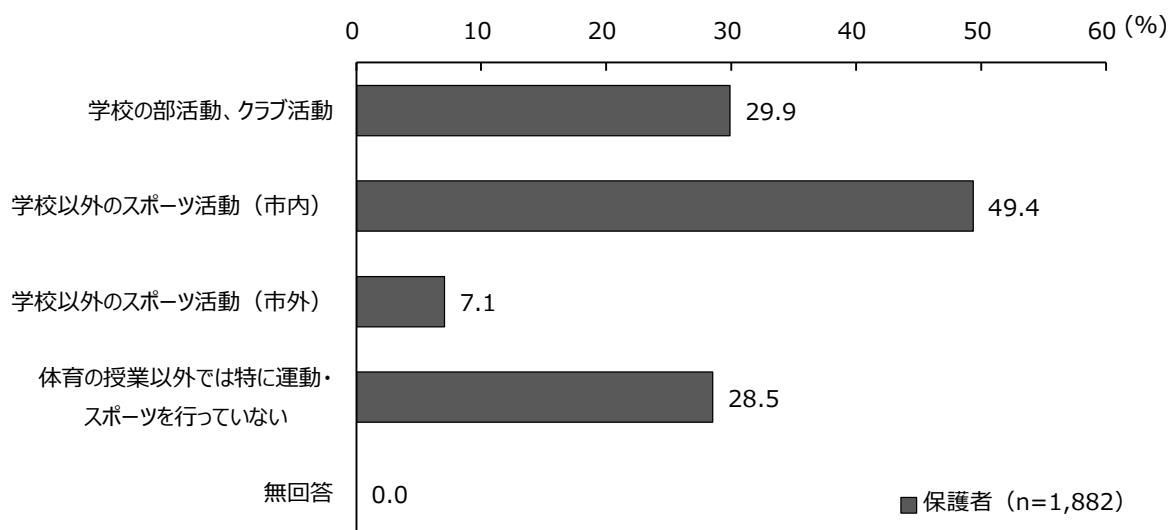
⑦ 子どもの学校以外での運動・スポーツの実施状況

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
			問 29		

問. あなたのお子さんは、この1年間に運動・スポーツを学校での体育の授業以外で、どのようなところで取り組んでいますか。(あてはまるものすべて)

「学校以外のスポーツ活動（市内）」が最も多く 49.4%となっている。次いで、「学校の部活動、クラブ活動」（29.9%）、「体育の授業以外では特に運動・スポーツを行っていない」（28.5%）が多くなっている。

学校種別では、小学生は「学校以外のスポーツ活動（市内）」、中学生は「学校の部活動、クラブ活動」の割合が最も高くなっている。



		学校の部活動、クラブ活動 (%)	学校以外のスポーツ活動（市内） (%)	学校以外のスポーツ活動（市外） (%)	体育の授業以外では特に運動・スポーツを行っていない (%)	無回答 (%)
保護者	小学生	12.0	60.8	6.2	30.7	0.0
	中学生	57.3	31.9	8.5	25.3	0.0

2 みるスポーツ

① スポーツ観戦の状況

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
	問 29	問 30			

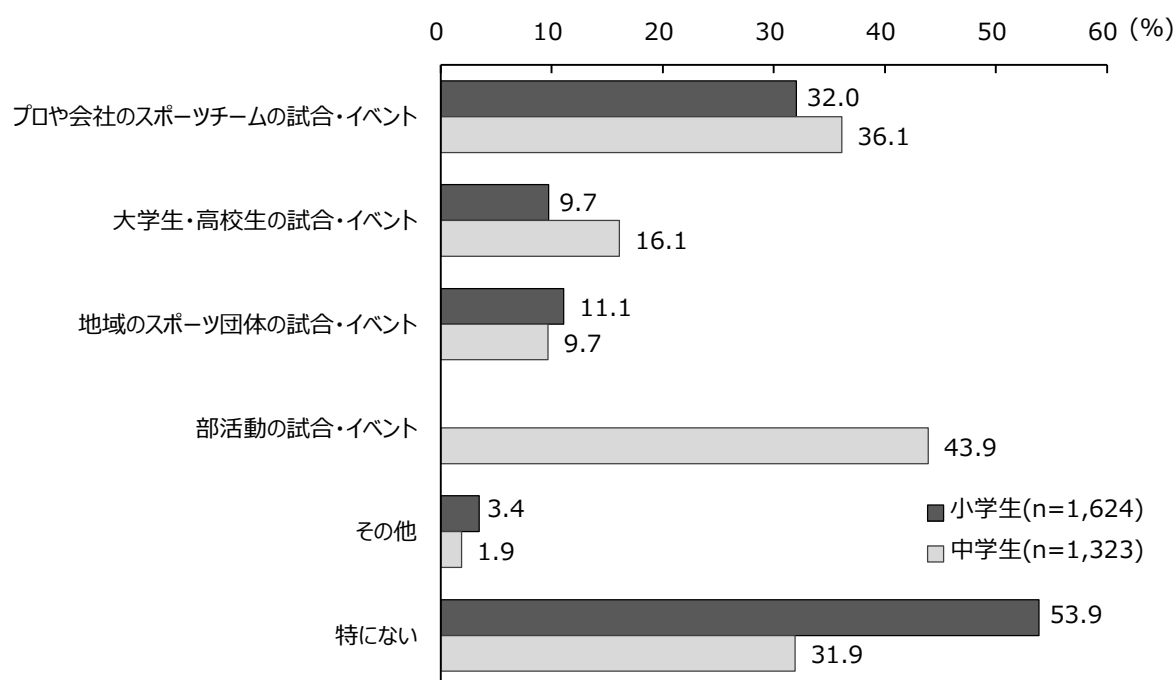
問. この1年間に直接スポーツの試合・イベントなどを見たことがありますか。(あてはまるものすべて)

※体操、陸上、水泳、球技、武道、格闘技、ウィンタースポーツ、ダンスなどを含みます。

観戦の内容として、小学生では「プロや会社のスポーツチームの試合・イベント」が最も多く 32.0%となっている。

中学生では「部活動の試合・イベント」が最も多く 43.9%となっている。次いで、「プロや会社のスポーツチームの試合・イベント」(36.1%)が多くなっている。

スポーツ観戦をした割合は(全体から「特にない」を除いた割合)は小学生で 46.1%、中学生で 68.1%となっている。



前回と比べると、小・中学生ともに「プロや会社のスポーツチームの試合・イベント」などスポーツ観戦のそれぞれの項目で総じて割合が高くなっている。

	小学生		中学生	
	今回 (n=1,624)	前回 (n=1,638)	今回 (n=1,323)	前回 (n=1,424)
プロや会社のスポーツチームの試合・イベント	32.0	30.5	36.1	29.4
大学生・高校生の試合・イベント	9.7	5.8	16.1	12.9
地域のスポーツ団体の試合・イベント	11.1	8.0	9.7	6.1
部活動の試合・イベント	-	12.5	43.9	39.5
その他	3.4	4.5	1.9	1.2
特になし	53.9	52.4	31.9	37.9
無回答	0.0	1.8	0.0	3.6

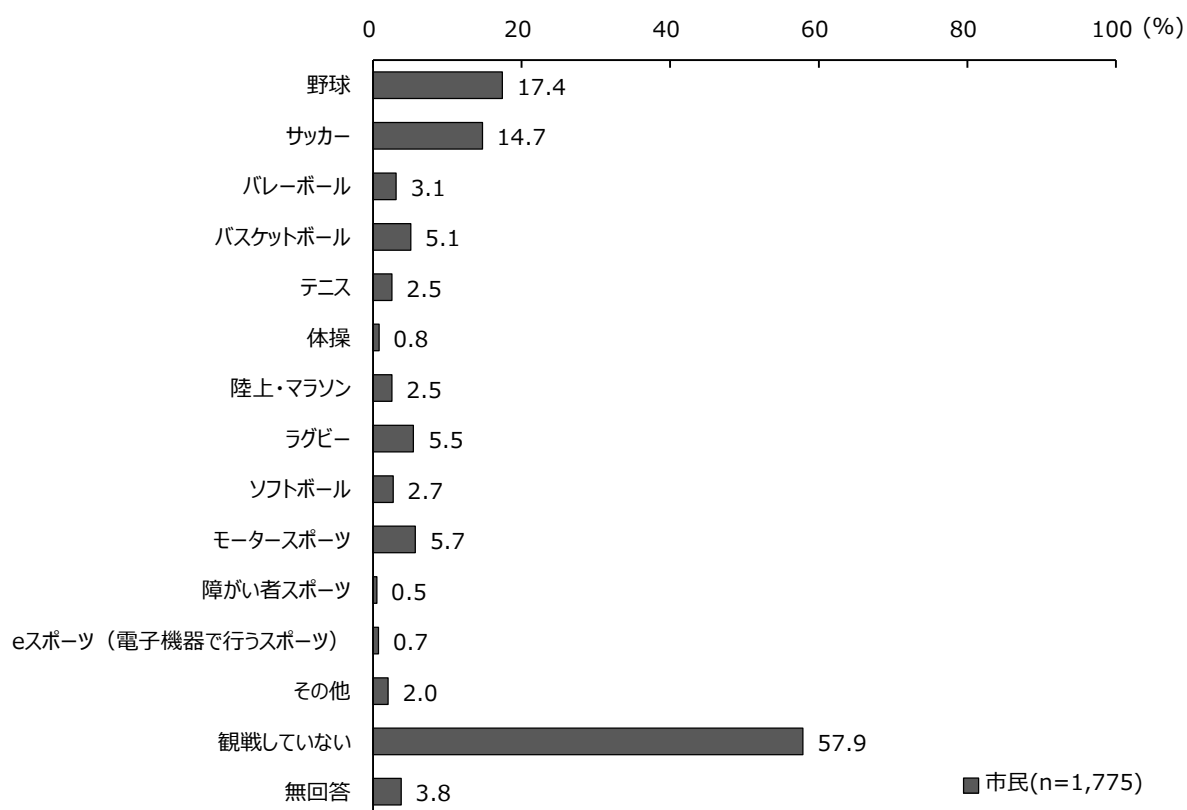
② スポーツ観戦した種目

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 31	問 30	問 31			

問. あなたは1年間で、どのようなスポーツを直接現地で観戦しましたか。(あてはまるものすべて)

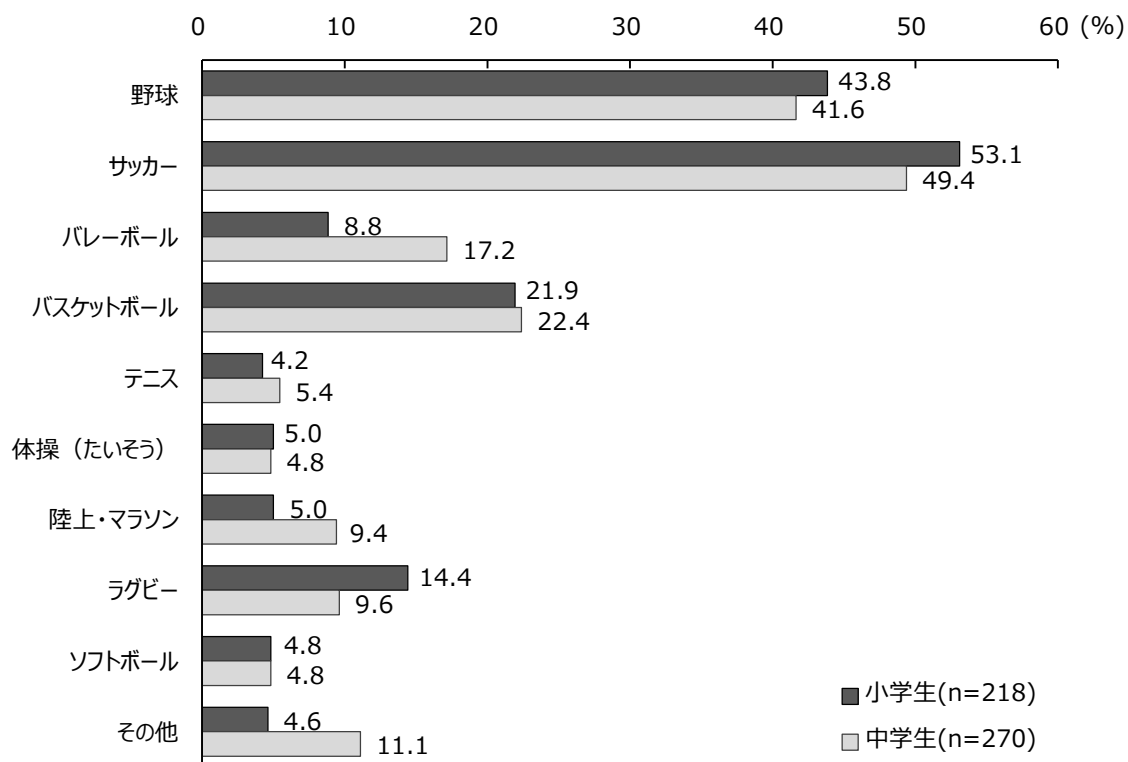
観戦した種目について、「野球」(17.4%)、「サッカー」(14.7%)が多くなっている。

この1年間にスポーツを直接観戦した市民(全体から「観戦していない」と「無回答」を除いた割合)は38.3%となっている。



※スポーツの観戦状況で、プロや実業団のスポーツの試合・イベントを見たことがあると回答した方
問. 試合・イベントで観たのは何のスポーツですか。(あてはまるものすべて)

小・中学生ともに「サッカー」(小学生 53.1%、中学生 49.4%) が最も多くなっている。
次いで、「野球」(小学生 43.8%、中学生 41.6%) が多くなっている。



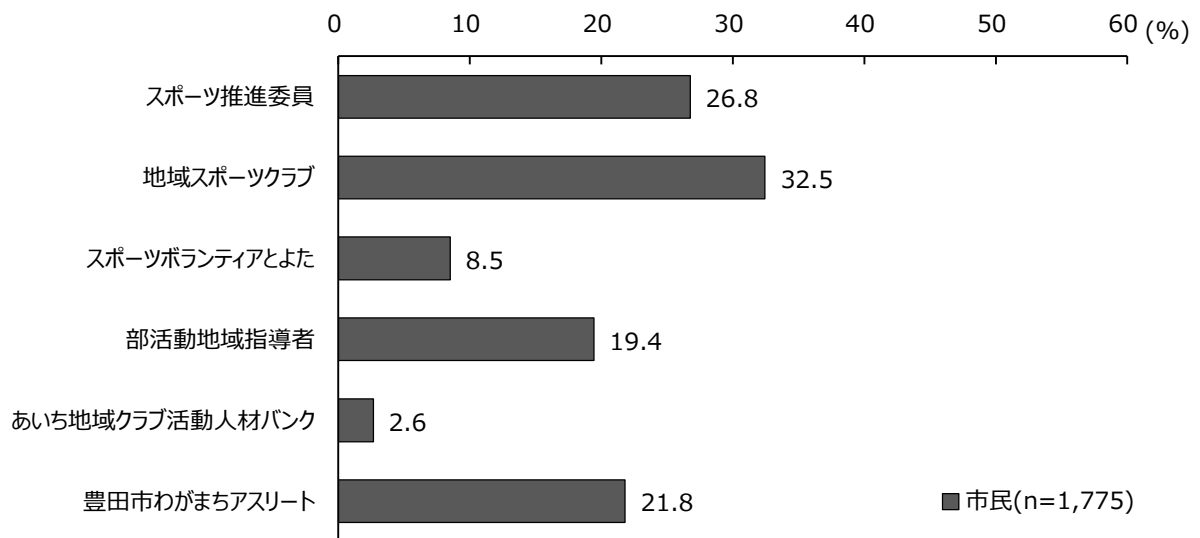
3 支えるスポーツ

① スポーツに関する取組や人材の認知度

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 30					

問. あなたは、次のことをご存知ですか。(知っているものすべて)

「地域スポーツクラブ」(32.5%)、「スポーツ推進委員」(26.8%)が比較的多く知っている。「あいち地域クラブ活動人材バンク」は2.6%、「スポーツボランティアとよた」は8.5%にとどまっている。



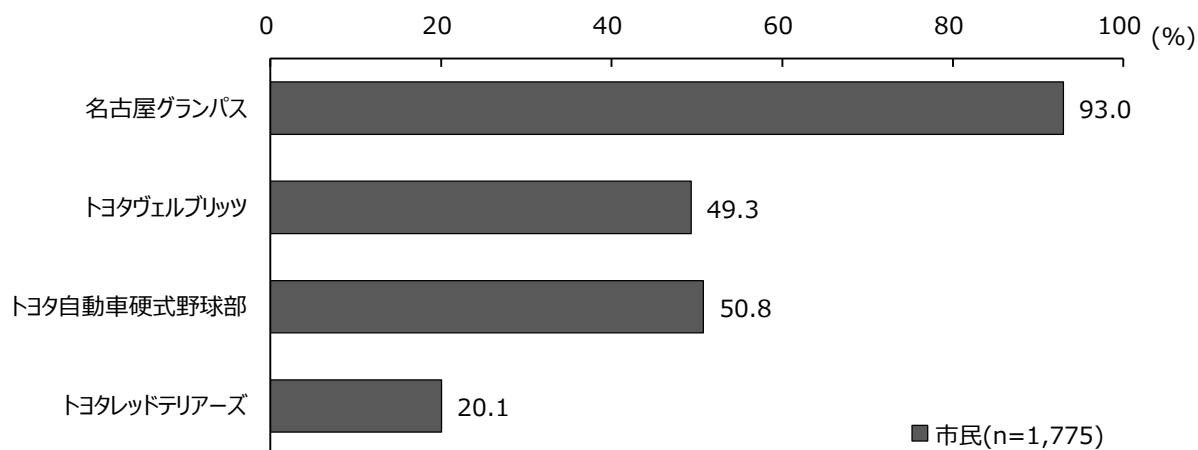
② スポーツチームの認知度

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 33					

問. あなたは、次のことをご存知ですか。(知っているものすべて)

「名古屋グランパス」が最も多く 93.0%となっている。次いで、「トヨタ自動車硬式野球部」(50.8%)、「トヨタヴェルブリッツ」(49.3%) が多くなっている。

年齢別にみると、「トヨタヴェルブリッツ」は 30～59 歳、「トヨタ自動車硬式野球部」は 60～74 歳で他の年代と比べて割合が高くなっている。



		名古屋グ ランパス	トヨタヴェ ルブリッツ	トヨタ自動 車硬式野 球部	トヨタレッド テリアーズ	無回答
	%					
市民	20歳未満	86.9	37.7	26.2	13.1	6.6
	20～29歳	93.0	40.3	36.4	16.3	3.9
	30～39歳	94.0	56.5	44.4	22.7	5.6
	40～49歳	95.5	61.2	48.6	24.1	2.4
	50～59歳	95.6	56.6	47.2	24.4	3.8
	60～64歳	95.2	51.7	59.9	27.2	4.8
	65～69歳	95.4	52.7	63.4	19.8	4.6
	70～74歳	93.0	49.7	63.2	19.9	6.4
	75歳以上	86.5	29.7	54.8	10.0	12.9

③ スポーツ支援への参加状況

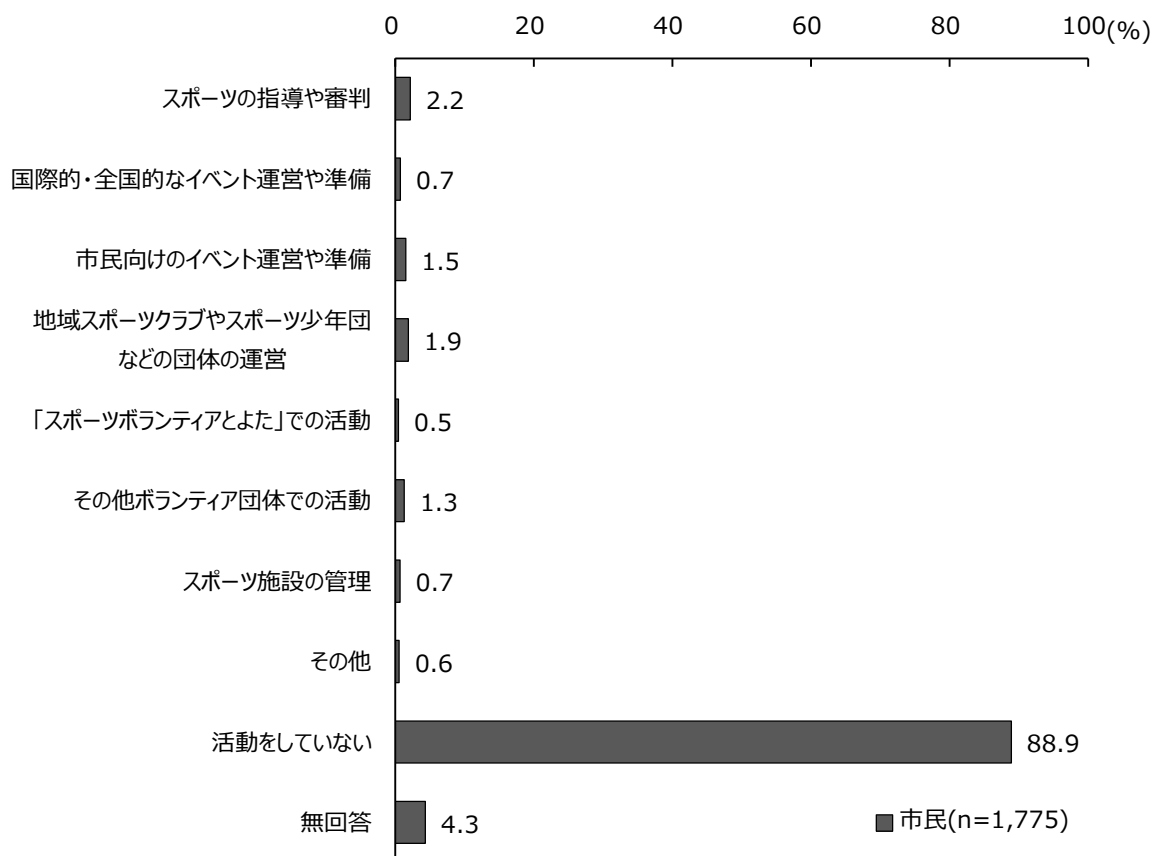
市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 34					

問. この1年間で、どのようなスポーツを支える活動（有償・無償いずれも含む）に参加しましたか。（あてはまるものすべて）

※コーチ、審判、大会運営、団体運営、スポーツ施設の管理などスポーツに関わる活動（報償があるもの、ボランティア活動のもの、いずれも含みます。）

「活動をしていない」が最も多く 88.9%となっている。活動内容をみると、「スポーツの指導や審判」が 2.2%、「地域スポーツクラブやスポーツ少年団などの団体の運営」が 1.9%などとなっている。

この1年間にスポーツを支える活動に参加した市民(全体から「活動をしていない」と「無回答」を除いた割合)は 6.8%となっている。



④ 学校以外でのスポーツ指導の状況

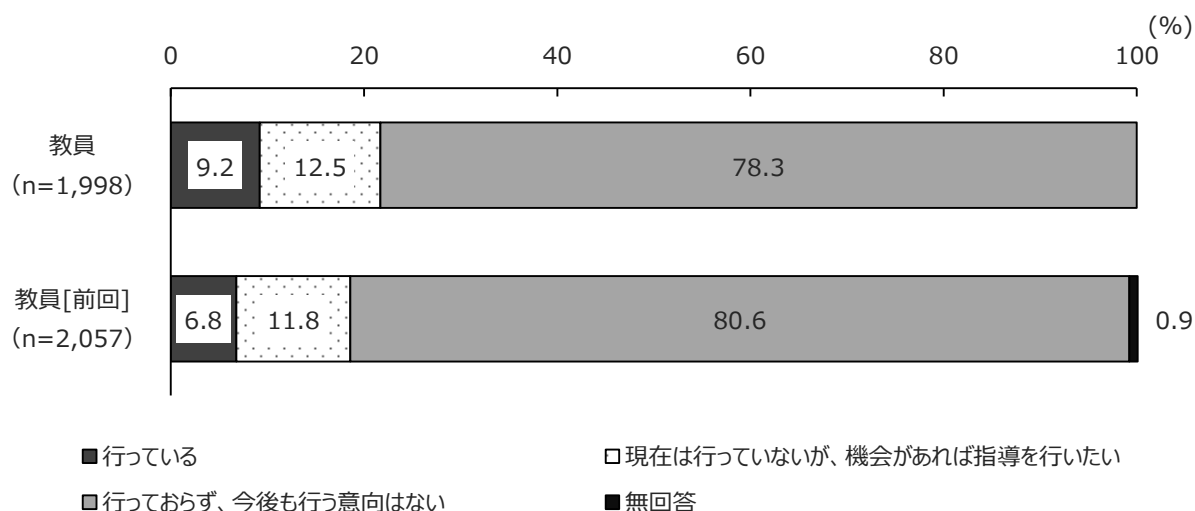
市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
				問 26	

問. 体育の授業や中学校の部活動以外で、業務時間外に地域のクラブなどでスポーツの指導（部活動地域指導含む）を行っていますか。（1つ）

「行っている」が 9.2%、「現在は行っていないが、機会があれば指導を行いたい」が 12.5%となっている。

前回と比べると「行っている」の割合がやや増加している。

「行っている」の割合は、年齢別では 39 歳以下、学校別では中学校でやや高くなっている。



		行 っ て い る	ば い 現 指 が 在 導 、 は を 機 行 会 っ い が て た あ い れ な	い 後 行 も っ 行 て う お 意 ら 向 ず は 、 な 今
		%		
教員	29歳以下	11.8	14.1	74.0
	30～39歳	10.9	12.6	76.5
	40～49歳	8.4	12.1	79.5
	50～59歳	3.9	9.3	86.8
	60歳以上	5.2	12.6	82.2
	小学校	7.5	11.0	81.6
	中学校	12.4	15.2	72.4

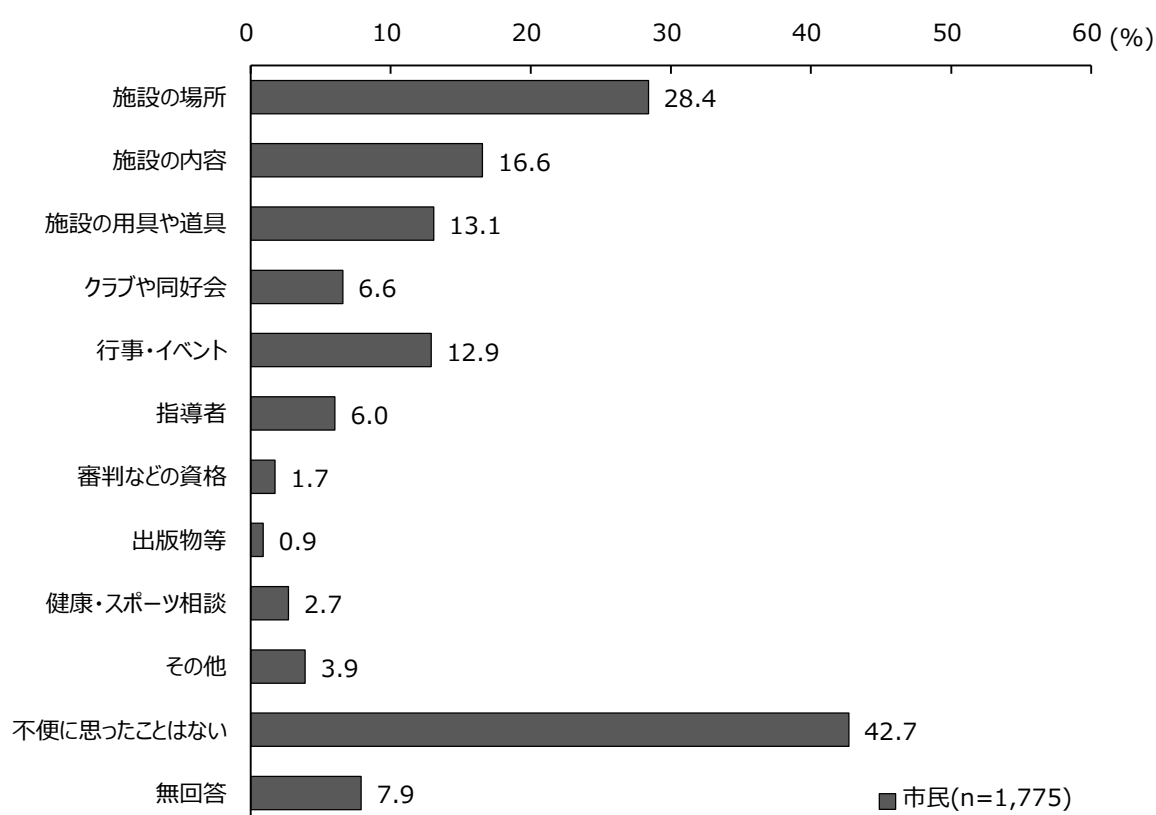
4 スポーツ振興に向けて

① スポーツ情報で不足している内容

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 35					

問. 運動やスポーツを行う上で、どのような情報が不足し、不便に思ったことがありますか。(3つまで)

「不便に思ったことはない」が最も多く 42.7%となっている。次いで、「施設の場所」(28.4%)、「施設の内容」(16.6%)が多くなっている。

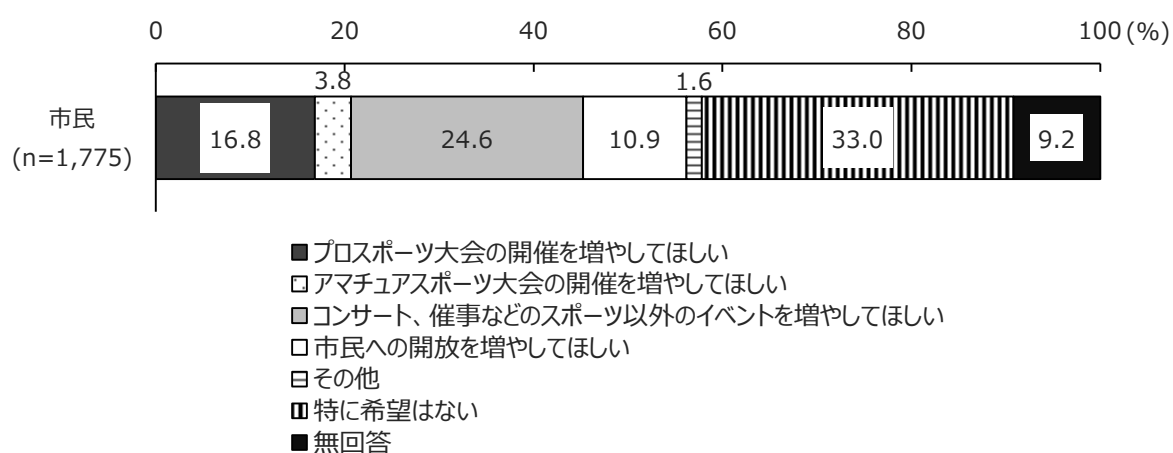


② 豊田スタジアム等の利活用

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 32					

問. 豊田スタジアム、スカイホール豊田の利活用について、どのように思いますか。(1つ)

「特に希望はない」が最も多く 33.0%となっている。次いで、「コンサート、催事などのスポーツ以外のイベントを増やしてほしい」(24.6%)、「プロスポーツ大会の開催を増やしてほしい」(16.8%)が多くなっている。

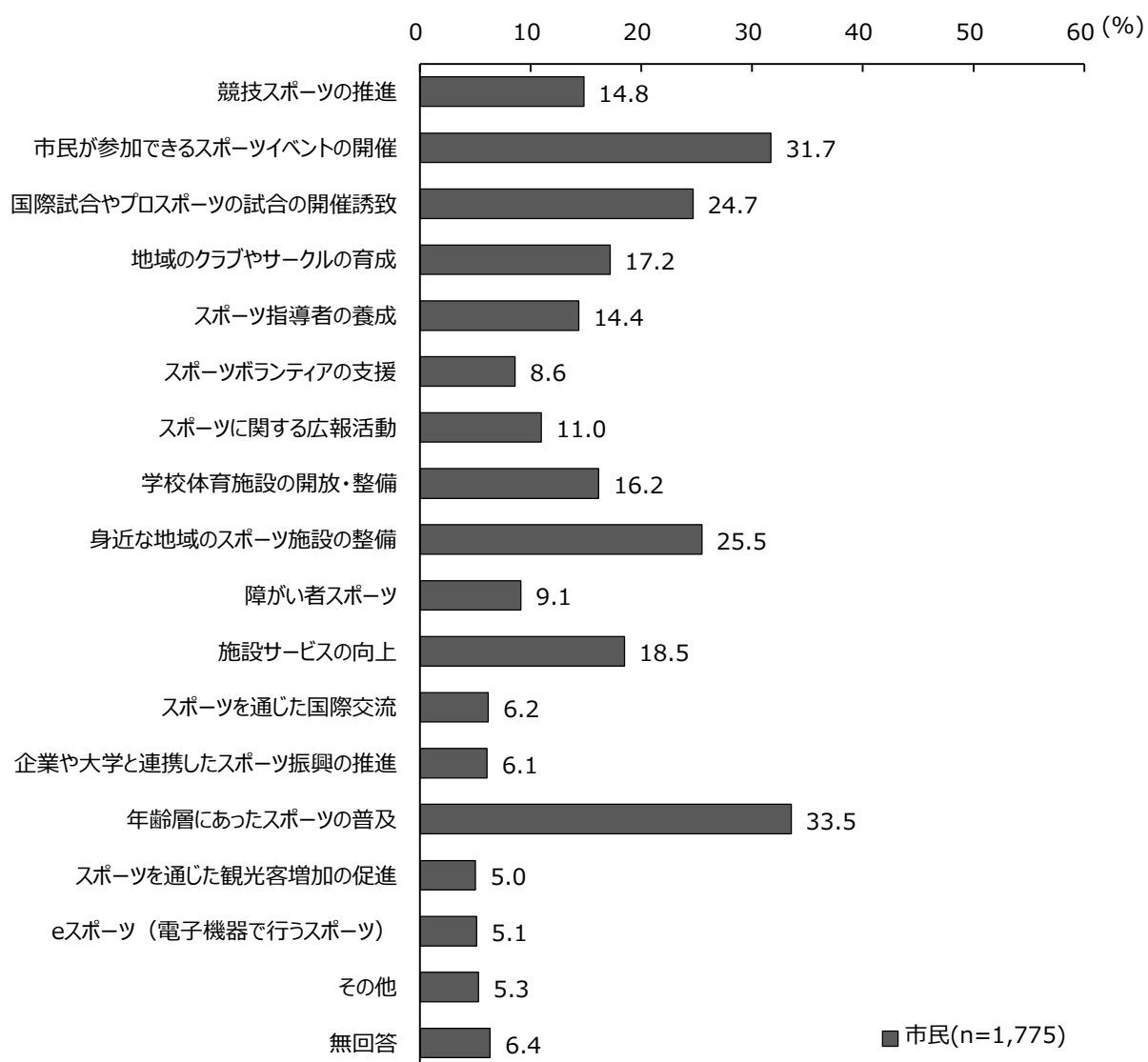


③ 市が力を入れるべきこと

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 36					

問. 運動やスポーツに関して、豊田市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（5つまで）

「年齢層にあったスポーツの普及」（33.5%）、「市民が参加できるスポーツイベントの開催」（31.7%）が多くなっている。



第8章 教育行政について

1 教育委員会による学校支援

① 職務上の多忙感

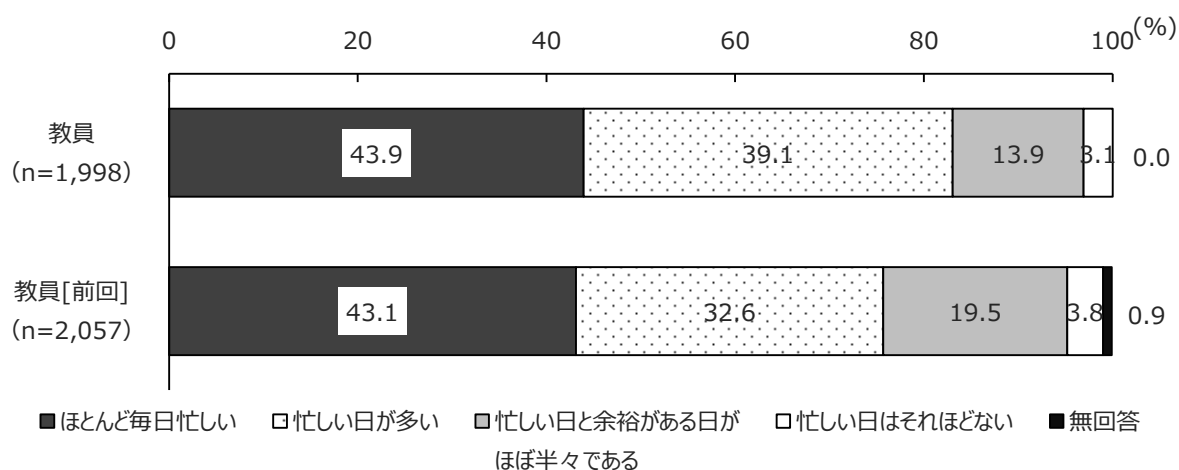
市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
				問 27	

問. あなたは、ご自身の職務について、どのくらい忙しいと感じていますか。(1つ)

「ほとんど毎日忙しい」が最も多く 43.9%となっている。次いで、「忙しい日が多い」(39.1%)、「忙しい日と余裕がある日がほぼ半々となっている」(13.9%)が多くなっている。

前回と比べると、「忙しい日が多い」の割合が増加し、「忙しい日と余裕がある日がほぼ半々となっている」の割合が減少している。

年齢別にみると、30～59歳で「ほとんど毎日忙しい」の割合が最も高くなっている。



		ほとんど毎日忙しい	忙しい日が多い	忙しい日と余裕がある日がほぼ半々である	忙しい日はそれほどない
		%			
教員	29歳以下	37.8	45.6	13.9	2.7
	30～39歳	47.5	38.1	12.6	1.8
	40～49歳	50.8	35.8	12.3	1.1
	50～59歳	52.1	34.6	10.1	3.1
	60歳以上	20.7	37.9	28.2	13.2
	小学校	46.4	37.7	12.7	3.3
	中学校	39.5	41.6	16.2	2.7

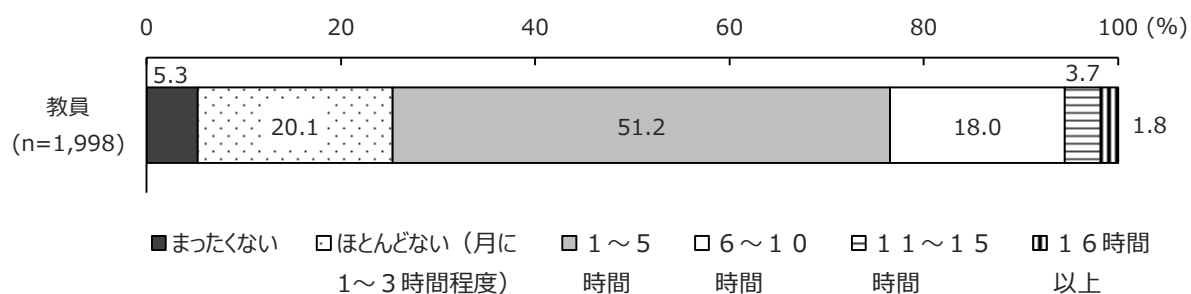
② 自分の裁量で使える時間

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
				問 28	

問. 勤務時間中（7 時間 45 分の中）に自分の裁量で使える時間（授業準備や学級事務など）が平均で 1 週間あたりどの程度ありますか。（1 つ）

「1～5 時間」が最も多く 51.2%となっている。次いで、「ほとんどない（月に 1～3 時間程度）」（20.1%）、「6～10 時間」（18.0%）が多くなっている。

年齢別にみても、総じて「ほとんどない」「1～5 時間」の割合が高い。



		まったくない	ほとんどない（月に1～3時間程度）	1～5 時間	6～10 時間	11～15 時間	16 時間以上
		%					
教員	29歳以下	3.8	16.4	54.2	20.6	3.1	1.9
	30～39歳	6.8	18.7	49.8	18.5	4.0	2.2
	40～49歳	5.2	23.2	50.6	15.0	5.2	0.7
	50～59歳	6.2	23.0	49.4	15.2	3.1	3.1
	60歳以上	2.9	23.6	51.1	19.5	1.7	1.1
	小学校	5.6	21.0	52.0	16.6	3.0	1.8
	中学校	4.6	18.4	49.8	20.4	4.9	1.8

③ 学校の職場環境

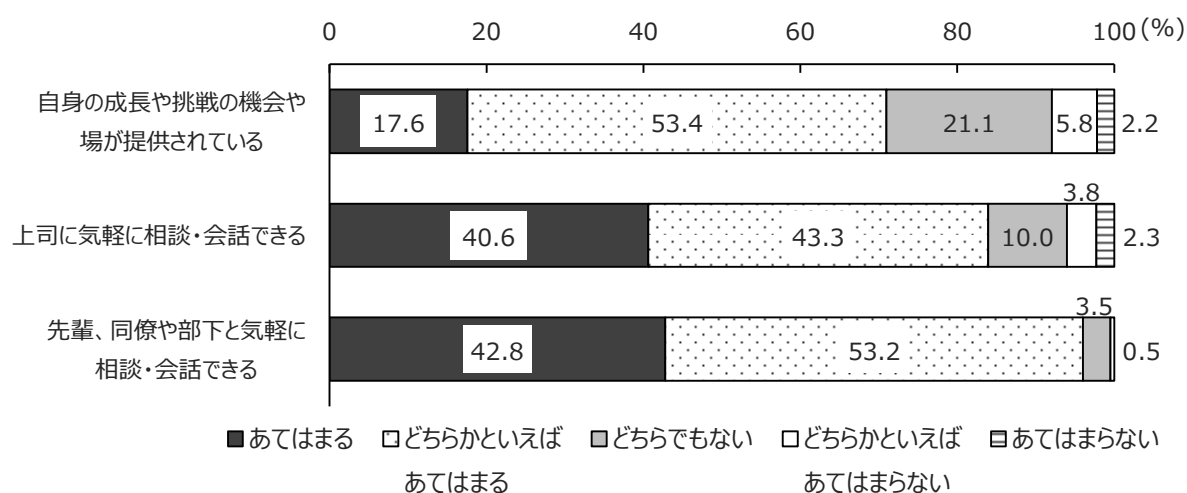
市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
				問 29	問 26

問. あなたの学校の職場環境として、どの程度あてはまりますか。(それぞれ1つ)

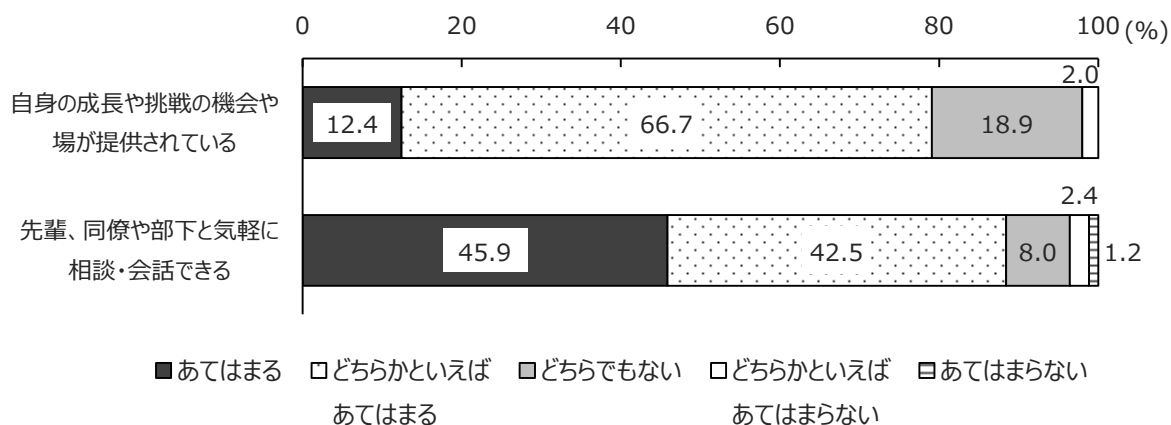
「自身の成長や挑戦の機会や場が提供できている」は、教員、校長・教頭ともに「どちらかといえばあてはまる」が最も多くなっている。「どちらでもない」が教員で 21.1%、校長・教頭で 18.9%でその他の項目より多くなっている。

「上司に気軽に相談・会話できる」「先輩、同僚や部下と気軽に相談・会話できる」は「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」が多く、その合計は8割を超えている。

【教員】(n=1,998)



【校長・教頭】(n=201)



年齢別にみると、29 歳以下は「あてはまる」の割合が他の年代と比べて高い。

・「あてはまる」の割合

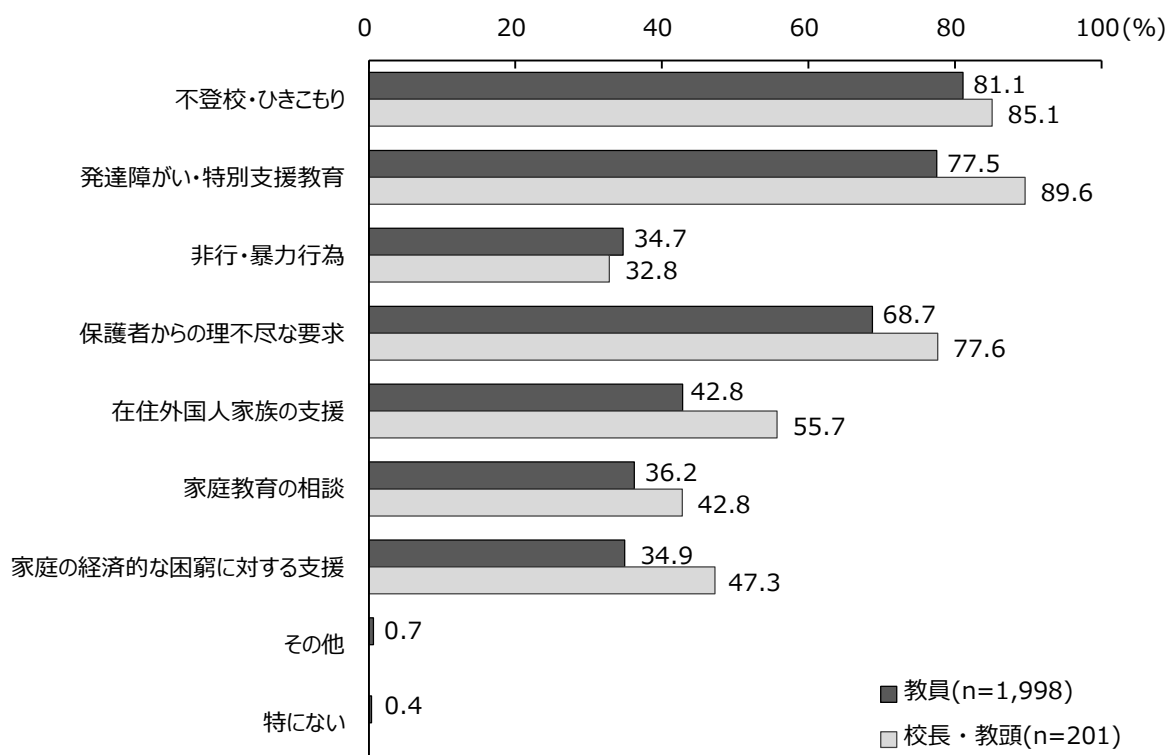
		提 戦 自 供 の 身 さ 機 の れ 会 成 て や 長 い 場 や る が 挑	談 上 ・ 司 会 に 話 気 で 軽 き に る 相	談 下 先 ・ と 輩 会 気、 話 軽 同 で に 僚 き 相 や る 部
		%		
教員	29歳以下	28.1	51.0	57.4
	30～39歳	16.4	37.7	46.2
	40～49歳	14.6	40.8	42.6
	50～59歳	8.6	32.7	33.1
	60歳以上	11.5	31.0	37.4
	小学校	18.4	41.3	46.9
	中学校	16.2	39.4	44.0

④ 教育委員会の専門的な支援

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
				問 30	問 27

問. 教育委員会による、学校や教員への「子どもや保護者に対する専門的な支援」について、どのような内容の充実を望みますか。(あてはまるものすべて)

教員、校長・教頭ともに「不登校・ひきこもり」(教員 81.1%、校長・教頭 85.1%)、「発達障がい・特別支援教育」(教員 77.5%、校長・教頭 89.6%)、「保護者からの理不尽な要求」(教員 68.7%、校長・教頭 77.6%)が多くなっている。



学校種別でみると、小学校の校長・教頭で「不登校・ひきこもり」「保護者からの理不尽な要求」、中学校の校長・教頭で「不登校・ひきこもり」「在住外国人家族の支援」「家庭の経済的な困窮に対する支援」の割合が他と比べて高くなっている。

	教員		校長・教頭	
	小学校 (n=1,287)	中学校 (n=711)	小学校 (n=146)	中学校 (n=55)
不登校・ひきこもり	80.6	82.0	83.6	89.1
発達障がい・特別支援教育	81.2	70.7	93.2	80.0
非行・暴力行為	35.7	32.9	32.2	34.5
保護者からの理不尽な要求	71.1	64.4	78.8	74.5
在住外国人家族の支援	44.7	39.5	54.1	60.0
家庭教育の相談	39.1	31.1	43.2	41.8
家庭の経済的な困窮に対する支援	34.7	35.3	45.2	52.7
その他	0.5	0.8	0.0	3.6
特にない	0.2	0.6	0.7	1.8
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0

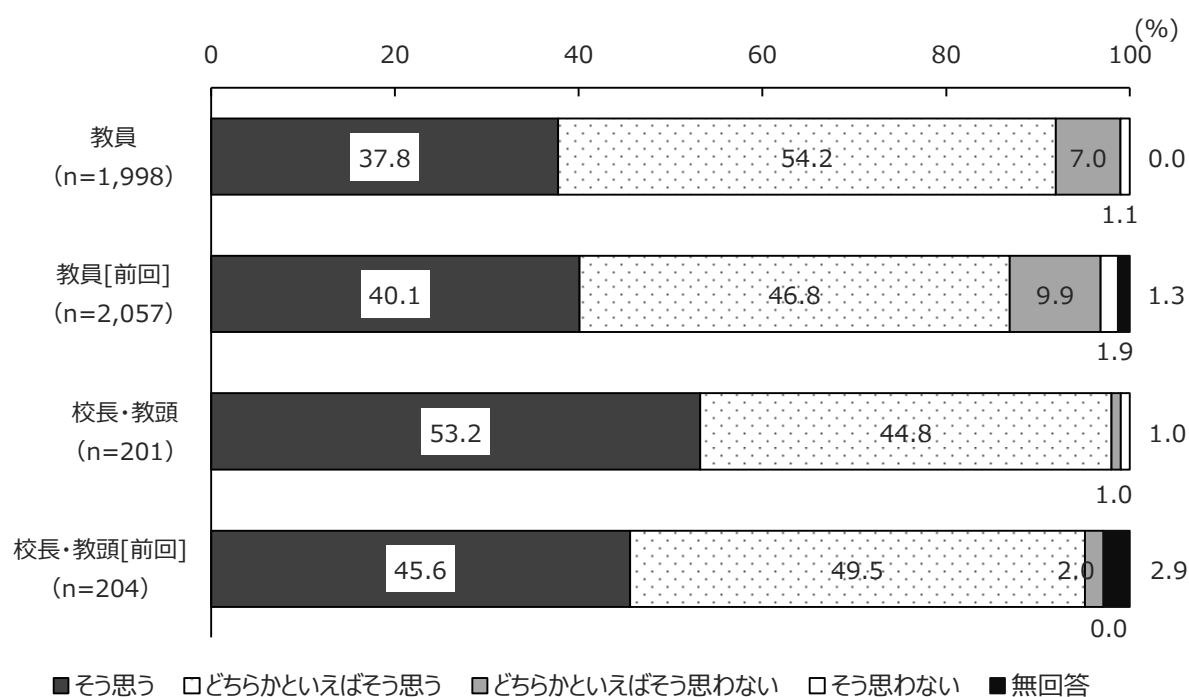
⑤ 学校の組織的な対応

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
				問 31	問 28

問. あなたの学校では、問題や課題に対して組織的な対応を行っていますか。
(1つ)

「そう思う」が教員で 37.8%、校長・教頭で 53.3%となっている。

前回と「そう思う」の割合を比べると、校長・教頭は増加する一方、教員はやや減少している。



2 教育情報や計画の推進

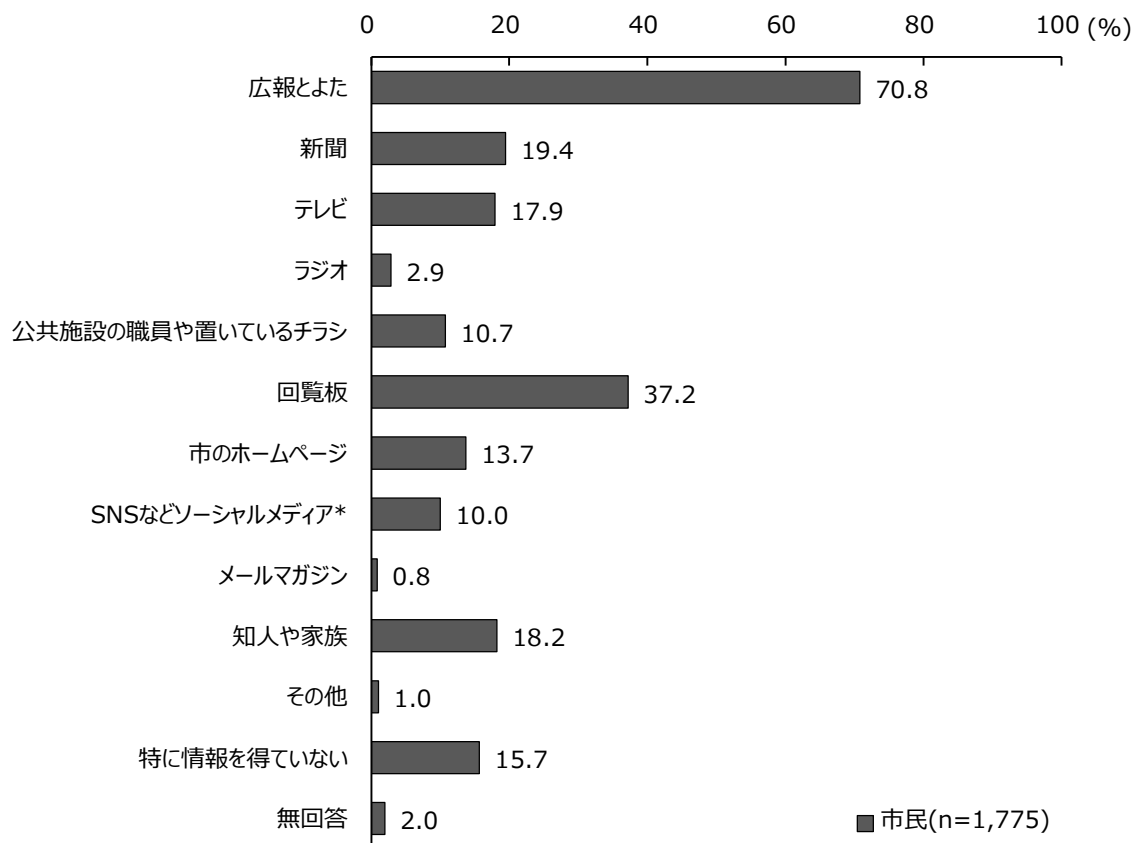
① 市内の教育行政情報の入手方法

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 37					

問. あなたは、ここ3年間で、市内の教育行政の情報について、どのような手段で得ていますか。(あてはまるものすべて)

※学校教育、家庭教育、文化、スポーツなどが対象

「広報とよた」が最も多く70.8%となっている。次いで、「回覧板」(37.2%)、「新聞」(19.4%)が多くなっている。



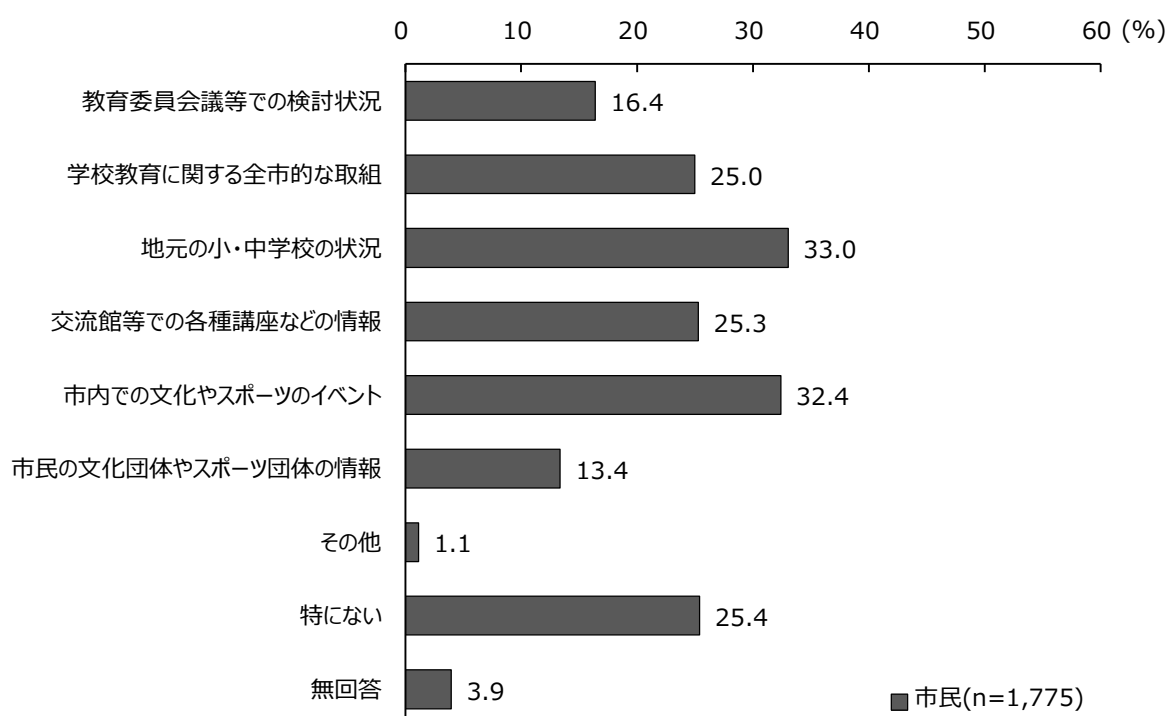
* ブログ、ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)、動画共有サイトなど、利用者が情報を発信し、形成していくメディア(エックス、フェイスブック、ラインを含みます)

② 今後提供すべき教育行政の情報

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
問 38					

問. 今後、教育行政に関するどのような内容の情報をもっと提供すべきだと思いますか。
(3つまで)

「地元の小・中学校の状況」が最も多く 33.0%となっている。次いで、「市内での文化やスポーツのイベント」(32.4%)が多くなっている。



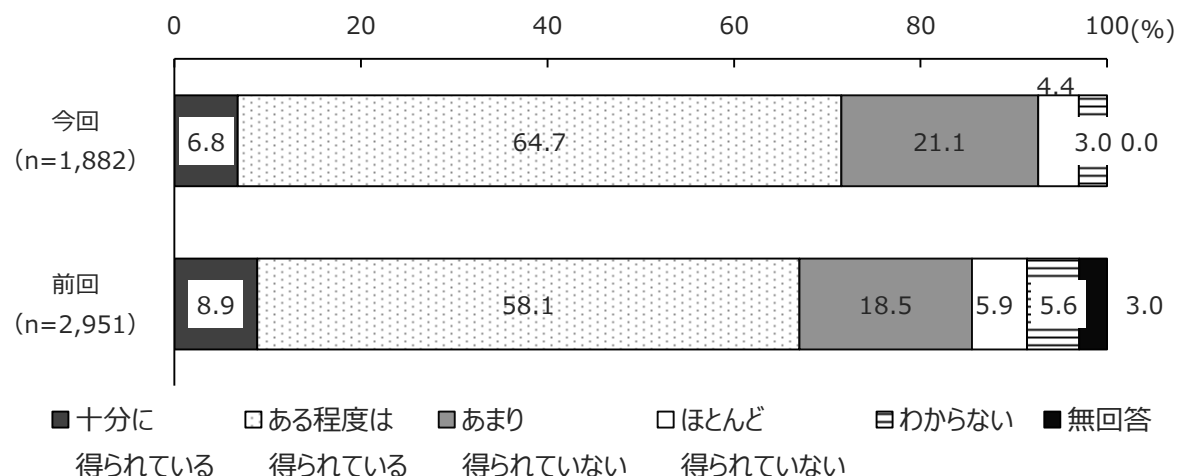
③ 学校からの情報提供の状況

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
			問 30		

問. あなたは、学校の教育方針や学校でのお子さんの様子などの情報を十分に得られていると思いますか。(1つ)

「ある程度は得られている」が 64.7%と最も多く、次いで「あまり得られていない」(21.1%) が多くなっている。

前回と比べると、「ある程度は得られている」「あまり得られていない」の割合がやや高くなっている。



④ 学校評価の課題

市民	小学生	中学生	保護者	教員	校長・教頭
			問 31		

問. 本市では、保護者やお子さんからの学校評価を各学校の運営に生かしていますが、どのような課題があると思いますか。（3つまで）

「調査結果がどのように活用されているかがわからない」が最も多く 60.8%となっている。次いで、「この取組自体をよく知らない」（28.5%）、「調査結果をもとに学校と保護者が一緒に考える機会がない」（25.8%）が多くなっている。

